

裏

注意

- 一 威銃ニ實彈其ノ他固形物ヲ込メ發砲セサルコト
- 一 從事中ハ許可證又ハ從事ノ證ヲ携帶スルコト
- 一 火藥其ノ他發火質物ノ置場又ハ人家行人ノ方位ニ向ヒ發砲セサルコト
- 一 許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ書換又ハ再渡ヲ申請スルコト
- 一 從事ノ證ヲ亡失シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘキコト
- 一 許可證ヲ取消サレ又ハ滿期ノトキハ許可證ヲ五日以内ニ返納スルコト

明治 年 月 日
長野縣何警察(分)署圖

漁業法

法律第五十八號(明治四十三年四月二十一日)

第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者ヲ謂フ

第二條 公共ノ用ニ供セサル水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セズ

第三條 公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セサル水面ニハ本法ヲ適用ス

前項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業ニ關シ之カ利用ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得

第四條 漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區劃シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

第五條 水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ漁業組合カ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタル場合ノ外之ヲ與ヘス

第六條 前二條ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ受ケシムル必要アリト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 漁業權ハ物權ト看做シ土地ニ關スル規定ヲ準用ス

民法第二編第九章ノ規定ハ漁業權ニ之ヲ適用セズ

第八條 漁業權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ其ノ漁場ニ定著シタル工作物ハ民法第三百七十條ノ準用ニ關シテハ漁業權ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタルト看做ス

第九條 裁判所ノ土地ノ管轄カ不動産所在地ニ依リテ定マル場合ニ於テハ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃ヲ以テ不動産所在地ト看做ス

第十條 漁業權ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更スルコトヲ得ス

地先水面專用ノ漁業權ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十一條 漁業權者ノ有スル水面使用ニ關スル權利義務ハ漁業權ノ處分ニ從フ

第十二條 入漁權者ハ設定行爲又ハ舊法施行前ノ慣行ニ從ヒ他人ノ專用漁業權ニ屬スル漁場内ニ入會ヒ其ノ專用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス

第十三條 入漁權ハ物權ト看做ス

入漁權ハ相續及讓渡ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第十四條 入漁權ハ漁業權者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(長野縣)

第十五條 漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ處分スルコトヲ得ス

第十六條 漁業權ノ存續期間ハ二十年以内ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依ル但シ第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ之ヲ算入セズ

前項ノ期間ハ漁業權者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條 設定行爲ニ於テ存續期間ニ付別段ノ定ナキ入漁權ノ目的タル漁業權ノ存續中存續スルモノト看做ス但シ入漁權者ハ何時ニテモ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第十八條 入漁權者カ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得

入漁權者カ引續キ二年以上入漁料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキハ漁業權者ハ入漁權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 入漁料ハ入漁ヲ爲ササルトキハ之ヲ支拂フコトヲ要セス

第二十條 入漁權ニ關シ前二條ノ規定ニ異リタル慣行アルトキハ其ノ慣行ニ從フ

第二十一條 行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十二條 漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ一年間其ノ漁業ニ從事スル者ナキトキ又ハ引續キ二年間休業シタルトキハ行政官廳ハ其ノ免許ヲ取消スルコトヲ得

第二十三條 行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲ササル期間及第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ前條ノ期間ニ之ヲ算入セス

第二十四條 水産動植物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊留、水底電氣ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アルトキ又ハ公益上害アルトキハ主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スルコトヲ得

漁業權者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ漁業ヲ制限シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十五條 錯誤ニ依リ漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スルコトヲ得

第二十六條 免許漁業原簿ノ登録ハ登記ニ代ハルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 漁業免許ノ取消アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ之ヲ登録シタル抵當權者及先取特權者ニ通知スヘシ

前項ノ權利者ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ漁業權ノ讓渡ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十四條第一項又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁業權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依リ賣得金ハ競賣ノ費用及第一項ノ權利者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競落ヲ許ス決定力確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セザリシモノト看做ス

第二十八條 漁業權ハ登録シタル權利者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ分割、變更又ハ拋棄スルコトヲ得ス

第二十九條 漁業者ハ左ニ掲ケル目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ立木竹若ハ土石ノ除去ヲ制限スルコトヲ得

一 漁場ノ標識ノ建設

二 魚見若ハ漁業ニ關スル信號又ハ之ニ必要ナル設備

三 漁業ニ必要ナル目標ノ保存又ハ建設

第三十條 漁業者ハ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ特別ノ用途ナキ他人ノ土地ニ立入り漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前二條ノ目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り支障木竹ヲ伐採シ又ハ障礙物ヲ除去スルコトヲ得

第三十二條 前三條ノ行爲ヲ爲ス者ハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ爲ニ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘシ

第三十三條 行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第三十四條 地方長官ハ水産動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

- 一 水産動植物ノ採捕ニ關スル制限又ハ禁止
- 二 水産動植物若ハ其ノ製品ノ販賣又ハ所持ニ關スル制限若ハ禁止
- 三 漁具又ハ漁船ニ關スル制限若ハ禁止
- 四 漁業者ノ數又ハ資格ニ關スル制限
- 五 水産動植物ニ有害ナル物ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止
- 六 水産動植物ノ蕃殖保護ニ必要ナル物ノ採取又ハ除去ニ關スル制限若ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

前二項ノ命令ニハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ノ沒收並犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ價額ノ追徴ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十五條 汽船「トロール」漁業又ハ汽船捕鯨業ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得

前項ノ漁業ニ關スル制限又ハ禁止ハ主務大臣之ヲ定ム

第三十六條 爆發物ヲ使用シテ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得但シ海獸採捕ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 主務大臣ハ迴河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ水面ノ一定區域内ニ於ケル工作物ノ設置ニ付制限又ハ禁止ニ關スル命令

北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第四十三條 漁業組合ハ法人トス

漁業組合ハ漁業權若ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス

漁業組合ハ自ら漁業ヲ營ムコトヲ得

組合員ハ漁業組合ノ取得シ若ハ貸付ヲ受ケタル専用漁業權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十四條 漁業組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合會ヲ設クルコトヲ得

漁業組合聯合會ハ法人トス

第四十五條 漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

第四十六條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立ハ其ノ主たる事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第四十七條 行政官廳ハ何時ニテモ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令、行政官廳ノ命令若ハ規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 決議ノ取消
- 二 役員ノ解職
- 三 組合又ハ聯合會ノ解散

第四十九條 本法ニ規定スルモノノ外漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設

ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ迴河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者又ハ占有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第三十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ニ付權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

前項ノ補償金額ニ付不服アル者ハ補償金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 公共ノ用ニ供セサル水面ニシテ公共ノ用ニ供スル水面又ハ第三條ノ水面ニ通スルモノニハ命令ヲ以テ第三十四條、第三十六條乃至第三十八條、第五十五條及第五十九條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四十條 漁業ニ從事スル者ノ雇傭並雇人及遺族ノ扶助ニ關シテハ勅令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得

第四十一條 海軍艦艇乘組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏又ハ漁業監督吏員ハ漁業ヲ監督シ必要アリト認ムルトキハ船舶、店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス但シ同法第四條ノ規定ハ漁業監督吏員以外ノ者ニ之ヲ準用セズ

第四十二條 一定ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得

漁業組合ノ地區ハ市町村ノ地區又ハ市町村内ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依リテ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキモノヲ以テ前項ノ市町村ト看做ス

立、登記、管理、分合、解散、清算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ於テ本法中特ニ組合又ハ聯合會ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル組合又ハ聯合會ニ關スル命令ニ於テハ組合又ハ聯合會力之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

前二項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 漁業者又ハ水産動植物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水産業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲水産組合ヲ設クルコトヲ得

第五十二條 水産組合成立シタルトキハ其ノ地區内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ニ加入シタルモノト看做ス但シ主務大臣ニ於テ加入ノ義務ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 水産組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲水産組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

第五十四條 水産、合及水産組合聯合會ハ法人トシ重要物產同業組合法ヲ準用ス

第五十五條 漁業ノ免許若ハ許可ノ出願又ハ期間更新ノ申請ニ對スル許否ニ不服アル者及第三條第二項、第二十條、第二十四條、第二十五條若ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十六條 漁場ノ區域、漁業權若ハ入漁權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ之ニ關スル裁決ヲ申請ス

ルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十七條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付前條ノ規定ニ依ル裁決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 免許ニ依ラス若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者

二 免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者

三 専用漁業ノ停止中其ノ漁業ニ於テ停止シタル漁業ヲ爲シタル者

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第五十九條 汽船「トロール」漁業ニ關シ第三十五條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金、汽船捕鯨業ニ關シ同條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止又ハ第三十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第六十條 漁業權又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十一條 漁場ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十二條 第四十一條ノ規定ニ依ル職務ヲ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者及臨檢搜索ノ際當該吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ

タル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十三條 營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十四條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

第六十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第六十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十三年勅令第四百二十八號ヲ以テ明治四十四年四月一日ヨリ施行)

第六十七條 本法ハ鷹虎及臘脂獸ノ漁獵ニ之ヲ適用セス

第六十八條 本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條 舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス

第七十條 本法施行前發シタル入漁權ニ關シ亦前項ノ同シ

第七十一條 本法施行前發シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限リ之ニ依リ登錄シタルモノト看做ス

第七十二條 舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ専用漁業免許後一年間ニ限り登錄ナキモノヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第七十三條 本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴願又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●漁業法施行規則

農商務省令第二十五號(明治四十三年十一月十二日)

第一章 總則

第七十三條 舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本法施行後一年間ニ限り登記ナキモ其ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第一條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農商務大臣ニ之ヲ爲スヘシ

一 専用漁業ニ關スルトキ

二 入漁權ニ關スルトキ

三 二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ

四 漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ニ關スルトキ

前項第三號又ハ第四號ニ該當スル場合ニ於テハ農商務大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得農商務大臣ノ處分ヲ爲シタルモノニ付亦同シ

第二條 農商務大臣ニ出願、申請又ハ届出ヲ爲サルトキハ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ住所ノ地方長官ヲ經由スヘシ

第三條 漁業ニ關スル行政行為ニ付テハ關係地方長官ハ交互ニ補助スルモノトス

第四條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ出願、申請又ハ届出ヲ爲シタル者、漁業權者、入漁權者其ノ他漁業ニ關シ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シ書類ノ提出、訂正若ハ補充又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第五條 住所又ハ居所ノ不明其ノ他ノ事由ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第二編 保安 第十一章 狩獵、威銃、漁獵

タル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十三條 營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十四條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

第六十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第六十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十三年勅令第四百二十八號ヲ以テ明治四十四年四月一日ヨリ施行)

第六十七條 本法ハ鷹虎及臘脂獸ノ漁獵ニ之ヲ適用セス

第六十八條 本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條 舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス

第七十條 本法施行前發シタル入漁權ニ關シ亦前項ノ同シ

第七十一條 本法施行前發シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限リ之ニ依リ登錄シタルモノト看做ス

第七十二條 舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ専用漁業免許後一年間ニ限り登錄ナキモノヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第七十三條 本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴願又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第六條 本則ニ依リ行政官廳ノ爲スヘキ公告ハ慣行ノ公布式ニ依ルモノトス

第七條 漁業法第三條第二項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ニシテ同條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ水面又ハ敷地ヲ管轄スル地方長官ハ之ヲ出願スヘシ

願書ニハ左ニ掲ケル書面ヲ添附スヘシ

一 許可ヲ受ケムトスル事由書

二 占有者又ハ所有者タルコトヲ證スヘキ書面

三 許可ヲ受ケムトスル區域ノ圖面

四 漁業權ノ設定アルトキハ其ノ漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意書若シ其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書

第八條 前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ地方長官ハ之ヲ公告シ若シ漁業權者其ノ他登錄シタル權利者アルトキハ之ヲ通知スヘシ

第九條 地方長官ハ漁業法第三條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可シタル區域ノ標識ヲ建設ヲ命スルコトヲ得

第二章 漁業ノ免許

第十條 本則ニ於テ免許漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業、一專用漁業及特別漁業ヲ謂フ

第十一條 本則ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ他ノ免許漁業ニ該當セスシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、特別漁業ト稱スルハ第十四條各號ニ掲ケル漁業ヲ謂フ

第十二條 定置漁業ノ種類左ノ如シ

一 臺網類漁業 數網及垣網又ハ數網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

二 落網類漁業 落網、上綱及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

- 一 罾網類漁業 罾網及垣網ヲ碇、土俵若ハ支柱等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 二 建網類漁業 曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 三 出網類漁業 垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ
- 四 張網類漁業 臺網又ハ立廻網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ建設シテ敷設スルモノ
- 五 鮎網類漁業 一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ若ハ網ヲ建設シ又ハ竹、木、石堤等ヲ建設シテ陷穿ノ裝置若ハ魚堰ヲ設クルモノ
- 六 區劃漁業ノ種類左ノ如シ
- 第七種 一定ノ區域内ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ築ヲ建設シテ爲ス養殖業
- 第八種 土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業
- 第九種 前二種ノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業
- 第十種 左ニ掲クル漁業ハ行政官廳ノ免許ヲ受ケヘシ
- 第一種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業
- 第二種 一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業
- 第三種 一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網、地漕網漁業
- 第四種 一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業
- 第五種 一定ノ網場ヲ有スル囊網漁業
- 第六種 一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業
- 第七種 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業
- 第八種 一定ノ水面ニ築磯ヲ設クル鱈漁業
- 第九種 一定ノ水面ニ築磯ヲ設クル鱈漁業
- 第十種 前二種ニ該當スル免許漁業ノ名稱ハ農商務大臣別ニ之ヲ告示ス
- 第十一種 左ノ區域ヲ以テ免許漁業ノ漁場トス

- 一 一定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域
- 二 區劃漁業ニ在リテハ養殖ヲ爲ス區域
- 三 專用漁業ニ在リテハ專用スル區域
- 四 特別漁業中第一種ニ在リテハ網場又ハ捕獲場ノ區域、第二種ニ在リテハ追込場ノ區域、第三種及第四種ニ在リテハ網ノ使用區域、第五種及第六種ニ在リテハ網場ノ區域、第七種ニ在リテハ飼付ヲ爲ス區域、第八種ニ在リテハ清場ノ區域、第九種ニ在リテハ築磯ノ區域
- 第十七條 水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ又ハ漁業ノ價值ナシト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與ヘス
- 第十八條 漁業ノ登録シタル權利者ノ同意アル場合ヲ除クノ外既ニ免許ヲ與ヘタル漁業ト相容レズト認ムルトキ亦前項ニ同シ
- 第十九條 前項ノ規定ハ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ニ之ヲ適用セズ
- 第二十條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十一條 前項ノ規定ハ北海道、沖繩縣、並沖繩縣及島嶼町村制ヲ施行シタル島嶼ノ區域又ハ町村内ノ一部ニ之ヲ適用ス
- 第二十二條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十三條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十四條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十五條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十六條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十七條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十八條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十九條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十一條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十二條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十三條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區域ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(長野縣)

- 一 專用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱
- 二 漁獲物ノ種類
- 三 漁業時期
- 四 漁業權存續期間
- 第二十三條 前條ノ願書ニハ漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖ニ通フ添附スヘシ
- 前項ノ記載事項ノ外一定置漁業ノ漁場圖ニハ漁具ノ建設又ハ敷設ノ形狀ヲ、區劃漁業ノ漁場圖ニハ漁場ノ面積ヲ記載スヘシ
- 第二十四條 免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地カ他人ノ所有ニ屬スルトキ又ハ水面カ他人ノ占有ニ係ルトキハ其ノ所有者又ハ占有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ漁業ノ願書ニ添附スヘシ
- 第二十五條 二人以上共同シテ漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ届出テ又ハ出願ノ書面ニ記載スヘシ
- 前項ノ規定ニ依リ代表者ノ届出又ハ記載ナキトキハ行政官廳ハ代表者ヲ指定スヘシ
- 第二十六條 代表者ハ共同者全員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得
- 代表者ニ變更アリタルトキハ行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
- 代表者ノ變更ハ前項ノ届出ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得
- 第二十七條 前二條ノ規定ハ二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利若ハ入漁權ヲ取得シタル者ニ之ヲ準用ス
- 第二十八條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第二十九條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第三十條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第三十一條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第三十二條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第三十三條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第三十四條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第三十五條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第三十六條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第三十七條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第三十八條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第三十九條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第四十條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第四十一條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第四十二條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第四十三條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第四十四條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第四十五條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第四十六條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第四十七條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第四十八條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第四十九條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
- 第五十條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス

第三十四條 漁業法第二十五條ノ規定ニ依リ地方長官漁業ノ免許ヲ取消サ
ムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 漁業法第十條第一項ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ
具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ

第三十六條 免許漁業ニ付休業ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ休業期間ヲ定
メ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ

第三十七條 漁業權ヲ拋棄シタルトキハ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ届
出ツヘシ

第三十八條 漁業法第二十九條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ニ掲クル事
項ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

第三十九條 前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ行政官廳ハ所有者占有者ニ之
ヲ通知シ且公告スヘシ

第四十條 漁業權者ニ對シテ爲シタル漁業法第二十九條乃至第三十一條ノ
ル所ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ

第四十一條 行政官廳ハ漁業取締ノ爲ニ設置漁業及特別漁業ニ付命令ヲ以テ
保護區域ヲ設クルコトヲ得

第四十二條 左ニ掲クル漁業ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲ス
コトヲ得ス

- 一 藻手線網漁業
- 二 藻漕網漁業
- 三 藻打網漁業
- 四 藻曳網漁業
- 五 潛水器漁業
- 六 空釣繩漁業

第五十一條 前條ノ漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帯スヘシ

第五十二條 地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場所ニ其ノ標識ヲ建
設スヘシ

第五十三條 漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タルコトヲ明示ス
ヘシ

第五十四條 臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則
第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 漁業法第五十六條第一項ノ判決ヲ申請セムトスルトキハ漁業
權ニ關シテハ漁業ノ免許ヲ與ヘタル行政官廳ニ、入漁權ニ關シテハ農商
務大臣ニ之ヲ爲スヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナルトキ
又ハ漁業權者、入漁權者間ノ争ニ關スルトキハ農商務大臣ニ之ヲ爲スヘシ

第二編 保安 第十一章 狩獵、威銃、漁獵

許可ハ其ノ承繼人及其ノ漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ爲メ
ニモ效力ヲ有ス

第四十一條 漁業法第三十條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地ノ所在、地
番、種目、面積及現況、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ
時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

第四十二條 第三十八條及第四十一條ノ行政官廳ハ土地又ハ立木竹若ハ土
石ノ所在地ヲ管轄スル地方長官トス但シ土地又ハ立木竹若ハ立木竹若ハ土
石ノ所在地ヲ管轄スル地方長官異ナルトキハ又ハ漁場ヲ管轄スル地方長官
明確ナラサル漁業ノ爲ナルトキハ之ヲ農商務大臣トス

第四十三條 漁業法第三十一條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地又ハ支障
木竹若ハ障礙物ノ所在地ヲ管轄スル郡長又ハ島司ニ之ヲ出願スヘシ

第四十四條 漁業法第三十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入り又ハ支障
木竹若ハ伐採シ若ハ障礙物ヲ除去セムトスル者ハ當該官廳ノ許可證ヲ携帶
スヘシ

第四十五條 漁業法第三十四條ニ依ル命令ハ官廳又ハ公署ニ於テ調査又ハ
試驗ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス養殖、學術、研究其ノ他特別ノ理由ニ依
リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合亦同シ

第四十六條 水産動物植物ノ疲憊又ハ斃死セシムヘキ有毒物ヲ使用シテ水産
動物植物ヲ採捕スルコトヲ得ス

第四十七條 漁業法第三十六條又ハ前條ノ規定ヲ犯シ採捕シタル水産動物
物ハ之ヲ所持又ハ販賣スルコトヲ得ス

第四十八條 迴魚種類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ地方長官ノ定ム
ル所ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ

第五十六條 判決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所
- 二 申請ノ目的及理由
- 三 立證

第五十七條 申請書ニハ證據書類ヲ添附スヘシ

第五十八條 行政官廳ニ於テ判決ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ
相手方ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第五十九條 判決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スヘシ判決ノ申請ヲ
却下スルトキ亦同シ

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰
金ニ處ス

- 一 第四十六條又ハ第四十七條ノ規定ヲ犯シタル者
- 二 禁漁區内ニ於テ其ノ禁止シタル水産動物植物ヲ採捕シタル者

第六十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處
ス

第六十二條 第五十一條ノ規定ヲ犯シタル者ハ科料ニ處ス

第六十三條 本則ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條 本則施行前漁業ニ關シ農商務大臣又ハ地方長官ノ發シタル命
令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則ノ規定ニ抵觸セサルモノハ漁業法及本則

三五三

依リ之ヲ發シタルモノト看做ス
第六十五條 本則施行前ノ漁業ニ關スル申請ニシテ未ダ處分ヲ終ラサルモ
ノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●漁業ノ名稱

農商務省告示第四百十八號(明治四十四年三月八日)
明治四十三年農商務省令第二十五號漁業法施行規則第十二條第十三條及第

十四條ニ該當スル漁業ノ名稱左ノ如シ
定置漁業

臺網類漁業

鯨大敷網

鯨大敷網

鯨大敷網 一名 藤芋臺網

鯨大敷網 一名 鮪臺網

鯨大敷網 一名 鯨臺網(京都府下及兵庫縣下ノ越中網ヲ含ム)

鯨大敷網 一名 鯨臺網

柔魚大敷網

前八種以外ノ大敷網(臺網ヲ含ム)

根拵網

小臺網 一名 三艘張根拵網(小臺網ハ神奈川縣下ノ名稱ニシテ改良

三艘張網ヲ含ム三艘張根拵網ハ静岡縣下ノ名稱)

小敷網

待網 一名 額網(鹿兒島縣下川邊郡地方ノ名稱)

大越網

小越網

取大敷網

鯨大敷網
四艘張網(神奈川縣下及静岡縣下ノ名稱ニシテ神奈川縣下ノ三艘
張網ヲ含ム)

二艘張網(静岡縣下ノ名稱)

鯨張揚網

鯨大謀網 一名 鮪大網(秋鮪建網及夏鮪建網ヲ含ム)

鯨大謀網

鯨大謀網

前三種以外ノ大謀網(和歌山縣下及三重縣下ノ八角網ヲ含ム)

鯨伏網 一名 鯨建網

鯨建網

鯨角網 一名 鯨建網

鯨角網 別名 鮪建網、鮪起網

鯨角網 一名 鯨建網

鯨角網 一名 鯨建網

鯨角網 一名 鯨建網

鯨角網 一名 鯨建網

王筋魚角網 一名 玉筋魚建網

鯨角網 一名 鯨建網

柔魚角網 一名 柔魚建網

前十種以外ノ角網

鯨行成網 一名 鯨建網

鯨行成網 一名 鯨建網

鯨行成網 一名 鯨建網

鯨行成網 一名 鯨建網

鯨行成網 一名 鯨建網

鯨行成網

玉筋魚行成網 一名 玉筋魚建網

柔魚行成網 一名 柔魚建網

前八種以外ノ行成網

銚金折網 による網(愛媛縣下及高知縣下ノ名稱)

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

鯨網戸網

第二編 保安 第十一章 狩獵、或銃、漁獵

四

建網類漁業

烏賊曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

鯨曲網

飯建網(京都府下ノ飯張網ヲ含ム)

鯖建網

いさき建網

鱈建網

にべ建網

鱈建網

めぢか建網 一名 小前網

鮮建網

前九種以外ノ建網

鮭建網(竿ヲ張リタル刺網)

鱈刺網 一名 鱈底打網

鱈刺網 一名 鱈配網

鱈刺網 一名 鱈ノ塔

やまとみづん切網

出網類漁業

鮭蟹出網

網代網

建切刺網(三重縣下及宮崎縣下ノ小鱈網ヲ含ム)

張切地曳網(鹿兒島縣下大島地方ノ待網ヲ含ム)

張切網

鮭蟹大網(静岡縣下ノ名稱)

立網

鱈折網

鱈出網(福井縣下ノ鱈網ヲ含ム)

張網類漁業

普通建網

七

鮭蟹類漁業

鮭蟹類漁業

網代(秋田縣下ノ毛繩ヲ含ム)

水晶形器網

鱈卷羽網

鱈卷羽網

八重床

八重床

海脚簀

八重床

魚來籠網

樺木張網 一名 樺木漁(長崎縣下ノばつしや網ヲ含ム)

囊網 一名 越中網

無雙網 一名 鱈先網

立囊網

伏網

胴網

長囊網

鮭股引網

張網(滋賀縣下ノ名稱)

白魚間手網

鮮鮭建干網

建干網(熊本縣下ノ建網ヲ含ム)

〔長野縣〕

〔長野縣〕

笹干見 一名 すくひ(沖繩縣下ノかきヲ含ム)
簀建特網(秋田縣下ノもつば及もつばかヲ含ム)
張切網
網代漁(千葉縣下及茨城縣下ノ名稱)
築(静岡縣下ノ落簀、神奈川縣下ノ繩築、長野縣下ノ半瀨ノ切築及新潟縣下ノ打切築ヲ含ム)
かつとり築
網築(福井縣下ノ天ノ網ヲ含ム)
飯築
白魚築
網戸漁(大分縣下ノ名稱)
鮭鱈張網
鮭鱈張網(廣島縣下ノ切川、岡山縣下ノもんどり、東京府下及神奈川縣下ノしらヲ含ム)
鮭鱈留(茨城縣下ノ網留及竹留ヲ含ム)
鮭留地曳網
鮭鱈堰置
鮭鱈堰

瀨張堰(福井縣下ノ張網及長野縣下ノ堰全瀨ノ切築ヲ含ム)
張待網(島根縣下ノ柴手網ヲ含ム)
しらす待網(大阪府下ノ名稱)
堰四手網(新潟縣下ノ持網及徳島縣下ノ氷魚堰ヲ含ム)
魚堰(埼玉縣下ノ養園、徳島縣下ノ漁魚堰、宮崎縣下ノ待堰、新潟縣下ノ待網、宮城縣下ノ巖手縣下及福島縣下ノ養留、秋田縣下ノ川留、石川縣下ノかわさす網、山口縣下ノ網堰、養堰、柴笠ヲ含ム)
第二編 保安 第十一章 狩獵、威銃、漁獲

區別漁業

一 第一種漁業

海苔築建養殖業

青苔築建養殖業

牡蠣築建養殖業

ちめき築建養殖業

牡蠣養殖業

眞珠介養殖業

藻類養殖業

二 第二種漁業

魚類養殖業

魚類養殖業

蝦類養殖業

三 第三種漁業

介類養殖業

三五七

郡長前項ニ依リ認可ヲ與ヘタルトキハ書類ノ寫ヲ添ヘ速ニ之ヲ報告スヘシ

第十一條 第一條ニ違反シタル者ハ拘留ニ處シ漁具ヲ沒收ス

第十二條 第四條ニ違反シタル者ハ漁業法施行規則第六十五條ニ依ルノ外漁具ヲ沒收ス

第十三條 第二條第三條第四條又ハ第六條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第五條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十五條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 明治三十一年四月縣令第二十二號ハ之ヲ廢止ス

附則

● 漁業工作物取締規則

長野縣令第四十四號(明治三十五年十月三日)

第一條 河川又ハ公有池沼湖ニ漁業工作物ヲ設置セントスル者ハ期限ヲ定メ豫メ許可ヲ受クヘシ其位置構造ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ工作物設計書及施行位置平面圖ヲ添ヘ出願スヘシ

第三條 公益上必要ト認ムルトキハ工作物ノ取拂又ハ其位置構造ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 許可期限滿了シタルトキハ遲滞ナク工作物ヲ取拂フヘシ

第五條 漁業法ノ規定ニ依リ漁業免許出願スル者ハ本則ニ依リ工作物設置ノ出願ヲ爲スヲ要セス但漁業免許願書ニ本則第二條ノ書類ヲ添付スヘシ

漁業法ノ規定ニ依リ漁業免許ヲ得タル者其工作物ヲ變更セントスルトキハ本則ニ依リ許可ヲ受クヘシ

第六條 第一條第四條又ハ第五條第二項ニ違背シ若クハ第三條ノ命令ニ違

第五 射的開會ノ日時ハ軍用銃射の免許銃射のノ別ナク豫メ主幹ヨリ其地所轄ノ警察署ニ届出ツヘキモノトス

第六 射的場ノ構造ハ的阜ノ後五百「メートル」兩側五百「メートル」ノ空地ヲ設ケ置クヘシ若シ其餘地ナキ時ハ覆道又ハ射場前十五「メートル」ノ所ヨリ的阜前二十五「メートル」ノ間ニ於テ十「メートル」毎ニ射門ヲ建設スヘシ

但天然ノ丘阜ニ據テ的阜ヲ築キ背後左右人家及ヒ道路遠隔ノ場所ハ此限リニアラス

第七 的阜ノ構造ハ第一圖ノ如クスヘシト雖トモ標的二個以上ヲ用フルモノハ其一個毎ニ的幅二十四尺ヲ伸長スルモノトス

但免許銃射のニ用フル的阜ハ其地ノ景況ニ依リ縱橫各三尺乃至六尺ヲ減縮スルコトヲ得

第八 的阜ノ四面傾斜高度ハ概ネ四十五度ヲ法トス尤土性殊ニ粘膠質ナルモノハ側面ノ傾斜ヲ四十四度乃至四十三度ニ減縮スルコトヲ得

第九 的阜築造用ノ土性脆軟質ナルトキハ其中眞ニ土俵ヲ積ミ若クハ亂杭ヲ立列シテ崩壞ヲ妨クヘシ

第十 射門ノ構造ハ第二圖ノ如ク長サ一尺五寸ノ木材ヲ累積シ衝擊毀壞ヲ防ク爲メ釘又ハ鐵ノ類ヲ以テ所々貫綴スヘシ

第十一 標的二個ヲ用フル射門ハ第三圖ノ如ク其一個毎ニ之ヲ連設スヘシ(圖略ス)

● 銃砲射的取締規則

長野縣令第三十號(明治三十五年四月二十二日)

第一條 本則ニ於テ射的ト稱スルハ一定ノ場所ヲ設ケ銃砲ヲ以テ實彈射的又ハ射擊ヲ爲スヲ云フ

第二條 射的又ハ其ノ營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第二編 保安 第十一章 狩獵、威銃、漁獵

背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

第七條 明治三十二年五月縣令第三十四號捕魚用工作物取締規則ハ廢止ス

● 漁業ニ使用スル有毒物ノ件

警發第四一六號(明治三十五年十月二十二日)

本年五月發布(農商務省令第七號漁業法施行規則第五十一條)及本年十月發布縣令第四十八號漁業取締規則第六條ニ規定シアル有毒物中本縣ニ於テハ石灰又ハ胡桃皮ヲ使用スルモノ多キ趣ニ付遺算ナク取締ラルヘシ

警保局長通牒(明治三十七年九月十九日)

銃砲射的ノ義ハ往々危險ノ虞レアルヲ以テ之カ取締ヲ緊密ニスルハ保護上必要ノ件ニ付曩ニ京都府外三縣ノ何ニ對シ其標準方等別冊ノ通內務卿ヨリ訓示相成候間爲御心得及御通知候也

● 銃砲射的場ニ關スル件

第一 凡ソ射的ヲナサントスル者ハ豫メ組合ヲ設ケ主幹ヲ定メ其名稱規則書及ヒ組合員ノ名簿ヲ添ヘ主幹ヨリ出願セシムルモノトス

第二 主幹ハ組合中一切ノ責ニ任シ且左ノ各項ヲ遵守セシムヘシ

一 射手彈藥ノ裝填及ヒ照準發射ノ方法ヲ監視シ且銃器ヲモ検査シテ其用ニ堪ヘス危險ノ虞アルモノハ之ヲ省クヘシ

二 發射ニ熱達セサル者ハ必百「メートル」以內ノ距離ニ於テ射的ヲ爲サシムヘシ

三 酩酊スル者及ヒ瘋癲白痴ト認ムル者ハ場內ニ入ルヲ禁スヘシ

第三 射的ヲ分チ左ノ二種トス

一 軍用銃射的

二 免許銃射的

第四 何種ノ射的ヲ論セス發射時間ハ日出ヨリ日沒マテトス

一 住所氏名年齢
二 射的ノ方法、日時及營業非營業ノ區別
三 位置及構造ノ仕様書(他人ノ地所ニ係ルトキハ其ノ地主ノ承諾書又ハ連署ヲ要ス)
四 射的場及其ノ近傍ノ圖面
五 營業ニ係ルトキハ料金ノ種別及金額
敷人共同ニ係ルモノハ主幹者ヲ定メ主幹者ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但シ會則又ハ規約アルトキハ其ノ原本ヲ添付スヘシ

第三條 射的ノ方法、日時、料金ヲ變更シ又ハ射的場構造ノ全部若クハ幾部ヲ變更セントスルトキハ其ノ圖面及仕様書ヲ添ヘ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 射的場ノ構造又ハ變更ノ工事落成シタルトキハ使用前所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ

第五條 射的又ハ其ノ營業ヲ廢止シ若クハ轉居、改氏名ヲ爲シタルトキハ五日以內ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ但シ第二條ノ申請書ニ廢止ノ日時ヲ記載シタルトキハ其ノ届出ヲ爲スヲ要セス

第六條 第二條ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 射手彈藥ノ裝填及照準發射ノ方法ヲ遵守スルコト

二 銃器ハ時々検査シ若シ其ノ用ニ堪ヘサルモノ又ハ異狀アリタルトキハ之ヲ使用セシメサルコト

三 發射ニ熱達セサル者ハ百米突以上ノ距離ニ於テ射的ヲ爲サシメサルコト

四 酩酊又ハ白痴瘋癲ト認ムル者又ハ射的ニ關係ナキ者ハ場內ニ入ラシメサルコト

五 火藥類ヲ取扱フ場所ニ於テ喫煙等爲サシメサルコト

第七條 射的時間ハ日出ヨリ日沒迄トス

第八條 射的場ノ境界ハ人家公道ヨリ千米突以上ノ距離ヲ保有スヘシ

第九條 警察官ニ於テ風俗ニ害アリト認ムルトキハ射的ヲ停止スルコトアルヘシ

第十條 射的場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 射的場ノ後方千五百米突兩側五百米突ノ空地ヲ設ケ置クヘシ若シ其ノ餘地ナキトキハ堅牢ナル復道又ハ射場前十五米突ノ所ヨリノ阜前二十五米突ノ間ニ於テ十米突毎ニ射門ヲ建設スヘシ
- 二 但シ天然ノ丘阜ニ據テ射的場ヲ築キ背後、左右、人家及道路遠隔ノ場所ハ此ノ限りニアラス
- 三 射的場ハ幅八十尺ニシテ四面ノ傾斜高度ハ概ネ四十五度トス
- 四 射門ハ長サ一尺五寸ノ木材ヲ累積シ木口ヲ前ニ爲シ衝擊毀壞ヲ防ク爲メ釘錠ノ類ヲ以テ貫綴スヘシ

第十一條 本則第二條ノ許可ヲ受ケスシテ銃砲射的又ハ其ノ營業ヲ爲シ若シシテハ第三條第四條第五條第六條第七條ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條 從來ノ射的場ニシテ本則ニ適合セザルモノハ施行ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

發砲取締方

長野縣令第五號(明治四十二年二月十二日)

長野縣令第五號(明治四十二年二月十二日) 目的ノ如何ヲ問ハス銃砲ノ發射ヲ爲サントスル者ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年十二月縣令第七十二號ハ之ヲ廢止ス

警發第三九二號(明治三十二年十二月十二日)

警察署長 警察分署長

發砲許可取扱方ノ義指示

今般警察官署ノ許可ヲ得スシテ發砲スルコトヲ得サル旨發令相成候ニ付テハ右發砲ノ許可ヲ請フ者アリタルトキハ左ノ例ニ從ヒ取扱フヘシ

- 一 銃砲試驗ノ爲メ火藥ノミヲ填シ試驗ヲ請フ者アルトキハ人家及舟車通行ノ場所等ニ隔絶シ實際危險ノ虞ナシト認ムルトキハ三發以内ニ限リ許可スヘシ但同一ノ場所ニ於テ二人以上同時ニ許可スヘカラス
- 二 祝宴會又ハ運動會其他ノ場合ニ於テ單ニ合圖ノ爲メ無彈發砲ノ許可ヲ請フ者アルトキハ其ノ事由發砲ノ場所並危險ノ有無ヲ調査シ許可スヘシ

警發第五四號(明治四十二年二月十七日)

警察署 同分署

發砲取締ノ義ニ付指示

本月十二日縣令第五號ヲ以テ銃砲發射取締規定發布相成同時ニ三十二年縣令第七十二號ヲ廢止セラレタリ右ノ客年九月內務省令第十六號警察犯處罰令第三條第四號ト抵觸ノ結果改廢セラレタルモノニ付明治三十二年十二月警發第三九二號指示及三十六年九月警發第二九四號指示ニ依リ之カ取締ヲナシ萬一違犯者アルニ於テハ警察犯處罰令ヲ以テ處置スル義ト心得ラルヘシ

第十二章 森林、河川、砂防、測量

標

林野河川取締巡查勤務規程

長野縣訓令第九號(大正六年三月十三日)

(長野縣)

警察部 警察署 警察分署

林野河川取締巡查勤務規程左ノ通定メ大正六年四月十四日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 林野河川ノ取締ハ一般巡查部長及巡查ノ外主任ノ巡查部長及巡查ヲ置キ之ニ從事セシム

第二條 林野河川取締ノ概目左ノ如シ

- 一、保安林
- 二、開墾禁止及制限
- 三、公有林、社寺有林及私有林
- 四、林野、山岳又ハ荒蕪地火入及焚火
- 五、放牧
- 六、林產物
- 七、許可作業
- 八、林野火災ノ豫防、害蟲鳥獸ノ豫防驅除其ノ他ノ危險防止
- 九、砂防指定地
- 十、河川

取締ノ細目ハ警察部長之ヲ定ム

第三條 主任巡查部長ハ毎月二十日以上出張シ巡查派出所巡查駐在所及請願巡查配置所ヲ二月ニ一回以上第二條第一項第一號第二號第九號及第十號ノ取締ニ付テハ毎年二週以上巡視シ第二條第一項第三號乃至第八號ノ取締ハ適宜之ヲ爲スヘシ

第四條 主任巡查部長ハ毎月二十日以上出張シ第二條第一項第一號第二號第九號及第十號ノ取締ニ付テハ毎月一週以上巡視シ同條第一項第三號乃至第八號ノ取締ハ適宜之ヲ爲スヘシ

第五條 受持區巡查ハ第二條第一項第一號第二號第九號及第十號ノ取締ニ付テハ毎月一週以上視察シ同條第一項第三號乃至第八號ノ取締ハ適宜之ヲ爲スヘシ

第六條 主任巡查部長及巡查ノ勤務ハ本規程ニ依ルノ外巡查勤務規程ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

三六三

林野警察ニ關スル書類簿冊備付方

發第二八三號(大正六年五月三日)

各警察(分)署

林野警察ニ關スル警察(分)署及受持區巡查ノ備付クヘキ書類簿冊左ノ通定ム

追テ圖面調製上主任巡查部長及主任巡查ヲシテ受持巡查ニ助力セシメヌクモ十月末日迄ニ完成ヲ遂ケ其ノ旨申報スヘシ

第一 警察(分)署ノ備付クヘキモノ

- 一、主任巡查部長監督日誌
- 二、主任巡查勤務日誌
- 三、地圖
- 四、記號印章簿
- 五、林野河川許可作業控簿

受持巡查ノ日誌用紙ヲ使用シ同警署ヲ爲ササル受持巡查ノ記載例ニ準ス

主任巡查部長、主任巡查受持巡查ノ實地踏査ノ基礎トシ一萬分ノ一乃至二萬分ノ一ノ縮圖ヲ調製シ林野ノ種別及砂防指定地ハ第一號樣式ニ依ヒ彩色ヲ施シ區別スルコト但シ市町村毎ニ各別ニ調製スルコトヲ要ス

明治三十二年九月二十六日付警發第一五〇號ノ二帳簿樣式指示第八號ニ則リ調製ノコト但シ一枚ヲ六行トナシ

第二號樣式ニ依リ調製口座別トナスコト但作業期間十日以内ノモノ及十日以内ニ終了スヘキ焚火屑ノ記載ニハハス指示又ハ屆書ヲ別冊トナシ取締ヲ爲シ又作業設置期間ニ依リ三年以上ト三年未満トニ區別記載ノコト

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

- 六、林野河川ニ關スル書類編冊
整理ノ際指示ト人民願屆書類ヲ區別シ口座ヲ設ケ編冊スルコト但シ甲指示及ノ規トナルヘキ達、通牒等ハ一般所屬ノ文書ニ編冊スルモノトス
- 七、開墾禁止地臺帳第三號様式臺帳へ報告ヨリ登載
- 八、開墾制限地臺帳 同上
- 九、砂防指定地臺帳 第三號様式臺帳へ官報ヨリ登載
- 第二 受持區巡查ノ備付クヘキモノ
一、受持區地圖 調製方法ハ前項第三號ニ同シ
二、記號印章簿 前項第四號ニ同シ
三、林野河川許可作業控簿 前項第五號ニ同シ

- 四、林野河川ニ關スル書類編冊 前項第六號ニ準ス但シ甲指示又ハ例規トナルヘキモノハ一般署長甲指示ニ編冊
- 五、開墾禁止地臺帳 前項第七號ニ同シ
- 六、開墾制限地臺帳 前項第八號ニ同シ
- 七、砂防指定地臺帳 前項第九號ニ同シ
- 第三 右書類簿冊整理保存期限
第一項第一號第二號ノ日誌 一年保存
第一項第六號第二項第四號ノ編冊 三年保存
其ノ他 以上 永年保存

第一號様式ハ之ヲ略ス
第二號様式

許可年月日		町村名	小字	地番	地目	全面積	町步	面積	作業方法	採取物	作業期間	願人住所	備
大正	年月日	大町村	小字	地番	地目	全面積	町步	面積	作業方法	採取物	作業期間	願人住所	備
大正	年月日	大町村	小字	地番	地目	全面積	町步	面積	作業方法	採取物	作業期間	願人住所	備
大正	年月日	大町村	小字	地番	地目	全面積	町步	面積	作業方法	採取物	作業期間	願人住所	備
大正	年月日	大町村	小字	地番	地目	全面積	町步	面積	作業方法	採取物	作業期間	願人住所	備

長野縣

許可年月日		町村名	小字	地番	地目	全面積	町步	面積	作業方法	採取物	作業期間	願人住所	備
大正	年月日	大町村	小字	地番	地目	全面積	町步	面積	作業方法	採取物	作業期間	願人住所	備
大正	年月日	大町村	小字	地番	地目	全面積	町步	面積	作業方法	採取物	作業期間	願人住所	備
大正	年月日	大町村	小字	地番	地目	全面積	町步	面積	作業方法	採取物	作業期間	願人住所	備
大正	年月日	大町村	小字	地番	地目	全面積	町步	面積	作業方法	採取物	作業期間	願人住所	備

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

大正 月 日	年	町 字	村 名	字	地	番	地	目	地	種	目	的	願 届 人 住 所 名	備	考
林野焚火															
例 地種ノ欄ニハ公有地社寺有地及私有地並保安林砂防指定地等ノ別ヲ記入スルモノトス															
例 地種欄ノ記入ハ前項ニ同シ															

(用紙内山紙)

第三號様式

開墾禁止地(開墾制限地、砂防指定地)															
編 年 月 日	入 日 年	町 村 名	大	字	字	地	番	年	解 月 日	除 備	考				
月	日	日	年	日	年	日	年	日	年	日	年	日	年	日	年

●森林法

法律第四十三號(明治四十年四月二十三日)

第一章 總則

第一條 森林ハ其ノ所有者ニ依リ之ヲ分テテ御料林、國有林、公有林、社寺有林及私有林トス

前項ノ種別ニ依リ難キ森林ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ適用ス

第二條 森林ノ立木竹ヲ所有スル爲地上權、賃借權其ノ他土地ニ關シ使用

又ハ收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ權利者ヲ以テ本法ニ依リ森林所有者ト見做ス

前項ノ權利二箇以上同一ノ土地ノ上ニ存在スル場合ニ於テハ最後ニ設定セラレタル權利ヲ有スル者ヲ以テ前項ノ森林所有者トス

第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、一切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ

第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ權利義務ハ森林若ハ森林立

(長野縣)

本竹又ハ土地ノ所有權若ハ占有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

前項造林ニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部分ニ限リ三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得

前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條 公園、社寺境内及命令ヲ以テ定ムル土地ニ付テハ本法ヲ適用セス但シ命令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ書類ヲ送付スヘキ場合ニ於テ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ官報又ハ行政廳慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ送付アリタルモノト見做ス

第十三條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニ付地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ箇所及期間ヲ指定シ落葉、落枝、柴草、土石、樹根、草根、切芝ノ採取若ハ採掘ニ關スル制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ左ニ掲クル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得

第二章 營林ノ監督

第九條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ公共團體又ハ社寺ノ代表者ヲシテ森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付施業案又ハ施業要領ヲ定メ其ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ施業案又ハ施業要領ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ地方長官ニ於テ施業ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

前項指定ノ方法ニ違反シ伐木ヲ爲シタル者ニハ地方長官其ノ伐採ヲ停止シ代木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十五條 第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ保安林トシテ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ保安林ヲ解除スルコトヲ得

第十六條 保安林ノ編入解除ハ其ノ森林所在ノ府縣市町村又ハ之ニ準スヘ

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

キ者其ノ他直接利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ地方長官ヲ經由シ主務大臣ニ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ニ係ル森林ニ付不編入又ハ不解除ノ處分アリタルトキハ實地ノ狀況ニ著シキ變更ヲ生シタル場合ニ非サレハ同一理由ニ依リ再ヒ之ヲ申請スルコトヲ得ス

第十七條 保安林ノ編入解除ノ申請アリタル場合ニ於テ前條第一項ノ條件ヲ具備セス又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタルモノト認ムルトキハ地方長官ハ申請書ヲ却下スルコトヲ得

前項ノ處分ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十八條 保安林ノ編入解除ヲ爲サントスルトキ又ハ地方長官其ノ申請ヲ受理シタルトキハ地方長官ニ於テ其ノ旨ヲ森林所有者、土地所有者其ノ他土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知シ且慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ森林所在ノ市町村役場ニ之ヲ掲示スヘシ

地方長官ハ前項告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ議ニ付スヘシ

第十九條 地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 第十八條ノ告示ニシテ保安林編入ニ關スルモノナルトキハ其ノ告示ノ日ヨリ第二十三條ノ告示ノ日迄其ノ森林ニ於テ木竹ノ伐採、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十八條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ意見書ヲ地方長官ニ提出スルコトヲ得

第二十二條 地方長官ハ保安林ノ編入解除ニ關スル地方森林會ノ決議書其ノ他ノ關係書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ差出スヘシ但シ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルト

第一項及第二項ノ損害ノ算定方法及其ノ補償請求期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 前條第三項ニ依ル政府ノ補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前條第三項但書ニ依ル負擔ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第三十條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ第二十八條第一項ニ依リ受ケヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第三十一條 國有地ノ上ニ存在スル森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルトキハ政府ハ其ノ借地料ヲ免ス

第三十二條 主務大臣國土保安上必要アリト認ムルトキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第三十三條 第二十六條ノ規定ニ違反シ、第二十七條又ハ前條ノ制限、禁止若ハ指定ニ違反シタル者アルトキハ地方長官ハ造林其ノ他復舊ニ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

第三十四條 第十一條ノ規定ハ前條ニ依リ造林ノ命令ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 保安林ノ編入解除ニ關スル調査及國土保安ニ關シ地方長官ノ行フ調査ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ北海道ニ於テハ北海道地方費、沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第三十六條 主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第三十七條 第十八條第二項、第二十八條乃至第三十條ノ規定ハ御料林及國有林ニ之ヲ適用セス

第三十七條ノ二 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本章ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

キハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ掲示セシムヘシ

地方長官ニ於テ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタルトキハ前條告示ノ日ヨリ六十日以内ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 地方長官ニ於テ保安林ノ編入ニ關シ必要アリト認ムルトキハ其ノ森林ニ於ケル木竹ノ伐採ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ停止期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ニ依リ木竹ノ伐採ヲ停止セラレタル森林ト雖保育ノ爲ニ必要ナルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第二十六條 保安林ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ木竹ノ伐採、傷害、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲シ又ハ家畜ヲ放牧スルコトヲ得ス

第二十七條 主務大臣ハ保安林ノ所有者ニ對シ前條ノ外其ノ使用收益ヲ制限若ハ禁止シ又ハ施業若ハ保護ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第二十八條 木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル保安林ノ所有者又ハ立木竹ノ所有者ハ之ニ因リテ生シタル直接ノ損害ニ限リ其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

前項保安林ノ所有者カ前條ノ指定ニ依リ造林ヲ爲シタルトキハ其ノ造林ノ費用ハ前項ノ損害ト看做ス

前二項ノ損害ハ政府ノ補償ス但シ政府ハ保安林編入ニ因リ特ニ利益ヲ受ケル公共團體若ハ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシメ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第四章 土地ノ使用及收用

第三十八條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第四十條第二項ニ依ル通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第三十九條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受ケヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第四十條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ〔御料局〕又ハ政府ノ使用ニ係ルトキハ當該官廳ハ之ヲ地方長官ニ協議スヘシ

地方長官ハ前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議調ヒタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第一項ニ依リ土地ヲ使用セムトスル者ハ前項通知ノ後其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議スヘシ

第四十一條 前條第二項ノ通知後一箇年以内ニ同條第三項ノ協議ヲ爲ササルトキハ同條第一項ノ許可及協議ハ其ノ效力ヲ失フ第五十五條第一項ニ依リ地方森林會ノ議決ヲ求メサルトキ亦同シ

第四十二條 土地ノ使用三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十三條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十四條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十五條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十六條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ通路、溝渠、堤欄其ノ他ノ

工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十七條 第四十條第二項ノ通知後土地ノ形質ヲ變更シ、工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十八條 第四十條第二項ノ通知後同條第一項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十九條 土地所有者及關係人ハ土地ノ使用者若ハ收用者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ土地ノ使用者若ハ收用者カ「御料局」、政府、府縣市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 第五十五條第一項ノ裁決アリタルトキハ土地ノ使用者又ハ收用者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ用ウルコトヲ得但シ土地ノ使用者又ハ收用者カ「御料局」、政府、府縣市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ補償金ノ供託及擔保ノ提供ヲ要セス

第五十一條 前數條ニ依ル補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第五十二條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ收用者ノ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

第五十三條 土地ノ使用ヲ妨ケサル範圍ニ制限セララルモノトス

第五十四條 第三十條ノ規定ハ本章ノ補償金ニ之ヲ準用ス

第六十一條 森林又ハ森林ノ事業ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第五章 森林組合

第六十二條 森林組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ必要ナル事業ヲ爲ス爲一定ノ地區ヲ限リ之ヲ設立スルコトヲ得

一 國土保安ノ爲又ハ森林ノ荒廢ヲ防止シ若ハ荒廢セル森林ヲ回復スル爲必要ナルトキ

二 森林カ所有者ヲ異ニシ協同シテ施業ヲ爲スニ非サレハ其ノ利用ノ目的ヲ達スルニ困難ナルトキ

三 森林產物ノ運搬ニ必要ナル工事ヲ爲シ又ハ之ヲ維持スル爲關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ

四 森林ノ危害防止ニ付關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ

第六十三條 森林組合ハ營利ヲ目的トセサル社團法人トス

第六十四條 森林組合ヲ設立スルニハ定款ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第六十五條 森林組合ノ組合員ハ其ノ地區内ニ於ケル森林ノ所有者ニ限ル

第六十六條 森林組合ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト
二 前號同意者ノ所有スル森林ノ面積カ地區内ニ於ケル森林ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト
第六十七條 森林組合成立タルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ組合員トス但シ命令又ハ定款ニ於テ加入ノ義務ナシト定メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條 土地ノ使用者若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ第四十條第二項ノ通知後一箇年以内ニ地方森林會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ關スルモノニ付不服アル者ハ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ關スルモノニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 土地收用法第六十四條、第六十六條及第六十七條ノ規定ハ本章ニ依リ使用又ハ收用セラレタル土地ニ之ヲ準用ス

第五十七條 土地ノ使用、收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第五十八條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ水流ニ於ケル他人ノ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府力之ヲ行フトキハ地方長官ニ協議スヘシ

前項ノ工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ因リテ損害ヲ生スヘキトキハ補償金ノ拂渡ヲ爲スヘシ

第四十條第二項第三項、第四十一條、第四十六條乃至第五十一條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 流木竹ノ爲必要アル場合ニ於テハ沿岸ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第六十條 前數條ノ外流木竹ニ付土地又ハ水ノ使用ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十八條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 目的及事業

二 地區

三 名稱

四 事務所

五 出資又ハ費用分擔ノ方法

六 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

前項ノ外定款ニ定ムルコトヲ要スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十九條 森林組合ノ設立ハ其ノ主たる事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十條 組合員ハ組合ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ新ニ地區内ノ森林又ハ森林產物ニ付組合ノ事業ヲ妨ケヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第七十一條 森林組合ハ主務大臣及地方長官之ヲ監督ス

監督官廳ハ何時ニテモ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十二條 總會ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法令、監督官廳ノ命令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ監督官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消
二 役員ノ解職
三 組合ノ解散

第七十三條 森林組合ニ於テ本章又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ役員ヲ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第七十四條 造林ノ用ニ供スル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス
第七十五條 本法ニ規定スルモノノ外森林組合ノ設立、管理、解散、清算
其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 森林警察

第七十六條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ發シ若ハ
處分ヲ爲スコトヲ得
一 森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ所轄警察官署ニ届出シメ
森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコト
二 前號ニ依リ届出テタル記號印章ト同一又ハ類似ノ記號若ハ印章ノ使
用ヲ禁止スルコト
三 前二號ノ規定ニ違反シタル者ニ對シ森林產物ノ運搬ヲ停止スルコト
四 森林產物ニ關スル營業者ヲシテ帳簿ヲ設ケ其ノ產物ノ出所、種類、
數量及仕向先ヲ記載セシムルコト
五 前各號ノ外森林ノ危害防止ニ關スルコト

第七十七條 森林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公
吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森林產物又ハ森林產物ニ關
スル營業者ノ手帳、帳簿及器具ニ付檢査ヲ行フコトヲ得
第七十八條 森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ於テハ地方長官ニ於テ必要ト
認メ主務大臣ノ認可ヲ得テ指定シタル場合ヲ除ク外火入ヲ爲スコトヲ
得ス
前項指定ノ場合ニ於テ火入ヲ爲サムトスルトキ又ハ前項以外ノ土地ニシ
テ森林ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲サムトスルトキハ森林官吏又ハ警察官
吏ノ許可ヲ受クヘシ

第七十九條 前條ノ火入ヲ爲サムトスルトキハ豫メ防火ノ設備ヲ爲シ且接
近セル森林ノ所有者又ハ管理者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
第八十條 森林害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ害蟲發生シ又ハ發
生ノ虞アル森林ノ所有者之ヲ驅除豫防スヘシ

六 森林產物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ犯シタルトキ
七 二人以上共同シ又ハ他人ヲ雇使シテ犯シタルトキ
八 森林保護ノ義務ヲ有スル者犯シタルトキ
九 差押ノ贓物ヲ隠匿、毀消、滅却又ハ放棄シタルトキ
十 夜間犯シタルトキ

第八十五條 前條第二號ニ依リ製シタル物品ハ之ヲ森林竊盜ノ贓物ト看做
ス
第八十六條 民法第九十六條ノ規定ハ森林竊盜ノ贓物ノ回復ニ之ヲ適用
セス但シ善意ノ取得者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十七條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知リテ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若
ハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ「重禁錮」及贓額以上贓額二倍
以下ノ罰金ニ處ス
第八十八條 第八十三條、第八十四條及前條ノ贓額ノ二倍カ二圓ニ滿タサ
ルトキト雖共ノ罰金ハ二圓以下ニ下スコトヲ得ス

第八十九條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ「重懲役」ニ處ス因テ主產物ヲ燒
燬シタル者ハ「重懲役」ニ處ス
自己ノ森林ニ放火シタル者ハ二月以上二年以下ノ「重禁錮」又ハ二百圓以
下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ノ主產物ヲ燒燬シタル者ハ五年以下ノ
「重禁錮」ニ處ス

第九十條 第八十三條、第八十四條及前條第二項ノ罪ヲ犯サムトシテ未ダ
遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第九十一條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ三
十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第四百二十條ノ適用ヲ妨ケス
第九十二條 立木竹、木材又ハ根株ニ附シタル他人ノ記號印章ヲ變更又ハ
消除シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十三條 他人ノ森林内ニ工作物ヲ設ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處
ス

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ森林所有者ハ警察官署ノ許可ヲ得テ他
人ノ土地ニ立入り森林害蟲ノ驅除豫防ヲ爲スコトヲ得
第八十一條 森林害蟲蔓延シ又ハ蔓延ノ虞アル場合ニ於テ地方長官ハ森林
害蟲ノ驅除又ハ豫防ノ爲必要ナル處置ヲ利益關係アル森林ノ所有者ニ命
シ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得處置以外ノ動物又ハ微菌ヲ驅除豫防スルニ
付主務大臣ノ認可ヲ得タル場合亦同シ
前項驅除豫防ノ費用ハ其ノ利害關係アル土地ノ面積又ハ地價ヲ準率ト爲
シ森林所有者ノ負擔トス但シ地方長官自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ヲ除
クノ外費用ノ負擔者ニ於テ別段ノ定メ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
地方長官第一項ニ依リ自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ニ於ケル費用ノ徵收
ニ付テハ行政執行法第六條ノ規定ヲ準用ス
第八十二條 害蟲驅除豫防法第七條及第八條ノ規定ハ前二條ニ依ル驅除豫
防ニ之ヲ準用ス

第七十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ三年以下
ノ「重禁錮」又ハ贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス其ノ產物ニシテ人工
ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ
第七十四條 森林竊盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年
以下ノ「重禁錮」及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス
一 根株ヲ掘採、毀壞、燒燬若ハ隠蔽シ其ノ他罪跡ノ湮滅ヲ圖ルノ行爲
アリタルトキ
二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタ
ルトキ
三 贓物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取、精製若ハ石灰、煉瓦石、瓦其ノ他ノ
物品ノ製造ニ使用シタルトキ
四 贓物ヲ運搬スル爲馬、牛、船舶、車輛若ハ橇ヲ使用シ又ハ運搬、造
材ノ設備ヲ爲シタルトキ
五 保安林ニ於テ犯シタルトキ

第八十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ三年以下
ノ「重禁錮」又ハ贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス其ノ產物ニシテ人工
ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ
第八十四條 森林竊盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年
以下ノ「重禁錮」及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス
一 根株ヲ掘採、毀壞、燒燬若ハ隠蔽シ其ノ他罪跡ノ湮滅ヲ圖ルノ行爲
アリタルトキ
二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタ
ルトキ
三 贓物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取、精製若ハ石灰、煉瓦石、瓦其ノ他ノ
物品ノ製造ニ使用シタルトキ
四 贓物ヲ運搬スル爲馬、牛、船舶、車輛若ハ橇ヲ使用シ又ハ運搬、造
材ノ設備ヲ爲シタルトキ
五 保安林ニ於テ犯シタルトキ

第八十五條 第十三條ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金
ニ處ス
第八十六條 第二十條ニ違反シ又ハ第二十五條第一項ノ停止ニ違反シタル
者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第八十七條 第二十六條ニ違反シ又ハ第三十二條ノ制限若ハ禁止ニ違反シ
タル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第八十八條 第二十七條ノ制限、禁止又ハ指定ニ違反シタル者ハ三十圓以
下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 前三條ノ場合ニ於テ木竹ヲ伐採又ハ傷害シタル者ニ對スル罰
金ハ其ノ伐採又ハ傷害シタル木竹ノ價格ノ二倍ニ達セシムルコトヲ得
第九十條 第七十六條第二號又ハ第三號ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者
ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十一條 第七十七條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ
刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第九十二條 第七十八條又ハ第七十九條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金
ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ
森林内ニ於テ焚火ヲ爲シタル者亦同シ
第九十三條 第七十六條第一號第四號若ハ第五號又ハ第八十一條第一項ニ依
ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
第九十四條 第三十六條ニ依ル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス
第八章 附則

第九十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第九十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第九十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第九十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第九十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第一百條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第一百零一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第一百零二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第一百零三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第一百零四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第一百零五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第一百零六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第一百零七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第一百零八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第一百零九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第一百一十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

第一百一十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百
三十三號）

四十六號ヲ以テ同四十一年一月一日ヨリ施行)

第六條 北海道、沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ付テハ本法中

保安林ニ關スル規定ニ限リテ之ヲ施行ス

前項ノ外本法ノ規定ヲ施行スルノ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法施行前森林タリシモノニシテ本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シ

タルモノハ地方長官ニ於テ造林ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者カ造林ヲ怠リタル場合ニ付テハ第十

一條ノ規定ヲ準用ス

第八條 舊法第三十條ニ依リ保安林ト爲シタルモノニシテ本法施行ノ際

現ニ保安林タルモノハ之ヲ保安林トス

第九條 公有林又ハ社寺有林ニ付テハ本法施行前地方長官ノ認可ヲ受ケ又ハ

地方長官ニ届出テタル施業案又ハ施業要領ハ第九條ニ依リ認可ヲ受ケタ

ルモノト看做ス

第十條 舊法又ハ舊法ニ基キテ發シタル命令ノ規程ニ依リテ爲シタル處

分、議決、申請、請求、手續其ノ他ノ行爲ハ本法又ハ本法ニ基キテ發ス

ル命令ノ規程ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ本法ニ基キテ發ス

ル命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 舊法ニ依リ本法施行前ニ進行ヲ始メタル期間カ本法中之ニ相

當スル期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但シ其ノ殘期カ本法施行ノ

日ヨリ起算シ本法中之ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ本法施行ノ日ヨリ

起算シテ本法ノ規定ヲ適用ス

第十二條 舊法第二十六條ニ依ル補償ノ請求ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年

ヲ經過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

● 森林法施行規則

農商務省令第二十一號(明治四十年十二月二十六日)

第八條 森林法第十七條ノ規定ニ依リ申請書ヲ却下スル場合ニ於テハ理由

ヲ附シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス

第九條 保安林ノ編入解除ニ關スル處分ノ告示アリタルトキハ地方長官ハ

遲滞ナク森林法第二十三條ノ通知及揭示ヲ爲スヘシ但シ其ノ處分カ一筆

中ノ一部ニ保ルトキハ通知書ニ其ノ區域ヲ明示シタル圖面ヲ添付スヘシ

第十條 保安林ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項發生シタルトキハ其ノ

所有者ハ其ノ都度之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ森林法第十八條ノ規定ニ依

ル告示アリタル森林ニ關シテモ亦同シ

一 森林所有者ノ變更

二 地番ノ分合

三 地形又ハ林相ノ異動但シ輕微ナルモノヲ除ク

前項第一號ノ届出ハ新ニ所有者トナリシ者ニ於テ之ヲ爲シ届書ニ其ノ變

更ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第十一條 農商務大臣ニ於テ森林法第二十七條ノ規定ニ依リ制限、禁止又

ハ指定ヲ爲ス場合ニ於テハ地方長官ヲシテ之ヲ保安林所有者ニ通達セシ

ムヘシ

第十二條 森林法第二十八條ノ規定ニ依ル補償ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ

地方長官之ヲ行フヘシ

第十三條 森林法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ補償スヘキ損害ハ其ノ伐

採禁止ノ當時存在スル森林立木竹ノ普通保安林ノ立木竹トシテ價額ヲ見

積リ其ノ價額ノ年利五厘ニ相當スル金額ヲ以テ毎年ノ直接損害額ト看做

シ之ヲ算定スヘシ

前項損害ノ算定ニ付テハ其ノ既ニ伐期ニ達シタル森林ニ在リテハ伐採禁

止ノ當時其ノ未タ伐期ニ達セサル森林ニ在リテハ其ノ伐期ニ達シタル當

時ノ立木竹ノ時價ヨリ三割ヲ減シタルモノヲ以テ普通保安林ノ立木竹ノ

價額ト看做ス但シ地方長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ時價ニ對スル制

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

第一條 公共團體又ハ社寺カ森林ヲ得喪シ又ハ廢止シタルトキハ其ノ代表

者ハ遲滞ナク第一號様式ニ準シテ届書ヲ作り之ヲ地方長官ニ差出スヘ

シ

公共團體又ハ社寺ニ屬スル土地カ森林タルニ至リシトキハ其ノ代表者ハ

遲滞ナク第二號様式ニ準シテ届書ヲ作り之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ其ノ公共團體又ハ社寺ニ屬スル原野

山嶽、荒蕪地又ハ森林タリシモノニシテ現ニ荒蕪セルモノニ付森林トシ

テ管理スヘキモノト否トヲ區分シ第三號様式ニ準シテ區分書ヲ作り地方

長官ノ定メタル期間内ニ之ヲ地方長官ニ差出シ認可ヲ受ケヘシ

地方長官ハ區分ヲ更正シテ前項ノ認可ヲ與フルコトヲ得

前二項ニ依リ認可ヲ受ケタル區分ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認

可ヲ受ケヘシ

第三條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ其ノ公共團體又ハ社寺ニ屬スル森林

又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付第四號又ハ第五號様式ニ準シテ管理

ノ方法ヲ記載シタル届書ヲ作り地方長官ノ定メタル期間内ニ之ヲ地方長

官ニ差出スヘシ但シ保安林及地方長官ニ於テ森林法第九條ノ規定ニ依リ

認可ヲ受ケシムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ届出テタル方法ヲ變更シタルトキハ公共團體又ハ社寺ノ代表

者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第四條 第十條ノ規定ハ森林法第十條ノ規定ニ依リ施業方法ヲ指定シ若ハ

造林ヲ命シタル者ニ之ヲ準用ス

第五條 森林法第十一條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ

第六條 森林法第十三條ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ハ慣行ノ公布式ヲ以テ

之ヲ告示シ且之ヲ森林所有者ニ通知スヘシ

第七條 保安林編入解除ノ申請書ハ第六號様式ニ準シテ之ヲ作り第七號

ハ第八號様式ニ準シテ作りタル圖面ヲ添付スヘシ但シ全部ノ解除ニ付テ

引ノ歩合ヲ増減スルコトヲ得

第十四條 伐期ニ達セサル森林ニ付テハ樹種、作業別及地方ノ慣行等ヲ斟酌

シテ定メタル伐期ニ達シタル年ヨリ前條ノ補償ヲ爲スモノトス

前項ノ伐期ハ伐採禁止ノ際地方長官ニ於テ之ヲ保安林所有者ニ通達スヘ

シ

第十五條 森林法第二十八條第二項ノ規定ニ依リ損害額ハ造林ニ要シタル

實費額ニ依ルモノトス

第十六條 森林法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ損害ノ補償請求期間ハ其

ノ既ニ伐期ニ達シタル森林ニ在リテハ代探禁止ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ

九十日、其ノ未タ伐期ニ達セサル森林ニ在リテハ第十四條第二項ノ規定

ニ依リ定マリタル伐期ニ達シタル年ノ初日ヨリ末日迄トス

森林法第二十八條第二項ノ規定ニ依リ損害ノ補償請求期間ハ各年分ニ付

翌年三月三十一日迄トス

第十七條 森林法第二十八條ノ規定ニ依ル補償ヲ請求セムトスル者ハ請求

書ニ損害算定書ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ請求書ニシテ立木竹ノミノ所有者ナルトキハ其ノ所有ヲ證スヘキ

書面ヲ請求書ニ添付スヘシ

第十八條 森林法第二十八條第三項但書ノ規定ニ依ル負擔ノ要否及其ノ金

額ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ決定スヘシ

前項ノ負擔金額ハ地方長官ニ於テ之ヲ徵收ス

第十九條 森林法第三十二條ノ處分アリタルトキハ地方長官ハ地方慣行ノ

公布式ヲ以テ之ヲ告示シ且土地所在ノ市町村役場ニ揭示スヘシ

箇所ヲ指定シテ前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ前項ノ手續ヲ爲

スノ外其ノ旨ヲ土地所有者ニ通達スヘシ

第二十條 森林法第四十條ノ規定ニ依リ土地使用者ノ許可ヲ受ケムトスル者

ハ申請書ニ事業計畫書及圖面ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 使用スヘキ土地ノ所在、地番、種目、所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所
- 二 使用面積
- 三 使用ノ時期及期間
- 四 使用ノ目的
- 第二十一條 使用スヘキ土地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調書及圖面ヲ前條ノ申請書ニ添付スヘシ
 - 一 御料墓地及御料地
 - 二 國有地
 - 三 現ニ公用ニ供スル土地
 - 四 社寺境内地
 - 五 名所、舊跡及古墳墓
- 第二十二條 前二條ノ規定ハ森林法第四十條第一項但書ノ規定ニ依リ協議ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十三條 森林法第四十條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ得又ハ協議調ヒタル後同條同項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ但シ帝室林野管理局又ハ政府ニ在リテハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ
- 地方長官前項ノ届書又ハ通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
- 第二十四條 森林法第五十五條ノ規定ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求メトスル者ハ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出スヘシ
 - 一 申請人及相手方ノ氏名、名稱、住所
 - 二 使用又ハ收用スヘキ土地ノ所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所
 - 三 申請ノ目的及理由
 - 四 立證方法
- 第二十五條 森林法第五十六條ノ規定ニ依リ土地收用法第六十七條ノ規定

- ヲ準用スル場合ニ於テ爲ス公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第二十六條 第二十條乃至第二十五條ノ規定ハ森林法第五十七條ノ規定ニ依リ水ノ使用ニ關スル權利、其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス
- 第二十七條 森林法第五十八條ノ規定ニ依リ工作物ノ使用、變更又ハ除却ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ事業計劃書及必要ノ圖面ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ
- 前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 使用、變更又ハ除却スヘキ工作物ノ種類、所在、位置等
 - 二 使用、變更又ハ除却スヘキ工作物ノ所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所
 - 三 使用、變更又ハ除却ノ時期及期間
 - 四 使用、變更又ハ除却ノ目的
 - 五 其ノ他工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ關スル重要ノ事項
- 第二十八條 前條ノ規定ハ森林法第五十八條第一項但書ノ規定ニ依リ協議ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十九條 第二十三條ノ規定ハ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルトシテ廢止シタル場合ニ之ヲ準用ス
- 第三十條 第二十四條ノ規定ハ森林法第五十八條第三項ノ規定ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求ムル場合ニ之ヲ準用ス
- 第三十一條 地方森林會ノ裁決ハ會長ニ於テ其ノ勝手ヲ當事者ニ交付スヘシ
- 第三十二條 森林法第六十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採セムトスル者ハ地方長官ノ許可證ヲ携帯スヘシ
- 第三十三條 森林法第六十七條但書ノ規定ニ基キ森林組合ニ加入ノ義務ナシト定メタル者ノ員數及其ノ所有ニ係ル森林面積ハ之ヲ同法第六十六條

- 各號ノ計算ニ加ヘス
- 第三十四條 森林組合設立ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テハ定款ヲ組合員タル資格ヲ有スル者ニ示シ期間ヲ指定シテ意見ヲ申出テシムヘシ
- 森林組合設立ノ際第三十六條第二項ノ規定ニ依リ加入義務ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ期間内ニ地方長官ニ申請スヘシ
- 第三十五條 森林組合設立ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款及前條第一項ノ規定ニ依リ意見書其ノ他森林法第六十六條ニ定メタル條件ヲ具備スルコトヲ證スル書面ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ
- 第三十六條 御料林又ハ國有林ニ付テハ帝室林野管理局又ハ政府ハ獨立シテ經營スルヲ不便ナリトスル場合ヲ除クノ外森林組合ニ加入スルノ義務ナキモノトス
- 前項以外ノ森林ニシテ試驗、演習等特種ノ目的ニ供セラレ若ハ面積廣大ニシテ獨立經營ノ方法確定シ其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テ地方長官之ヲ協同經營ニ屬セシムルノ必要ナシト認メタルモノニ付テハ其ノ森林所有者ハ森林組合ニ加入スルノ義務ナキモノトス
- 第三十七條 森林法第九條、第十條、第二十七條又ハ第七十七條ノ規定ニ依リ處分ヲ受ケタル森林カ森林組合ノ經營ニ屬シタル場合ニ於テ其ノ處分ノ變更又ハ解除ヲ要スルモノアルトキハ森林組合ハ其ノ處分ヲ爲シタル官廳ニ對シ其ノ變更、解除ヲ申請スルコトヲ得
- 第三十八條 森林組合ニ於テ森林ノ施業案若ハ施業要領、造林計劃、林道若ハ河川ニ關スル工事、其ノ他ノ事業ノ計劃設計ヲ定メムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 前項認可申請書ニハ其ノ費用及其ノ收支ニ關スル豫定ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ
- 第三十九條 森林組合ニ於テ總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代會ノ選任解任ノ方法、員數及任期ニ關スル事項ヲ規定スヘシ
- 第四十條 森林組合合併ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ理由書、總

- 會ノ決議録、財産目錄、貸借對照表、合併契約書及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ
- 森林組合解散ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ理由書及總會ノ決議録ヲ添付シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ
- 第四十一條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ森林組合ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ報告スヘシ
 - 一 定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規程ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢シタルトキ
 - 二 理事、監事ノ選任若ハ解任アリタルトキ又ハ其ノ缺ケタルトキ
 - 三 森林組合令第十六條第一號第二號又ハ第五號ノ事項ヲ定メタルトキ
 - 四 森林組合令第二十三條第二項ノ書類ニ付總會ノ調査ヲ經タルトキ
- 第四十二條 森林組合ヨリ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ
- 第四十三條 森林法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ火入ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ帝室林野管理局所管地ニ付テハ同局森林官吏、林區署所管地ニ付テハ同署森林官吏、其ノ他ノ土地ニ付テハ警察官吏ニ申請スヘシ
- 火入ヲ爲サムトスル土地カ他人ノ所有若ハ占有ニ屬スルトキハ所有者又ハ占有者ノ承諾ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添付スヘシ但シ帝室林野管理局所管地及林區署所管地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第四十四條 前條ノ申請ヲ許可シタルトキハ第九號様式ニ準シテ許可證ヲ作り之ヲ申請人ニ交付スヘシ
- 前項ノ許可證ハ火入者ニ於テ火入ノ際之ヲ携帯スヘシ
- 第四十五條 火入ニ付延燒其ノ他危害ノ虞アルトキハ森林官吏又ハ警察官吏ハ何時ニテモ火入ノ差止又ハ火入ノ方法若ハ期日ノ變更其ノ他相當ノ處置ヲ命スルコトヲ得
- 第四十六條 火入ヲ爲シタル者ハ火氣消滅シタル後ニ非サレハ其ノ場所ヲ立去ルコトヲ得

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

第四十七條 第十條ノ規定ハ森林法第七條ノ規定ニ依リ造林ヲ命シタルモノニ之ヲ準用ス

第四十八條 第四十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者又ハ許可ヲ得タル期日ニ違ヒテ火入ヲ爲シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス第四十六條ニ違反シタル者亦同シ

第四十九條 第四條、第十條、第二十三條第一項、第二十六條、第二十九條、第四十七條及第五十條ノ規定ニ違反シテ届出ヲ怠リタル者又ハ第四十四條第二項ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

第五十條 本則施行ノ際現ニ森林法第二條ノ規定ニ依リ保安林所有者タル者ハ本則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ土地ニ關スル權利ヲ證スル書類ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第一號様式

公有林(社寺有林)取得(喪失)(廢止)届

計	所		町	地目	森林面積	所有者	備考
	大字	字					

右取得(賣渡)又ハ地上權消滅(田畑)開墾(何々)候ニ付此段及御届候也

年月日

何町(村)長(何神社神職又ハ何寺住職)
(氏子、檀徒又ハ信徒總代)

何 某
何 某

[長野警]

地方長官宛

注意

- 一 公共團體又ハ社寺カ森林法第二條ニ依ル森林ノ所有者ト爲リタル場合ニ於テハ備考欄ニ其ノ權利ノ種類及期間ヲ記載スヘキモノトス以下第二號及第十號様式亦同シ
- 一 森林法第二條ニ依ル森林所有者ノ權利消滅シタル爲公共團體又ハ社寺カ森林所有者タルニ至レルトキハ取得届ヲ爲スヘキモノトス
- 一 地番ノ全部カ森林ニアラサルトキハ何番ノ内ト記載スヘシ第二號、第四號、第五號、第十號様式亦同シ
- 一 面積欄ニハ實測又ハ見込面積ヲ記載シ其ノ段別ノ上ニ實測又ハ見込ノ文字ヲ附記スヘシ第二號、第三號、第四號、第五號、第六號、第十號様式亦同シ

第二號様式

公有林(社寺有林)成立届

計	所		町	地目	森林面積	所有者	備考
	大字	字					

右ハ今般森林ト相成候ニ付此段及御届候也

年月日

何町(村)長(何神社神職又ハ何寺住職)
(何々森林組合理事)

何 某
何 某

[長野警]

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

第五十一條 地方長官前條ノ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ其ノ保安林カ舊森林法ノ規定ニ基キ土地所有者ニ對シ施業法要領ヲ通達シタルモノナルトキハ遲滞ナク更ニ森林所有者ニ對シ之ヲ通達スヘシ其ノ届出前條ノ保安林所有者アルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第五十二條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ本則施行ノ際現ニ存在スル公有林又ハ社寺有林ニ付第十號様式ニ準シテ届書ヲ作り本則施行後遲滞ナク之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第五十三條 本則施行前第三條若ハ前條ノ届出ニ相當スル届出ヲ爲シ又ハ第二條ノ認可ニ相當スル認可ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ届出又ハ認可ハ本則ニ依リタルモノト看做ス

第五十四條 本則ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

何 某
何 某

第三號様式 地方長官宛
管理區分書

所 在	町村 大字 字 地番	地目	面積		所有者 事由
			計	積	
		森林トシ テ管理ス ルモノ	町		
		森林トシ テ管理セ サルモノ	町		
			計		

備考
右御認可相成度此段申請候也

年月日
何町(村)長(何神社神職又ハ何寺住職)
(氏子、檀徒又ハ信徒總代) 何 某

注意
地方長官宛

一 總テノ箇所ヲ森林トシテ管理シ森林以外ニ供スル箇所ナキ場合ニ於テハ「森林トシテ管理セサルモノ」ノ欄ヲ空欄トシ斜線ヲ劃スルモノトス
一 事由欄ニハ森林トシテ管理セサル箇所ニ付其ノ事由ヲ詳記スルモ

第四號様式 ノトス
管理方法届

所 在	町村、大字、字、地番「ノ内」	所有者	面積	現況	管理方法	備考
					雑木林(杉、松ヲ主トセル混濁林ニシテ大凡三十年生乃至五十年生ノ樹木一分ノ他ノ樹木一分)	
					地方ノ慣行ニ依リ三十年前後ヲ以テ皆伐ス(大凡十五年間ニ輪伐ヲ爲ス)	
					天然生ヲ養育ス(杉ヲ植栽ス)	

右及御届候也
年月日
何町(村)長(何神社神職又ハ何寺住職)
(何々森林組理事)
(氏子、檀徒又ハ信徒總代) 何 某

地方長官宛

第五號様式

管理方法届

所在及地目	町村、大字、字、地番「ノ内」
所有者	
面積	
現況	荒蕪地(草地)

備考	年月日	管理方法	
		植栽方法	主ナル樹種
	何町(村)長(何神社神職又ハ何寺住職)何々森林組理事	人工植栽(天然生ヲ補育ス)	桐(杉)(扁柏)
	(氏子、檀徒又ハ信徒總代) 何 某	明治何年ヨリ同何年ニ至ル何箇年間	

地方長官宛

第六號様式

保安林編入(解除)申請書

國郡町村大字字地番地目	面積		所有者住所氏名
	全	帳	
何 何 何 何 一山林	六町	六町	國郡町(村)大字 何 某
ク 何 何 何 五原野	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	國郡町(村)大字何管理者 何町(村)長
ク 何 何 何 七山林	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	國郡町(村)大字何管理者 何町(村)長
ク 何 何 何 九原野	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	國郡町(村)大字 何 某

以上編入ノ例

以上解除ノ例

右ハ何々(保安林編入又ハ解除ヲ要スル事由ヲ詳記スヘシ)ニ付保安林編入(解除)相成度(別紙圖面及何々添附)此段申請候也

年 月 日
農商務大臣宛

第七號様式

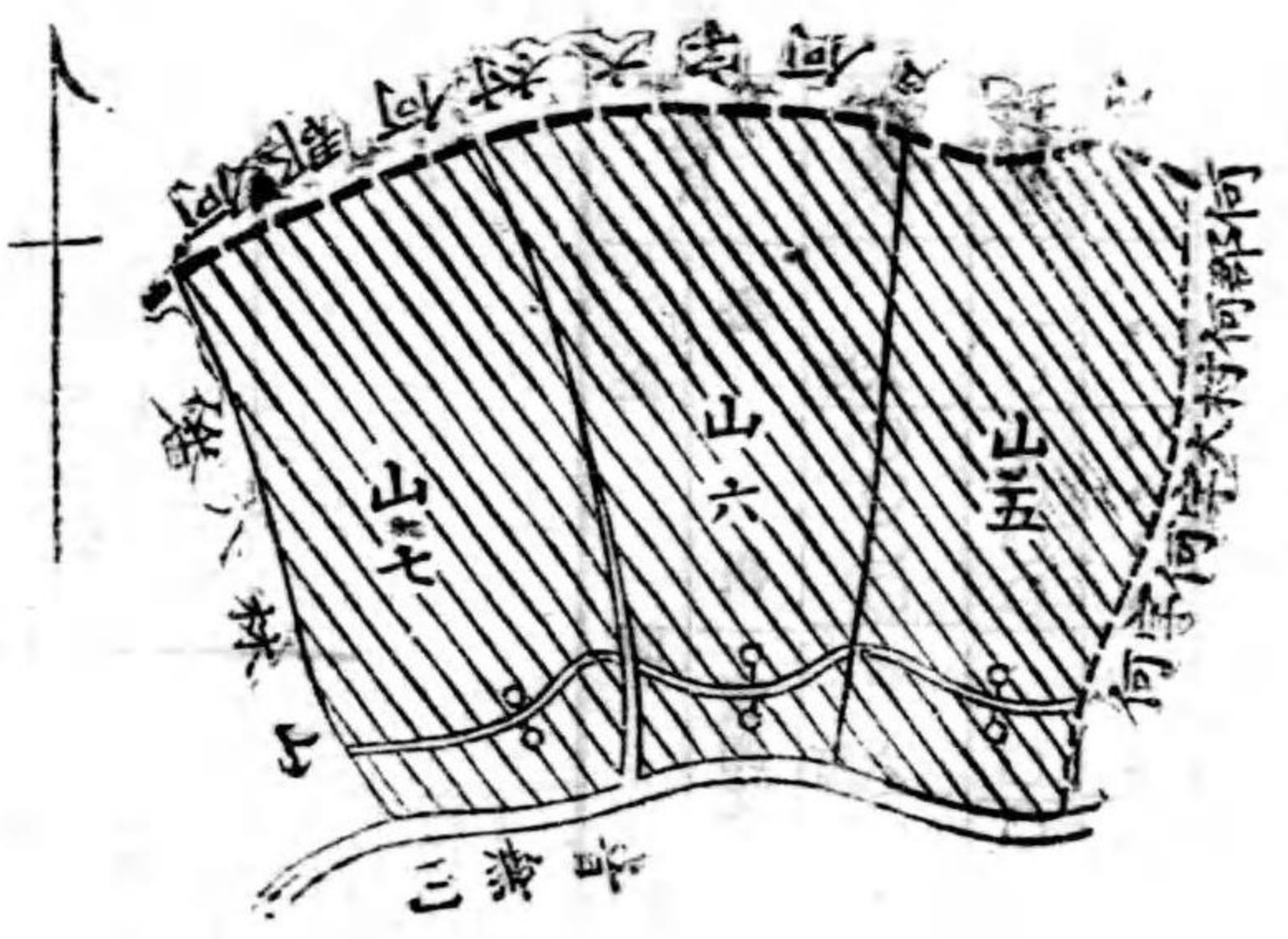
住所
申請者 氏名(何々森林組合理事氏名)

保安林編入圖

何國何郡何町(村)大字何字何番

又ハ何番至何番

縮尺何百分一



編入地要



注意

地番ノ一部ニ係ルトキハ編入スヘキ區域ノ境界ヲ判明ナラシムヘシ

第八號様式

保安林解除圖

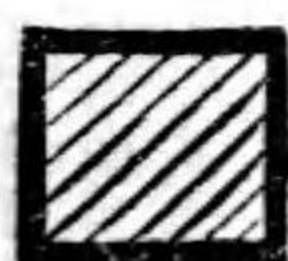
何國何郡何村大字何字何番

又ハ何番至何番

縮尺何百分一



解除地要



注意

解除スヘキ區域ノ境界ヲ判明ナラシムヘシ

第九號様式

表

森林火入許可證			
火入期日	火入箇所	許可年月日	取扱官吏

裏

火入者心得
一 火入者ハ火入ノ際此ノ證書ヲ携帯スヘシ
一 火入者ハ豫メ火入期日ヲ火入箇所ニ接近セル森林ノ所有者若ハ管理者ニ通知スヘシ
一 他(延焼ノ虞アル箇所ハ相當ノ防火設備ヲ爲スヘシ)
一 火入ニ關シ森林官吏又ハ警察官吏ノ指揮アリタルトキハ其ノ指揮ニ従フヘシ

- 二 閉塞制限(禁止)地圖 第十號樣式
- 三 閉塞制限(禁止)解除調書 第十一號樣式及第十二號樣式
- 四 閉塞制限(禁止)解除地圖(全部解除) 第十三號樣式及第十四號樣式
- 第十八條 第六條及第七條ノ規定ハ森林法第三十二條ノ規定ニ依ル處分ニ之ヲ準用ス

第十九條 森林法施行規則第十九條ノ告示アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ利害關係者ニ知ラシムル爲便宜ノ方法ヲ執ルヘシ

第二十條 森林法第四十條、第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘ又ハ協議ニ應セムトスル場合ニ於テ官廳ノ管理ニ屬スル物件又ハ現ニ公用ニ供スル物件ニ係ルモノアルトキハ豫メ其ノ物件ヲ管理スル官廳又ハ管理者ニ協議ヲ爲スヘシ

第二十一條 森林法第七十二條ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ組合ノ解散ヲ命セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 森林法第七十六條ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ依リ警察官署ニ於テ森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ノ届出ヲ受理シタルトキハ之ヲ所轄區域内又ハ其ノ附近ニ在ル小林區署又ハ皇室林理管理局支廳出張所ニ通知セシムヘシ其ノ届出ニ係ル記號、印章ノ變更又ハ其ノ使用廢止ノ届出ヲ受理シタルトキ亦同シ

第二十三條 森林法第八十一條第一項ノ規定ニ依リ蟲類以外ノ動物又ハ細菌ノ驅除豫防ニ關シ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ各號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

- 一 動物又ハ細菌ノ名稱、其ノ方言
- 二 主ナル被害產物ノ種類並被害ノ狀況
- 三 驅除豫防ノ方法

第二十四條 森林害蟲等ノ蔓延鄰接府縣ニ及ハムトスルノ虞アルトキハ其ノ旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ

第二十五條 二府縣以上ニ涉リ害蟲等蔓延シタルトキハ關係地方長官協定

- 一 森林法第九條第一項ノ規定ニ依リ府縣令ヲ發シタルトキ
- 二 森林法施行規則第六條ノ規定ニ依リ告示ヲ爲シタルトキ
- 三 森林法第六十條ノ規定ニ基キテ府縣令ヲ發シタルトキ
- 四 同法第七十一條第二項ノ規定ニ基キテ府縣令ヲ發シタルトキ
- 五 同法第七十六條ノ規定ニ基キテ府縣令ヲ發シタルトキ
- 第三十二條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ニ報告スヘシ
 - 一 森林法第九條ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘ又ハ變更ヲ命シタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ施業案ニ關スルトキハ其ノ施業案ヲ添附スヘシ
 - 二 同法第十條第一項ノ規定ニ依リ施業ノ方法ヲ指定シタルトキ
 - 此ノ場合ニ於テハ指定ヲ要スル理由ヲ具シ施業方法書ヲ添附スヘシ
- 三 同法第十條第二項、第三十三條又ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ命令ヲ爲シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ森林法第七條ノ規定ニ依ル造林命令ニ關スルトキハ造林方法書ヲ添附スヘシ
- 四 同法第十一條第一項、第三十四條又ハ第七條第二項ノ規定ニ依リ執行シタル造林ヲ終了セルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ造林費ノ徵收ニ關スル事項ヲ具シ第十八號樣式ニ準シテ作成シタル造林事業實行書ヲ添附スヘシ
- 五 第二號又ハ第三號ノ指定又ハ命令ヲ變更解除シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ詳具スヘシ
- 六 森林法第二十五條第一項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ詳具スヘシ
- 七 同法第四十條、第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ使用、變更又ハ除却ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議ニ應シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ使用、變更又ハ除却スヘキ物件、期間、時期、目的、方法等ニ關スル重要ナル事項ヲ具シ且必要ニ應シ事業計劃

シテ驅除豫防ヲ行フヘシ

第二十六條 森林法第七條ノ規定ニ依リ造林ヲ命セムトスルトキハ第一五號樣式及第十六號樣式ニ準シ造林方法書及圖面ヲ作成シ其ノ處分書ニ添附スヘシ

第二十七條 森林法第七條ノ規定ニ依リ命スル造林ノ完了年限ハ可成速成ノ見込ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 森林法第八條ニ該當スル保安林ハ明治四十三年度末迄ニ之ヲ調査スヘシ

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

- 一 森林法第二十七條ノ規定ニ依リ制限、禁止若ハ指定ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ第三號樣式及第四號樣式ニ準シテ作成シタル圖書ヲ添附スヘシ
- 二 同法第三十二條ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ第八號樣式及第九號樣式ニ準シテ作成シタル圖書及第十號樣式ニ準シテ作成シタル圖面ヲ添附スヘシ
- 三 第一號及第二號ノ制限禁止又ハ指定ヲ變更、解除スルノ必要アリト認ムルトキ

第三十條 地方長官ニ於テ森林法第十一條第一項、第三十四條又ハ第七條第二項ノ規定ニ依リ造林ヲ行ハムトスルトキハ其ノ理由及左ニ掲タル事項ヲ具シタル認可申請書ニ第十七號樣式ニ準シテ作成シタル造林事業豫算書ヲ添附シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

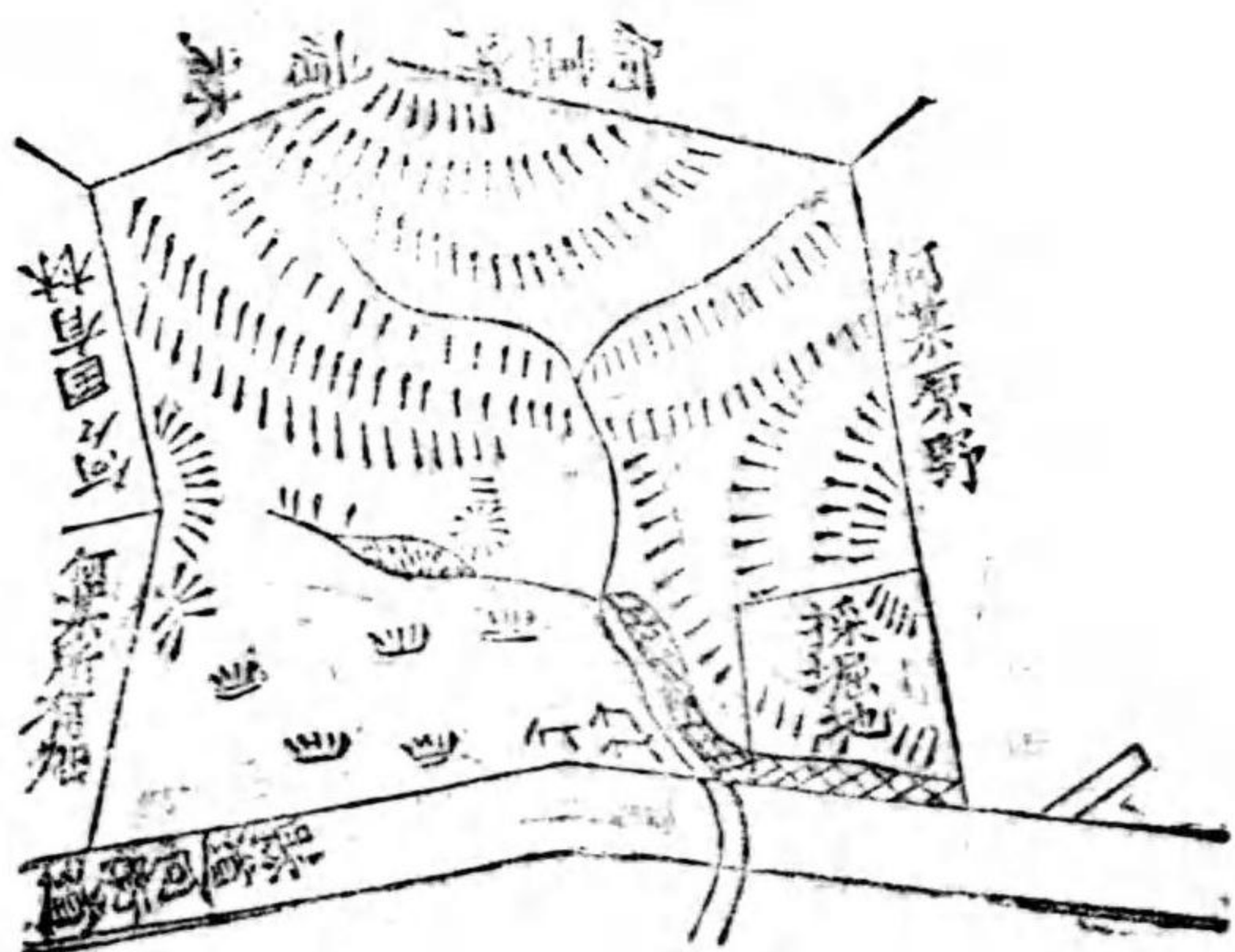
- 一 造林費ノ徵收ニ關スル事項
- 二 義務者ノ資力ニ關スル事項

第三十一條 左ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ具シ農商務大臣ニ報告スヘシ

- 八 同法第五十五條、第五十七條又ハ第五十八條第三項ノ規定ニ依リ地方森林會ニ於テ裁決ヲ爲シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ裁決書ノ謄本ヲ添附スヘシ
- 九 森林組合ノ設立ヲ許可シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ組合員ノ數、組合員ノ所有スル森林面積等ヲ具シ且定款ノ寫ヲ添附スヘシ
- 十 同法第六十八條第三項ノ規定ニ依リ定款變更ノ認可ヲ與ヘタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ變更ニ係ル事項中著シキモノニ關スル理由ヲ具スヘシ
- 十一 森林法施行規則第三十八條ノ規定ニ依リ事業ノ計劃又ハ設計ヲ認可シタルトキ但シ輕微ナルモノヲ除ク
- 此ノ場合ニ於テハ計劃又ハ設計ノ大要ヲ具シ又ハ必要ニ應シ計劃書若ハ設計書ヲ添附スヘシ
- 十二 森林法施行規則第四十一條第一號若ハ第四號ノ報告又ハ同條第三號中森林組合令第十六條第二號ノ事項ノ報告ヲ受ケタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ報告書ヲ添附スヘシ
- 十三 森林組合ノ合併ヲ認可シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ合併ヲ要スル理由ヲ具シ且合併契約書寫ヲ添附スヘシ
- 十四 森林法第七十二條第一號又ハ第二號ノ處分ヲ爲シタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ詳具スヘシ
- 十五 森林組合ノ解散ノ届出ヲ受ケタルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ解散ノ事由ヲ具スヘシ
- 十六 森林害蟲等蔓延シ若ハ蔓延ノ虞アルトキ又ハ森林法第八十一條第一項ノ規定ニ依リ森林害蟲等ノ驅除豫防ヲ命シ若ハ自ラ之ヲ行ヒタ

(參號)

凡	例
家屋	
道路	
崩壊地	
防禦工事	
河川	



採掘土石種類 (築石) (何々)
 何年何月何日届出
 区域長何間幅何間
 採掘人 住所 氏名
 段別何程

(四號)

〔長野縣〕

● 害蟲驅除豫防法

法律第十七號(明治二十九年三月二十五日)

- 第一條** 此ノ法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ
- 第二條** 驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム
- 認可ヲ經タル種類以外ノ害蟲發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ地方長官ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ
- 第三條** 害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徵收セシムルコトヲ得其ノ費用ノ徵收ニ關シテハ市制(第百二條)及町村制(第百二條)ヲ適用ス
- 第四條** 害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得
- 第五條** 地方長官ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得
- 夫役ハ害蟲ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得
- 夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ標準ト爲スヘシ
- 夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得
- 本條ノ場合ニ於テハ市制(第百二十三條)及町村制(第百二十七條)ヲ適用セス

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

● 河川法

- 第六條** 地方長官ハ驅除豫防ノ爲ニ必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、藥料、刈株、雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得
- 本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス
- 第七條** 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得
- 第八條** 土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入り驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得
- 第九條** 地方長官又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ北海道地方費府縣稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第三條、第四條、第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得
- 第十條** 蟲類以外ノ動物又ハ微菌ト雖農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得
- 第十一條** 第三條ノ場合ニ於テ地方長官ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス
- 第十二條** 第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其ノ指揮ヲ承クル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ(重禁錮)ニ處ス
- 第十三條** 本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區町村、沖繩縣ノ區、間切島及市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル市町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス
- 第十四條** 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

法律第七十一號(明治二十九年四月八日)

- 第一章 總則
- 第二章 河川ノ管理
- 第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察
- 第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等
- 第五章 監督及強制手續
- 第六章 訴願及訴訟
- 第七章 附則
- 河川法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ナル關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

第三條 河水河川ノ區域外ニ出テテ長期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ

第四條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第五條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第六條 堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第七條 合テ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第八條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲ニ必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徵收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ら其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

第九條 前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第十條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十一條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十二條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

第十三條 河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

ルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十七條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十八條 第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第十九條 舟筏ノ通航及流水ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

第二十二條 一 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

二 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第三十條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第三十一條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行為ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第三十二條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシムルコトヲ得

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

(長野縣)

メ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ノ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲ニ必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

第二十四條 前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

第二十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲ニ必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス
主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場
合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第二十五條 通航料徴收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費
用ハ其ノ徴收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地價總
額千分ノ二箇半ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以內ヲ國庫ヨリ
補助スルコトヲ得但シ地價總額百分ノ二箇半ヲ超過スル部分ニ付テハ其
ノ超過額ノ四分ノ三以內ヲ補助スルコトヲ得

前項ニ於テ地價ト稱スルハ其ノ年分地租ヲ徴收スヘキ土地ノ一月一日現
在地價ヲ謂フ

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラ
ズ

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ
還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府
縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔ス
ヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並不足額ノ補充及殘餘金ノ處分
等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府
縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費
用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルト

級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準ト
シテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲ニ必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土
地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補助金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ
所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但
シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在
不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲ
ナサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲ニ必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤
外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ
其ノ土地ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得
堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事
ノ爲ニ必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以
內ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルト
キハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其
ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使
用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠
償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄ス
ル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使
用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料
若ハ占用料ヲ徴收スルコトヲ得

キハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理
者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシム
ルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムル
モノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ
得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノ
ナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工
事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ
管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔
トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全
部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ
於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維
持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノ
ナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ
負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命
シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除
クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項
ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要スル費用ハ其
ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ
得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便
ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徴收
スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十
箇年ヲ超過スルコトヲ得

通航料ノ徴收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關
スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル
所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證
跡アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政
廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ
工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部
ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ
其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂并止ノ設備ヲナ
シ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲ
シテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコ
トヲ得

土砂并止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用ス
ルコトヲ得

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外河川附近ノ土地、家屋若
ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減ス
ル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定

ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項竝此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他

此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ履行セシムルハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ク得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自

ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限内示シ若期限内ニ履行セザルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不十分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指

定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過

料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ヲ定ムル所ニ從

ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章 訴訟及訴願

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願

〔長野警〕

●河川法施行規程

〔長野警〕

勅令第二百三十六號(明治二十九年六月三日)

第一條 內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

內務大臣ニ於テ河川法ノ全部若クハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三條 沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川竝ニ其ノ區域及起工年度ヲ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條 河川法第六條但書ニ依リ内務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クとも五日以前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入り又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クとも五日以前ニ又之ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クとも十五日以前ニ其ノ場所若ハ建築物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲メ其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣行ニ依リ既ニ定リタ

スルコトヲ得ス

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ争アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章 附則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ

第六十六條 災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

ル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受ケヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受ケヘキコトヲ命ジタルモノハ此ノ限ニアラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條 内務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

内務省令第十六號(明治三十五年六月二十五日)

第一條 河川ノ附屬物カ府縣ノ境界ニ係ルトキハ關係府縣知事ノ一ニ於テ其附屬物ノ全部又ハ其一部ヲ管理スルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テハ關係府縣知事協議ノ上管理ヲ爲スヘキ附屬物及其管理者ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前項ノ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ受ケヘシ

管理ヲ爲スヘキ附屬物及其管理者確定シタルトキハ關係府縣知事ハ之ヲ告示スヘシ

第三條 管理者タル府縣知事ハ其附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ其維持ヲ爲スノ義務アルモノトス

第四條 本令ノ規定ニ依レル河川ノ附屬物ニ要スル費用ハ其管理者タル府縣知事ノ管轄スル府縣ノ負擔トス

前項ノ費用ニ付テハ他ノ關係府縣ヲシテ其一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

此場合ニ於テハ明治三十二年内務省令第二十二號ノ規定ヲ準用ス

第五條 本令ノ規定ニ依レル河川ノ附屬物ヨリ生スル收入ハ其管理者タル府縣知事ノ管轄スル府縣ニ歸ス

第六條 本令ノ規定ニ依レル河川ノ附屬物ニ付テハ各關係府縣知事ニ於テ其管轄區域ニ屬スル部分ノ河川臺帳ヲ調製スヘシ

●河川法準用ノ水面及河川

長野縣告示第二百六十九號(明治三十五年十月二日)

左記水面及河川ニ對シ河川法第五條及明治三十二年勅令第四百四號第一條第二條ニ依リ明治三十五年十月五日ヨリ河川法ヲ準用ス

一 諏訪郡諏訪湖水面

一天龍川 諏訪郡平野村宇釜口諏訪湖吐口以下同郡川岸村觀音橋(宇釜口)量水標ヨリ三十三丁二間下流)ニ至ル迄

●河川法準用ニ係ル諏訪湖附近土

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

第十四條 河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノ爲不用ニ歸スル土地ノ處分ニ關スル件

勅令第四百十九號(明治四十一年五月五日)

河川法ノ規定ニ依ラサル河川、水流、水面ニシテ河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノ爲不用ニ歸スルモノニ付テハ河川法第四條第二項並第四十四條及之ニ基キテ發シタル命令ノ規定ヲ準用ス

勅令第四百十八號(明治三十三年四月十六日)

第一條 許可ヲ受ケスシテ河川法第十七條ニ記載スル工事ヲ施行シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ(重禁錮)ニ處ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ(重禁錮)ニ處ス

一 許可ヲ受ケスシテ河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

二 河川法第二十三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命ニ從ハサル者

三 許可ヲ受ケスシテ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

河川法第四條ニ依レル特別規定

長野縣告示第三百三號(明治三十七年九月二十四日)

河川法準用ニ係ル諏訪湖附近土地ノ區域左ノ通り定メ河川法第四十七條ニ依レル命令ヲ準用ス(字名、地番、地目略ス)

町村名

上諏訪町

下諏訪町

長地村

平野村

湊村

豊田村

地ノ區域

長野縣告示第一號(明治三十八年一月四日)

明治三十年十二月十二日 縣令第五十二號河川取締規則左ノ通改正シ來ル一月十日ヨリ施行ス

第一條 本則ハ河川法準用區域ヲ除ク外總テ河川及湖ニ適用ス

河川ノ敷地官有ニアラサルモ川成ト認ムル箇所ニ對シテハ本則ヲ適用ス

第二條 左ニ掲クル行爲ヲ爲サムトスル者ハ當廳(特ニ委任シタル)ノ許可ヲ受ケヘシ

一 河水ヲ停滯セシメ又ハ河水ノ害ヲ豫防スル爲メニ施設スル工作物ノ新築改築又ハ除却

二 河川ノ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若クハ河川ヲ横過シ若クハ其床下ニ於テ施設スル工作物ノ新築改築又ハ除却

三 河川ノ改修

四 河水ノ引川

●河川取締規則

- 五 河川ノ浚渫又ハ河川内若クハ河岸ニ於ケル岩石ノ破碎又ハ除却
- 六 堤防兼用道路ノ盛立其他變更
- 七 縣費支辨河川ニ對スル自營工事
- 八 縣費支辨河川堤防(副堤ヲ)ノ使用
- 九 縣費支辨河川ニ於ケル堤外地又ハ沿岸地(河岸ヨリ水平距離ニ土石等ヲ堆積シ又ハ土地ヲ掘鑿シ其他土地ノ形狀ヲ變更セントスルトキ河川内ニ水車船ヲ繫留セントスルトキ
- 十 湖ノ浚渫及其ノ他ノ施設
- 第三條 治水工作物、橋梁若クハ量水標(附屬工作物ヲ)又ハ測量標ニ舟筏又ハ木材其他ノ物件ヲ繫キ留ムヘカラス
- 第四條 左ノ場合ニ於テハ許可ヲ取消シ若クハ其效力ヲ停止シ若クハ其條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物其他ノ物件ヲ補修變更若クハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ依リテ生スル危害ヲ豫防スル爲メニ必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 一 工事施行ノ方法若クハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ
- 二 河川狀況ノ變更其他許可ノ後ニ起リタル事實ニ依リ必要ヲ生シタルトキ
- 三 河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲メ必要ナルトキ
- 四 本則ノ規定又ハ許可ノ條件ニ違背シタルトキ
- 五 公益ノ爲メ必要ト認ムルトキ
- 第五條 第二條第三條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 附則
- 第六條 本則施行以前ヨリ許可ヲ受ケシテ縣費支辨河川ノ堤防ヲ使用スル者ハ本則施行後三十日以内ニ其使用ヲ廢止シ若クハ出願ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 明治二十七年九月縣令第二十九號ハ廢止ス

●木材川下取締規則

長野縣令第四十四號(明治三十六年十一月二十八日)

- 第一條 木材川下ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ出願許可ヲ受クヘシ但流ハ此限ニアラス
- 一 川下區域及期間
- 二 木材ノ寸尺及員數
- 三 木材ニ彫付スヘキ極印ノ形狀
- 四 假堰其他工作物設置ヲ要スルモノハ其設計書及構造圖
- 五 川敷内若クハ河川附近ノ土地ニ木材ヲ積置カントスルモノハ其位置及積置期間
- 六 揚卸場所及木材積置場所並ニ假堰其他工作物設置個所等ヲ顯ハシタル見取圖
- 七 治水工作物橋梁量水標用水路等ニ危害ヲ與ヘサル爲メ施スヘキ豫防方法
- 前項ノ出願者ニシテ木材揚卸場所及積置場所並ニ假堰其他工作物設置ノ爲メ官有ノ河川敷地ヲ使用セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ同時ニ出願許可ヲ受クヘシ
- 一 川敷ノ屬スル地籍、地番、字名、使用段別之ニ對スル料金額並ニ使用期限
- 二 使用セントスル川敷ノ位置及其區域ヲ明示シ且ツ附近ノ地況ヲ描寫シタル圖面
- 第二條 治水工作物橋梁測量標量水標等ニ木材ヲ繫キ留ムヘカラス
- 第三條 木材川下ノ爲メ治水工作物橋梁量水標用水路等ヲ毀損スル虞アリト認ムルトキハ保證金ヲ納メシムルコトアルヘシ
- 第四條 木材川下ノ爲メ治水工作物橋梁量水標用水路等ヲ毀損シタルトキハ速ニ原形ニ復シ又ハ相當修理ヲ爲スヘシ

- 同一河川ニ於テ木材川下ヲ爲スモノ二人以上アル場合ニ於テ治水工作物等ノ毀損カ河川ノ木材ニ因リタルヤ判明ナラサルトキハ前項ノ義務ハ共同負擔トス
- 第五條 左ノ場合ニ於テハ許可ヲ取消シ若クハ其效力ヲ停止シ若クハ其條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若クハ除却セシメ又ハ川下區域若クハ木材積置場所ヲ變更セシメ若クハ危害豫防ノ爲メ必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 一 河川狀況ノ變更其他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生シタルトキ
- 二 本則ノ規定若クハ許可ノ條件ニ違背シタルトキ
- 三 公益ニ必要ト認メタルトキ
- 第六條 河川ニ沈下シタル木材ハ許可期限後十日以内ニ之ヲ引上クヘシ許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ
- 第七條 假堰其他木材川下ノ爲メ施設シタル工作物ハ許可期限後十日以内ニ取拂フヘシ許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ
- 第八條 許可ヲ受ケシテ木材川下ヲ爲シ又ハ第二條第六條第七條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 附則
- 第九條 明治二十六年六月縣令第三十四號木材川下規則ハ廢止ス

●天龍川客船及貨物運送營業取締規則

長野縣令第二十號(明治二十七年五月十四日)

- 第一條 本則ハ天龍川乘客及貨物運送ヲ營業セントスル回漕店回漕船持主及水夫ニ適用ス
- 第二條 前條ノ營業ヲナサントスルモノハ左ノ例ニ照シ所轄警察官署ヘ届出認可ヲ受クヘシ

- 一 水夫ハ族籍住所氏名年齢ヲ記載シ鑑札ヲ受クヘシ
- 一 回漕店ハ營業届ニ族籍住所氏名及屋號ヲ記載シ會社ハ社長ヨリ届出ルモノトス
- 一 回漕船持主ハ前項ノ外回漕船ノ員數及各新造ノ年月ヲ記載スヘシ
- 第三條 十五年未滿ノモノ及瘋癲白痴者ハ水夫トナルコトヲ得ス
- 第四條 水夫ハ營業中必ス鑑札ヲ携帯スヘシ鑑札ハ貸借若クハ讓與スルトヲ得ス
- 第五條 回漕店回漕船持主轉居又ハ改氏名ヲ爲シタルトキハ三日以内ニ届出ツヘシ廢業シタルトキ亦同シ
- 水夫鑑札面ニ異動ヲ生シ又ハ鑑札ヲ遺失紛失毀損シタルトキハ三日以内ニ届出テ廢業シタルトキハ鑑札返納スヘシ
- 第六條 船艇乗組水夫ノ定員ハ四名以上トシ内一名ハ水夫長トナリ航運ニ關スル指揮ヲ掌ルヘシ但下伊那郡龍丘村大字時又以北ハ水夫ノ定員三名迄ニ減スルコトヲ得
- 第七條 年齡滿二十五年以上ノ者ニアラサレハ水夫長トナスコトヲ得ス
- 年滿十五年以上十八年未滿ノ水夫ハ一艘一名ノ外乗船セシムルコトヲ得ス
- 第八條 運送用ノ船艇ハ(屬具トモ)使用前所轄警察官署ヘ届出テ検査ヲ受ケ爾後毎年一回検査ヲ受クヘシ
- 警察官ハ臨時前項ノ検査ヲ爲スコトアルヘシ
- 検査済ノ船艇ハ検査證ヲ船内見易キ場所ヘ釘付スヘシ
- 第九條 船艇ノ積量ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一 上リ船一艘ノ積量三百五十貫目
- 一 下リ船一艘ノ積量乗客ナレハ七百貫目以内但下伊那郡龍丘村大字時又以北ニシテ水夫三名ノ場合ニハ貨物ハ五百貫目以内乘客ハ二十人以内トス

- 第十條 乗客七歳以上十二歳未満ハ二人ヲ一人ト看做シ七歳未満ハ定員外トス
- 乗客ト貨物ト併載セントスルトキハ一人ニ付二十貫目ノ割合ヲ以テ貨物ノ量ヲ控除スヘシ
- 客ノ手荷物合量六十貫ヲ超ユルトキハ之ヲ貨物ノ積量ヨリ控除スヘシ
- 第十一條 河水増量ノ際ハ左ノ制限ヲ恪守スヘシ
 - 水量ハ水量標ニ依ル
 - 一番水 出船ヲ禁ス
 - 二番水 空船ニ限り出船ヲ許ス
 - 三番水 平水時積量ノ四分ノ三ヲ減ス
 - 四番水 以上二分ノ一ヲ減ス
 - 五番水 同上四分ノ一ヲ減ス
 - 三番水以上ニハ乗客ノ搭載ヲ禁ス
- 本條ノ制限ハ出船所ノ水量標ニ據ルモノニシテ下流若クハ上流ノ改船所ニ於テ水量ノ増減ニ應シ臨機増減セシムルコトアルヘシ
- 第十二條 營業者ハ改船所々在地及其他警察官ノ指定スル場所ニ水量標ヲ設置スヘシ
- 第十三條 夜間又ハ警察官ニ於テ危険ノ虞アリト認ムルトキハ出船スルコトヲ得ス
- 第十四條 改船所ハ左ノ箇所ニ之ヲ設ク
 - 一 下伊那郡龍丘村大字時又
 - 一 同郡平岡村宇満嶋
 - 一 同郡喬木村宇阿嶋
 - 一 同郡市田村宇出砂原
 - 一 上伊那郡朝日村宇下平出
 - 一 同郡伊那町宇大橋

- 一 同郡赤穂村宇下平
- 一 同郡南南村宇大草
- 第十五條 直航ノ徽章ハ別紙雛形ニヨリ調製シ船首ニ建ツヘシ
- 直航徽章ハ出船ノ際改船所ヨリ交付スルモノトス
- 第十六條 客船ニハ看護人ナキ瘋癲者亂解者火藥劇發物汚穢物牛馬羊豚等ヲ乗載スルコトヲ得ス
- 第十七條 船筏行遇フトキ又ハ河流ノ屈曲部ヲ通過スルトキハ五ニ慣習ヲ恪守シ相當ノ相圖ヲナシ衝突ノ危険ヲ避クルコトヲ努ムヘシ航運中他人ノ危難ヲ認メタルトキハ協力救助スヘシ
- 第十八條 航運中故ナク停船シ又ハ強テ乗船ヲ勸メ又ハ何等ノ名義ヲ問ハズ定額外ノ金ヲ要求スルコトヲ得ス
- 第十九條 船艇休泊中ハ貨物保護ノ爲メ相當ノ番人ヲ附スヘシ
- 第二十條 乗客ノ賃錢ハ之ヲ一定シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ其變更シタルトキ亦同シ
- 第二十一條 營業者ハ組合ヲ設ケ取締一名副取締若干名ヲ撰定シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 取締人ハ營業ニ關スル諸願届ニ連署スヘシ
- 第二十二條 取締人不適當ト認ムルトキハ改撰ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二十三條 營業上ニ關スル規約ヲ設ケタルトキハ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第二十四條 第二條第六條第九條第十一條第十三條第十八條ニ違犯シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス第四條第七條ノ二項第八條第十條第十六條ニ違犯シタルモノ

●天龍川上流取締規則

- 長野縣令第二十四號(明治三十六年五月八日)
- 河川法第十六條及第十九條ニ依リ天龍川上流取締規則左之通相定ム
- 第一條 本則ニ於テ天龍川上流ト稱スルハ諏訪湖吐口零里三十五丁杭以下ニ於ケル河川法準用區域ヲ云フ
 - 第二條 天龍川上流ニ於テ左ノ行爲ヲ禁ス
 - 一 土石塵芥石炭屑貝殻等ヲ投棄スルコト
 - 二 橋梁量水標又ハ測量標ニ舟筏其他ノ物件ヲ繋キ留ムルコト
 - 三 木材ヲ放流スルコト
 - 第三條 天龍川上流ニ於テ堆積物水草樹枝等ヲ取除キ流水ノ疏通ヲ計ラントスルモノハ許可ヲ受クヘシ
 - 第四條 第二條第三條ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 諏訪湖及天龍川上流取締方ノ件
- 警收第一三四六三號(明治三十七年十月十一日)
- 上諏訪警察署 下諏訪警察分署
- 諏訪湖及天龍川上流ニ於テ左記ノ廉々視察ノ途ケ違反スル者アリタルトキハ其都度諏訪郡役所内ニ駐在セル本縣土木吏員ヘ通報方取計フヘシ
- (左記)
- 一 諏訪湖(官有湖)及天龍川上流ニ於テ河川法第十七條第十八條ニ違背スルモノナキヤ否
 - 二 明治三十七年本縣告示第三百三號諏訪湖附近地(主トシテ湖水ヲ成)ニ於
- 第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

●砂防法

- 法律第二十九號(明治三十年三月三十日)
- テ明治三十三年勅令第三百號第四條ニ違背シ濫リニ埋立等ヲ爲スモノナキヤ否
- 三明治三十六年本縣々令第二十四號天龍川上流取締規則ニ違背スルモノナキヤ否
- 第一章 總則
- 第二章 土地ノ制限及砂防設備
 - 第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等
 - 第四章 警察、監督及強制手續
 - 第五章 訴願及訴訟
 - 第六章 附則
- 第二章 土地ノ制限及砂防設備
- 第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設セルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ
 - 第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス
 - 第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得
 - 第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得
 - 前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其
- 四〇九

ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ区域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ区域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ鄰接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得

第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手段

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲並砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス

地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以内ヲ負擔セシムルコトヲ得

前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額並其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム

第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受ケルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ら執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手段

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲並砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス

地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他

此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依

ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法正ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次先取特權ヲ有スルモノトス此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察

官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章 訴願及訴訟

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ

後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六章 附則

第四十七條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

砂防指定地取締規則

長野縣令第三十四號(明治三十七年十月二十九日)

砂防法第四條ニ依リ砂防指定地取締規則左ノ通相定ム

明治三十一年八月縣令第四十四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第一條 砂防法ニ依レル砂防工事施行箇所ニ於テハ一切ノ作業ヲ禁止ス

第二條 砂防法第二條ニ依ル砂防設備ヲ要スル指定地中山林原野ニ於テハ左ノ行爲ヲ禁止ス

- 一 開墾
二 切芝及土石採掘但指定地ニ於テ施行スル砂防工事ノ爲メ必要ノモノヲ除ク
三 牛馬ノ放牧
四 植物根株ノ採掘
五 竹木ノ皆伐
六 落葉ノ採取
七 火入

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章 訴願及訴訟

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ

前項ノ行爲ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ特ニ許可スルコトアルヘシ

一 土地ノ勾配又ハ地質等ニ依リ崩壊ノ虞ナシト認ムルモノ

二 土地ノ崩壊ヲ防クニ足ルト認メラル、設備アルモノ又ハ設備ヲ爲スコトノ條件ヲ附スルモノ但其條件ヲ履行シ得ヘキ資力アリト認ムルモノニ限ル

三 公益ノ爲メ必要ト認ムルモノ

第三條 砂防法第二條ニ依ル砂防設備ヲ要スル指定地ニ於テ左ノ行爲ヲ爲サントスル者ハ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

一 地目變換

二 土地ノ掘鑿其他土地ノ形狀ノ變更

三 山林原野以外ニ於ケル切芝及土石採掘

四 山林原野ニ於ケル竹木ノ伐採枝拂柴草刈取

第四條 砂防法第二條ニ依リ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲ヲ禁止若クハ制限スヘキ指定地ニ於テ左ノ行爲ヲ爲サントスル者ハ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 開墾
二 竹木ノ伐採
三 柴切及土石採掘
四 植物根株ノ採掘
五 牛馬ノ放牧
六 火入

陸地測量標條例

法律第二十三號(明治三十三年三月二十七日)

第一條 本條例中測量標ト稱スルモノハ三角點標石、水準點標石、視標、標杭、測旗、假杭トス

- 第二條** 陸地測量部ニ於テ宅地ニアラサル民有地ニ測量標ヲ設置スル爲メ敷地ヲ要スルトキハ所有者之ヲ拒ムコトヲ得ヌ又官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地ニ在テハ所管廳ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第三條** 官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種ノ土地及ヒ民有宅地内ト雖モ已ムヲ得サル場合ニ於テハ測旗假杭ニ限リ前項ニ準シテ之ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條** 民有地ニ測量標ヲ設置スルトキハ其敷地ヲ買上クヘシ但所有者ニ於テ其土地ヲ寄附シ又ハ借地料ヲ要セス永遠貸地トナサンコトヲ望ムトキハ格別トス
- 第五條** 民有地ニ測量標及ヒ假杭ヲ設置シタルトキハ宅地ニ在テハ相當ノ借地料ヲ給シ田畑鹽田鑛泉地ニ在テハ一箇年一坪ニ付金三錢其他ニ在テハ同金一錢ノ割ヲ以テ借地料ヲ給ス但所有者ニ於テ其土地ヲ寄附シ又ハ借地料ヲ要セス貸地トナサンコトヲ望ムトキハ格別トス
- 第六條** 測量主任官測量ノ爲メ官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種ノ土地及ヒ民有宅地内若クハ牆垣籬柵内ニ立入ラントスルトキハ先ツ其所管廳又ハ所有者ニ通知スヘシ但官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地並宅地ニアラサル民有地及ヒ所有者又ハ管理人ノ所在遠隔スル田畑等ノ垣柵内ニ在テハ直ニ立入ルコトヲ得此場合ニ於テハ主任官タルノ證券ヲ携帶スヘシ
- 第七條** 官有地第三種第一項ノ土地及ヒ宅地ニアラサル民有地内ニ於テ測量施行ノ爲メ障礙トナル竹木ハ已ムヲ得サルモノニ限リ之ヲ伐除シ又樹上ニ測量標ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ補償ヲナスヘシ
- 第八條** 測量施行ノ爲メ牆垣籬柵等又ハ植物ヲ毀損シタルトキハ相當ノ補償ヲナスヘシ
- 第九條** 第三條ノ敷地買上料第四條ノ宅地借地料及ヒ第六條第七條ノ補償金額ニ付所有者ト協議調ハサルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ評定セシム
- 市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第十條** 測量標ノ基準點トシテ官民共ニ使用スルコトヲ得
- 第十一條** 標石ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十二條** 測量標及ヒ假杭ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十三條** 過誤ニ由リ測量標ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲テ敷地ノ繫キ繩索ノ類ヲ懸ケ或ハ貼紙シ或ハ戲書シ其他惡戯ヲ爲シタル者ハ五錢以上一圓十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第十四條** 本條例施行ノ細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム
- 第十五條** 本條例中市町村制ノ實施ニ至ラサル地方ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區長ヲシテ之ヲ行ハシム

●陸地測量標條例施行細則

- 陸軍省令第十七號(明治二十八年八月十五日)
- 第一條** 陸地測量ハ三角測量、水準測量及地形測量ノ三トス
- 第二條** 陸地測量部ハ各測量ヲ施行セントスルトキ豫メ之ヲ所轄ノ道廳府縣廳ニ通知シ該廳府縣廳ハ之ヲ其地區ニ告示スヘシ
- 第三條** 陸地測量部ハ地形測量ノ完成シタルトキハ之ヲ所轄道廳府縣廳ニ通知スヘシ
- 第四條** 陸地測量部ハ道廳府縣廳若クハ島司郡市町村長ニ照會シ測量上必

(長野警)

要ノ調査ヲ求ムルコトヲ得

但事宜ニ依リ出張測量官ヲシテ直ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 本條例第五條ニ依リ測量主任官ノ携帶スル證券左ノ如シ

表	第何號
裏	陸地測量部「何科」「何」
面	官 氏 名

第六條 測量標石及海岸水準點測量標ハ永遠ニ保存スヘキモノニシテ其種類左ノ如シ

- 一等三角點標石 (第一圖)
- 二等或ハ三等三角點標石 (第二圖)
- 水準點標石 (第三圖) (市街内ニ在リテハ第三圖附圖ニ依ル)
- 海岸水準點測量標 (地形ニ應ジ建設スルヲ以テ其形狀一定セス)

第七條 測量標(海岸水準點測量標ノ除ク)標石ハ地形測量ヲ終ル迄假杭ハ三角點測量標以ハ水準點標石ヲ設置スル迄保存スヘキモノニシテ其種類左ノ如シ

- 三角點測量標 (第四第五第六第七第八第九圖)
- 四等三角點假杭 (第十圖)
- 三角點或ハ一等水準點假杭 (第十一圖)
- 二等水準點假杭 (第十二圖)
- 地形測量點測量標 (第九圖)
- 地形測量點假杭 (第十三圖)

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

地形水準點測量標

(第十四圖)

(長野警)

第八條 測量主任官測量標ヲ建設セントスルトキ皇宮附屬地ニ在テハ該地所屬ノ區別ニ依リ豫メ帝室林野管理局、同支局、同事務所又ハ同出張所ニ通知スヘシ

但事業ノ急務ヲ要シ其ノ地所所管廳ト遠隔セルトキハ建設ノ後之ヲ通知スルコトヲ得

官有地第一種第二項神地伊勢神宮並ニ在テハ其神社及所管廳ト協議シ官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種ノ土地及民有社寺地同宅地ニ在テハ測旗假杭建設ノ外ハ其所管廳又ハ所有者ニ協議スヘシ

第九條 測量主任官ハ測量標ノ地形測量ニ應ジ建設セルトキ其種類位置及敷地ノ坪數等ノ記載シタル書類ヲ市長又ハ町村長ニ交付シ該敷地ニ係ル調査ヲ求ムヘシ此場合ニ於テ市町村長ハ其位置ノ國郡(市)町(村)字地目番地及官有ニ在テハ所轄廳名民有ニ在テハ所有者ノ住所氏名並ニ本條例第三條及第四條ノ規定ニ關シ敷地所有者ノ志望等ヲ調査シ取調書(第一號書式)或ハ建標請書(第三號書式)又ハ寄附願書(第四號書式)ヲ徵シ別ニ其謄本一通ヲ添ヘ二週間内ニ測量主任官ニ送致スヘシ

第十條 測量主任官ハ前條ノ謄本ヲ添ヘ官有地ニ係ルモノハ其所轄廳ニ民有地ニ係ルモノハ該地所轄ノ道廳府縣廳ニ通知スヘシ

陸地測量部ハ民有地ニシテ測量標ノ買上ニ係ルモノニ在リテハ買賣契約書、寄附ニ係ルモノニ在リテハ明細書、借上ニ係ルモノニ在リテハ貸借契約書ヲ調製シ道廳府縣廳ニ送付スヘシ

第十一條 道廳府縣廳ハ敷地ノ所有者ヲシテ前條契約書ニ記名調印セシメ寄附又ハ買上ニ係ルモノニ在リテハ地所ノ權利ニ關スル登記簿及所有權移轉登記簿ヲ徵シ之ヲ陸地測量部ニ送付シ陸地測量部ハ寄附又ハ買上ニ係ルモノノ所有權移轉登記簿ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十二條 陸地測量部ニ於テ測量標ヲ建設シタルトキハ該諸標及敷地ノ

明細書ヲ調製シ道廳府縣廳ニ在テニ通知シ其保管ヲ求ムヘシ
道廳府縣廳ニ在テハ適宜保管ノ方法ヲ設ケ各地方警察署長
分署長又ハ市町村長ヲシテ測量諸標及同敷地ヲ監守セシメ若シ亡失毀損
其他異狀アルトキハ事由ヲ附シ之ヲ届出シメ其旨陸地測量部ニ通知スヘ
シ

陸地測量部ハ測量諸標ヲ移轉若クハ撤去シタルトキハ道廳府縣廳下ニ在
テハ別ニ通知シ官有地ニ係ルモノハ猶其所轄廳ニ通知スヘシ

第十三條 陸地測量部ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其必要ニ應ジテ
修理又ハ改設ヲ執行シ更ニ道廳府縣廳東京府下ニ在ニ通報スヘシ

第十四條 標石敷地ハ一方一坪ニシテ標石ヲ以テ其中心ヲ領セシム
但地坪ハ地形ニ應ジ本條ニ依リ難キトキハ格別トス

第十五條 規標、標杭、假杭ノ敷地ハ地形ト建標ノ種類ニ依リ異同アルヲ
以テ豫メ一定セス

第十六條 標石敷地内ニ土砂塵埃其他雜物等ヲ堆積スルヲ許サス

第十七條 敷地買上代ハ其都度之ヲ支拂ヒ借地料ハ會計年度末ニ於テ之ヲ
支拂フヘシ

但借地料ハ其土地使用ノ當日ヨリ起算シ其一箇年ニ滿タサルモノハ月
割ヲ以テ支拂フヘシ

第十八條 敷地買上代ハ本人ヨリ地方廳ニ請求書(第五號書式)ヲ差出シ該
廳ハ審査ノ上之ヲ陸地測量部ニ回付スヘシ

敷地借地料ハ本人ヨリ請求手續ヲ爲スニ要セス陸地測量部ヨリ送金ス

第十九條 官有ニ係ル竹木ヲ伐除シ又ハ樹上ニ規標ヲ設置シタルトキハ測
量主任官ハ其明細書ヲ作り所轄廳ニ報告シ所轄廳補償ノ要スルトキハ相
當ノ額ヲ定メ陸地測量部ニ請求スヘシ

第二十條 市町村又ハ人民ニ對スル補償金ノ支拂ハ出張測量官ニ於テ之ヲ
取扱フモノトス

第二十一條 本條例第六條掲記外ノ土地ニ在テハ已ムヲ得サルトキト雖モ

其所轄廳或ハ所有者ノ承諾ヲ得ルニ非レハ障碍竹木ヲ伐除シ又ハ樹上ニ
規標ヲ設置スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ前二條ヲ適用ス

第二十二條 陸地測量標ハ陸地測量部ノ認可ヲ得ルニ非レハ使用スルコト
ヲ得ス

前項ノ認可ヲ得ムトスル者ハ豫メ測量標ノ種類、番號、位置並使用ノ日
數及其ノ事由ヲ詳記シ該標所在地ノ道廳府縣廳ヲ經テ陸地測量部ニ届出
シ

第二十三條 標石使用ノ爲メ新ニ要スル標旗標杭其他規標等ハ標石ヲ離ル
、コト二尺以内ノ地ニ建設スルヲ許サス

第二十四條 標石規標標杭ノ周圍ニ於テ之ヲ毀損スルノ虞アルカ又ハ其效
用ヲ妨クヘキ事業ヲ爲サントスルトキハ事由ヲ具シ設計圖ヲ添ヘ其移轉
ヲ道廳府縣廳ニ請求スヘシ

第二十五條 道廳府縣廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ意見ヲ附
シ之ヲ陸地測量部長ニ移牒スヘシ

但移轉ノ爲メニ要スル費用ハ其請求者ノ負擔トス

第二十六條 陸地測量部長前條ノ移牒ヲ受ケ移轉ノ必要ヲ認ムルトキハ其
移轉ニ要スル費用ノ概算額ヲ定メ地方廳ヲ經テ之ヲ請求シ移轉執行ノ上
ハ其決算ヲ爲シ證書書類ヲ附シ該廳ニ送致スヘシ

第二十七條 道廳府縣廳前條ノ費用ヲ請求者ヨリ受取り陸地測量部ニ回
付シ其決算書類ハ之ヲ其請求者ニ送致スヘシ

第二十八條 測旗假杭ノ移轉ヲ要スヘキ事由アルトキハ出張測量主任官ニ
請求シテ其承諾ヲ經ヘシ

但測量官ノ出張シアラサルトキハ第二十四條、第二十五條ニ準スヘシ

第二十九條 測量標敷地所在ノ町村名其他ニ關シ異動ヲ生シタルトキハ道
廳府縣廳ヨリ陸地測量部ニ通知スヘシ

第三十條 本則第十六條、第二十二條乃至第二十四條ヲ犯シタル者ハ十一
日以上二十五日以下ノ拘留又ハ二十五圓以下ノ罰金若ハ二圓以上ノ科料

ニ處ス

附則

第三十一條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本則中市町村長ノ爲ス
ヘキ事務ハ區戸長若クハ之ニ準スル吏員ニ於テ之ヲ行フヘシ

第三十二條 本則ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス
(書式圖省略)

測量標保管ニ關スル件

陸軍省訓令甲第一號(明治三十五年二月十四日)

東京府 廳府縣

陸地測量部ニ於テ施行スル陸地測量ノ爲メ各地點ニ建設スル測量標保管ノ
儀ハ明治二十八年陸軍省令第十七號陸地測量標條例施行細則第十二條ニ規
定セル所ナリ然ルニ近來該標ノ保管確實ナラサル所往往有之爲メニ測量作
業ノ進歩ヲ妨クルコト尠ナラス依テ將來特ニ注意ヲ加ヘ測量標條例並同
施行細則ヲ嚴守シ測量標保管ノ確實ヲ勉ムヘシ

長野縣訓令第十九號(明治三十五年二月二十一日)

郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場

陸地測量部ニ於テ施行スル陸地測量ノ爲メ各地點ニ建設スル測量標保管ノ
儀ハ明治二十八年陸軍省令第十七號陸地測量標條例施行細則第十二條ニ規
定セル所ナリ然ルニ近來該標ノ保管確實ナラサル所往往有之爲メニ測量作
業ノ進歩ヲ妨クルコト尠ナラス依テ將來特ニ注意ヲ加ヘ測量標條例並同
施行細則ヲ嚴守シ測量標保管ノ確實ヲ勉ムヘシ

長野縣訓令第六十號(明治三十六年六月二十六日)

郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場

陸地測量部ニ於テ施行スル陸地測量ノ爲メ各地點ニ建設スル測量標保管ノ
儀ハ明治二十八年陸軍省令第十七號陸地測量標條例施行細則第十二條ニ規
定セル所ナリ然ルニ近來該標ノ保管確實ナラサル所往往有之爲メニ測量作
業ノ進歩ヲ妨クルコト尠ナラス依テ將來特ニ注意ヲ加ヘ測量標條例並同
施行細則ヲ嚴守シ測量標保管ノ確實ヲ勉ムヘシ

陸地測量標及同敷地保管方法

長野縣訓令第六十號(明治三十六年六月二十六日)

郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場

明治二十八年陸軍省令第十七號陸地測量標條例施行細則第十二條第二項
ニ依リ陸地測量標及同敷地保管方法左ノ通り相定ム

第二編 保安 第十二章 森林、河川、砂防、測量標

第一條 陸地測量諸標ノ建設、移轉、撤去ヲ爲シタルトキハ當廳ヨリ之ヲ
郡市役所、警察署、同分署ニ通知ス

第二條 前條ノ通知ヲ受ケタルトキ郡市役所ハ之ヲ町村役場ニ通知スヘシ

第三條 郡市役所、警察署、同分署、町村役場ハ別記様式ニ依リ陸地測量
諸標ノ臺帳ヲ備ヘ其所轄内ニ屬スル測量諸標ヲ記載シ建設、移轉、撤去
其他ノ異動アリタルトキ加除訂正スヘシ

第四條 陸地測量諸標及同敷地ハ警察署長、同分署長、及市町村長監守ノ
責ニ任シ若シ陸地測量標條例第十條乃至第十三條及同條例施行細則第十
六條第二十二條第二十三條第二十五條ノ違犯者ノ爲メ又ハ天災地變等ノ
爲メ亡失毀損其他異狀アリタルトキハ事由ヲ詳記シ最初ニ認知シタル
警察署長、同分署長又ハ市町村長ノ一方ヨリ速ニ當廳ニ報告スヘシ
但シ本報告ヲ發スルト同時ニ其旨ヲ他ノ一方ニ通知スヘシ

第五條 前條ノ報告及通知書ニハ左ノ各項ヲ具スルヲ要ス

一 建設所在地

何郡(市)何町(村)大字何字何番何(地目)ト記載ヲ要ス

二 點ノ等級番號

何等三角(水準)點第何號或ハ何々

三 測量標ノ種類

標石、規標、標杭、假杭、等亡失毀損モシモ、種類明記ヲ要ス

標石、規標ノ建設アル測點ニシテ規標ノミ毀損亡失シタルトキハ
標石ニハ異狀ヲキ旨ヲ附記スヘシ

四 亡失毀損其他ノ異狀若クハ障害等ノ事由及狀況

天災地變又ハ人爲ニ依リ亡失毀損其ノ異狀障害等ノ事由ヲ詳記シ併
セテ狀況(亡失シテ形跡ヲ止メヌ又ハ全部顛倒或ハ何々ノ部分毀損
スル等其狀況ヲ明記シ標石ニ異狀アルトキハ略圖添付)ヲ詳記スヘ
シ

第六條 警察署長、同分署長ハ巡邏ノ際ハ勿論其他隨時ニ又市町村長ハ其

市町村吏員ヲシテ平素巡同等ノ節ハ勿論其他時々陸地測量諸標及同敷地ヲ視察セシメ毀損亡失其他異狀ノ有無ヲ檢スヘシ

第七條 警察署長、同分署長ニ於テ陸地測量標ニ關スル犯罪者ヲ檢舉シ又ハ市町村長ニ於テ其犯罪者ヲ告發シタルトキハ其要領ヲ當廳ニ報告スヘシ其事件結局シタルトキ亦同シ

第八條 陸地測量諸標敷地ノ字地番地目及所有者等ニ異動アリタルトキハ市町村長ヨリ之ヲ當廳ニ報告スヘシ

(陸地測量諸標臺帳様式略ス)

管内陸地測量標設置箇所ニ關スル件

長野縣訓令第八十七號(明治三十六年九月七日)

郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場

本縣管内建設ノ陸地測量標現在ノ分別冊明細書ノ通りニ候條本年六月訓令第六十號ニ依リ該標保管ノ確實ヲ期スヘシ

(別冊略ス)

陸地測量標設置ノ趣旨及其保管方ニ付希望スル點

陸地測量部ニ於テ施行スル所ノ測量事業ハ單ニ陸軍部内専用ノ爲メニ非スシテ國家一般ノ用ニ供スルモノナリ其結果ヲ表スル標石ハ陸地測量標條例第九條及ヒ同施行細則第二十二條ニ明示セル如ク官民共ニ之ヲ使用シ以テ諸測量ノ基準ト爲シ得ルモノニシテ其標石ノ中心ニハ地球上ノ位置即チ經度及緯度並ニ海面上ノ高程方位角等ヲ精密ニ指示セリ夫レ標石ハ如此重要ナル性能ヲ備フルヲ以テ將來毫厘ノ變異ナク永久ニ保存セサル可ラサルハ論ヲ俟タサル所ナリ抑斯測量事業ハ多額ノ費用ヲ時日ヲ要スルモノニシテ今一點ノ標石位置ヲ定ムル爲メニ要スル(明治三十年)平均ノ經費及日數ヲ示セハ左ノ如シ

一等三角點 一點ニ要スル經費 五百二十四圓餘 日數三十六日餘

水準點諸標ノ部

等級	番號	郡市町村大字	字	地目	敷地坪數	建設敷地所有者
		俗稱	地番	標石	標杭	年月日或ハ所管廳

水路測量標條例

法律第三十八號(明治二十三年五月二十七日)

第一條 本條例中測量標ト稱スルモノハ基點標測標トス

第二條 水路測量官ニ於テ民有地ニ測量標ヲ設置スル爲メ敷地ヲ要スルトキハ所有者ト協議ノ上之ヲ使用スヘシ又官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地ニ在テハ所管廳ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第三條 水路測量官測量ノ爲メ官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種及ヒ民有宅地内若クハ牆垣籬柵内ニ立入ラントスルトキハ先ツ其所管廳又ハ所有者ニ通知スヘシ但官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地並宅地ニアラサル民有地及ヒ所有者又ハ管理人ノ所在遠隔スル田畑等ノ垣柵内ニ在テハ直ニ立入ルコトヲ得此場合ニ於テハ測量官タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第四條 測量施行ノ爲メ障礙トナル竹木ヲ已ムヲ得ス伐除シ又牆垣籬柵植

物等ヲ毀損シタルトキハ所有者ト協議シ相當ノ補償ヲナスヘシ

第五條 基點標ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 測標ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 過誤ニ由リ測量標ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲テ毀壞シ

標石繩索ノ類ヲ懸ケ或ハ貼紙シ或ハ戲書シ其他惡戯ヲ爲シタル者ハ五圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

二等三角點 同 七十九圓餘 同 十日餘
 三等三角點 同 三十四圓餘 同 五日餘
 一等水準點 同 十八圓餘 同 四日餘

若シ標石ノ毀損或ハ移動ニ依リ其效用ヲ失セシ際之ヲ復舊セントスルトキハ少クモ之ニ關スル周圍ノ四點乃至六點ヨリ改測セサルヘカラス而シテ其費用ハ右ニ示ス所ノ三倍以上ヲ要スルヲ常トス

測量標ノ異狀ヲ呈スルハ天災ニ由ルモノ、外多クハ無知ノ人民或ハ兒童ノ惡戯ニ出ツルモノ、如シ是レ其測量標ノ何モノタルヲ了解セサルニ起因スルモノナルヲ以テ一般人民ニ前述ノ次第ヲ懇篤ニ了解セシムルノ手段ヲ採リ又各小學校ニ於テ生徒課業ノ餘暇陸地測量標ノ貴重ナルコト並ニ陸地測量標條例及同施行細則ニ規定セラレタル罰則ノコトヲ教示シ以テ人爲ニ因ル測量標ノ毀損變狀ヲ事前ニ豫防シ且ツ該標監守ノ責任アル警察官及市町村長ハ明治三十六年本縣訓令第六十號陸地測量標及同敷地保管方法第六條ニヨリ時々之ヲ巡視シ其異狀ノ有無ヲ點檢シ以テ之レカ保管ヲ確實ニセンコトヲ望ム

陸地測量標異狀報告ニ關スル件

警發第四五七號(明治四十一年十一月九日)

警察署 警察分署

明治三十六年訓令第六十號ニ據リ陸地測量標及敷石ノ異狀ヲ發見シ之カ報告ヲ爲ス場合ニハ當該市町村長ニ報告濟ノ旨附記スヘキ義ト心得ヘシ

三角點諸標ノ部

等級	番號	郡市町村大字	字	地目	敷地坪數	建設敷地所有者
		俗稱	地番	標石	標杭	年月日或ハ所管廳

測量標毀棄汚損處分

長野縣令第三十八號(明治二十七年十月一日)

當廳ニ於テ設置シタル測量標ヲ毀棄汚損スヘカラス違フ者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

水準點標石取締方ノ件

警發第二八九號(明治三十年六月九日)

警察署長 警察分署長

陸地測量部ニ於テ縣下各地ヘ建設セラレタル水準點標石ノ儀去ル明治二十五年三月警察公報第六十一號ニ登載シタル外其後測量部ヨリ通知ニ係ルモノ左記ノ通りニ候條陸地測量標條例施行細則(明治二十八年八月)第十條第二項ニヨリ保管取締ヲ爲シ亡失毀損其他異狀アルトキハ事由ヲ附シ速カニ上申スヘシ(左記ハ三十年六月警察公報第三百六十三號ニ登載シアリ茲ニ略ス)

第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

電氣事業法

法律第五十五號(明治四十四年三月三十日)

第一條 本法ニ於テ電氣事業ト稱スルモノハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一 一般ノ需用ニ應ジ電氣ヲ供給スル事業

二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ノ動力ニ電氣ヲ使用スル事業

第三條 本法ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲メ敷設スル水路、貯水池、器具機械、電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳送ニ用キル電氣導體及之ヲ支持シ又ハ保護スル工作物ヲ謂フ

第三條 電氣事業ヲ營ムトスル者ハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

外主務大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

第四條 電氣事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ工事ニ著手シ又ハ電氣工作物ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條

電氣事業者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スヘシ

第六條

電氣事業者指定ノ期間内ニ事業ヲ開始セサルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條

主務大臣ハ公益上必要ナリト認メタルトキハ電氣事業者ニ對シ料金ノ制限其ノ他電氣供給ノ條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第八條

電氣事業者ハ電氣工作物ノ修理又ハ巡視ノ爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ工作物ヲ施設セル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得

第九條

電氣事業者ハ河川、橋梁、溝渠、道路、堤防其ノ他公共ノ用ニ供

第十條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十二條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十三條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十四條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十五條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十六條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十七條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十八條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十九條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第二十條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

セラレタル土地ノ地上又ハ地中ニ電線路ヲ施設スル必要アルトキハ其ノ效用ヲ妨ケサルニ限度ニ於テ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十條

電氣事業者ハ必要アルトキハ現在ノ使用方法ヲ妨ケサル限度ニ於テ他人ノ地上ノ空間若ハ地中ニ電線路ヲ施設シ又ハ建造物ノ存在セサル

第十一條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十二條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十三條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十四條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十五條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十六條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十七條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十八條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十九條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第二十條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

電氣事業法施行規則(抄録)

逕信省令第二十五號(明治四十四年九月五日)

第二十七條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第二十八條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第二十九條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十一條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十二條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十三條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十四條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十五條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十六條

電氣事業者ハ必要アルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

電氣事業者ハ第一項ニ依リ携帶スヘキ證票ノ見本ヲ作業ノ日ヨリ少クトモ二日前ニ作業地所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第四十五條 電氣事業者ハ火藥其ノ他爆發性ノ物質ヲ製造又ハ藏置スル場所ニ電氣工作物ヲ施設シタルトキハ遲滞ナク工事方法ヲ具シ工作物施設地ヲ管轄スル通信局長ニ届出ツヘシ

第四十九條ノ二 通信大臣ハ左ノ場合ニ於テ検査吏員ヲ派遣シ電氣工作物ヲ臨時検査セシム
一 天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ電氣工作物ニ著シキ障害アリト認めタルトキ

二 電氣工作物カ他ノ工作物ニ著シキ障害ヲ及ホシタリト認めタルトキ
三 電氣工作物ノ變更ニ因ラスシテ發電所出力増加ノ認可申請アリタルトキ

第五十條 電氣供給事業者ハ需用者ニ對シ正當ノ理由ナクシテ電氣ノ供給ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第五十一條 電氣事業者ハ供給點ニ於テ保持スヘキ一定電壓又ハ一定電流ヲシテ百分ノ四以上ノ變動ヲ起サシメサルコトヲ要ス且電燈供給ノ場合ニ在リテハ技術上已ムヲ得サルモノヲ除クノ外光力ニ不定ヲ生セシメサルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テ通信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 電燈ノ光力ヲ表示スルニハ燭光ヲ以テ單位トス
一 燭光ハ氣壓七百六十「ミリメートル」ノ時一立方「メートル」ニ付八「リットル」ノ水蒸氣ヲ含有スル空氣中ニ於テ燃焼スル「ハロコート」氏十燭光「ペンテン」燈ノ光力ノ十分ノ一トス

第五十三條 光力ヲ以テ契約スル電燈供給ニ使用スル白熱電燈球ニハ燭光及電壓ヲ指示スヘシ
前項ノ指示燭光數ハ平均水平燭光ヲ以テ表示シ其ノ誤差ハ百分ノ十ヲ超

第六十五條 電氣事業者ハ別ニ定ムル所ニ依リ電氣工作物ノ故障及其ノ運轉使用ニ關スル事故ノ届出ヲ爲スヘシ

第六十八條 通信大臣ハ吏員ヲ派遣シ電氣工作物若ハ其ノ工事中ノ狀況又ハ事業經營ノ實況ヲ調査セシムルコトアルヘシ
通信大臣ハ必要ト認めタルトキハ電氣事業者ニ命ジ現ニ使用シ若ハ使用セムトスル機械器具其ノ他物品ノ見本ヲ差出サシメ其ノ試験ヲ爲スコトアルヘシ

見本ノ運搬ニ要スル費用並試験ニ因テ生スル損害ハ電氣事業者ノ負擔トス

第六十九條 通信大臣ハ既設若ハ工事中ノ電氣工作物カ他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ナリト認めタルトキハ改修、撤去若ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第七十條 通信大臣ハ公益上必要ト認めタルトキハ電氣事業者ニ對シ事業經營上必要ナル設備ノ變更又ハ増設ヲ命スルコトアルヘシ

第七十條ノ二 地方長官(東京府ニ在リ)ハ公益上必要ト認めタルトキハ電氣事業者ノ實況ヲ調査シ且危險急迫ノ場合ニ在リテハ電氣事業者ニ對シ保安上必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

第七十一條 電氣供給事業者カ供給區域内ノ一部分ニ於ケル事業ヲ開始シタル後久シキニ互リ其ノ殘餘部分ニ對シ正當ノ理由ナクシテ電線路其ノ他供給上必要ナル設備ヲ爲ササルトキハ通信大臣ハ許可ノ一部ヲ取消スルコトアルヘシ

第七十二條 道路又ハ他人ノ土地ニ施設シタル電線路ニシテ其ノ使用ヲ廢止シタルモノハ電氣事業者之ヲ撤去スヘシ

需用場所ニ施設シタル電氣工作物ニシテ電氣事業者ニ屬スルモノハ需用者ヨリ撤去ノ請求アリタルトキ亦前項ニ同シ

電氣事業者電氣工作物ヲ施設シタル後久シキニ互リ之カ使用ヲ爲ササルトキハ通信大臣ハ其ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽機

過セサルコトヲ要ス

第五十四條 電氣事業者カ白熱電燈球ヲ提供シテ電燈ヲ供給スル場合ニ於テ其ノ光力取附後ノ使用ニ依リ指示電壓ニ於テ指示燭光數ノ百分ノ八十以下ニ減少シ且需用者ノ請求アルトキハ電氣事業者ハ新ナル電燈球ト取換ヲ爲スヘシ

第五十五條 電氣供給事業者ハ別ニ定ムル所ニ依リ電氣供給規程ノ届出ヲ爲スヘシ

第五十六條 電路ハ常ニ之ヲ検査シ安全ト認めタルニ非サレハ之ニ送電スルコトヲ得ス

第五十七條 電氣供給事業者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ全部又ハ一部ノ事業ヲ休止スルコトヲ得ス

第五十八條 修繕其ノ他ノ原因ニ因リ送電ヲ中止スルトキハ急遽ノ場合ヲ除クノ外其ノ旨ヲ關係需用者ニ豫告スヘシ

第五十九條 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ於テ保安上必要アリト認めタルトキハ電氣事業者ニ對シ電線路ノ要所ニ技術員ノ散宿所ヲ設置セシメ當時其ノ在勤ヲ命スルコトアルヘシ

第六十條 電氣事業者ハ保險係員ヲシテ常時電線路ヲ巡視セシムヘシ
前項ノ散宿所ニハ公衆ノ踏易キ所ニ其ノ標札ヲ掲クヘシ

第六十一條 電氣事業者ハ送電中出火、暴風其ノ他非常ノ場合ニ際シ危險ナリト認めタル區域内ノ架空電線ニ對シ速ニ其ノ送電ヲ遮斷スヘシ
前項ニ依リ送電ヲ中止シタル區域内電路ノ各要所ニ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第六十二條 電氣事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術員ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ技術員ハ警察官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術員ニハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帶セシムヘシ
第六十三條 前二條ニ依リ使用スヘキ標旗及標燈ノ様式ハ別ニ之ヲ告示ス

第七十三條 本令ニ基キテ爲シタル成分ニ違反シ又ハ故ナク検査若ハ監査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十四條 本令ノ規定ニ依ル届出又ハ通知ヲ怠リタル者ハ科料ニ處ス

第七十五條 第二十八條ノ規定ニ依リ證書及許可書ノ謄本ヲ携帶セム又ハ證書ヲ呈示セシメタル土地又ハ建造物ニ立入り又ハ植物ヲ伐除若ハ移植シタル者ハ科料ニ處ス

管理者ヨリ請求ヲ受ケタルニ拘ラス許可書ノ謄本ヲ呈示セサル者亦同シ

通信省令第八十五號(大正八年十月十三日)

第一條 電氣工作物ノ施設及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スルニ必要ナル施設ハ州段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル
一 發電所トハ發電機、原動機其ノ他機械器具ヲ設備シ電氣ヲ發生スル所ヲ謂フ

二 變電所トハ發電所、蓄電所又ハ他ノ變電所ヨリ送電セラル、電氣ヲ更ニ構外ニ送電又ハ配電スル爲構内ニ設備セル機械器具ニヨリ變成スル所ヲ謂フ

三 蓄電所トハ發電所、變電所以外ノ場所ニ於テ蓄電池其ノ他ノ機械器具ヲ設備シ電氣ヲ充電及放電スル所ヲ謂フ

四 開閉所トハ發電所、變電所以外ノ場所ニ於テ送電又ハ配電ノ爲構内ノ設備ニ依リ電路ヲ開閉スル所ヲ謂フ

五 電線トハ強電流電氣傳送ニ用フル電氣導體ヲ謂フ

六 電路トハ發電機其ノ他ノ機械、器具、電線、大地等ニシテ強電流電氣ノ通スル一全路ヲ謂フ

七 電線路トハ電線及之ヲ支持シ又ハ保護スル工作物ヲ謂フ

電氣工作物規程 (抄録)

四二三

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

- 八 電線路トハ發電所、變電所又ハ蓄電所相互間ヲ連絡スル電線路ヲ謂フ
- 九 電線路トハ發電所、變電所又ハ蓄電所ヨリ他ノ發電所、變電所又ハ蓄電所ヲ通過セス需用場所ニ至ル電線路ニシテ引込線以外ノモノヲ謂フ
- 十 饋電線 トハ發電所、變電所又ハ蓄電所ヨリ他ノ發電所、變電所又ハ電線路ヲ通過セスシテ電線路ニ至ル電線路ヲ謂フ
- 十一 電車線路トハ電車線及之ヲ支持シ又ハ保護スル工作物ヲ謂フ
- 十二 架空引込線トハ配電幹線ヨリ分岐シ需用場所ノ構外ニ於ケル支持物ヲ經過セスシテ需用場所ニ至ル架空電線ヲ謂フ
- 十三 地中引込線トハ配電幹線ヨリ分岐シテ直接需用場所ニ至ル地中電線ヲ謂フ
- 十四 弱電流電線トハ電信線電話線電氣信號線其ノ他弱電流電氣ヲ使用スル電氣導體ヲ謂フ
- 十五 電壓トハ電線相互間又ハ電線ト大地トノ間ニ於ケル電位ノ差ヲ謂フ
- 十六 低壓トハ直流ニ在リテハ六百「ヴォルト」、交流ニ在リテハ三百「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ
- 十七 高壓トハ低壓ノ限度ヲ超過シ三千五百「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ
- 十八 特別高壓トハ高壓ノ限度ヲ超過セル電壓ヲ謂フ
- 十九 地中管路トハ地中ニ施設セル電線路、弱電流電線及之ヲ保護スル管、瓦斯管、水道管、下水管、空氣管並之ニ附屬スル地中管及接続管等ヲ謂フ
- 第二十條 市街地ノ道路ニハ電車線路ヲ除クノ外二箇以上ノ架空電線路ヲ建設ヘルコトヲ得ス但シ土地ノ狀況ニ依リ通信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
- 第二十二條 市街地ニ於テ道路ニ沿ヒ道路以外ニ電線路(電車線路ヲ除ク)

- ヲ建設セムトスルトキハ特ニ通信大臣ノ認可ヲ得タル場合ヲ除クノ外道路ヨリ水平距離八尺以内ニ接近セシムルコトヲ得ス
- 第二十三條 市街地ノ道路ニ建設スル架空電線路ハ架空弱電流電線路トノ交叉點ヲ最小ニシテ且左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス但シ工地上又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル場所ニ限リ所轄通信局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得(細第二十三條)
- 一 道路ノ兩側ニ跨ラスシテ其ノ一側ニノミ架設スルコト但シ交通ニ支障ナキ様施設セル水平支線ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 道路ノ一側ニ壓空弱電流電線路アルトキハ他ノ一側ニ架設スルコト
- 三 一電線路ノ幅員合算ニハ支柱、支線ヲハ九尺ヲ超過セシメサルコト
- 四 電柱ハ八十度以下ニ傾斜セシメサルコト
- 本條ノ規定ハ電車線路ニ之ヲ適用セス
- 第二十四條 電柱ニハ事業者ノ記號、電柱番號及建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス
- 高壓架空電線ヲ支持スル腕木又ハ碍子ハ適當ナル方法(細第二十四條)ニ依リ其ノ高壓タルヲ表示スルコトヲ要ス
- 第二十五條 電柱ハ他ノ架空電線路又ハ架空弱電流電線路ヲ貫通シテ之ヲ建設スルコトヲ得ス
- 電線ハ添架ノ場合ヲ除クノ外他人ノ電柱ヲ挾ミテ之ノ架渉スルコトヲ得ス
- 第二十六條 架空電線ノ分岐ハ其電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第三十一條 架空電線ノ地表上ノ高サ及造 物トノ間隔ハ電車線ヲ除クノ外左ノ各條ニ依ルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ場合ニハ所轄通信局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
- 一 道路ヲ横斷スル場合ニ於テ 地表上二十尺以上ニシテ市街地以外ニ於テハ交通ニ支障ナキ様施設セ 低壓引込線ニ限リ十六尺以上
- 二 鐵路又ハ軌道ヲ横斷スル場合ニ於テハ軌道面上二十尺以上

- 三 前二號以外ノ場所ニ於テハ地表上十六尺以上
- 四 造管物ノ側面ニ於テハ造管物ト電線トノ距離四尺以上
- 五 造管物ノ上部ニ於テハ造管物ト電線トノ距離六尺以上
- 低壓架空引込線ニシテ工地上已ムヲ得サル場合ハ需用場所ニ於ケル取附點ニ於テ前項第一號及第三號ノ制限ヲ交通ニ支障ナキ限リ其ノ使用電壓ニ從ヒ左ノ高サ迄輕減スルコトヲ得
- 使用電壓
- 交流五百「ヴォルト」未満 取附點 八 尺
- 交流三百「ヴォルト」以上 十二 尺
- 交流百五十「ヴォルト」以上 十二 尺
- 第一項第四號及第五號ノ制限ハ危險ノ虞ナク且工地上已ムヲ得サル場合ニ限リ引込線ト之ヲ直接引込メル造管物ニ付テハ適用セス
- 第三十四條 支持物ヲ異ニスル低壓又ハ高壓架空電線相互間ノ交叉又ハ接近距離ハ三尺以上トス但シ工地上已ムヲ得サル場合ニ於テハ所轄通信局長ノ認可ヲ得テ此ノ距離ヲ一尺五寸迄短縮スルコトヲ得
- 低壓又ハ高壓架空電線ト他ノ電線路ノ電柱、腕木又ハ竹木其ノ他ノ植物トノ間隔ハ一尺以上トス但シ接觸ノ虞ナキ様施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十五條 高壓架空電線ヲ煙突又ハ之ニ類スル工作物ニ接近シテ施設スル場合ニ於テ該工作物ノ地表上ノ高サニ相當スル距離以内ニ接近スルコトキハ左ノ各條ニ依ルコトヲ要ス
- 一 高壓架 電線ト工作物又ハ其ノ支線トハ四尺以上ヲ離隔スルコト
- 二 金屬製煙突、煙突ノ支線ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト
- 第四 三 特 高 電線ヲ支持スル電柱ニハ適當ノ方法(細第三十二條)ニ依リ其ノ特別高壓タルコトヲ表示スルコトヲ要ス
- 電柱ニハ事業者ノ記號、電柱番號及建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス

- 建設物、道路、鐵道、軌道、架空電線路及架空弱電流電線路ト接近セル電柱又ハ其ノ附近ニハ公衆ヲ注意シテ注意シムル爲適當ナル標示(細第三十二條)ヲ爲スコトヲ要ス但シ一萬五千「ヴォルト」以下ノ電線路ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第七十一條 送電ノ連絡ヲ有スル發電所、變電所及蓄電所相互間ニハ電話ヲ施設スルコトヲ要ス
- 左ニ掲クル箇所相互間ニ於テ保安上必要ト認ムルトキハ電話ヲ施設スヘシ
- 一 發電所及其ノ水路
- 二 同一送電系統ニ屬スル發電所、變電所、蓄電所、開閉所及技術員駐在所
- 特別高壓架空電線路ニ依リ電線路ニ在リテハ攜帶電話機ニ依リ通話スル設備ヲ爲シ且電話線ヲ架空電線路ニ添架スル場合ニハ電線路ノ互長約一里毎ニ攜帶電話機接続箇 又ハ電話機設置箇ヲ設クルコトヲ要ス
- 第七十八條 低壓又ハ高壓架空電線ト架空弱電流電線ト並行スル場合ニハ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ササル爲電線相互間ノ距離ヲ左ノ各條ニ依リ離隔スルコトヲ要ス
- 一 電線ト電信線又ハ電氣信號線トノ並行部分ハ六尺以上
- 二 往復線或ハ直流電線ト電線トノ並行部分ハ六尺以上
- 三 電力線、交流電線又ハ單線架設ノ直流式電線 電話線トノ並行部分ハ十二尺以上
- 當該弱電流電線管理若ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ架空引込線、架空連接引込線ニシテ工地上已ムヲ得サルモノニ限リ前項ノ距離ヲ二尺迄ニ短縮スルコトヲ得
- 低壓又ハ高壓架空電線ハ第一項ニ依リ施設スルモ猶既設弱電流電線路(單線式電話線路ヲ除ク)ニシテ誘導其ノ他ノ原 因ニ依リ通信上ノ障害ヲ及ボス虞アルトキハ更ニ適當ナル方法(細第四十四條)ヲ施スコトヲ要ス

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第八十六條 屋内ニ施設スル電線相互間及電線ト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ機械器具及附屬物ヲ合セ漏洩電流ヲシテ劇場ニ於テハ最大供給電流ノ二萬分ノ一其ノ他ノ場所ニ於テハ最大供給電流ノ一萬分ノ一ヲ超過セシメサルコトヲ要ス但シ白熱電燈供給ノ場合ニ在リテハ劇場ニ於テハ一燈ニ對シテ「メグオーム」其ノ他ノ場合ニ於テハ一燈ニ對シテ「メグオーム」以上タルコトヲ要ス

前項ノ絶縁抵抗ハ劇場ニ於テハ毎年四回以上其ノ他ノ場所ニ於テハ毎年一回以上試験シ(劇場、病院、濕氣又ハ塵埃ノ充テ易キ箇所ヲ除クノ外兩線間ノ試験ヲ要セス)其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス

第八十九條 屋内ニ施設スル電線ニハ技術上已ムヲ得サルモノ(細第五十條)ヲ除クノ外裸電線ヲ使用スルコトヲ得ス但シ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ通信大臣ノ認可ヲ得テ本制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十一條 屋内ニ施設スル電線ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

- 一 電線又ハ移動シテ使用スル電線ハ可撻性線タルコト但シ床上六尺以下ニ垂下セサル電線又ハ電線球ヲ移動セサル様施設セル電線ハ七本以上ノ撻線ヨリ成ル「ビー」エス」十八番以上ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ得
- 二 前號以外ノ電線ハ「ビー」エス」十四番ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノタルコト

電燈吊管其他之ニ類スル短小ナル管内ニ藏ムル電線ハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第九十四條 濕氣アル場所、塵埃アル場所、腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所、爆發若ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生製造若ハ貯藏スル場所又ハ劇場ニ施設スル電氣工作物ハ各特殊ノ設計ニ依リ危險ノ虞ナキ様施設スルコトヲ要ス(細第五十九條乃至第六十四條)

第九十五條 火藥ヲ製造スル建物内ニ施設スル電氣工作物ハ通信大臣ノ認可ヲ得タル特殊ノ設計ニ依リ施設スルコトヲ要ス

特殊場所 第五十九條 本則第九十四條ニ於ケル特殊場所ノ用語ハ左ノ例ニ依ル

- 一 濕氣アル場所トハ風呂場、床下、酒醬油等ノ醸造所又ハ貯藏所、料理店ノ庖厨、魚屋八百屋等ノ水ヲ取扱フ土間又ハ洗滌、蕎麥屋、麵屋等ノ釜場ノ如ク水蒸氣ヲ發散スル場所等ヲ謂フ
- 二 塵埃アル場所トハ精米紡績製紙製粉碎礦等ノ工場、織絲綿絲綸「ネル」帆布「モスリン」「セメント」炭灰等ノ製造所等ヲ謂フ
- 三 腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ飛散セル場所トハ酸類亞留加里鹽酸加里漂白粉染料又ハ人造肥料ノ製造所、銅鉛等ノ精鍊所、電氣分銅所、電鍍工場、蓄電池室等ヲ謂フ
- 四 爆發若ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生製造若クハ貯藏スル場所トハ火藥類「セルロイド」燐寸石油酒精糖醇「エーテル」類及引火點攝氏四十度以下ノ物質ヲ發生製造若ハ貯藏スル場所又ハ爆發性瓦斯ノ發生スル炭坑等ヲ謂フ
- 第六十條 濕氣アル場所ニ於ケル電氣工作物ハ左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス
 - 一 開閉器、自動遮斷器、電球承口其ノ他ノ器具ニハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト
 - 二 第四種絶縁電線ヲ使用スルコト
 - 三 電線相互間二寸以上、電線ト造管材トノ間一寸以上ヲ離隔スルコト
- 魚屋八百屋等ノ水ヲ取扱フ土間又ハ洗滌ノ如キ場所ニ施設セル電氣工作物ハ電線ニ本則第九十二條第一號ニ適合スルモノヲ使用スル外前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
- 第六十一條 塵埃アル場所ニ於ケル電氣工作物ハ左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス

第九十九條 架空電車線ト架空弱電流電線ト交叉又ハ接近スル部分ニ於テハ相互ノ電氣的接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲メ電氣鐵道事業者ニ於テ適當ノ施設(細第六十八條)ヲ爲スコトヲ要ス

第一百零二條 電車内ノ電路ト大地トノ間ニ於ケル絶縁抵抗ハ漏洩電流ヲシテ規定電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシメサル様保持スルコトヲ要ス

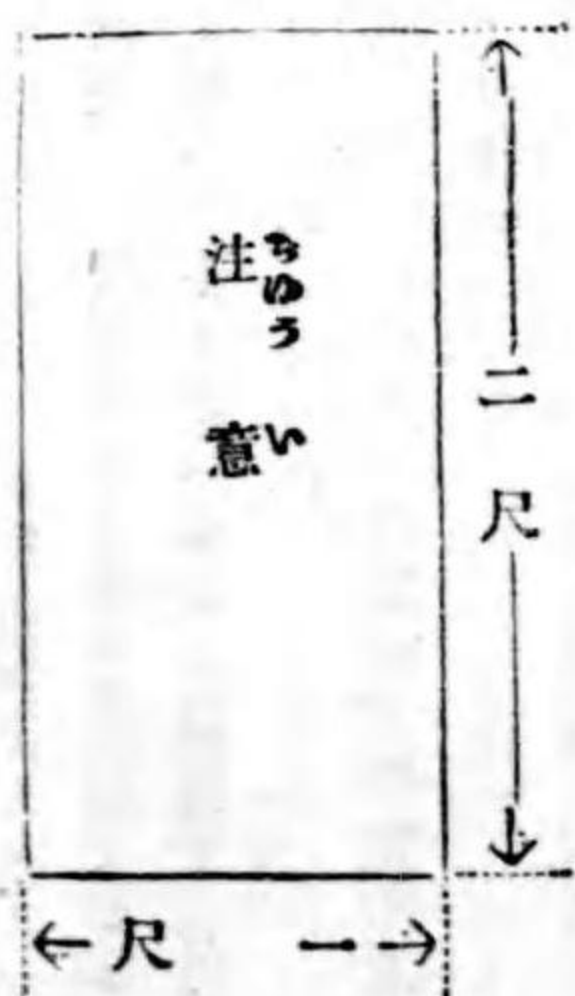
前項ノ絶縁抵抗ハ毎月一回以上最大使用電壓ヲ以テ試験シ成績ヲ記録スルコトヲ要ス

第一百零八條 電車ニハ一箇以上ノ電磁的又ハ之ニ相當スル自動遮斷器ヲ備ヘ且運轉室ニ於テ容易ニ開閉シ得ルノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス但シ貨物用電車ハ此限ニ在ラズ車輛内ニ於テ電流ノ通スル部分ハ操業者ノ外容易ニ人ノ觸ル、虞ナキ様施設スルコトヲ要ス

第一百零九條 電氣鐵道ノ運轉車輛數及其ノ走行哩數ハ毎日之ヲ記録スルコトヲ要ス車輛ノ運轉ニ使用スル電流及電壓ハ發電所、變電所及蓄電所ニ於テ少クトモ三十分間毎ニ之ヲ記録スルコトヲ要ス

第一百零四條 本則第二十四條第二項ノ適當ナル方法トハ腕木又ハ碍子ノ表面全部又ハ碍子ノ頸部以下ヲ赤色ト爲スカ如キ方法ヲ謂フ

本則第四十三條第三項ノ適當ナル揭示トハ左ノ注意札又ハ之ニ類スル標札ヲ謂フ



長野會

長野會

- 一 自動遮斷器ハ外内ニ之ヲ藏ムルコト
- 二 前號ノ外函ハ其ノ内部ニ塵埃ノ侵入セサル様裝置シ且不可燃質物ヲ以テ製作スルカ又ハ不可燃質物ヲ函ノ内面全部ニ貼リタルモノヲ使用スルコト
- 三 紐線吊ハ其ノ内部ニ塵埃ノ侵入セサル様裝置シ且其ノ蓋ハ堅牢ナル絶縁性不可燃質物ヲ使用シ震動ニ因リ弛緩セサル様堅固ニ取附クルコト
- 四 前號ノ方法ニ依ラサル場合ニハ紐線吊ニ可熔片ヲ用ヒ直ニ電線ノ終端ト屋内幹線トヲ電氣的完全ニ接続シ且電路中別ニ電線ヲ保護スル自動遮斷器ヲ設クルコト
- 五 開閉器ハ塵埃ノ侵入セサル様裝置シタル函内ニ藏ムルコト
- 第六十二條 腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所ニ施設スル電氣工作物ハ瓦斯又ハ溶液ノ爲ニ侵サレサル様適當ノ豫防方法ヲ施スコトヲ要ス
- 第六十三條 爆發若ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生製造若ハ貯藏スル場所ニ於ケル電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
 - 一 電線ニハ七本以上ノ撻線ヨリ成ル心線ヲ有スル第四種絶縁電線ヲ使用シ之ヲ鍍裝スルカ又ハ之ヲ堅牢ナル管若ハ管内ニ藏ムルコト但シ電燈吊管其ノ他之ニ類スル短小ナル管内ニ藏ムル電線ニハ撻線ヲ使用セサルコトヲ得
 - 二 電線及電氣機械器具相互ノ接合ハ電氣的完全ナラシメ且震動ノ爲弛緩セサル様堅固ニ取附クルコト

三 電球ニハ氣密ナル外球ヲ裝置シ且堅固ナル外裝ヲ施スコト
四 電動機ノ火花ヲ發スル部分ニハ特ニ保安裝置ヲ施スコト
五 自動遮斷器、開閉器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ溫度上昇ノ虞アル器具ハ之ヲ場内ニ施設セサルコト但シ堅牢ナル氣密函又ハ油液中ニ藏ムル等ノ方法ニ依リ保安裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 劇場内ニ於ケル電氣工作物ハ左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス
一 道具又ハ人ノ觸ルル虞アル場所及舞臺ニ施設スル電線ニハ第四種絶緣電線ヲ使用シ且外物ノ接觸ニ因ル損傷ヲ豫防スル爲適當ノ裝置ヲ施スコト

二 舞臺ニ於テ移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用シ且外物ノ損傷ヲ豫防スル爲皮革若ハ「ブツク」ヲ以テ之ヲ鍍裝スルカ又ハ麻絲若ハ其ノ他ノ強靱ナル物質ヲ以テ更ニ編組シタルモノナルコト

三 舞臺ニ於ケル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト
四 舞臺ニ於ケル屋内幹線ニハ專用ノ開閉器及自動遮斷器ヲ裝置スルコト

五 電球、電線其ノ他ノ機械器具ハ可燃質物ト容易ニ接觸セサル様適當ニ施設スルコト
第六十八條 本則第一百九條ノ適當ノ施設トハ左ノ各號ニ準シ施設スルモノヲ謂フ

一 電車線ト弱電流電線トカ四十五度以下ノ角度ヲ以テ交叉スルカ又ハ水平距離八尺以下ニ於テ並行スルトキハ電車線ノ上部ニ細則第二十六條ニ規定セル保護網ヲ設クルコト但シ水平距離四尺以上垂直距離其ノ一倍半以下ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
二 電車線ト弱電流電線トノ交叉角度カ四十五度以上ナルトキハ電

車線ノ上部ニ細則第二十七條ニ規定セル保護線ヲ設クルコト
三 保護網又ハ保護線ト電車線トノ上下距離及保護網又ハ保護線ト弱電流電線トノ上下距離ヲ二尺以上ト爲スコト但シ保護網ト弱電流電線トノ上下距離ハ該弱電流電線管理者ノ承諾ヲ得テ一尺迄短縮スルコトヲ得

弱電流電線ニ第四種絶緣電線又ハ「ビー、エス」四番ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトキハ前項ノ裝置ヲ省略スルコトヲ得

第六十九條 本則第二十三條第一號ノ特殊ノ施設トハ歸線ノ不絶緣部分ト地中管路トノ間ニ不導體ノ隔離物ヲ設ケ電流ヲシテ地中六尺以上ヲ通過スルニ非サレハ兩者間ヲ流通スルコト能ハサラシムル設備ヲ謂フ

前項ノ不導體ノ隔離物トハ「アスファルト」及砂ヨリ成ル厚サ二寸以上ノ絶緣體ヲ「コンクリート」又ハ其ノ他ノ物質ヲ以テ機械的ニ堅牢ニ保護シ龜裂ヲ生セサル様施設セル如キモノヲ謂フ
第七十條 本則第二百五條ノ適當ナル施設トハ左ニ掲クル如キモノヲ謂フ

一 車馬ノ通行スル踏切ニ敷設セル軌條ハ他ノ部分ニ敷設セル軌條ヨリ電氣的ニ絶緣シ軌條ト大地トノ間ニ電位差ヲ存セシメサル様施設セルモノ

電氣事業法第十七條ニ依リ電氣事業法適用ノ件

勅令第二百三十七號(明治四十四年八月三十日)
重要ナル産業又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲電氣ヲ供給又ハ使用スル事業ニシテ選信大臣ノ認定ヲ受ケタルモノニ關シテハ電氣事業法第三條、第五條及第六條ノ規定ヲ除クノ外同法ヲ準用ス

[長野縣]

選信大臣ニ於テ前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ事業者、事業ノ種類及事業地ヲ公告スヘシ

附則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣事業法適用ニ關スル規則

選信省令第二十三號(大正四年四月一日)

第一條 明治四十四年勅令第二百三十七號ニ依リ電氣事業法ヲ準用スヘキ事業ノ認定ヲ受ケタルモノ者ハ左ノ書類圖面ヲ具シテ申請スヘシ

一 重要ナル産業又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業タルコトノ事由ヲ記載シタル書面
二 事業計畫書電氣事業法施行規則第一條乃至第四條ニ準スル事項ヲ具備スヘシ
三 家用電氣工作物施設規則ニ依リ既ニ電氣工作物施設ノ認可ヲ得タルモノニ在リテハ其ノ旨附記スヘシ

第二條 事業ノ認定公告ハ官報ニ依リ之ヲ爲ス其ノ公告事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

第三條 事業ノ認定ヲ受ケタル後事業計畫書中電氣事業法施行規則第六條第一項各號ノ事項ニ準スル事項ヲ變更セムトキハ關係ノ書類圖面ヲ具シ選信大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

事業計畫書中前項以外ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク選信大臣ニ届出ツヘシ
第四條 第一條及第三條ノ申請及届出ニ關シテハ電氣事業法施行規則第五條ノ規定ヲ準用ス

第五條 事業ノ認定ヲ受ケタル者又ハ其ノ認定ヲ受ケタル者ノ電氣工作物施設ニ關シテハ家用電氣工作物施設規則第三條第二項ニ該當スルモノト雖同條第三項ニ依リ選信大臣ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ但シ認定前既ニ選信局長ノ認可ヲ受ケタルモノハ同規則ニ依リ選信大臣ノ認可ヲ受

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

ケタルモノト看做ス

第六條 事業ノ認定ヲ受ケタル者自家電氣工作物施設規則ニ依リ電氣工作物施設ノ認可ヲ受ケタル後第三條第一項ニ依リ事業計畫書中ノ事項變更ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ申請事項カ家用電氣工作物施設規則第四條ノ計畫書中ノ事項ニ相當スルモノナルトキハ該申請書中ニ其ノ旨ヲ明記シ別ニ同規則ニ依リ認可申請書ヲ提出スルコトヲ要セス

前項ノ申請ニ對シ認可ヲ受ケタルトキハ家用電氣工作物施設規則ニ依リテモ認可ヲ受ケタルモノト看做ス
前各項ノ規定ハ第三條第二項ニ依リ届出ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ事項カ自家電氣工作物施設規則ニ依リ届出ヘキ事項ニ相當スルモノニ關シ之ヲ準用ス

第七條 認定ヲ受ケタル事業ニ關シテハ電氣事業法施行規則第二十三條乃至第三十七條、第五十一條、第五十二條、第七十條、第七十四條、第七十五條及明治四十四年九選信省令第二十九號ノ規定ヲ準用ス

第八條 事業ノ認定ヲ受ケタルモノニシテ其ノ計畫ヲ變更シ選信大臣ニ於テ認定ノ必要ナシト認メタルモノ又ハ指定ノ期間内ニ自家電氣工作物施設規則ニ依リ電氣工作物施設ノ認可ヲ申請セサルモノ其ノ他久シキニ互リ工作物ノ施設ヲ爲ササルモノハ其ノ認定ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ認定取消ハ之ヲ官報ニ公告ス
第九條 本令ノ規定ハ官廳施設電氣事業規則第五條ニ依リ電氣工作物ノ施設ニシテ電氣事業法ヲ準用スヘキ事業ノ認定ヲ受ケタルモノニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十四年九月選信省令第三十號ハ之ヲ廢止ス

官廳施設電氣事業規則

逕信省令第三十六號(明治四十四年十月十六日)

第一條 官廳ニ於テ電氣事業法第一條第一號ノ電氣事業ヲ營ムトスル...

第二條 官廳ニ於テ電氣事業法第一條第二號ノ電氣事業ヲ營ムトスル...

第三條 官廳ニ於テ電氣事業法第一條第三號ノ電氣事業ヲ營ムトスル...

第四條 官廳ニ於テ電氣事業法第一條第四號ノ電氣事業ヲ營ムトスル...

第五條 官廳ニ於テ電氣事業法第一條第五號ノ電氣事業ヲ營ムトスル...

第六條 官廳ニ於テ電氣事業法第一條第六號ノ電氣事業ヲ營ムトスル...

第七條 官廳ニ於テ電氣事業法第一條第七號ノ電氣事業ヲ營ムトスル...

第八條 官廳ニ於テ電氣事業法第一條第八號ノ電氣事業ヲ營ムトスル...

第八條 官廳ニ於テ電氣工作物ノ使用ヲ廢止シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ逕...

官廳施設電氣事業取締規程ノ之ヲ廢止ス

家用電氣工作物施設規則(抄)

逕信省令第三十一號(明治四十四年九月二十八日)

第一條 本令ハ電氣事業法ニ依ルモノヲ除ク外強電流電氣工作物ヲ施設...

第二條 電氣工作物ヲ分チテ左ノ二種トス...

第一種 一 邸宅又ハ一構内ニ施設スル低壓ノ電氣工作物但シ左ニ掲ケル場所ニ...

第二種 第一種以外ノ電氣工作物...

管轄スル逕信局長ニ届出ツヘシ...

更セムトスルトキハ關係書類圖面ヲ具シテ更ニ逕信大臣ノ承認ヲ受ケル...

第四條 前三條ニ依リ承認ヲ得タル工事落成シタルトキハ其ノ電氣工作物...

第五條 官廳ニ於テ第一條又ハ第二條ニ依ル以外ノ強電流電氣工作物ヲ施...

第六條 官廳ニ於テ第一條又ハ第二條ニ依ル以外ノ強電流電氣工作物ヲ施...

第七條 官廳ニ於テ第一條又ハ第二條ニ依ル以外ノ強電流電氣工作物ヲ施...

第八條 官廳ニ於テ第一條又ハ第二條ニ依ル以外ノ強電流電氣工作物ヲ施...

第九條 官廳ニ於テ第一條又ハ第二條ニ依ル以外ノ強電流電氣工作物ヲ施...

第四條 前條ニ依ル届出又ハ申請ニハ左ノ書類及圖面ヲ具備スヘシ...

一 計畫書記載スヘシ...

(イ) 目的、電燈、電熱、電動力、電氣分解其...

(ロ) 使用區域、邸宅、工場其ノ他使用場所ノ名稱及所在地名、専用平面...

(ハ) 發電所、變電所、蓄電所ノ位置...

(ニ) 發電所、變電所、蓄電所相互間ヲ連絡スル電線路及發電所、變電所、...

(ホ) キロワットノ數、最大電壓及原動力ノ種類...

二 工事設計明細書 電氣使用ノ目的ニ從ヒ電氣事業法施行規則...

三 實測平面圖 電氣事業法施行規則第十六條ニ準シ調製スヘシ但シ同一...

四 工事落成期限書 届出ノ場合ニハ添附...

五 水力ヲ原動力ニ使用セムトスルモノニ在リテハ發電水力ノ使用ニ關...

六 他ヨリ供給セラルル電力ヲ使用セムトスルモノニ在リテハ其ノ供給...

第五條 第三條ニ依リ届出ヲ爲シ又ハ認可ヲ得タル後前條計畫書中ノ事項...

〔キロワット〕數ノ二又ハ工事設計明細書中ノ左ニ掲ケル事項ヲ變更セ
 割未滿ノ變更ヲ除ク
 △トストキハ關係書類圖面ヲ具シ第三條ノ規定ニ準シ當該官廳ニ届出
 又ハ認可ヲ申請スヘシ

一 發電所内設備

(イ) 發電機「キロワット」數又ハ「キロヴォルトアンペア」數(二割以上
 及周波數)
 (ロ) 變壓器「一次電壓、二次電壓」
 (ハ) 電動發電機、迴轉變流機及周波數變換機別、電壓、交流、
 及周波數
 (ニ) 保安裝置種類及構造ノ大要

二

(イ) 電氣方式相及最大電壓

(ロ) 架空電線路、地中電線路ノ別及其ノ構造 架空電線路ニ在リテハ電
 柱、鐵柱、鐵塔ノ別、柱間距離三百尺以上ノ箇所ハ電線ノ弛度
 並支持物ノ強サニ關シテ計算及構造、地中電線路ニ在リテハ線條
 數、電線ノ種類、心線ノ種類、數、
 太サ、暗渠、線渠及直接埋設等ノ別

三

變電所内設備

(イ) 變壓器 發電所内設備
 (ロ) ニ準ス
 (ハ) 保安裝置 發電所内設備
 (ニ) ニ準ス
 (イ) 電動發電機、迴轉變流機及周波數變換機 發電所内設備
 (ロ) ニ準ス
 (ハ) 保安裝置 發電所内設備
 (ニ) ニ準ス

(イ) 電氣鐵道方式

ノ構造

前條第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更シタルトキハ第三條ニ依リ認可ヲ受
 ケ又ハ届出ヲ爲シタル當該官廳ニ届出ツヘシ

第十三條 左ニ掲ケル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 認可ヲ受ケシテ認可ヲ受ケヘキ工事ニ著手シタル者
- 二 第七條第一項ニ依ル場合ヲ除クノ外第十條第一項ニ依リ届出ヲ要ス
 ル電氣工作物ヲ使用認可證又ハ假使用認可證ヲ受ケシテ使用シタ
 ル者
- 三 本令ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シ又ハ故ナク監査ヲ拒ミ若ハ之ヲ
 妨ケタル者

第十四條 本令ノ規定ニ依ル届出及調表ノ提出ヲ怠リタル者ハ科料ニ處

第十五條 前二條ノ罰則ハ刑法第三十九條及第四十一條ノ規定ニ依リ其ノ
 者ノ行爲ヲ罰セサル場合ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ適用シ商會社其
 ノ他ノ法人ノ場合ニ在リテハ其ノ代表者ニ適用ス

●電氣事業法施行規則第五十五條

ニ依ル電氣供給規程届出規則

逓信省令第十三號(大正四年二月二十三日)

第一條 電氣供給規程ノ事業開始二月前ニ於テ之ヲ定メ逓信大臣ニ届出ツ
 ヘシ之ヲ變更セムトストキハ其ノ實施期日ヲ定メ二月前ニ於テ届出ツ
 ヘシ

第二條 電氣供給規程ハ電燈供給規程及電動供給規程ニ區別シ左ノ事項
 ヲ記載スルコトヲ要ス但シ其ノ雙方ニ共通ノ事項ハ之ヲ取纏メ規定スル
 コトヲ得

四 他ヨリ供給セラルル電力ノ受電設備
 (イ) 供給電力ニ割以上ノ變更ヲ
 (ロ) 送電上ノ責任ノ分界トナルヘキ開閉器又ハ其ノ他ノ設備
 (ハ) 保安裝置 發電所内設備
 (ニ) ニ準ス

五

配電設備

(イ) 電壓
 (ロ) 架空電線路、地中電線路ノ別及其ノ構造 架空電線路ニ在リテハ電
 柱、鐵柱、鐵塔ノ別、柱間距離三百尺以上ノ箇所ハ電線ノ弛度並支持物ノ強
 サニ關シテ計算及構造、地中電線路ニ在リテハ電線ノ種類、心線
 ノ種類、暗渠、線渠
 及直接埋設等ノ別

(ハ) 變壓器 特別高壓ノモノニ限リ其ノ位
 置及發電所内設備ノ(ロ)ノ事項

(ニ) 電動發電機、迴轉變流機、周波數變換機ノ位置及發電所内設備ノ
 事項

(ハ) 保安裝置 發電所内設備
 (ニ) ニ準ス

六

電氣鐵道用饋電線路

(イ) 電氣方式 直流交
 流ノ別及電壓

(ロ) 架空電線路、地中電線路ノ別及其ノ構造
 電車線路及軌道

七

電燈供給規程

一 電燈供給方法ノ種別(定時、不定時)、從量、臨時等ノ區別ニ從
 二 供給時間(開始及終了)
 三 電球ノ種類(炭素線、タンタラム、タングステン、オスラム、
 記載ス
 四 供給料 金額(定時、不定時)、臨時、屋内、屋外等ヲ電球
 (イ) 白熱燈ノ種類及燭光又ハ「ワット」別ニ記載スヘシ
 (ロ) 弧光燈ヲ供給スルモノハ「イ」ニ準シ記載スヘシ
 (ハ) 從量料金「キロワット」時
 最低料金又ハ供給準備料金ヲ
 徵スルモノハ之ヲ詳記スヘシ

五 料金割引制アルモノ及休燈料金ヲ徵スルモノハ之ヲ附記スヘシ
 六 電球ノ負擔 驗料等ヲ徵スルモノハ之ヲ記載スヘシ
 七 電氣計器ノ負擔 驗料等ヲ明ニシ且代價又ハ損料
 八 其ノ他ノ器具ノ負擔 驗料等ヲ明ニシ且損料、試驗料等
 九 工費ノ負擔 驗料等ヲ明ニシ且需用者負擔ノモノニ在リテハ電燈、電
 十 負擔額ヲ記
 從量料金ノ取附數制限、一需用者ノ從量定額併用ニ關スル制限、定
 額燈取附箇所ノ制限等電燈取附ニ關スル制限アルモノハ悉ク之ヲ記
 載スヘシ
 送電中止、電氣使用ノ開始、中止、廢止等ノ場合ニ於ケル料金計算
 方法

十一 扇風機ヲ供給スルモノハ前各號ニ準シ記載スヘシ
十二 其ノ他供給上ノ條件
電動力供給規程

一 電動力供給方法ノ種別(定時、不定時)、從價、臨時、晝間、夜間、晝
悉ク記載
二 供給時間(開始及終了)
供給時間等ヲ記載スヘシ

三 供給料金
(イ) 定額(定時、不定時)、臨時等ヲ晝間、夜間、晝
夜間及馬力又ハ「キロワット」別ニ記載スヘシ
(ロ) 從價(晝間、夜間、晝夜間別ニ「キロ
ワット」時料金ヲ記載スヘシ
最低料金又ハ供給準備料金ヲ
徵スルモノハ之ヲ詳記スヘシ

四 料金割引制アルモノ及休止料金ヲ徵スルモノハ之ヲ附記スヘシ
電動機及附屬器具ノ負擔(掃除料等)ヲ徵スルモノハ之ヲ記載スヘシ

五 電氣計器ノ負擔(負擔者ヲ明シ且代價又ハ損料
ヲ徵スルモノハ之ヲ記載スヘシ)
六 工費ノ負擔(負擔者ヲ明シ且需用者負擔ノモノニ在リテハ電動機及
=區別シ其ノ負擔
額ヲ記載スヘシ

七 送電中止、電氣使用ノ開始、中止、廢止等ノ場合ニ於ケル料金計算
方法
八 電熱ヲ供給スルモノハ前各號ニ準シ記載スヘシ
九 其ノ他供給上ノ條件

第三條 電氣供給規程ニ記載シタル料金以外ノ料金ニ依リ電氣ヲ供給スル
場合ニ於テハ前條ニ準シ其ノ都度逕信大臣ニ届出ツヘシ

逕信次官湯河元臣殿
自家用電氣工作物ニ關スル件
近來管下各地ニ於テ自家用電氣工作物施設漸次増加ノ傾向有之候處第二種
自家用電氣工作物施設ニ關シ左記各項ノ如キ共同施設ノ場合ハ其ノ地方ニ
於ケル電氣事業者ニシテ土地ノ狀況需用ノ程度等ニ徴シ到底供給區域ニ編
入スル見込無之土地ノ外ハ認可相成サル方針ナルヤニ聞及候ヘ共目下管下
ニ於テ共同施設ノ希望ニテ何出ノ向モ有之候ニ付一應御意見承知致度何分
ノ御回答相煩度此段及照會候也

左記
一、數人共同シテ施設セムトスル場合
二、産業組合等ニ於テ動力使用ノ目的ヲ以テ施設セムトスル場合
三、一部落又ハ一町村部落ノ住民共同施設セムトスル場合
以上

乙 別紙
一 電監甲第一〇三九號
大正五年五月十三日
逕信省電氣局長 棟居喜九馬
群馬縣知事 三宅源之助殿
同 答

三月二十五日附保第一七六一號ヲ以テ共同自家用電氣工作物ノ施設及産業
組合ノ電氣工作物施設ニ關シ御照會相成候處元來此ノ種ノ事業ハ施設者自
己ノ使用ニ供スルモノナルニ由リ區域内一般住民ニ供給シ得サル不便アル
ヲ以テ電燈普及ノ趣旨ニ反シ且其ノ設備ノ完全ヲ期シ難キヲ當トスルモノ
ナルニ付該工作物施設地力僻遠又ハ狭小ニシテ一般供給事業ヲ起スニ適セ
サル事情アリ又他ヨリ供給區域ヲ延長シ得ル等ノ見込ナク且該組合ノ組織
カ組合員トナルニ付キ特種ノ條件ヲ要セス又多大ノ負擔ヲ要セサルカ如キ
モノニシテ確實ニ事業ヲ經營シ得ト認メラル、モノ、外右等ノ如キ事業ハ
第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第四條 電氣事業者ニ電氣ヲ供給スル場合ニ於テハ供給料金其ノ他ノ供給
條件ヲ記載シタル契約書ノ寫ヲ添ヘ供給開始前逕信大臣ニ届出ツヘシ
契約上ノ供給料金其ノ他ノ供給條件ニ變更アリタルトキ亦同シ

第五條 電氣供給規程變更ノ届書ニハ變更ノ要領ニ關スル説明書ヲ添附ス
ルコトヲ要ス
第三條ノ届書ニハ其ノ理由書ヲ添附スルコトヲ要ス

第六條 電燈及電力供給料金其ノ他ノ供給條件ノ變更ニシテ需用者ノ負擔
ヲ著シク増加スル場合ハ前條ノ説明書ニ別ニ定ムル様式ニ依ル計算書ヲ
添附スルコトヲ要ス

第七條 本令ニ依リ逕信大臣ニ届出ヲ爲ストキハ同時ニ其ノ副本ヲ供給區
域ヲ管轄スル地方長官及逕信局長ニ提出スヘシ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ニ届出タル電氣供給規程ニシテ本令ノ定ムル事項ヲ具備セサル
モノハ本令施行ノ日ヨリ六箇月内ニ追加届出ツヘシ

●自家用電氣工作物施設ニ關スル件

電監甲第一〇三九號(大正五年五月十三日)
(逕信省電氣局長ヨリ
長野縣知事宛)

共同自家用電氣工作物施設ニ關シ群馬縣知事ヨリ別紙甲號ノ通照會有之候
處別紙乙號ノ通照會致置候條御參考ノ爲及通牒候也
(別紙)
甲 號
保第一七六一號
大正五年三月二十五日
群馬縣知事 三宅源之助
(長野縣知事)

當分認可セラレサル見込ニ有之候條
右ニ了知相成度

●電氣事業ニ關スル件

發第三四號(大正四年一月十六日)
警察署長 警察分署長

電氣事業者ニ下付セラレタル命令書ニ依リ提出スル左記申請書類ハ爾今左
記區別ニ從ヒ(第一項各號ノ書類ハ便宜上正本二通)提出ヘキ旨其ノ部
内電氣事業者ニ示達セラレヘシ
追テ明治四十五年五月八日附甲警收第九、四二二號指示ハ廢止ス

左記
一、左ノ書類ハ所轄地方長官ヲ經由シ且ツ其ノ副本ヲ所轄逕信局長ニ提出
スヘキモノ
電氣事業許可有效期間伸長許可申請書
會社成立期間伸長許可申請書
事業開始期間伸長許可申請書

(二) 電氣事業以外ノ事業兼營認可申請書
二、左ノ書類ハ所轄逕信局長ヲ經由シ其ノ副本ヲ所轄地方長官ニ提出スヘ
キモノ
電氣工事施行認可申請期間伸長認可申請書
市街地ニ於ケル架空電線路施設認可申請書
其ノ他命令書ニ依ル制限外工事認可申請書
以上

●電氣事業法施行規則第六十五條ニ依ル電氣事故届出規程

四三五

逕信省令第三十二號(明治四十四年九月二十八日)

第一條 電氣工作物ノ故障及其ノ運轉使用ニ關スル事故ヲ生シタル場合ニ於テハ別記様式ニ依リ一箇月分ヲ取纏メ翌月十日限り逕信大臣及所轄逕信局長ニ届出ツヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ即時電報又ハ電話其ノ他ノ方法ヲ以テ別ニ其ノ大要ヲ届出テ同時ニ所轄警察官署ニモ届出ツヘシ

一 電氣工作物ノ損壞又ハ漏電其ノ他ノ電氣的故障ニ因リ人畜ニ死傷ヲ生シタルトキ又ハ火災其ノ他ノ災害ヲ生シタルトキ

二 發電所、變電所、水路、電線路等ニ故障ヲ生シ其ノ送電ノ停止二十

(別記)

(電氣事故届出様式)

- (一) 事故ノ種類
- (二) 發生ノ日時及天候
- (三) 事故ノ場所
- (四) 事故ノ状況
- (五) 事故繼續時間
- (六) 故發生ノ際ニ於ケル各部位(安置ノ指示又ハ狀況)
- (七) 事故ノ原因
- (八) 事故發生前ニ於ケル關係工作物ノ狀態
- (九) 應急ノ處置
- (十) 復舊ノ日時又ハ其ノ見込

(期間内ニ取調ラテセサルトキハ結了次第届出ツヘキモノトス)

四時間以上ニ亙ルトキ又ハ送電ノ大部分ヲ停止セルトキ

三 前各號ノ外重大ナル事故ヲ生シタルトキ
自家用電氣工作物施設規則ニ依ル電氣工作物ノ事故ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス但シ前項第二號ノ場合ニハ前項但書ノ規定ヲ準用セス

第二條 水路ニ於ケル流水量ノ減少ニ因リ發電力ヲ減シタル場合ニ於テハ其ノ減水期間内ニ於ケル發電日誌ノ寫ヲ作成シ毎月一回逕信大臣及所轄逕信局長ニ届出ツヘシ其ノ發電力ヲ著シク減シタル場合ニ於テハ遲滞ナク流水量其ノ他ノ關係事實ヲ詳具シ届出ツヘシ

- (十一) 損害ノ概算高
- (十二) 備考

注意

- 一 (四)事故ノ狀況欄ニハ事故ノ程度及範圍、損害ノ有無、死傷者アルトキハ其ノ員數、公衆又ハ操業者ノ別、致死又ハ負傷ノ原因等ヲモ詳記シ且感電死傷者ニ對スル醫師ノ診斷書又ハ檢案書ノ寫ヲ添付スヘシ
- 二 電線ノ切斷セル場合ヲハ其ノ電線ノ種類、太サ、電線支持點間ノ距離及斷線ノ直接原因等ヲモ各相當欄ニ記載スヘシ
- 三 電線ノ混觸又ハ他ノ工作物トノ接觸ヲ生シタルトキハ電線ノ種類、太サ、電線支持點間ノ距離及兩電線間又ハ電線ト工作物間ノ距離等ヲモ各相當欄ニ記載スヘシ
- 四 説明上必要アル場合ニ於テハ圖面ヲ添付スヘシ
- 五 (七)事故ノ原因ノ欄ニハ機械器具其ノ他材料ノ不良又ハ施設方法ノ不完全ナルニ因ルヤ否、操業者又ハ其ノ他ノ者ノ過失若ハ故意、天災其ノ他不可抗力ニ因ルヤ否等ヲモ記載スヘシ

一 第六十六條ニ依リ使用スルモノ

●電氣事業法施行規則ニ依リ使用スル標旗及標燈様式

逕信省告示第五十號(明治四十四年九月二十八日)

電氣事業法施行規則第六十一條及第六十二條ニ依リ使用スル標旗及標燈ハ從前電氣事業取締規則ニ依リ定メタル様式ニ依ル

逕信省告示第四百十二號(明治三十五年九月二十二日)

明治三十五年八月逕信省令第三十六號電氣事業取締規則第六十六條及第六十七條ニ依リ使用スル標旗及標燈ハ左ノ制式ニ依リ調製スヘシ

第一 標旗ノ制式

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐



第六十七條ニ依リ使用スルモノハ縱二尺横三尺トシ其ノ他ノ制限ハ總テ前項ニ準ス
第六十六條ニ依リ使用スルモノ



地色 白
形状 丸形弓張提燈
標章色 赤
電氣事業者ノ商號又ハ名稱ヲ標章ノ下ニ黒書ス

第六十七條ニ依リ使用スルモノハ通常高張提燈ノ形狀トシ其ノ他ノ制限ハ總テ前項ニ準ス



遞信省ノ管理ニ屬スル通信事業 用工作物ニ關シ承諾又ハ立會請 求方

遞信省告示第五十一號(明治四十四年九月二十八日)
電氣工事規程ニ依リ遞信省ノ管理ニ屬スル通信事業用工作物ニ關シ承諾又ハ立會ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ其ノ所轄遞信局長ニ之ヲ爲スヘシ

電氣供給ノ件

電監甲一第五三四四號(大正二年十二月二十六日)
(遞信省電氣局長ヨリ)
長野縣知事宛

依命通牒

電氣事業法第一條ニ該當スル事業者又ハ申請者ニシテ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル場合ニハ電氣事業法施行規則第一條第二項第二號ニ據リ其ノ供給者トノ契約書原本ノ添付ヲ要スル義ニ有之候處右契約ニ就テハ供給者ニ於テ送電ヲ中止セントスル時ハ急遽ノ場合ヲ除クノ外相當ノ豫告期間ヲ存置スル事ニ協定セシムル様致度ニ付將來其ノ御合ヲ以テ處理相成度

官廳ニ於ケル電氣事業經營ノ件

勅令第二百三十六號(明治四十四年八月三十日)
官廳ニ於テ電氣事業ヲ營マムトスルトキハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ承諾ヲ受クヘシ
附則
本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
(長野縣知事宛)

瓦斯力發電所ニ關スル件

電監甲壹第七五二號(大正二年四月十二日)

(遞信省電氣局長ヨリ)
長野縣知事宛

通牒

瓦斯力發電所位置ニ關シ新潟縣知事ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答致置候條爲參考及送付候

電監甲壹第七五二號

大正二年四月十二日

遞信省電氣局長 中谷弘吉

縣知事殿

二月三日附係收第四八八號照會ニ對スル回答

近時電氣事業用トシテ瓦斯力發電所ヲ設置スル者漸次増加シ來リ候處該發電所ハ他ノ火力發電所ニ比シ其振動及音響強大ニシテ附近住民ニ障害ヲ及ボス場合尠カラサルニ依リ從來瓦斯力發電所ノ位置ハ一般ニ最近人家ヨリ一町以上離隔セシムルヲ適當ト認メ處理致居候尤モ一町以内ト雖基礎工事時ニ堅固ニシテ支障ナキ場合又ハ土地ノ狀況等ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ相當酌ヲナスノ要可有之候ニ付テハ瓦斯力發電所設置ノ申請有之候場合ハ右ニ依リ其都度相當調査ノ上御意見具申相成様致度

制限外電線路ニ關スル件

監甲第五三〇八號(明治四十一年十一月十六日)

(長野郵便局長照會)

市街地ノ道路ニ架設セル制限外電線路ノ件ニ關シ客月二十日付通電甲第四九五六號通信局長通牒ノ次第モ有之候處右ニ關シテハ左記方法ニ依リ處理致度候條可然取計相成度此段及御照會候也

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽鐘

電氣測定法

法律第二十六號(明治四十三年三月二十六日)

第一條 電氣ノ測定ニ於テハ電氣抵抗ハ「オーム」、電流ハ「アムペア」、電壓ハ「ヴォルト」、電力ハ「ワット」ヲ以テ單位トス

第二條 「オーム」ハ水ノ融解溫度ニ於テ質量一四、四五二「グラム」長さ一〇六、三〇〇「センチメートル」ニシテ均一ナル切斷面積ヲ有スル水銀柱ノ不變電流ニ對スル電氣抵抗ヲ謂フ

第三條 「アムペア」ハ硝酸銀ノ水溶液ヲ通過シ每秒〇、〇〇一一一八〇〇「グラム」ノ銀ヲ分離スル不變電流ヲ謂フ

第四條 「ヴォルト」ハ「オーム」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ニ「アムペア」ノ不變電流ヲ發生セシムル爲要スル不變電壓ヲ謂フ

第五條 「ワット」ハ「ヴォルト」ノ電壓ニ於テ「アムペア」ノ不變電流ニ依リ每秒發サル電氣勢力ヲ以テ表示スル電力ヲ謂フ

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽機

第六條 本法ニ依ル電氣單位ハ主務官廳ニ保管スル標準器ニ依リ之ヲ現示ス

第七條 電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ檢定ヲ受クヘシ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル電氣計器ヲ電氣ノ取引ニ使用シタル者ハ

- 一 檢定ヲ受ケサルモノ
二 檢定ニ合格セサルモノ
三 檢定ノ效力ヲ失ヒタルモノ

第九條 電氣ノ取引ニ於テ其ノ計量ヲ詐ルノ目的ヲ以テ不正ニ電氣計器ヲ使用シタル者ハ罰前條ニ同シ

第十條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第十一條 電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法並第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

附則

本法ハ第七條及第八條ヲ除クノ外明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條及第八條ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十四年十二月勅令第二百九十五號ヲ以テ同四十五年一月一日ヨリ施行)

第七條及第八條施行前ヨリ引續キ電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ニ付テハ別ニ勅令ヲ以テ定ムル期間第八條ノ規定ヲ適用セス

第七條及第八條施行前ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ試驗ニ合格シタル電氣計器ハ本法ノ檢定ニ合格シタルモノト看做ス

勅令第二百九十五號(明治四十四年十二月二十八日)
電氣測定法第七條及第八條ノ規定ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣測定法附則第三項ノ期間ハ前項ノ日ヨリ三年トス

電氣測定法ニ依ル電氣單位ノ標準器仕様細目

逓信省告示第五百三十三號(明治四十三年十二月二十七日)

第一 電氣抵抗單位ノ標準器仕様細目

電氣抵抗ノ標準器ニ使用スル玻璃管ハ可成寸法不變ナル玻璃ヲ以テ製作シ良ク燒鈍シ且眞直ノモノニシテ管ノ孔ハ可成一様ナル圓形ノモノトス

孔ノ切斷面積ハ約一平方「ミリメートル」ニシテ水銀ノ抵抗ハ約一「オーム」トス

各管ハ精密ニ度盛ヲナシ管ノ各部ニ於ケル孔ノ切斷面積ノ不等ニ對スル更正ハ一萬分ノ五ヲ超過セサルモノトス

玻璃管ニ填充スル水銀ハ管ノ兩端ニ接シテ設ケタル平面ニヨリ區劃セラレタルモノト假定ス

管ノ軸ノ長サ、管ニ填充スル水銀ノ質量及其ノ電氣抵抗ハ可成攝氏零度ニ近キ溫度ニ於テ測定シ之ヲ攝氏零度ノ場合ニ換算ス

管ノ各端ニハ電氣測定ノ爲電流用及電壓用ノ接續點ヲ有スル端器ヲ取付ケ其ノ端器ハ球狀(直徑約四「センチメートル」)ニシテ管ト接續スル爲圓筒片ヲ備ヘ管ノ各端ノ外縁ハ球狀端器ノ内面ト一致セシム

水銀ニ接スル導線ハ玻璃内ニ融著セル細キ白金線ニシテ電流用導線ハ管ノ端ト直徑上正反對ノ位置ニ於テ端器ニ入り又電壓用導線ハ其中央ニ裝置ス

總テノ導線ニハ細キモノヲ用ヒ之ニ依リ水銀ニ熱ヲ導キ電氣抵抗ノ誤差ヲ生スル事ナカラシム

電氣抵抗測定ノ場合ニ於ケル管ノ水銀填充ハ質量測定ノ場合ト同一

〔長野省〕

電氣測定法第十一條ニ依ル電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法並第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位左ノ通定ム

第一條 電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱左ノ如シ

- 「オーム」ノ百萬倍
「メガオーム」
「キロオーム」ノ千倍
「アマム」ノ千分ノ一
「ミリアム」ノ千分ノ一

- 「アマム」ノ百萬分ノ一
「マイクロム」ノ千倍
「ミロヴォルト」ノ千倍
「ヴォルト」ノ千分ノ一

- 「ヴォルト」ノ百萬分ノ一
「マイクロヴォルト」ノ千倍
「ワット」ノ千倍
「クローム」ノ百萬分ノ一

- 「フアラッド」ノ百萬分ノ一
「マイクログラッド」
「ヘンリー」ノ千分ノ一
「ヘンリー」ノ百萬分ノ一

- 「ヘンリー」ノ千倍
「ジュール」ノ三千六百倍
「ワット」時ノ千倍
「キロワット」時

第二條 不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法左ノ如シ

一 不變電流以外ノ場合ニ於ケル實効電流ノ不變電流ニ及實効電壓ノ不變電壓ニ對スル等價ハ其ノ瞬時値ノ自乗ノ平均ノ平方根ヲ以テ定ム

二 不變電流「アマム」ニ相當スル實効電流ヲ「實効アマム」ト稱シ不變電壓「ヴォルト」ニ相當スル實効電壓ヲ「實効ヴォルト」ト稱ス

三 電力ハ其ノ瞬時値ノ平均ヲ以テ定ム

電氣測定法ニ依ル電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱其他ノ件

逓信省令第五百十七號(明治四十三年十二月二十七日)

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽機

狀態ニ於テナス

端器使用ノ爲水銀柱ノ電氣抵抗ニ附加スヘキ抵抗ハ左ノ公式ニヨリ計算ス

A = 0.80 / (10632 * (1/r1 + 1/r2)) * (1 - r)

式中r1及r2ハ管孔端ノ截面ノ半徑ヲ「ミリメートル」ニテ表シタルモノトス

電氣抵抗單位ノ値ヲ定ムルニハ少クモ五本ノ管ニ依リ計算セル抵抗ノ平均値ヲ用フ

各水銀管ト抵抗トヲ比較スルニハ其ノ管ノ水銀填充ヲ測定毎ニ更新シテ三度以上ノ測定ヲナス

第二 電流單位ノ標準器仕様細目

電氣分離ニ使用スル溶液ハ重量ノ割合ニ於テ蒸餾水百ニ對シ硝酸銀十五乃至二十ヲ溶解セルモノニシテ其ノ使用ハ一回ニ限り且銀ノ分離量ヲ百分ノ三十以上ニ達スル事ナカラシム

「アノード」ハ銀又「カソード」ハ白金ニシテ使用電流ノ密度ハ每平方「センチメートル」ニ付「アノード」ニ在リテハ五分ノ一「アマム」以下「カソード」ニ在リテハ十分ノ一「アマム」以下トス又溶液ハ百立方「センチメートル」以上トス

機械的作用ニヨリ「アノード」ヨリ分離セルモノノ「カソード」ニ達スルコトナキ様適當ノ注意ヲナス

秤量前「カソード」ハ之ニ附著セル溶液ヲ除キ且之ヲ乾燥ス

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

第三條 電氣測定法第一條ニ掲ケタル以外ノ電氣單位左ノ如シ

- 一 電量ハ「クーロム」ヲ以テ單位トス
「クーロム」ハ「アムペア」ノ電流ニ依リ一秒間ニ輸送サルル電量ヲ謂フ
- 二 電氣容量ハ「ファラッド」ヲ以テ單位トス
「ファラッド」ハ「クーロム」ノ電量ニ依リ「ヴォルト」ノ電位ニ充電サルル電氣ノ電氣容量ヲ謂フ
- 三 電氣仕事ハ「ジュール」ヲ以テ單位トス
「ジュール」ハ「アムペア」ノ電流「オーム」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ヲ通過スルトキ一秒間ニ爲ス仕事ヲ謂フ
- 四 電氣誘導ハ「ヘンリー」ヲ以テ單位トス
「ヘンリー」ハ毎秒「アムペア」ノ割合ヲ以テ變化スル電流ニヨリ「ヴォルト」ノ電壓ヲ發生スル電路ノ電氣誘導ヲ謂フ

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●電氣計器試験規則

逓信省令第十六號(明治四十三年十二月二十七日)

- 第一條 電氣測定法附則第四項ノ電氣計器ノ試験ハ本令ニ依リ之ヲ行フ
- 第二條 前條ノ試験ヲ受ケムトスル者ハ其ノ電氣計器ノ型式ニ付豫メ試験ヲ受ケ承認ヲ經ルコトヲ要ス但シ逓信大臣ノ既ニ承認セル型式ノモノハ此ノ限ニ在ラス
- 逓信大臣ノ承認セル電氣計器ノ型式ハ之ヲ告示ス
- 第三條 電氣計器ノ試験ヲ受ケムトスルモノハ第一號又ハ第二號書式ニ依ル申請書ニ電氣計器ヲ添ヘ之ヲ電氣局電氣試験所ニ提出スヘシ但シ型式ノ試験ヲ受ケムトスルモノハ同種ノ計器五箇並其ノ説明書及構造明細圖ヲ提出スヘシ

四四二

ヲ提出スヘシ

- 第四條 前條ノ電氣計器ニハ其ノ外面其ノ他適當ノ箇所ニ製造者名、製造番號、電流ノ種類、電氣方式、電壓及容量(又ハ電流)並交流ノ場合ニ在リテハ周波數ヲ表示スヘシ
- 第五條 第一條ノ試験ノ爲提出スル電氣計器ハ鉛ヲ以テ封印シ得ル構造ヲ有スル外面ヲ具備シ且封印ヲ剝離セスシテ電路ニ接續シ得ル様裝置シタルモノタルヘシ
- 第六條 第一條ノ試験ニ於テ電氣計器ノ公差ハ百分ノ四ヲ限度トス
- 第七條 第一條ノ試験ニ合格セル電氣計器ニハ封印ヲ爲シ其ノ申請者ニ合格證明書ヲ交付ス
- 第八條 前條ノ試験合格ノ有効期間ハ證明書發行ノ日ヨリ五年トス
- 第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ期間内ト雖試験合格ハ其ノ効力ヲ失フ
一 封印ヲ失ヒ又ハ毀損シタルトキ
二 公差ノ限度ヲ超過シタルトキ
- 第十條 合格證明書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ其ノ複本ノ下付ヲ申請スルコトヲ得
- 第十一條 電氣計器ノ試験手数料及試験合格證明書ノ複本作製手数料ハ左ノ區別ニ依リ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ
一 電氣計器ノ試験手数料
基本手数料 計器一箇ニ付 金三圓
計器ノ最大電流ニ依リ一箇ニ付左ノ手数料ヲ附加ス
五「アムペア」未満 金一圓
五「アムペア」以上 金一圓五十錢
十「アムペア」以上 金二圓
二十「アムペア」未満 金二圓

〔長野署〕

年月日 逓信大臣宛 氏 名印(或ハ會社名)

第二號書式

電氣計器型式試験申請書

収入印紙 貼付シタル收入印紙ノ額 金何圓何拾錢

- 一、計器ノ型 電動機型 誘導型其ノ他ノ區別 並製造者ノ型ノ記號
 - 二、計器ノ種類 積算電力計、積算電量計等ノ區別、直流交流ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數
 - 三、計器ノ定數
 - 四、計器ノ製造者名
 - 五、計器ノ製造番號
 - 六、計器ノ箇數
- 右試験申請候也

年月日 住所 逓信大臣宛 氏 名印(會社名)

四四三

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣計器試験申請書

収入印紙 貼付シタル收入印紙ノ額 金何圓何十錢

- 一、計器ノ型 電動機型 誘導型其ノ他ノ區別 並製造者ノ型ノ記號
 - 二、計器ノ種類 積算電力計、積算電量計等ノ區別、直流交流ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數
 - 三、計器ノ定數
 - 四、計器ノ製造者名
 - 五、計器ノ製造番號
 - 六、計器ノ箇數
- 右試験申請候也

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

●電氣計器試驗規則第二條ニ依ル 電氣計器ノ型式

逕信省告示第千四百三十七號(明治四十四年十二月六日)
明治四十三年十二月 逕信省令第百十六號電氣計器試驗規則第二條ニ依リ左記
電氣計器ノ型式ヲ承認ス

型式第五號

計器名「トムソン、ワットアワー、メーター」D₅型
製造者名「ゼネラル、エレクトリック、コムパニー」
計器説明書

本計器ハ多相三線式交流電路ニ於テ計器ニ規定シアル電壓電流周波ニ從ヒ
無誘導並誘導負荷ノ下ニ使用セラルヘキモノトス

本計器ハ誘導型ニシテ其ノ動作裝置ノ全部ハ角形鑄製外面ニ扭テ止メ
シタル「アルミニウム」製枠組ニ依リ支持セラレ羅紗片ノ「パツキング」ヲ
備ヘタル「アルミニウム」製外蓋ニ依リ完全ニ密閉セララル、外蓋ノ前面ニ

ハ計器ノ名稱、番號、製造者名及計器ノ規定動作條件ヲ表示セル銘板ヲ附
著シ倚「キロワット」時數指示盤及圓板ノ回轉ヲ視ルニ便ナラシムルカ爲メ

二箇ノ矩形硝子窓ヲ備フ

本計器ハ二箇ノ單相交流計器ヲ以テ多相交流電路ノ電力量ヲ測定スル方法
ニ基キテ作ラレタルモノニシテ計器ノ上部ト下部トニ相對時シテ取付ケタ
ル同一垂直車軸ヲ有スル二箇ノ相等シキ單相交流動作裝置ヨリ成リ左記五
箇ノ主要部分ヲ有ス

- 一 電壓及電流捲線
- 二 回轉圓板
- 三 制動磁石
- 四 負荷調整裝置

五 「キロワット」時數指示裝置
前記一項乃至四項ニ對スル説明ハ計器ノ下部ニ在ル單相交流動作裝置ノモ
ノニ止ム

一 電壓及電流捲線

本計器ノ下部ニ在ル單相交流動作裝置ハ其ノ下部ニ於テ鐵心ノ中央ニ
裝置セル電壓捲線ヲ又其ノ上部ニ於テ別箇ノ鐵心ノ兩肢ニ裝置セル電
流捲線ヲ有ス上記二種捲線ノ鐵心ハ共ニ薄鐵板ヲ重テ造ラレ其ノ鐵板
間ニ挿入シアル一箇ノ眞鍮金具ニ固定セララル電流捲線ハ其ノ磁路ニ於
テ大ナル空路ヲ有スルヲ以テ殆ト無誘導ナルニ反シ電壓捲線ノ鐵心ハ
二箇ノ少許ノ空路ヲ除クノ外殆ト完全ナル磁路ヲ形成スルヲ以テ同捲
線ニ流ルル電流ハ供給電壓ニ對シ九十度ニ近キ相差ヲ有ス尙同電流ノ
作ル磁力線ニ完全ナル相差ヲ與フルカ爲同捲線ノ鐵心ノ中央部分ノ上
端ニ捲線ヲ裝置シ之ヲ適當ニ調整セラレタル無誘導抵抗ニ依リ短絡ス
回轉圓板

二

電壓捲線及電流捲線ノ鐵心間ノ空路ニ「アルミニウム」製薄圓板アリ
捲線ノ作ル磁力線及之ニ依リ圓板ニ誘起セラルル渦電流ノ相互作用ニ
依リ回轉ス圓板ノ中心ヲ通シ眞鍮製垂直車軸アリ同車軸ハ上部單相交
流動作裝置ニ附屬セル回轉圓板ノ中心ヲ貫キ其ノ上端ニ於テ針狀ヲナ
シ眞鍮製發條軸承ノ小穴ニ挿入セラレ其ノ下端ハ圓錐狀ノ硬鋼ニ終リ
寶石軸承ニ依リ支持セラル尙計器ノ運搬ニ際シテハ下部軸承ニ設置セ
ラレタル螺子ニ依リ可動部分ヲ緊束スルコトヲ得

三

回轉圓板ヲ扶ミ計器ノ前部ニ於テ二箇ノ馬蹄形永久磁石アリ以テ圓板
ノ回轉ヲ制動ス同磁石ハ同一ノ無磁性支持金具ニ依リ「アルミニウム」
枠組ニ取付ケラレ同枠組ニ穿タレタル二條ノ線路ニ沿ヒ之ヲ任意
ノ位置ニ移動固定スルコトヲ得

四 負荷調整裝置

回轉圓板ニ對シ前記制動磁石ノ位置ヲ適當ニ選定シ以テ重負荷ニ於ケ
ル圓板ノ速度ヲ調整スルコトヲ得尙電壓捲線ノ鐵心ノ中央部分ノ上端
ニ凹ミヲ作り以テ二箇ノ磁極ヲ形成シ輕負荷調整裝置トシテ其ノ各磁
極ニ接シ回轉圓板ニ平行シテ短絡銅片ヲ備ヘ該片ヲ之ト連結セラ
レタル橫杆ニ依リ左右ニ移動シ前記重負荷調整ニ關係ナク輕負荷ニ於
ケル圓板速度ヲ調整スルコトヲ得

五 「キロワット」時數指示裝置

前記二箇ノ單相交流動作裝置ノ合成回轉力ニ依ル圓板ノ回轉ハ前記車
軸ノ上端ニ近ク刻マレタル螺絲並齒車裝置ニ依リ逐次指針型「キロワ
ット」時數指示盤ノ指針ニ傳ヘラル
「トムソン、ワット、アワー、メーター」D₅型
(左記圖ハ略ス)

逕信省告示第千五百四十六號(明治四十四年十二月二十三日)
明治四十三年十二月 逕信省令第百十六號電氣計器試驗規則第二條ニ依リ左記
電氣計器ノ型式ヲ承認ス

型式第六號
計器名 交流「エレクトロシチー、メーター」L₆型
製造者名 「アルゲマイネ、エレクトロリチチー、ゲゼルシャフ
ト」

計器説明書

本計器ハ單相交流二線式若ハ三線式ノ電路ニ於テ計器ニ規定シアル電壓電
流周波數ニ從ヒ無誘導並誘導負荷ノ下ニ使用セラルヘキモノトス
本計器ハ誘導型ニシテ其ノ動作裝置ノ全部ハ角形鐵板製外面内ニ扭テ止
タル鐵製枠組ニ依リ支持セラレ木綿打紐ノ「パツキング」ニ依リ無磁金屬製
外蓋ヲ以テ完全ニ密閉セララル、外蓋ノ前面ニハ計器ノ名稱、番號、製造者

名及計器ノ規定動作條件ヲ表示セル銘板ヲ附著シ且「キロワット」時數指示
盤及圓板ノ回轉ヲ視ルニ便ナラシムルカ爲二箇ノ矩形硝子窓ヲ有ス又外面
ノ下部ハ硝子函ヲ形成シ其ノ上面ニ蓋ヲ備ヘ計器ノ動作部分ニ關係ナク其
ノ硝子ニ接近シ得ヘカラシム

本計器ノ動作裝置ハ左記五箇ノ主要部分ヨリ成立ス

- 一 電流及電壓捲線
 - 二 回轉圓板
 - 三 制動磁石
 - 四 負荷調整裝置
 - 五 「キロワット」時數指示裝置
- 一 電流及電壓捲線
本計器ニハ後方中央部ニ於テ山字形ノ薄鐵板ヲ重テ作ラレタル鐵心ヲ
備ヘ其ノ中央ノ肢腕ニ電流捲線ヲ又其ノ兩側ノ肢腕ニハ電壓捲線ヲ裝
置ス電流捲線ハ二組ノ線輪ヨリ成リ兩者硝子函内ニ於テ電路ニ適宜ナル
接続ヲナスコトヲ得又電壓捲線ノ二箇ノ線輪ハ計器ノ内部ニ於テ直
列ニ接続セララル、山字形鐵心ノ上方ニ於テ空路ヲ隔テテ薄鐵板ニテ造
ラレタル鐵板アリ該鐵板ハ其ノ位置ヲ調整シ得ヘク主トシテ電流捲線
ノ磁路ヲ形成ス又山字形鐵心ノ後方圓板ノ下部ニ於テ別箇ノ薄鐵板製
ノ鐵板ヲ備ヘ無磁性金具ニ依リ鐵心ノ兩側ノ肢腕ニ固定ス兩鐵板中前
者ハ鐵心ニ對シ比較的大ナル空路ヲ有スルヲ以テ電流捲線ノ殆ト無誘
導ナルニ反シ後者ハ鐵心ノ外側ノ兩肢ニ少許ノ間隙ヲ以テ相接シ殆ト
完全ニ電壓捲線ノ磁路ヲ形成スルヲ以テ同捲線ニ流ルル電流ハ供給電
壓ニ對シ九十度ニ近キ相差ヲ有ス尙電流捲線ノ鐵心ニハ別箇ノ鐵片ヲ
附シ以テ磁力線ノ磁路ヲ作り該鐵片ニ位置ヲ調整シ得ヘキ短絡金屬片
ヲ扭テ止メ裝置シ電壓及電流捲線ニ依リテ生スル有效ナル磁力線ニ適
當ナル相差ヲ與フルコトヲ得
- 二 回轉圓板

山字形鐵心ト鐵鐵トノ空隙ニ「アルミニウム」製薄圓板アリ捲線ノ作
ル磁力線及之ニ因リ圓板ニ誘起セラレル渦電流ノ相互作用ニ依リ回轉
圓板ノ中心ヲ通シ鐵製垂直車軸アリ同車軸ハ其ノ上端ニ於テ管狀
爲シ無磁金屬製發條ニ依リ固定セル針狀鋼鐵ヲ挿入シ其ノ下端ハ梳狀
ニ終リ之ト其ノ下方ニ在リテ發條ニ依リ支持セラレル寶石軸承トノ間
ニ硬鋼球ヲ挿入シ「ボール」ベアリングヲ形成ス回轉圓板ノ殼ニハ一
小鐵片ヲ附著シ鐵心ノ右側肢腕ニ附シタル一箇ノ鐵製舌片ト共ニ無負
荷回轉防止裝置ヲ爲ス

三 制動磁石

本計器ノ前面上部ニ於テ前記回轉圓板ヲ挟ミ一箇ノ已形永久磁石アリ
以テ圓板ノ回轉ヲ制動ス同磁石ハ二點ニ於テ支持セラレル其ノ支持點ノ
一ハ鐵製桿組ニ於テ固定シ他ハ之ニ附屬セル一箇ノ無磁性金具及螺旋
ニ依リ固定支持點ノ圍リニ回轉シ以テ同磁石ヲ適當ナル位置ニ移動ス
ルコトヲ得尙固定セル支持點ノ周圍ニ三箇ノ押螺旋ヲ附シ以テ圓板ノ
上下ニ於テ適當ナル空隙ヲ得ル様調整シ且之ヲ固定スルコトヲ得

四 負荷調整裝置

回轉圓板ヲ挟ム前記制動磁石ノ位置ヲ適當ニ選定シ以テ重負荷ニ於テ
ル圓板速度ヲ調整スルコトヲ得ヘシ尙輕負荷調整裝置トシテ鐵心ノ左
側ニアル肢腕ノ上端ニ於テ鋼製螺旋及數箇ノ無磁性座金並一箇ノ小
鐵片(該鐵片ハ無磁性金具ニ依リ支持桿組ノ一部ニ取附ケタルモノモ
アリ)ヲ附シ該鐵片ヲ適當ノ位置ニ移動シ前記重負荷調整ニ關係ナク
輕負荷ニ於ケル圓板速度ヲ調整スルコトヲ得

五 「キロワット」時數指示裝置

回轉圓板ノ回轉ハ前記車軸ノ中央部ニ取附ケタル螺旋並齒車裝置ニ依
リ逐次「サイクロメーター」型「キロワット」時數指示盤ノ數字板ニ傳
ハル

(圖面略ス)

●電氣計器檢定規則

逕信省令第五十號(明治四十四年十二月二十八日)

第一條 電氣計器型式ノ承認ヲ承ケムトスル者ハ申請書第一號ニ同一ノ型
式及容量ノ計器附屬器五箇並其ノ說明書及圖面ヲ添ヘ電氣試驗所ニ提出
スヘシ

第二條 前條ノ說明書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 計器ノ構造及備作

(甲) 電動機型又ハ誘導型電氣計器ニ在リテハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

(イ) 電壓及電流捲線(配置、材料、捲數、太サ及抵抗)

(ロ) 磁路配置及材料(直流ノ場合ニ在リテハ電動子、刷子及附屬物ノ構造ヲモ)

(ハ) 回轉圓板配置、材料

(ニ) 車軸及軸承材料

(ホ) 制動磁石配置方法、材料及取附

(ヘ) 相ノ調整裝置、重負荷及輕負荷ノ調整裝置並「クリーブング」防禦

裝置配置、材料及調整方法

(ト) 「キロワット」時數又ハ「アマペア」時數指示裝置配置、構造及齒

(チ) 外面及端子形狀及材料

(リ) 可動部分ノ緊束裝置配置及構造

〔長野警〕

〔長野警〕

(ア) 前記各部ノ動作ノ大要

(乙) 前記以外ノ計器ニ在リテハ(イ)乃至(ニ)準シ記載スヘシ

二 同一型式計器ノ測定範圍及電氣方式並負荷ノ性質、變壓器、變流器其
ノ他附屬器

三 計器取扱上ノ注意

四 前各號以外ニ於テ特徵ト認ムヘキ事項

前條ノ圖面ハ左ノ二種トシ用紙ニハ原圖紙 分幅約五寸 用ウヘシ

一 計器電線接續圖

二 計器構造圖(縮尺四分ノ一)

第三條 承認ヲ經タル型式ノ一部分ヲ變更スル場合ト雖逕信大臣ニ於テ其
ノ變更力型式ノ主要部分ニ非スト認ムルモノニ限リ其ノ繼續承認ヲ受ク
ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ申請書第二號ニ計器附屬器一箇並其ノ變更事項ヲ記
載セル書類及圖面ヲ添ヘ電氣試驗所ニ提出スヘシ

逕信大臣ニ於テ型式ノ試驗ヲ必要ト認メ其ノ旨申請者ニ指示シタルトキ
ハ申請者ハ前項ノ申請書ニ同一ノ型式及容量ノ計器附屬器二箇ヲ添附ス
ヘシ

第四條 電氣計器ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ申請書第三號ニ計器附屬器
ヲ添ヘ電氣試驗所又ハ電氣試驗所大阪出張所ニ提出スヘシ

明治四十四年勅令第二百九十六號第二條第二項ニ依リ電氣計器ノ特殊試
驗檢定ヲ受ケムトスル者ハ申請書第四號ニ計器附屬器並第二條ニ準シ調
製セル說明書及圖面ヲ添ヘ電氣試驗所ニ提出スヘシ

同勅令第四條ノ二第一項ニ依リ假封印ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ前二項
ノ檢定申請書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

附屬變成器ト共ニ提出シ檢定ヲ受ケタル電氣計器ノ檢定合格證書ノ日附

ヨリ六年以内ニ更ニ檢定ノ申請ヲ爲ス者ハ附屬變成器ニ異狀ナキ場合ニ
限リ第一項及第二項ニ記載ノ附屬器具中附屬變成器ヲ提出セサルコトヲ
得此ノ場合ニ於テハ當該申請書ニ其ノ旨ヲ附記シ且前同ノ檢定合格證書
ヲ添付スヘシ

檢定ニ不合格ト爲リタル電氣計器ヲ修繕又ハ調整ヲ爲シタル後更ニ檢定
ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ第三號又ハ第四號書式ニ準シ當該事項ノ外前
ニ提出シタル申請書ノ日附ヲ記載セル申請書ニ計器附屬器ヲ添ヘ前ニ申
請書ヲ提出シタル局所ニ提出スヘシ

檢定ノ有効期間内ニ於テ再封印ノ申請ヲ爲サムトスル者又ハ同勅令第四
條ノ二第二項ニ依リ假封印解除ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ第三號書式ニ
準シ當該事項ノ外檢定番號ヲ記載セル申請書ニ計器附屬器以外ノ及檢定
合格證書ヲ添ヘ電氣試驗所又ハ電氣試驗所大阪出張所ニ提出スヘシ

電氣計器附屬變成器ノ二次回路ニ電氣ノ取引ニ關係シキ他ノ測定器ヲ接
續シテ使用セムトスル場合ニハ前各項ニ依ル申請書ニ電線接續圖ヲ添ヘ
該測定器ヲモ提出スヘシ

第四條ノ二 檢定ニ合格シタル電氣計器ノ檢定ノ一部分ヲ變更スル場合ト
雖逕信大臣ニ於テ其ノ變更力檢定ノ主要部分ニ非スト認ムルモノニ限リ
再封印ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第五條 積算電氣計器ノ誤差ノ試驗ハ左ノ方法ニ依ル

一 規定電壓ニ於テ(交流ノ場合ニ在リテハ規定電壓、規定周波數及無誘
導負荷ニ於テ)規定電流並其ノ二分ノ一及其ノ十分ノ一ヲ以テ試驗ス

二 規定電壓、規定電流及規定周波數ニ於テ力率二分ノ一ヲ以テ試驗ス但
シ特ニ無誘導負荷ニ限リ使用スル計器ニ在リテハ本號ノ試驗ヲ省略
ス

積算電氣計器以外ノ電氣計器ノ誤差ノ試驗ハ前項ニ準シ之ヲ行フ

第六條 第四條ニ依リ提出セル積算電氣計器ノ始動電流ノ規定電壓ニ於テ

(交流ノ場合ニ在リテハ規定電壓、規定周波數及無誘導負荷ニ於テ)規定電流三「アムペア」以下ノモノニ在リテハ規定電流ノ百分ノ三以下又規定電流三「アムペア」ヲ超過スルモノニ在リテハ規定電流ノ百分ノ二以下タルヘシ

第七條 電氣計器ニハ其ノ外面其ノ他適當ノ箇所ニ製造者名、番號、型ノ記號、電氣方式、電壓及容量(又ハ電流)並交流ノ場合ニ在リテハ周波數ヲ表示スヘシ

第八條 電氣計器ハ鉛ヲ以テ封印シ得ル構造ヲ有シ且封印ヲ剝離セスシテ電路ニ接續シ得ル様裝置シタルモノタルヘシ

假封印ヲ爲スヘキ電氣計器ハ其ノ端子函又ハ之ニ相當スル箇所ニ鉛ヲ以テ封印シ得ル構造ヲ有スルモノタルヘシ

運搬ニ際シ可動部分ノ緊束ヲ必要トスル計器ニ在リテハ封印ヲ剝離セスシテ外部ヨリ之ヲ緊束シ得ル様裝置シタルモノタルヘシ

第九條 檢定ニ合格セル電氣計器ニ施スヘキ封印、假封印及附屬金屬片ノ雛形ハ左ノ如シ



一封印、假封印
表面
裏面
直徑約三分四厘

第十四條 第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則
本令ハ明治四十四年勅令第二百九十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治四十五年一月一日ヨリ施行)

○大正九年逓信省令第一號附則

本令ハ大正九年一月十六日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ本令施行前ニ檢定ヲ行ヒタル電氣計器ニ之ヲ適用セス
本令ハ當分ノ内規定電壓六千「ヴォルト」未滿ノ回路ニ使用スル電氣計器ニ之ヲ適用セス

電氣計器型式承認申請書

Form for electrical meter type approval application. Includes fields for '收入' (Income) with '貼附シタル収入印紙ノ額' (Amount of attached revenue stamps) and '金何圓' (Amount in Yen). The main body contains a list of items to be approved: 一 計器ノ種類 (Meter type), 二 製造者名 (Manufacturer name), 三 番號 (Serial number), 四 型 (Model), 五 格定 (Specifications), 六 係數 (Coefficients), 七 箇數 (Quantity), 八 附屬器具 (Accessories). Detailed descriptions for each item are provided, such as '積算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別' for item one.

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

4.5.3

長サ約八分七厘
幅約三分五厘

(輪廓内ノ數字ハ左方ハ年、右方ハ月ヲ表ハス)

第四條第四項ニヨリ提出セル電氣計器ニハ前項ノ封印及金屬片ノ外面同檢定ノ金屬片ヲモ附ス

檢定合格證書ハ第五號書式ニ依リ調製ス

電氣計器ノ假封印ヲ爲シ若ハ之ヲ解除シ又ハ檢定ノ有効期間内ニ於テ再封印ヲ爲シタルトキハ逓信省ニ於テ其ノ檢定合格證書ノ裏面ニ其ノ旨ヲ記載ス

第四條第七項ニ依リ提出セル測定器ニハ第一項雛形ノ金屬片ヲ附シ檢定合格證書ノ裏面ニ第五號ノ二書式ニ依リ該測定器ノ種類、製造者名及番號ヲ記載ス

第十條 檢定合格證書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ手数料トシテ證書一通ニ付金二十五錢ヲ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ

第十一條 電氣計器ノ所有者ハ現ニ電氣ノ取引ニ使用スル計器ノ檢定番號、檢定年月日、製造者名、番號及其ノ種類、格定並使用場所ヲ記載セル帳簿ヲ備フヘシ

第十二條 電氣計器ノ所有者ハ毎年三月三十一日現在電氣ノ取引ニ使用スル計器ノ箇數ヲ第六號書式ニ依リ四月三十日迄ニ逓信大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 電氣計器ノ檢定ハ申請ニ依リ計器所在地ニ於テ行フコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ申請者ハ第五條及第六條ノ試驗ヲ行フニ必要ナル設備

右電氣計器檢定規則第一條ニ依リ電氣計器型式ノ承認ヲ申請候也
年 月 日
逓信大臣宛
住所
申請者 名印

電氣計器型式繼續承認申請書

Form for electrical meter type continuation approval application. Includes fields for '收入' (Income) with '貼附シタル収入印紙ノ額' (Amount of attached revenue stamps) and '金何圓' (Amount in Yen). The main body contains a list of items to be approved: 一 計器ノ種類 (Meter type), 二 製造者名 (Manufacturer name), 三 番號 (Serial number), 四 型式番號 (Model serial number), 五 型 (Model), 六 格定 (Specifications), 七 係數 (Coefficients), 八 箇數 (Quantity), 九 附屬器具 (Accessories), 十 變更事項 (Changes). Detailed descriptions for each item are provided, such as '積算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別' for item one.

四四九

年月日 申請者 名印
逓信大臣宛

第三號書式 (用紙美濃紙)

電氣計器檢定申請書

収入 貼附シタル収入印紙ノ額 金何圓何十錢
印紙

- 一 計器ノ種類 積算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別
 - 二 製造者名
 - 三 番 號
 - 四 型式番號 型式ノ承認セラレタル番號
 - 五 型 誘導型、電動機型等ノ區別並製造者ノ型ノ記號
 - 六 格 定 直流交流ノ區別、單相式二相式三相式等ノ區別、二線式三線式等ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數、負荷ノ性質
 - 七 係 數
 - 八 箇 數
 - 九 附屬器具
- 右電氣計器檢定規則第四條第一項ニ依リ電氣計器ノ檢定ヲ申請候也

年月日 住所 申請者 名印
逓信大臣宛

第四號書式 (用紙美濃紙)

電氣計器特殊試驗檢定申請書

収入 貼附シタル収入印紙ノ額 金何圓何十錢
印紙

- 一 計器ノ種類 積算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別
 - 二 製造者名
 - 三 番 號
 - 四 型 誘導型、電動機型等ノ區別並製造者ノ型ノ記號
 - 五 格 定 直流交流ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式三線式等ノ區別、電壓、容量(又ハ電流)、周波數、負荷ノ性質
 - 六 係 數
 - 七 箇 數
 - 八 附屬器具
 - 九 型式承認ヲ受クルコト能ハサル事由
- 右電氣計器檢定規則第四條第二項ニ依リ電氣計器ノ特殊試驗檢定ヲ申請候也

年月日 住所 申請者 名印
逓信大臣宛

第五號書式 (電氣試驗所大阪出張所ニ於テ檢定セル電氣計器ニ對シテハ檢定番號ニ「檢大」ノ二字ヲ冠ス)

檢第 電氣計器檢定合格證書

檢定申請者	
計器ノ種類	
計器製造者	
計器番號	第 號
計器型式番號	第 號
計器ノ型	型
電氣方式	流 相 線式
電 壓	「ヴォルト」乃至 「ヴォルト」
電 流	「アムペア」
周 波 數	「サイクル」
負 荷 ノ 性 質	
附屬器具	
本證書有效期間	自[明治] 年 月 日 至[明治] 年 月 日
本計器ハ電氣測定法第七條ノ檢定ニ合格シタルコトヲ證ス	
[明治] 年 月 日	

上不得止試驗ノ爲メ運轉又ハ送電ヲ爲スノ必要アルトキハ左記各項ノ場合ニ限リ試驗ノ爲メ必要ナル時間運轉若クハ送電ヲナスモ差支ナキコトニ決定相成候條右ニ諒知相成度且貴管下各事業者ニ對シ其旨豫メ垂示相成度尙右ハ技術上已ムヲ得サル場合ニ限リ特ニ例外ヲ認メラレタル次第ニ付濫用ノ弊ヲ生スル虞ナキ様嚴重取締相成度依命此段及通牒候也

(一) 發電所、變壓所及配電所内電氣工作物ニシテ主任技術者技術上危險障害ノ虞ナシト認メタル場合但シ豫メ所轄地方長官ニ届出ヲナスコトヲ要ス

(二) 發電所、變壓所及配電所相互間ノ送電線路ニシテ左記各號ノ條件ヲ具備シ且豫メ所轄地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合

(一) 主任技術者ニ於テ技術上危險障害ノ虞ナシト認メタルコト

(二) 所轄地方廳吏員ノ立會ヲ受ケタルコト

(三) 架空電線路ト交叉又ハ接近スル他ノ架空電線、電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ所有者若クハ管理者ニ對シ送電前豫メ通知スルコト

追テ前記第二項ノ場合ニハ當該線路ト之ニ接近セル建造物其他ノ物件トノ間隔及保護裝置等ニ付大體ニ於テ制規ニ適合スルモノト認メラレタル場合ニ限リ認可ヲ與ヘ且各要所ニ吏員ヲ配置セシメラレ度候

●電氣事業概況報告様式

警收第二〇五五三號(明治四十一年一月六日)

警察署 警察分署

電氣事業概況報告様式別紙ノ通り改正方各電氣事業者へ達シ相成候條此旨心得ラルヘシ

電氣供給及電氣鐵道營業事業概況報告様式

四 他人ノ支持物ニ自己ノ電線ヲ併架セル部分アルトキハ其電線路ノ互長及支持物數ハ本表中ニ算入セス別ニ其部分ニ就キ本表ニ準シ記載セル調表ヲ添附シ且ツ支持物ノ所屬事業者名ヲ附記スルコト

第二表 地中電線路

種別	電線路互長		送電線		配電線		電車線		計	實數
	特別高壓	高低壓	在末	比末	在末	比末	在末	比末		
合計										

注意

一 他人ノ暗渠、管、樋等ヲ共用シテ其内ニ布設セル部分アルトキハ第一表注意第四項ニ準ス

二 前項ノ第一表ノ例ニ依ル

第三表 種類別地中電線延長

製造者名	種類	心線數	心線ノ太サ	延長
				尺

第一表 架空電線路

種別	電線路互長		送電線		配電線		電車線		計	實數
	特別高壓	高低壓	在末	比末	在末	比末	在末	比末		
合計										

注意

一 哩以下ハ小數一位トス但シ四捨五入ノコト

二 送電線トハ發電所變壓所及配電所相互間ヲ連絡スルモノヲ謂ヒ配電線トハ發電所變壓所又ハ配電所ヨリ需用家又ハ電車線ニ至ルモノ(引込線ヲ除ク)ヲ謂フ

三 發電所變壓所又ハ配電所ヨリ需用家ノ發電所變壓所又ハ配電所ニ至ル電線路ハ送電線中ニ計上ス

同一ノ電線路ニ送電線配電線又ハ電車線併架ノ部分アル場合ニ於テ其送電線配電線又ハ電車線ヲ各別ニ計算セル互長及支持物ノ合計數ハ實際ノ數量ト異ナルニヨリ實數欄ニハ送電線配電線及電車線ヲ區別セサル實際ノ互長及支持物數ヲ計上スルコト

注意

一 種類ニハ鐵裝、非鐵裝ノ別及絶緣物ノ種類等ヲ記載スルコト

第四表 供給區域別架空配電線路

供給區域	電線路互長		電線延長		柱上變壓器
	低壓	高壓	計	筒數總容量	
合計					

注意

一 供給區域ハ市町村毎ニ區別スルコト又供給區域外ニ渉ル配電線ハ便宜ノ區域内ニ入ルコト

二 本表ノ配電線ハ電氣供給事業ニ使用スルモノニ限ル但シ電氣供給事業及電氣鐵道事業共用ノモノハ之ヲ算入スルコト

三 右ノ外第一表ノ例ニ依ル

第五表 供給區域別地中配電線路

供給區域	電線路互長		電線延長		配電函數	變壓函數	變壓容量
	低壓	高壓	計	筒數總容量			
合計							

注意

一 第一表、第二表ノ例ニ依ル

第十五表 車輛及電動機數等

種別	電車一輛ノ重量		客車一輛ノ重量		貨車一輛ノ重量		合計
	噸	キログラム	噸	キログラム	噸	キログラム	
電車							
客車							
貨車							
合計							

注意
一 電車重量ハ空車ノ重量ヲ指スルコト
二 車輛取附電動機ハ記録馬力別ニ記載スルコト
第十六表 使用車輛數及走行哩數並乗客貨數量等

營業日數	客車		貨車	
	輛	噸	輛	噸
「ボギー」車				
「四輪車」				
計				

注意
一 哩以下ハ小数一位トス但シ四捨五入ノコト
第十七表 供給(又ハ使用)電氣力及電氣力量等

何々發電所	電燈電力(晝間)		晝間電力	
	時間	時間	時間	時間
本期間供給(又ハ使用)電氣力量				
本期間最大供給(又ハ使用)電氣力量				
本期間平均最大供給(又ハ使用)電氣力量				
本期間平均發電機荷重率				
本期間平均發電所荷重率				

注意
一 本表ハ發電所毎ニ調製シ發電所ニ於ケル數量ヲ計上スルコト但シ發電所變壓所又ハ配電所ニ於テ他ヨリ電氣ノ供給ヲ受クルトキハ其發電所變壓所又ハ配電所毎ニ其供給ヲ受クル電氣力ニ就キ別ニ本表ヲ調製スルコト
二 同一ノ發電所ヨリ電氣鐵道トニ送電スルトキハ同一ノ發電機ヲ共用スル場合ヲ除クノ外電氣供給及電氣鐵道毎ニ本表ヲ調製スルコト

使用車輛數	本期間總數		前期間ニ比シ増減	
	輛	噸	輛	噸
電車				
客車				
貨車				
合計				

右ノ場合ニ於ケル發電所發電容量ハ各其事業ニ使用スル發電機ノ容量ヲ以テスルコト
三 本表ハ一表毎ニ(電氣供給用)(電氣鐵道用)又ハ(電氣供給及電氣鐵道共用)ト記載スルコト
四 電力計ノ備附ナキ發電所ニテハ「キログワット」又ハ「キログワット」時ノ代リニ「キロワット」又ハ「キロワット」時ト表示スルコト
五 「本期間平均最大供給(又ハ使用)電氣力」トハ毎日ニ於ケル最大供給(又ハ使用)電氣力ノ本期間ニ於ケル平均數ヲ謂フ
六 「本期間平均發電所荷重率」トハ毎日ニ於ケル平均供給(又ハ使用)電氣力ノ毎日ニ於ケル最大供給(又ハ使用)電氣力ニ對スル比ヲ本期間ヲ通シテ平均シタルモノヲ謂フ
七 「本期間平均發電所荷重率」トハ毎日ニ於ケル平均供給(又ハ使用)電氣力ノ發電所發電容量(命令ニ依ル豫備發電機ノ容量ヲ除ク)ニ對スル比ヲ本期間ヲ通シテ平均シタルモノヲ謂フ

第十八表 從業者數

社重役	支配人	主任技師	技師	書記	手記	手夫	監督	車掌	運轉手	運轉手	其他	合計

注意
一 本表ニ掲クル名稱以外ノ者ハ便宜相當欄ニ算入スルコト
第十九表 固定資本及收支内譯

固定資本	其他ノ事業	電氣鐵道事業ノ建設地

出		支		入		收	
總計	其他ノ事業	電氣供給事業	電氣鐵道事業	其他ノ事業	電力	電燈	電料
		營業費	營業費		小計	小計	料金一定
					其他ノ事業	其他ノ事業	機械器具買入金
					貨客	貨客	機械器具買入金
					道鐵	道鐵	機械器具買入金
					電力	電力	電料
					小計	小計	電料
					其他ノ事業	其他ノ事業	電料
					總計	總計	電料

注意
 一 電氣供給事業及電氣鐵道事業ノ支出ヲ別箇ニ計上シ難キモノハ其合計額ヲ計上スルコト
 二 其他ノ事業トハ電氣事業以外ノ事業ヲ云フ
 三 貸借對照表及損益計算書ニ依リ本表ニ掲ケタル内譯項目ノ計數ヲ

四 他人ノ支持物ニ自己ノ電線ヲ併架セル部分アルトキハ其電線ノ互長及支持物數ハ本表中ニ算入セス別ニ其部分ニ就キ本表ニ準シ記載セル調表ヲ添付シ且ツ支持物ノ所屬事業者名ヲ附記スルコト

第二表 地中電線路

種別	電線路互長		送電線	配電線	電車線	計實數
	特別高壓	低壓				
合計						
	在現期	在現期	在現期	在現期	在現期	在現期
	比前期	比前期	比前期	比前期	比前期	比前期
	増減	増減	増減	増減	増減	増減

注意
 一 他人ノ暗渠、管、樋等ヲ共用シテ其内ニ布設セル部分アルトキハ第一表注意第四項ニ準ス
 二 前項ノ外第一表ノ例ニ依ル

第三表 種類別地中電線延長

製造者名	種類	心線數	心線ノ太サ	延長

注意

第一表 架空電線路

種別	電線路互長		送電線	配電線	電車線	計實數
	特別高壓	低壓				
合計						
	在現期	在現期	在現期	在現期	在現期	在現期
	比前期	比前期	比前期	比前期	比前期	比前期
	増減	増減	増減	増減	増減	増減

注意
 一 哩以下ハ小數一位トス但シ四捨五入ノコト
 二 送電線トハ發電所變壓所及配電所相互間ヲ連結スルモノヲ謂ヒ配電線トハ發電所變壓所又ハ配電所ヨリ電車線ニ至ルモノヲ謂フ
 三 同一ノ電線路ニ送電線配電線又ハ電車線併架ノ部分アル場合ニ於テ送電線配電線又ハ電車線ヲ各別ニ計算セル互長及支持物ノ合計數ハ實際ノ數量ト異ナルニ依リ實數欄ニハ送電線配電線又ハ電車線ヲ區別セサル互長及支持物數ヲ計上スルコト

第四表 「種類」ニハ鐵裝、非鐵裝ノ別及絶緣物ノ種類等ヲ記載スルコト

種別	電線路互長		支持物數	電線路互長	支持物數
	特別高壓	低壓			
合計					
	在現期	在現期	在現期	在現期	在現期
	比前期	比前期	比前期	比前期	比前期
	増減	増減	増減	増減	増減

第五表 敷地別地中電線路

種別	電線路互長		支持物數	電線路互長	支持物數
	特別高壓	低壓			
合計					
	在現期	在現期	在現期	在現期	在現期
	比前期	比前期	比前期	比前期	比前期
	増減	増減	増減	増減	増減

第六表 軌道

種別	電線路互長		支持物數	電線路互長	支持物數
	特別高壓	低壓			
合計					
	在現期	在現期	在現期	在現期	在現期
	比前期	比前期	比前期	比前期	比前期
	増減	増減	増減	増減	増減

軌道延長	複線		單線	
	哩	哩	哩	哩
合計				

注意 一 哩以下ハ小數一位トス但シ四捨五入ノコト
二 車庫線及待避線ハ算入セザルコト

種別	本期		現 在		前期末ニ比シ増減	
	筒數	「ワット」數	筒數	「ワット」數	筒數	「ワット」數
電車用電燈						
線路用電燈						
其他用電燈						
合計						

注意 一 △印ノ下ニハ十燭光換算筒數ヲ別記スルコト
二 事業者用トハ自己ノ發電所又ハ事務所ニ電氣ヲ使用スルモノヲ云フ

種別	電車一客定員又ハ重量		車 輛 數		車輛取附電動機總數	
	噸	噸	輛	輛	馬力	筒數
電車						
附隨車						
合計						

第八表 車輛及電動機數等

貨載	本期間總數	
	噸	噸
平均一車一日		
平均一車一哩		
電氣使用量		
電氣使用量一噸對スル		
電氣使用量一哩對スル		
電氣使用量一噸對スル		

注意 一 哩以下ハ小數一位トス但シ四捨五入ノコト
第十表 使用電氣力及電氣力量等

何々發電所	電 氣		鐵 道	
	時間	時間	時間	時間
本期間總使用電氣力量				
本期間最大使用電氣力量				
本期間平均最大使用電氣力量				
本期間平均使用電氣力量				
本期間發電機荷重率				
本期間發電機重率				
發電所發電容量(三時間放電ニテ)				
蓄電池放電容量(電ニテ)				

注意 一 本表ハ發電所毎ニ調製シ發電所ニ於ケル數量ヲ計上スルコト但シ發電所變壓所又ハ配電所ニ於テ他ヨリ電氣ノ供給ヲ受クルトキハ其發電所變壓所又ハ配電所毎ニ其供給ヲ受クル電氣力ニ就キ別ニ本表ヲ調製スルコト
二 電力計ノ備付ナキ發電所ニテハ「キロワット」又ハ「キロワット」時ノ代リニ「キロヴォルト、アムペア」又ハ「キロヴォルト、アムペア」時ヲ以テ表示スルコト
三 「本期間平均最大使用電氣力」トハ毎日ニ於ケル最大使用電氣力ノ本期間ニ於ケル平均數ヲ謂フ

車 貨	合 計	
	噸	噸
電車		
附隨車		
合計		

注意 一 電車重量ハ空車ノ重量ヲ掲クルコト
二 車輛取附電動機ハ記銘馬力別ニ記載スルコト
第九表 使用車輛數及走行哩數並乘客貨數量等

營業日數	客 車		貨 車	
	輛	輛	輛	輛
本期間總數				
平均一車一日				
本期間總數				
平均一車一哩				
本期間總數				
平均一車一日				
本期間總數				
平均一車一哩				

注意 一 本表ニ掲クル名稱以外ノ者ハ便宜相當欄ニ計上スルコト
第十二表 固定資本及收支内譯

出 支	入 收	
	計	計
總計		
其他ノ事業		
電氣事業		
其他ノ營業費		
其他ノ事業		
其他ノ營業		
總計		

注意

- 一 其他ノ事業トハ電氣事業以外ノ事業ヲ云フ
- 二 貸借對照表及損益計算書ニ依リ本表ニ掲ケタル内課項目ノ計數ヲ算出シ得ラル、場合ニハ別ニ本表ヲ作成スルニ及ハス

第一表

架空電線路

種別	送電線		配電線		合計	實數
	現	増減	現	増減		
電線路互長	哩	哩	哩	哩		
長延線電	特別高壓	高低	特別高壓	高低		
合計						
支持物	木柱	鐵塔	木柱	鐵塔		
合計						

注意

- 一 哩以下ハ少數一位トス但シ四捨五入ノコト
- 二 送電線トハ發電所變壓所及配電所相互間ヲ連絡スルモノヲ謂ヒ配電線トハ發電所變壓所又ハ配電所ヨリ需用家ニ至ルモノ(引込線ヲ除ク)ヲ謂フ
- 三 發電所變壓所又ハ配電所ヨリ需用家ノ發電所變壓所又ハ配電所ニ至ル電線ハ送電線中ニ計上ス
- 三 同一ノ電線路ニ送電線及配電線併架ノ部分アル場合ニ於テ其送電

注意

種類ニハ鐵裝、非鐵裝ノ別及絶緣物ノ種類等ヲ記載スルコト

第四表 供給區域別架空電線路

供給區域	電線路		電線延長		柱上變壓器	合計
	互長	哩	哩	哩		
合計						

注意

- 一 供給區域ハ市町村毎ニ區分スルコト又供給區域外ニ渉ル配電線ハ便宜ノ區域内ニ入ルコト
- 二 右ノ外第一表ノ例ニ依ル

第五表

供給區域別中配電線路

供給區域	電線路		電線延長		配電變壓器	合計
	互長	哩	哩	哩		
合計						

注意

第一表第二表及第四表ノ例ニ依ル

第六表 敷地別架空電線路

敷地	電線路互長		支持物數		電線路互長	支持物數
	本	前	本	前		
合計						

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽機

第二表

地中電線路

種別	送電線		配電線		合計	實數
	現	増減	現	増減		
電線路互長	哩	哩	哩	哩		
長延線電	特別高壓	高低	特別高壓	高低		
合計						

注意

- 一 他人ノ暗渠、管、樋等ヲ共用シテ其内ニ布設セル部分アルトキハ第一表注意第四項ニ準ス
- 二 前項ノ外第一表ノ例ニ依ル

第三表

種類別地中電線延長

製造者名	種類	心線數	心線ノ太サ	延長
				尺

〔長野警〕

注意

第一表ノ例ニ依ル

第七表

敷地別地中電線路

敷地	電線路		電線延長		合計
	本	前	本	前	
合計					

注意

第六表ノ例ニ依ル

第八表

需用家數

種別	常時燈		臨時燈		合計
	併	定	併	定	
供給區域	戸	戸	戸	戸	
前期末ニ比シ増減					

特別高壓線看守人ノ件

電監甲第六八三二號通信省電氣局長通牒(明治四十三年九月六日)
特別高壓電線路ト人家其他トノ水平距離ニ關シテ同施設規程第十八條ノ規程モ有之條處該電線路看守人ノ詰所ハ爾今右人家中ニハ包含セラレサルモノト決定相成リ候條右ニ依リ取扱相成度

電柱及電線ニ關スル注意ノ件

通信省告示第五百三十五號(大正二年六月二十七日)
明治三十一年六月通信省告示第七十號ヲ左ノ通改正ス
電氣ニ關スル注意心得

- 一 電柱及電線ニハ成ルヘク接觸セサルヲ良トス殊ニ暴風雨、雪、雷鳴ノ際ニハ最モ注意スヘシ、低壓電燈、電力線及電信電話線ハ通常危險ナシト雖モ暴風雨、雪、雷鳴等ニ事變ノ際ニハ電燈、電力用高壓電線又ハ電氣鐵道用電線ト混觸スルノ虞アレハ右等ノ場合ニハ總テ電柱、電線類ニ身體ヲ觸レサル様注意スヘシ、電線ヲ支持スル碍子、腕木又ハ電柱ノ全部若ハ一部ヲ赤色ニ塗リタルモノ又ハ左ノ標示アルモノハ高壓又ハ特別高壓電氣ノ通スルモノナレハ特ニ注意スヘシ
二 電柱、電線ノ近傍ニ出火アリテ電柱類燒ノ虞アリトモ安リニ刃物ヲ以テ電線ヲ切斷シ又ハ電柱ヲ倒ス等ノコトアルヘカラス此ノ道ニ心得ナクシテ之ノ試ムルトキハ意外ノ危險ニ陥ルコトアリ注意スヘシ
三 電柱、腕木、電線又ハ之ニ接觸セル物品ニ火花ヲ發シ又ハ異狀アルトキハ速ニ警察官又ハ電氣事業者ニ報知スヘシ但シ電氣鐵道ニ於テ電車

注意一尺

ノ類ヲ付シ之ニヨリ容易ニ開閉器ヲ遮斷シ得ル様ニ裝置スヘシ

- 九 若シ電氣ノ爲ニ氣絶シタルモノアラハ直ニ被害者ヲ其ノ電線ヨリ取離スカ又ハ電氣ノ傳ハラサル様便宜ノ方法ヲ施スヘシ
十 電氣ノ傳ハラサル様ニナスニハ電氣事業者ヲシテ適當ナル方法ヲ採ラシムヘキハ勿論ナルモ第八ニ記載セル方法ニ依リ引込口開閉器ヲ遮斷スルカ或ハ乾キタル竹木ノ長キ柄ヲ有スル刃物ニテ電線ヲ斷テ截ルヘシ(注意ノ標示アル電線ヲ除ク)被害者ヲ電線ヨリ取離ス場合ハ勿論此ノ場合ニ於テモ素手ニテ爲ササル様注意シ必ス乾キタル竹木或ハ布片類ノ如キ電氣ノ傳ハリ難キモノヲ用キテ之ヲ行フヘシ
十一 人工呼吸ヲナスニハ被害者ノ頸及胸部ノ衣類ヲ弛メ且ツ其ノ上衣ヲ脱シテ之ヲ疊ミ肩ノ下ニ敷キ頸ヲ後方ニ垂レシメ左記ニ法ノ一ニ依ルヘシ、縱令蘇生ノ見込ナキ様見ユルトモ少クトモ醫師ノ來ル迄ハ之ヲ繼續スヘシ
甲法 手術者ハ假死者ノ頭ノ上方ニ於テ跪キ其ノ腕ヲ握リ第一圖ニ示ス如ク之ヲ頸ノ上方ニ充分引伸ハシ(斯クスルトキハ胸部擴大セラレ空氣ハ肺中ニ進入ス)斯クシテ三四秒ノ後(一、二、三ト數フル時間ノ後)第二圖ニ示ス如ク引伸ハシタル兩腕ヲ前方ニ曲ケ胸部ヲ強ク壓迫スヘシ(斯クスルトキハ肺中ノ空氣體外ニ排出サル)此ノ方法ハ一分時間十五六回ノ割合ヲ以テ之ヲ繰返スヘシ
乙法 手術者ハ第三圖ニ示ス如ク假死者ノ上ニ跨リ左右兩掌ヲ胸壁ノ下部ニ當テ(其ノ拇指ヲ鳩尾(ミゾオチ)ノ邊ニ置ク様當カフヘシ)肺中ノ空氣ヲ排出スル爲メ其ノ部分ヲ緊縮シツツ前方ニ向テ強ク壓迫ヲ加ヘシ此ノ時手術者ハ第四圖ニ示ス如ク自己ノ身體ノ重ミヲ利用スヘシ斯クシテ三四秒ノ後急ニ手ヲ離スヘシ此ノ方法モ亦一分時間十五六回ノ割合ヲ以テ之ヲ繰返スコトヲ要ス
十二 人工呼吸法ヲ行フ間ニ他ノ一人ハ舌ヲ挿ミテ(若シ舌挿ミノ用

通行ノ際火花ヲ發スルハ通常ナレハ之等ハ別段トス
四 電線ノ切斷垂下セルモノアルモ安リニ之ニ觸ル可ラス萬一已ムラ得スシテ切斷垂下線ヲ動かストキニハ乾キタル布ニテ厚ク手ヲ包ミ乾燥シタル長キ竹木ノ類ヲ以テ間接ニ之ニ觸ルヘシ其ノ間乾キタル靴若ハ下駄類ヲ穿ツヲ良トス若シ靴履又ハ草鞋ノ儘ニテ刃物或ハ金棒類ヲ以テ電線ニ觸ルトキハ電氣ヲ受クルコトアルヘシ
室内用電力電燈線ニ關スル注意
五 室内用電線ハ電氣ノ漏洩ヲ防ク爲メ絲「ゴム」又ハ布ニテ包ミアルモ若シ損傷ノ箇所アルトキハ危險ノ虞アリ然ルニ往々電線ヲ戸障子間ノ如キ開閉ノ爲メ摩擦セラレル所ニ挾ミ又ハ電燈球ヲ疎漏ニ上下ニ動かシ之カ爲メ線ノ外包ヲ破損シ其ノ儘ニ放棄シ置クコトアリ此ノ如キハ不時ニ發火スル危險ノ虞アルモノナレハ室内用電線ハ決シテ損傷セサル様注意シ若シ損傷ノ箇所アラハ速ニ電氣事業者ニ報知シ修補セシムヘシ
六 電線ヲ瓦斯管、水道管其ノ他ノ金屬體ニ接セシメ又ハ釘ニ懸クル等ハ其ノ外包ノ損傷ヲ來シ易ク電氣ノ漏洩ヲ惹キ起ス虞アルモノナレハ必ス之ヲ避クヘシ
七 電燈ノ點滅ハ電燈點滅器ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ際成ルヘク電線電氣器具等ニ手ヲ觸ルヘカラス、電線其ノ他電氣器具ヲ濡ラストキハ電氣ノ漏洩ヲ導キ易ク危害ヲ招クノ虞アリ故ニ室内用電線電球其ノ他電氣器具ハ成ルヘク濡ラサル様注意シ且ツ決シテ濡手ニテ取扱フ可カラス
電氣器具及室内電線等ヲ玩弄シ又ハ水氣アル手指ニテ扱ヒ或ハ靴履ノ儘土間ニ在リテ之ニ觸ルル等ハ電氣ニ感シ易ク危險ナレハ電氣需用者ハ篤ク使用人等ニ教ヘ常ニ注意スヘシ
八 室内電線其ノ他之ニ接觸セル電氣器具ニ火花ヲ發シ或ハ其ノ他異狀アリト認メタルトキハ引込口開閉器ヲ遮斷スヘシ引込口開閉器ニハ麻繩

長野警署

- 意ナキ時ハ布片ノ類ニテ(氣絶シタル者ノ舌ヲ摘ミ空氣ヲ肺中ニ吸込マシムル際ハ之ヲ引出シテ空氣ノ肺ニ進入スルコトヲ容儀ナラシメ又空氣ヲ肺ヨリ排出スル際ハ舌ヲ元ニ戻スヘシ)斯クシテ之ヲ繰返シ行フコトハ人工呼吸法ニ最モ必要ナルコトニシテ決シテ之ヲ忽ニスヘカラス故ニ若シ氣絶シタル者カ堅ク口ヲ閉テ舌ヲ摘ミ出スコト能ハサル時ハ棒、木片或ハ小刀ノ柄等ニテ強テ口ヲ開カシメタル上之ヲ行フヘキモノトス又假死者ニ水其ノ他ノ飲料ヲ飲マシメント試ムヘカラスハ勿論荷且ニモ水ヲ吹掛タル等ノコトヲナスヘカラス是流動物ハ呼吸器ヲ閉鎖セシムルノ虞アルカ故ナリ尙手助けアラハ「ガーゼ」又ハ綿ニ「アムモニア」水ヲ合マセ之ヲ氣絶シタル者ノ鼻ノ附近ニ置キ其ノ呼吸機能ニ刺戟ヲ與フルヲ可トス
十三 電氣事業者ハ常ニ發電所、變電所、蓄電所、開閉所及工夫數所等ニ人工呼吸法ニ必要ナル舌挿ミ並ニ「アムモニア」水等ヲ備ヘ尙従事員ニ常時人工呼吸法ヲ習得セシメ置クヲ可トス
十四 本告示中電氣需用者ニ知悉セシムルノ必要アル事項ハ電氣事業者ニ於テ之カ周知ノ方法ヲ講スヘシ(圖略ス)

電氣事業ニ關スル注意方ノ件

收第四二二五號(大正四年三月三日)
警察署 警察分署
架空高壓電線路ノ近傍ニ於ケル金屬製煙筒若ハ之ニ類スル工作物トノ接觸ニ依リ生スル危險豫防ニ關シ別紙之通り其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條明治三十九年本縣令第三十一號並ニ同年警收第四八一三號指示ヲ參照シ之カ危險防止上遺策ナキヲ期セラレヘシ(別紙)
電監甲第六〇四八號

大正四年二月二十三日

逓信省電氣局長

棟居喜九馬

長野縣知事力石雄一郎殿

通牒

架空高壓電線ト湯屋煙突ノ如キ金屬製小煙突若ハ之ニ類スル工作物トノ接觸ヨリ生スル危險預防法ニ關シテハ明治三十九年三月通法甲第九〇號及同年八月通法甲第五〇二五號ヲ以テ及通牒置候次第モ有之候處斯ル煙突及其ノ支線ハ地下五尺以上ノ深サニ埋設シタル地板ト完全ナル電氣的接觸ヲナサシムルハ完全ニ危險ヲ防止シ得ル義ニ付可成其ノ施設ヲナサシム様可然御取計相成度最近ニ於ケル事故ノ實例別記ノ通ニ有之依命此段及通牒候

(別記)

高壓線ト煙突トノ接觸ニ依ル事故實例

一、三重縣四日市市北勢電氣株式會社

大正三年十月三十日午前六時二十五分

桑名町字殿町酒造業安達半三郎所有酒倉構内煙突

該社高壓線カ煙突支線ニ接觸シ下田半太郎感電即死ス尙該支線取附板界ニモ漏電發火セルモノナリ

二、宇治川電氣株式會社

大正三年九月十三日零時五十五分

兵庫縣川邊郡尼ヶ崎町大坂鉾鑛業株式會社構内煙突

該會社高壓線カ煙突支線ト接觸シ煙突地線ニ漏電シ常備人夫松本淺吉接觸感電死亡ス

特別高壓電線路取締規則

逓信省令第五十五號(明治四十年十二月二十一日)

特別高壓電線路取締規則左ノ通之ヲ定メ本日ヨリ施行ス

本條ノ罰則ハ第二條及第三條ノ電氣事業者カ法人ナル場合ニ於テハ之ヲ其代表者ニ適用ス

特別高壓電線路取締ニ關スル件

警收第一八二六三號(明治四十一年三月二十六日)

警察署 警察分署

明治四十年十二月逓信省令第五十五號特別高壓電線路取締規則第一條ニ依ル標識ハ別紙寫ノ通り制定セラレ信濃安曇兩電氣株式會社ニ對シ違シ相成候ニ付テハ該標識記載ノ事項ニ違背スル者アルトキハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮若ハ拘留科料等其輕重ニ應シ處罰セララルヘキ規程ニ候條取締向一層注意セララルヘシ

長野縣達第百三號(明治四十一年三月二十五日)

(各通)

信濃電氣株式會社

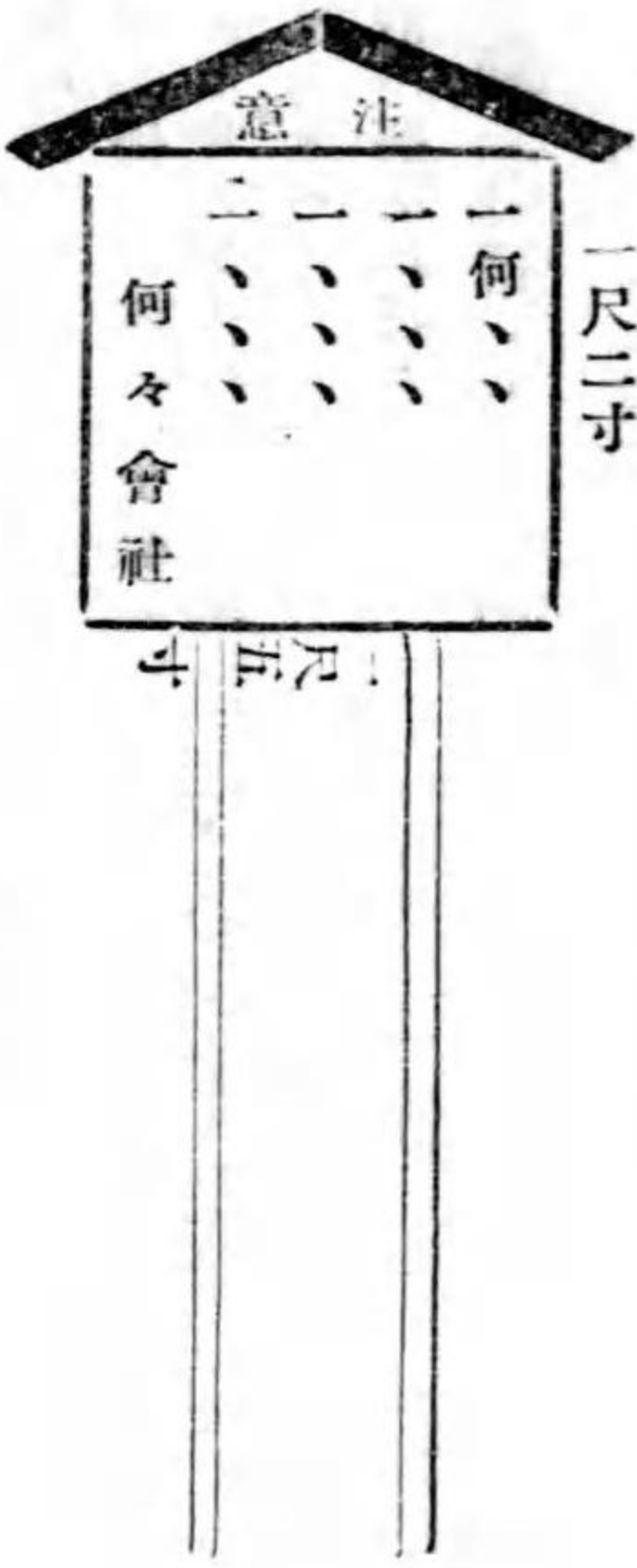
特別高壓電線路取締規則第一條ニ依ル標識ハ左ノ雜形ニ依リ建設スヘシ但シ建設スヘキ地點ハ別ニ之ヲ指定ス

(左記)

左ノ木札ニ後記ノ如ク記載シ傍平假名ヲ付シ讀易カラシムヘシ木札ニハ地ニ白ペイントヲ塗リ黒ペイントニテ文字ヲ書スヘシ

(雜形)

一尺二寸



第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽機

第一條 特別高壓架空電線路ヲ施設スル電氣事業者ハ其電線路ノ附近地ニ於テ適當ノ標識ヲ設クヘシ

第二條 前條ノ電氣事業者ハ特別高壓電線路保守區間並其區間ニ於ケル保線主任者及其駐在所ヲ定メ地方長官(東京府ニ在リテハ)ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ届出ニ係ル事項ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第三條 第一條ノ電氣事業者ハ保線主任者若ハ保線係員ヲシテ電線路ヲ毎日巡視セシムヘシ

第四條 保線主任者若ハ保線係員其保線區間ニ於ケル特別高壓電線路ニ危險ハ其兆候アルコトヲ知リタルトキハ速ニ現場ニ出張シ適當ノ措置ヲ爲スヘシ

第五條 親權者、後見人其他監督義務者ハ十六歳未満ノ者ニ對シ左ノ行爲ヲ制止スヘシ

一 電柱ニ接近シテ遊戯ヲ爲スコト

二 特別高壓電線路ノ近傍ニ於テ紙屑ヲ揚ケ又ハ瓦礫ヲ擲チ其他電線路ニ障害ヲ及ボスヘキ遊戯ヲ爲スコト

第六條 特別高壓電線ノ支持物及其周圍ノ藩籬等ニ動物又ハ舟筏等ヲ繫留スヘカラス

第七條 特別高壓電線ノ支持物ニ接近シテ焚火ヲ爲スヘカラス

第八條 特別高壓電線路ノ電線、電柱、碍子其他ノ工作物ヲ毀損シ又ハ之ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲チ或ハ柱竿ヲ觸レ其電線路ニ接近シテ濫ニ建造物ヲ建設スル等電氣的障害ヲ生スヘキ行爲ヲ爲スヘカラス

第九條 第二條又ハ第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三條第四條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ(重禁錮)ニ處ス

(記載事項)

此ノ附近にある頭ノ赤キ電柱ハ危險に付左ノ條々にそむくときは罰せらる

一 柱ノ傍にて火を焚クヘカラス

一 工作物、物を毀損、品物を懸け石瓦の類を擲ち竿柱の類を立て懸クヘカラス

一 線路に接近して濫りに建物を設クヘカラス

一 親權者、後見人等は十六歳未満の者をして柱の傍にて遊戯を爲さしめ

工作物を毀損し品物を懸け石瓦の類を擲ち又ハ紙屑を揚げ竿柱の類を

立て懸けしむヘカラス

何々會社

地方長官處理事項

通第四五八二號逓信大臣内訓(明治三十五年九月十五日)

長野縣

本年八月逓信省令第三十六號電氣事業取締規則ノ執行ニ關シ左ニ掲クル場合ハ各指定期限内ニ於テ其ノ事項ヲ本大臣ニ報告スヘシ

但明治三十年七月通第四四七八號内訓ハ廢止ス

右内訓ス

一 第一百六條ノ處分ヲ爲シタルトキ但其ノ事由ヲ具スヘシ

右即日

一 第二十六條ノ届出アリタルトキ(第十六條第四項ニ依ル第一條第三號ノ電氣事業ニ關スルモノヲ除ク)但届書ノ謄本ヲ添付スヘシ

右三日以内

一 第二十三條ニ依リ認可ヲ與ヘタルトキ但第一項第一號及第二號書類ノ謄本ヲ添付スヘシ

一 第八十八條第一項但書ニ依リ認可ヲ與ヘタルトキ但工事方法書ノ謄本ヲ

添付スヘシ
第一百十一條又ハ第一百十二條ニ依ル犯罪事項ニ就キ告訴、告發又ハ處罰セ
ラレタル者アリタルトキ但其年月日、事由、適用條項及違反者ノ身分氏
名等ヲ具スヘシ
右一週間以内

電氣事業法施行規則ニ依ル書類 竝ニ警察經由ノ件

長野縣令第二十九號(大正三年九月四日)
明治四十四年九月逕信省令第二十五號電氣事業法施行規則ニ依リ當廳ニ差
出ス申請及届出ニ關スル書面ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

電氣事業ニ關スル申請事項取扱 方ノ件

保祕發第五號警察部長(大正三年九月一日)

各郡長

電氣事業法第七條第一項及同第八條ニ於ケル行政官廳ノ職權ハ同法施行規
則第二十三條ニ依リ貴官ニ委任セラレ居候處該申請事項ハ一面個人ノ利害
ニ重大ノ關係ヲ有スルヲ以テ精確ニ其實情ヲ調査シ兩者ノ利害ヲ斟酌考量
シカメテ妥協調停ノ趣旨ニ從ヒ平衡ナル處分ヲ期スヘキ旨其筋ヨリ向調
次第モ有之候條當業者ヨリ申請ノアリタル場合ハ右ニ依リ御取扱相成度依
命此段及通牒候也

電氣事業申請届出ニ關スル調査 ノ件

保祕收第五一號(大正四年五月十八日)

生スルコトナキヤ否

(ホ) 以上各號ノ外意見ヲ附スヘキ必要アリト認ムル事項

第二、電氣事業法施行規則第十一條ニ依リ起業目論見書又ハ工事設計書中
ノ事項變更許可申請書、電氣事業讓渡認可申請書、會社合併認可申請書ノ
副本ヲ受理シタルトキ又ハ大正四年四月逕信省令第二十三號ニ依リ電氣
事業法ヲ準用スヘキ事業ノ認定ニ關スル申請書ノ副本ヲ受理シタルトキ
ハ前項ニ準シ其ノ關係事項ノ外事業ノ讓渡又ハ會社合併ニ在リテハ料金
等ノ變動ニ依リ需用者ニ及ホスヘキ影響及讓渡又ハ合併手續ノ適否、準
用事業ノ認定ニアリテハ重要ナル産業又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ナ
リヤ否等取調意見内申セララルヘシ

第三、大正四年二月逕信省令第十三號ニ依リ電氣供給規程ノ副本ヲ受理シ
タルトキハ料金額其ノ他供給上ノ條件ノ適否ヲ調査シ必要ノ場合ニ於テ
ハ意見内申セララルヘシ

第四、電氣事業ノ許可ニ附シタル命令ニ依リ事業開始期間又ハ會社成立期
間伸長ノ許可又ハ認可申請書若クハ他ノ事業兼營ノ認可申請書ヲ受理シ
タルトキハ期間ノ伸長ニ在リテハ延期ノ事由及申請期間内成立又ハ開業
ノ見込ノ有無(電氣鐵道事業ノ開業延期ニ對シテハ軌道又ハ鐵道ノ特許
又ハ免許ニ附シタル工事竣成期限等トノ關係ヲモ調査スルコト)兼營ニ
アリテハ兼營事業ノ計畫及本業ニ及ホスヘキ影響等取調意見ヲ附シ進達
セララルヘシ

第五、電氣事業法又ハ同施行規則等ニ依ル犯罪事項ニ就キ告訴、告發又ハ
處罰セラレタルモノアルトキハ其ノ都度其ノ年月日、事由、適用條項及
違反者ノ身分、氏名等ヲ具シ報告セララルヘシ

電氣事業ニ關スル件

保祕收第五三二號(大正八年一月十四日)

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

警察署長 警察分署長

明治四十四年九月逕信省令第二十五號電氣事業法施行規則ニ依ル申請届出
アリタルトキハ左記各項ニ依リ處理セララルヘシ
追テ大正三年八月二十九日附保祕發第六號内示ハ廢止ス

左記

第一、電氣事業法施行規則第五條ニ依ル電氣事業經營許可申請書ノ副本ヲ
受理シタルトキハ左ノ各號ノ事項詳細取調意見内申セララルヘシ

(イ) 起業能力及起業ノ組織
起業者ハ其職業資力、信用ノ程度等ニ徴シ果シテ起業遂行ノ見込アル
モノナルヤ否ヤ(起業者ノ職業、資力、信用ノ程度等ニ關スル調査添
付ノコト)

(ロ) 公共團體ノ起業ニ在リテハ該資金調達ノ確否
公共團體以外ノ起業者ニシテ株式會社ノ組織ニ依ラサルモノナルトキ
ハ該會社組織ト爲スヲ欲セサル事由及之カ適否

(ハ) 起業ノ確否
土地ノ狀況需用ノ程度等ニ徴シ該事業ハ果シテ豫定ノ收入ヲ得テ確實
ニ成立維持シ得ヘキ見込アリヤ否(町村別需用見込燈數特ニ必要ノ場
合ハ供給區域ノ町村又ハ集團セル部落ノ戶數調等添付ノコト)

(ニ) 電氣工作物施設ニ關スル故障ノ有無
發電所、變電所、蓄電所等ノ近傍及電線路沿道ノ人民又ハ公共團體等
ニ於テ右施設ニ關シ故障ヲ唱フルコトナキヤ否又起業地域内ニ於テ已
許可事業アルトキハ電線路其他工作物施設上土地使用ニ關シ支障ヲ

同ノ同一事業者ニ對スル關係
同一ノ供給區域又ハ之ニ近接セル地域ニ於テ同一事業ニ就キ他ニ已許
可ノモノアルトキハ該事業者相互間ノ關係又同一ノ供給區域ニ於テ他
ニ申請者クハ計畫中ノモノアルトキハ該事業者相互間ノ關係及比較並
關係事業者妥協合同等ノ見込ノ有無

一、町村ノ一小部分ニ對シテノ事業ヲ開始シ普及程度不充分ト認ムルモ
ノアラハ其ノ町村字名及實況
一、電力不足ノ爲供給ヲ開始シ能ハサルモノアリヤ否ヤ
一、晝間動力ノ需用アルニ不拘電力専用線ノ施設ナキ町村又ハ部落アリヤ
否ヤ

一、事業開始ノ延期ヲ重ナルモノニシテ他ノ適當ナル事業者ニ於テ供給容
易ナル場合アリヤ否ヤ
(別紙)

電監第七五四號依命通牒(大正七年十二月十八日)

逕信省電氣局長
長野縣知事殿

電氣供給事業中往々事業經營又ハ供給區域擴張ノ許可ヲ得テ再々延期ヲ
重ネテ事業ヲ開始セサルモノアリ又ハ町村ノ一大部分ニ對シテノ事業ヲ
開始シ更ニ之ヲ普及セサルモノ有之當該地方一般公衆ノ不便甚シキ爲之ニ
關スル陳情等モ不尠候處右ニ關シテハ經濟狀態ヲ斟酌シ緩急ヲ計リ適宜左
記各項ニ依リ御處理相成度

一、未開業ノモノニ對シテハ速ニ供給ヲ開始セシムルコト尙事業ヲ普及セ
サルモノニ付テハ普及ヲ督勵スルコト

二、既許可供給區域ニ對シ事業開始ノ延期ヲ重ナルモノニ付テハ他ノ適當
ナル事業者ニ於テ供給容易ナル場合ニ在リテハ當該供給區域ハ之ヲ削除
セシムルコト

三、電力不足ノ爲供給ヲ開始シ能ハサルモノニ對シテハ電力補給ノ途ヲ講

四七七

四、水力電氣事業ニシテ電力専用線ノ施設ナキ爲害間動力ノ供給ヲナササルモノニ對シテハ專用線ノ施設ヲ爲サシムルコト以上

電氣災害報告方ニ關スル件

警收第一二五三三號(明治三十二年十一月十五日) 警察署長 警察分署長 自今電氣事業ヨリ多大ノ災害ヲ惹起シタル場合ニ於テハ其ノ筋ヘ即報ノ都合モ有之條急速事實ヲ調査シ直ニ其ノ概要ヲ報告スヘシ

電氣事故ニ關スル件

甲收第二九三〇九號(大正七年十月十九日)

電氣事故ニ基因スル災害豫防取締方ニ關シテハ屢々指示セル處アリ事故發生ニ方リ之ニ對スル應急處置ノ最モ迅速ヲ要スルモノナルニ拘ラス其ノ處置ノ遲緩ナル結果災害ノ程度ヲシテ増大ナラシムルノ事例尠カラサルハ保安上莫ニ寒心ノ至リニ堪ヘス其ノ署ニ於テハ常ニ技ニ留意シ電線路又ハ需用家屋内電氣工作物其ノ他ニ電氣事故發生ノ虞アルモノ又ハ事故アルコトヲ認知シタルトキハ直チニ當該電氣事業者ノ最寄技術員詰所ニ通知シ事業者ヲシテ急速適宜ノ處置ヲ取ラシムルニ最メラレヘク之カ爲メ豫メ電氣事業者トノ間ニ打合せヲ爲シ以テ電氣事故ニ因ル災害豫防ノ方法ヲ講スルト共ニ事故發生ニ對スル應急處置ノ敏速ヲ計ラハルヘシ

電線ト瓦斯管トノ混觸豫防裝置

ニ關スル件

收第一三〇二五號(大正八年十二月一日)

警察署長 警察分署長 同一家屋内ニ設置スル電線ト瓦斯管トノ接觸ノ爲火災等ヲ惹起シタル事例アリ之カ豫防ノタメ本月二十日逕信省令第九十一號ヲ以テ電氣事業法第十

電氣事業ノ取締ニ關シテハ平素嚴重視察シツ、アル等ノ處尙ホ平素左記ノ各項ニ對シテハ特ニ一層ノ注意ヲ爲シ該當ノ事實アラハ其時々報告スヘシ(左記) 通工甲第二六一六號 電氣事業ノ監督ニ關シテハ電氣事業取締規則第六條ニ依リ貴廳ニ於テ平素相當監督ヲ御執行相成居候處既設電氣工作物ニ對シテハ左記ノ事項ニ就キ一層嚴密ニ御監督ノ上其都度監督ヲ執行セラレタル電氣事業者名及監督ノ範圍並ニ其成績ヲ詳細御報告相成度命ニ依リ此段及通牒候也 明治三十七年七月九日 逕信省通信局長 小松謙次郎

長野縣知事 關清英殿

- 一 電柱及腕木腐朽セルモノ並ニ碍子破損セルモノナキヤ否ヤ
二 電線被覆物ノ損傷セルモノナキヤ否ヤ
三 電線相互又ハ電信電話線若ハ其他ノ電氣信號線等ト接近シテ危險ヲ生スルノ虞アル箇所ナキヤ否ヤ
四 高壓電線ヲ支持スル腕木ノ褪色セルモノナキヤ否ヤ
五 同規則第四十六條第四項ニ依ル電線ヲ架渉セル電線路ニシテ同條同項第二號ノ豫防裝置ヲ施シアラサルモノ又ハ其裝置ノ不完全ナルモノナキヤ否ヤ
六 市街ノ道路上ニ架設セル電線路ニシテ同規則第四十八條ノ制限ニ適合セサルモノナキヤ否ヤ
七 電線ノ表地表上ノ高サ並ニ造管物トノ接近距離同規則第四十九條ノ制限ニ適合セサルモノナキヤ否ヤ
八 架空引込線ノ幹線ヨリノ分岐點ニシテ同規則第五十三條ノ制限ニ適合セサルモノナキヤ否ヤ
九 共同引込線ニシテ同規則第七十八條ノ制限ニ適合セサルモノナキヤ否ヤ

五條ニ依ル障害防止ニ關スル規定公布相成候處本件ニ關シテハ既ニ縣令瓦斯事業取締規則第七條ニ於テ規定シアルヲ以テ之ニ抵觸スルモノ無カルヘシトハ思料セラレ、モ今同其ノ筋ヨリ特ニ通牒ノ次第モ有之候ニ就テハ同一建築物内ニ電線ト瓦斯管トヲ併設スル場合ハ兩者接觸セシメサル様各事業者ニ注意ヲ與ヘ工事施行ノ際ハ嚴重監督ヲ加ヘ取締上遺憾ナキヲ期セラレヘシ

追テ此際既設工作物ニ就キ關係事業者ヲ立會ハセ巡查部長以上ニ於テ精密實地調査ヲ遂ケ本文ニ載觸スルモノアラハ其ノ危險ノ程度著シキモノヨリ逐次改修ヲ行ハシメ終了次第其ノ要領ヲ左表ニ準シ申報セラレヘシ尙現在當該事業者ナキ署ト雖將來事業者アリタル場合ハ前文ノ趣旨ニ依リ取締ルコト

左表

電線ト瓦斯管トノ混觸改修結果表

署名

Table with columns: 事業者別, 改修事項, 改修命令、著手及竣工年月日, 備考. Rows include 何々電氣株式會社, 何々瓦斯株式會社, 何々瓦斯株式會社.

電氣事業取締方ニ關スル件

警收第一〇一九一號(明治三十七年七月二十日)

警察署長 警察分署長

(六項乃至九項ハ當該官廳ニ於テ特ニ制限外ノ認可ヲ與ヘタルモノヲ除ク) 追テ電氣事業取締規則第十八條ニ依リ届出ニ係ル改修工事又ハ第四百四條ニ依リ改修命令ニ係ル工事ニ付テハ其届出若ハ指定改修期間内ニ於ケル工事進捗ノ程度等篤ト取調相當ノ時期ニ於テ夫々報告スヘシ 警發第三一八號(明治三十七年十二月二十三日) 警察署 警察分署

電氣事業取締方ノ義ニ付指示

電氣事業取締方ニ關シ其筋ノ協議ヲ遂ケ左記ノ廉々一定セシニ付事業者所在ノ警察官署ニ於テハ直チニ事業者ニ示達方取計フヘシ 但シ第二項ニ依リ届出タル代務者ニシテ不適當ト認メ又ハ主任技術者數ヶ月曠缺スルトキハ上申スヘシ

(左記)

- 一 可撻紐線ハ濫リニ隔リタル場所ヘ電燈球ヲ移動シ得ル如キ長キ物ヲ使用セシムヘカラス出來得ル限リ短縮スルヲ要ス但シ土間又ハ溫氣ヲ帶ヒタル床ニ懸垂セル「ランプ」線ハ如何ナル場合ニ於テモ其ノ土面又ハ床面ヨリ四尺以上ヲ離隔スル様施設セシムルヲ要ス 主任技術者ニ於テ代務者ヲ選任シタルトキハ其ノ住所氏名年齢及履歷ノ大要ヲ届出シムヘシ
二 電氣事業取締規則第二十四條ノ届書ハ左ノ様式ニ據ラシムヘシ

(様式)

明治 年 月分電燈(電動機)異動届

Table with columns: 引込線電共同引込線, 電燈種類, 異動事由及個數, 現在數, 需用ノ場所及其ノ氏名. Rows include 白熱燈何ツツト何, 同上, 二, 一, 一.

モ接觸スルコトナキ様該電線路ヲシテ相當距離ヲ有タシムルカ又ハ其間ニ完全ニ接地セル保護線ヲ架設セシムルヲ要スル旨其筋ヨリ通牒有之候條右ニ抵觸スル箇所ハ急速改修スヘキ様會社ニ示達スルト共ニ實地ヲ調査シ遺策無キ様實行セシムヘシ

追テ高壓電線路建設後ニ於テ本文ノ如キ場合ヲ生シタル節ハ其ノ都度直ニ改修スルヲ要シ候條此ノ旨併テ電氣事業者ニ示達スヘシ

警收第四八一三號(明治三十九年九月)

警察署 警察分署

電氣事業ノ義ニ付指示

今般縣令第三十一號ヲ以テ架空高壓電線路ノ近傍ニ於テ金製煙突又ハ之ニ類スル工作物ヲ建設若ハ移轉スヘキ場合ニ關スル件發令相成候處畢竟本令ハ相互ノ危險ヲ豫防シ障害ノ惧ナカラシメントスルニ在ルヲ以テ遺般ノ通知ヲ受ケタルトキハ當該電氣事業者ト共ニ實地ニ臨檢シ本年三月二十八日付警收第四八一三號指示ニ基キ相當豫防ノ裝置ヲ爲サシムヘク若シ周圍ノ關係上保護線ヲ設ケシムルコトヲ得サル場所ナルトキハ煙突ニ支線ヲ設ケ傾斜轉倒ノ虞ナキ様完全ナル裝設ヲ爲サシムヘシ

但シ既設ノ煙突又ハ之ニ類スル工作物ニシテ周圍ノ關係上保護線ヲ設ケシムルコトヲ得サル場所ニ對シテモ本文ニ依リ速ニ裝置セシムヘシ

警收第三四三二號(明治四十年三月十八日)

警察署 警察分署

電氣事業ニ關スル指示

近時電氣供給事業者中需用者ニ達スル電線路延長工事ノ爲不當ノ工費ヲ要求シ若ハ自己ノ經濟上多少ノ利益ナル場合ニハ種々ナル口實ノ下ニ徒ラニ需用者ニ對シテ電氣ノ供給ヲ遷延スル等ノ事實往々有之哉ニ聞及候處右ハ事業ノ性質ニ乖反スルノミナラス公衆ノ不便少カラサル義ニ付若シ前記ノ

一 火カ原動力ト爲セル場合ニハ果シテ火カニ依リ起業スルノ真意ナ

ルヤ又ハ實際水力電氣事業ヲ經營セントスルニ拘ラス申請當時ニ於テ水利使用許可ノ出願中ニ係ルモノナルカ若ハ其ノ他ノ事情ニ依リ一先火力ヲ原動力ト爲スノ設計ニ依リ申請シタルモノニ非ルヤ否ヤ調査ノ上副申スヘシ

二

個人名義ヲ以テ水利使用ノ許可ヲ得タルニ拘ラス會社發起人名義ヲ以テ事業經營許可申請ヲ爲セルカ如キ水利權名義人ト電氣事業許可申請人ト相違スルコトナキヤ否ヤヲ調査シ若シ相違スル場合ニハ水利使用許可ニ關スル相當手續ヲ履行セシムヘシ

三

電氣鐵道事業經營許可申請又ハ其ノ延長變更等ノ許可申請ニ關シテハ起業目論見書ニ記載セル軌道經過地名ト軌道條例ニ依リ特許命令書ニ表示セル軌道敷地ト相違スルコトナキヤ否並同命令書ニ規定セル電氣事業許可申請期間ヲ經過セルコトナキヤ否等ヲ調査シ尙其ノ工事施行認可申請等ノ場合ニハ特許命令書ニ依ル土木工事ノ著手及落成期限トノ關係ヲ調査シ相當副申スヘシ

四

架空電線路(電車線及引込線ヲ除ク)ヲ市街地内ニ於テ私有地其ノ地道路以外ノ場所ニ建設セントスル場合ニハ家屋其ノ他ノ建設物トノ關係上危險ノ虞ナク且道路ヨリ容易ニ監視シ得ル箇所ニシテ保安上支障ナキモノ、外認可ヲ與ヘサル方針ナルニ付如上ノ場所ニ架設セントスル電線路工事施行認可申請ノ際ハ右ノ趣旨ニ依リ調査ノ上副申スヘシ

五

明治三十五年九月通信省告示第四百十一號ニ依リ調製スル工事費及事業上ノ收支概算書並ニ工費豫算書ニハ各項目ニ就キ詳細ナル内譯ヲ爲シ且單價及數量ヲ記入セシムヘシ

六

追テ既ニ認可ヲ與ヘタル電線路中前記第五項ニ抵觸スル箇所アラハ事情ノ許容スル限り可成適當ノ時機ニ於テ相當改修セシムル様取計

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

四八三

如キ事實アルニ於テハ當業者ハ嚴重論達ヲ加ヘ尙發電料ノ不足スルカ爲需用ニ應スルコト能ハサルカ若ハ光力ヲ低下スルカ如キ場合ニ在リテハ事業者ヲシテ速ニ之ニ對スル補充ノ方法ヲ講セシムル等相當措置スヘシ

長野縣達第六十一號(明治三十九年二月二十六日)

自今其社ニ於テ左記ノ事項ヲ變更シタルトキハ其都度所轄警察官署ヲ經テ關係書類ヲ提出スヘシ

(左記)

- 一 電燈料及電力料ニ關スル書類
- 二 電氣器具代又ハ貨賃料取付及検査手数料等ノ規則其他電氣供給ニ關スル規約書類
- 三 電氣鐵道ノ運賃其他運輸取扱ニ關スル規則書類
- 四 道路ニ建設スル電線路ノ敷地使用料及原動力ニ使用スル水利使用料其他特ニ電氣事業ノ爲賦課セラルル公納金ノ種類金額及割合等ヲ詳記セル書類

警收第一八五〇三號(明治三十九年十二月十四日)

警察署 警察分署

電氣事業ニ關スル義ニ付指示

電氣事業取締規則ニ依リ事業經營許可申請書及工事施行認可申請書等ノ遺達方ニ關シテハ從來內示又ハ指示ノ次第モ有之候處尙左記ノ各項ニ依リ特ニ調査スヘキ義ト心得ラルヘシ

左記

- 一 電氣供給事業者ノ如キ公共ノ便益ニ多大ノ關係ヲ有スル事業ハ可成株式會社組織ニ依リ經營セシムルヲ適當ト認メラルニ付株式會社組織ニ依ラシテ事業經營ノ許可ヲ申請スル場合ニハ右ノ趣旨ニ依リ一應嚴達ヲ加ヘ若シ株式會社組織ト爲スヲ欲セサルトキハ其ノ事由

(長野署)

フヘク尙電氣事業取締規則第十八條ニ依リ電線路工事施行ヲ申請セル場合ニハ第五項ノ趣旨ニ依リ調査スヘシ

警收第一二一七號(明治四十年九月十日)

左記

通電甲第四五六七號(明治四十年八月二十九日)
電氣事業取締規則第一條第一號ノ電氣事業者ヨリ現ニ電氣ヲ供給スル同一ノ家屋又ハ其他ノ建造物ニ他ノ同上事業者ヨリ電氣ヲ供給スルカ爲メ同則第八十八條ノ二第一項但書ニ依リ認可ヲ申請スル場合ニハ當分ノ内豫メ處分案並ニ意見書ヲ具シ本省ニ稟何ノ上處分相成度依命此段及通牒候也

通電甲第一三九七號通信局長通牒(明治四十一年三月二十七日)

電氣事業取締規則第八十八條ノ二第一項但書ニ依リ處分セラル、場合ニハ豫メ稟何相成度旨客年八月二十九日附通電甲第四五六七號ヲ以テ及通牒候處右ハ左記ノ場合ニ限リ別段稟何ヲ要セサルコトニ定メラレ候條依命此段及通牒候也

- 一 同一建物内ニ於ケル各電氣事業者ノ電線カ總テ露出工事ニ依リ施設シ且相互ノ電線カ交叉スルコトナクシテ三尺以内ノ距離ニ接近セサル場合
- 二 同一建物内ニ於テ一事業者ノ電線ヲ隱蔽工事ニ依リ施設シ他ノ事業者ニ屬スル電線露出工事ニ依リ施設シタル場合

警收第一七〇一六號(明治四十一年十一月二日)

警察署 警察分署

電氣事業取締ノ義ニ付指示

電氣事業取締規則第四十八條第一項但書ニ依リ制限外ノ認可ヲ與ヘラレタル個所ニシテ其制限外認可申請ノ原因タル事實消滅シタル場合ニ關シ別紙ノ通り通牒有之候條此等ノ事實ヲ認メタルトキハ遲滞ナク詳細具申スヘキ義ト心得ヘシ

(別紙)

通電乙第四九五六號通信局長通牒(明治四十一年十月二十日) 市街地ノ道路ニ架設セル電線路中共同一道路上ニ建設セル他ノ電線路若クハ電信電話線其他ノ電氣信號線路等ニ對シテ位置ノ關係又ハ道路ノ屈曲並ニ木ノ障害其他地物關係上已ムヲ得サル事由ニヨリ電氣事業取締規則第四十八條第一項但書ニ依リ制限外ノ認可ヲ與ヘラレタル箇所ニシテ其制限外認可申請ノ原因タル事實ノ消滅シタル場合ニハ當該事業者ニ於テ遲滞ナク同條ノ制限ニ據リ改修スルヲ要スル義ニ有之候ニ付此等ノ事實ヲ被認タル場合ニハ遲滞ナク改修ヲ勵行セシメラレ度若又止ムヲ得ス改修シ得ラレサル事由ノ存スル場合ニハ其都度相當手續ヲ履行セシメラレ度依命此段及通牒候也

追テ各一等郵便局長ニ對シテハ別紙寫之通り通牒取計置候條爲參考申添候也

(別紙)

通電甲第四九五六號(明治四十一年十月二十日)

(通信局長ヨリ各一等郵便局長へ通牒)

市街地道路上ニ於ケル制限外架設電線路ニ關シ別紙寫ノ通り各地方官及通牒置候處公衆通信用並官私設電信電話線トノ關係上電氣事業取締規則第四十八條第一項但書ニヨリ制限外工事ノ認可ヲ與ヘラレタル電線路ニ關シテハ其制限外認可ノ原因タル關係線路ノ改築等ニ因リ制限外ノ原因タル事實ノ消滅シタル場合ニハ遲滞ナク當該地方官ニ其旨通告相成度尙官私設電信電話線中私設電信規則第十三條ノ制限外認可ヲ與ヘラレタルモノニ關シテハ地方官ニ對シテ通牒ト同一趣旨ニ依リ改修セシメラレ度候

警收第一六九六號(明治四十一年十月二十二日)

長野 上田 大町 松本 下諏訪 飯田 福嶋警察(分)署

電氣事業ニ關スル義ニ付指示

其部内電氣事業者ニ對シ別紙寫ノ通り達相成候ニ就テハ爾今申請書受理ノ場合ハ管轄一等郵便局ニ副本提出ノ有無ヲ取調ヘ處理上遺憾ナキヲ期スヘシ

(別紙)

長野縣第四十八號(明治四十一年十月二十一日)

電氣事業取締規則第十三條第十六條及第十七條第一項ニ依リ電線路ノ新設變更延長等ニ關スル工事施行認可申請又ハ同規則第四十八條ニ依リ制限外認可申請ヲ爲ス場合ニ於テ其工事力選信省其他ノ官私設電信電話線電氣信號線路(架空及地中)ニ接近又ハ其他ニ關係有スルトキハ申請書提出ト同時ニ其電線電話線又電氣信號線所轄一等郵便局ニ對シテ直接左記ノ書類ヲ提出スヘシ

記

一 申請書ニ添付セル電線路平面圖ノ副本

二 工事設計ノ大要ヲ記載セシ書面

追テ二局以上ノ管轄區域ニ跨ル工事ナルトキハ各關係局毎ニ同一ノ書類圖面ヲ提出ヲ要ス尙申請書ニハ何一等郵便局ニ副本提出ノ旨ヲ附記スヘシ

以上

通電甲第五二四〇號通信局長通牒(明治四十一年十一月九日)

電氣事業取締方

新潟縣知事ヨリ別紙甲號ノ通牒何有之ニ對シ乙號ノ通及回答候ニ付此段及通牒候也

(通信局長ヨリ新潟縣知事へ通牒)

十月三日附保發親第二二號稟何ノ件ハ左記ノ通り知用成度尙命令書第六條ノ制限外需用者ニ於テ電燈ノミニノ目的ニ使用スル場合ト電燈及電力ノ目的ニ併用スル場合トヲ問ハス其電燈ノ爲ニ使用スル電氣力ハ二千「ワット」以上タルコトヲ要スル趣旨ニ有之候條事業者ニ於テ誤解無之様取計相成度依命此段及通牒候也

第一項 御意見ノ通

第二項 「パイロツトランプ」ノ如キ送電又ハ配電上ノ試験器具トシテ使用スルモノハ認容スルモ差支ナシ

第三項 發電所、變壓所、配電所内ノ電燈並工夫散宿所ニ於ケル「パイロツトランプ」ヲ除クノ外認容スルヲ得ス但會社ノ事務所、住宅、工夫散宿所其他電氣供給會社ニ專屬ノ場所ニ限リ電氣事業取締規則第一條第三號ノ事業トシテ經營スルハ差支ナシ

甲發第二六七號(大正九年十一月九日)

警察署長 警察分署長

電氣事業取締方指示

標記ノ件ニ關シテハ屢次指示スル處アリシカ爾來電氣事業ハ著シキ發展ヲ來タシ如何ナル障礙點在ノ小部落ト雖殆ント其ノ普及ヲ見サルコトナキニ至レリ從テ警察上取締ヲ要スヘキ事項甚タ多キニモ不拘之ヲ等閑ニ附スルノ向ナシトセス爲ニ事業者中往々此ノ缺陷ニ乘シ不當不正ノ行爲ヲ敢テスルモノアルヤノ聞ヘアリ斯クテハ需用者ノ被ムル損害尠ナラサルノミナラス延ヒテ警察ノ威信ヲ失墜スルニ至ルヘシ之レ畢竟専門的知識ヲ必要トスルモノ多キニ起因スヘシト雖單純ナル違反事項ノ如キハ之ヲ摘發スルコト極メテ容易ナルヘキヲ以テ爾今克ク部下ヲ督勵シ電氣事業ニ對スル取締ヲ嚴密ニシ以テ電氣ヨリ生スル危害ヲ豫防シ併セテ斯業ノ改善ニ資スヘク特ニ左記事項ヲ認知シタル時ハ事實調査ヲ遂ケ即報セラルヘシ

警察署長 警察分署長

(別紙) 甲號 保發親第二二號(明治四十一年十月三日)

(新潟縣知事ヨリ通信大臣へ稟何)

電氣事業監督上左記各項何分ノ御指揮ヲ仰キ度此段稟候也

一 新潟水力電氣株式會社、新潟水電株式會社ニ對シ客年五月二十二日附通第二三二〇號ノ二號ニ同日附通第二三一八號ノ二ヲ以テ夫々下付セラレタル命令書第六條ニハ

會社ハ電力供給ノミヲ目的トスル供給區域内ニ於テハ其需用者ニ對シ其一邸宅又ハ一構内毎ニ二千「ワット」以下ノ電氣ヲ供給スルコトヲ得ス但電燈以外ノ目的ニ電氣ヲ使用スル場合ハ此限ニ在ラストアリテ新潟水力電氣株式會社ノ電力ノミニ供給區域新潟市沼垂町又ハ新潟水電株式會社ノ同上區域龜田町ニ於テ兩電氣事業者ハ共ニ其區域内ニ限リテハ電燈營業ノ許可ヲ有セサルヲ以テ二千「ワット」以上ノ電燈用電力ヲ供給スル場合ニ於テモ單ニ電燈ノ責任ヲ有スルノミニシテ需用者構内電燈用電氣工作物ニ對シテハ電氣上ノ責任ヲ分ツヘキモノニアラスト認ム從テ如上ノ需用者ハ夫々電氣事業取締規則第十六條ニヨリ自家用電燈事業ノ認可申請ヲ要スヘキモノト思料可然哉

二 第一項ノ供給區域内ニテ電力ヲ供給スル場合ニ於テ送電上必要ナル電燈ヲ點スルハ之ヲ認容シ可然

三 第一項ノ供給區域内ニ於テ直接會社ノ送電狀態ヲ知悉スルヲ要スル場所即チ會社事務所社長支配人、技術員等ノ住宅、工夫散宿所工夫宿所ノ如キモノニアリテハ電燈ヲ點スル事業經營上必要ト認ムル場合ニ於テハ之ヲ認容シ可然哉

(乙號) 明治四十一年十一月九日

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽機

左記

- 一、電燈光力ノ微弱ナリト認メタルトキ
- 二、劇場、寄席其ノ他公衆ノ集合スヘキ場所ニ於ケル屋内電氣工作物施設ノ不完全ナリト認メタルトキ
- 三、架空電線路其ノ他一般屋外電氣工作物施設ノ不完全ナリト認メタルトキ
- 四、其ノ他必要ト認メタル事項

●電氣機械商等ニシテ不正行爲ヲ爲ス者取締方ノ件

甲保秘收第三二號(大正九年二月十四日)

警察署長 警察分署長

近來電氣機械商其ノ他ノ者ニシテ其ノ製作品賣込ノ爲電氣ニ關スル法規ヲ知悉セサル地方民ヲ懲罰シ制規ノ手續ヲ履マシテ濫リニ自家用電氣工作物ヲ施設セシムルモノ往々アリ右ハ犯罪行爲タルハ勿論取締上危險不渺ヲ以テ其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條客年十二月一日付甲發第三三三號自家用電氣取締ニ關スル指示ト相俟ツテ相當取締ヲ爲スヘシ

追テ現在及將來ニ於テ右ノ如キ不正行爲ヲ爲シ又ハ其ノ疑ヒアリト認ムル者アラハ其ノ住所氏名年齢及慣用手段等報告スヘシ尙左記ノモノハ從來不正行爲アリタルモノニシテ何時其ノ部内ニ立廻ルヤモ計ラレサルニ付充分注意スルコト

- 名古屋市 中央電氣商會
- 同 市 日東電氣商會
- 同 市 三笠電氣商會

左記

第一條 稟何ニハ左記事項ヲ具備シタル書類及圖面ヲ添付シ且ツ既許可又ハ出願中ニ係ル同一事業者トノ關係及業ノ確否等取調ノ上意見ヲ詳具セラルヘシ

第一、電氣起業概要

- (一) 起業者ノ氏名
- (二) 目的
- (三) 供給區域又ハ鐵道若クハ軌道經過地並ニ其圖面(縮尺二十萬分ノ一)
- (四) 發電力(ワット)數

第二、水路工事

- (一) 河川名並ニ取入口及放水路ノ位置
- (二) 使用水量(毎秒時ニ付五方尺湯水時ノ水量ヲ超過シテ水ヲ使用セントスル場合ハ其事由ヲ附記シ若シ灌溉用水其他ノ水利ニ影響ヲ有スル場合ニハ參考トシテ之ニ要スル水量其他ノ關係ヲモ記載スルコト)
- (三) 有效落差
- (四) 馬力數(使用水量及有效落差ヨリ計算シタル理論馬力數)
- (五) 水路工事説明大要
- (六) 水路豫測圖(縮尺二萬分ノ一以上トシ取入口水路發電所放水路ノ位置ヲ記載スルコト)

第三、使用河川ノ水量測定

- (一) 流域ノ面積並ニ圖面(縮尺約五萬分ノ一乃至二十萬分ノ一)
- (二) 流域ニ於ケル植林狀態(地耕林地野ノ面積歩行等)
- (三) 雨量觀測表(附近觀測所ノ調査ニシテ成ルヘク五年以上ニ互ルモノ)
- (四) 水路工作物附近地ニ於ケル流水量ノ測定其方法及時期並ニ測定

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽機

●水力使用許可稟何ノ件

選信省訓令第一號(明治四十二年八月七日)

北海道廳 府縣

發電ノ原動力ニ供スル水力發生ノ爲出願セル水ノ使用ヲ許可セントスルトキハ水力百馬力未滿ノモノヲ除ク外電氣起業ノ目的並水力ニ關スル設計ノ大要及圖面ヲ具シ豫メ本大臣ニ稟伺スヘシ

使用權ノ讓渡其ノ他事業ニ著シキ變更ヲ許可セントスルトキ亦同シ

●水力發生ニ關スル件

內務省土甲第二三號內務次官通牒(明治四十二年八月七日)

本年八月七日選信省訓令第一號ヲ以テ發電ノ原動力ニ供スル水力發生ニ關スル件ニ付訓令相成候處右ハ同省ノ主管ニ屬スル電氣事業ノ取締ニ關スルモノニシテ當省ノ主管ニ屬スル事項ニハ何等關係無之義ニ付從前ノ成規ニ依リ水ノ使用ニ關シ當省ニ稟伺ヲ要スルモノハ總テ其手續ヲ履行セラルヘキ旨ニ有之候條右稟御承知相成度爲念此段及通牒候也

●電氣起業上ノ手續ニ關スル件

電監甲第一三四一號(明治四十二年十月二十一日)

(選信省電氣局長ヨリ長野縣知事宛)

本年八月選信省訓令第一號ニ關スル稟何其他ノ手續左ノ通り定メラレ候條爾今右ニ準據シ處理相成度候

追テ明治三十九年七月十二日付通法甲第四二七一號通牒ハ廢止ノ議ト了知相成度候

(長野縣)

(長野縣)

場所ノ橫斷面圖(測定ハ成ルヘク前後地形同一ノ場所ヲ撰ミ異リタル數種ノ方法ニ依リ且湯水時ニ於テ數回之ヲ行フコト)

- (五) 發電所及取入口附近ニ於ケル最高低及平水位
- (六) 使用河川ノ勾配及河床(取入口ノ上流一千間ノ地點ヨリ放水路ノ下流一千間ノ地點ニ互ル使用河川本流ノ勾配並ニ其河床ノ狀態ヲ記載スルコト)

第四、工事費概算(別紙様式ニ依ル)

命令書ヲ下付スル場合ニハ命令書按ノ全文ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 左記各項ノ場合ニハ前條ニ準シ關係書類及圖面ヲ添付シ調査ノ上意見ヲ詳具セラルヘシ

- 一、水利使用權ノ讓渡又ハ會社ノ合併ニ關シ處分ヲ爲サムトスルトキ
- 二、前條第一項第二號中(一)乃至(四)ノ變更又ハ電氣事業取締規則ニ依ル許可以前ニ於ケル同項第一號中(一)乃至(四)ノ變更ニ關シ處分ヲ爲サムトスルトキ但シ發電力、水量落差及馬力ノ變更ハ發電力又ハ馬力數二十分ノ二以上ノ増減ヲ來ス場合ニ限ル
- 三、許可ノ取消、水ノ使用停止又ハ許可有效期間其他許可ノ效力ニ著シキ變更ヲ生スヘキ處分ヲ爲サムトスルトキ

第三條 水利使用ヲ許可セラレタル會社發起人若クハ組合員ノ追加脱退シタルトキ又ハ水利使用權ノ消滅シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ報告セラルヘシ

發電水力百馬力未滿ノモノヲ許可シタルトキハ遲滞ナク第一條第一項第一號及第二號中(一)乃至(四)ノ事項並ニ其許可年月日ヲ具シ報告セラルヘシ

工事費概算書

項目	目	數量	單價	金額	摘要
創立費	用地費				
發電水路工事費	取入地費				
	開渠費				
	餘水吐、土砂吐、其他費				
	水路附屬工事費				
	槽水管費				
	放水路費				
	雜工費				
電氣工事費					
測量及工事監督費					
豫備費					

發電水力使用規則

長野縣令第三十七號(大正六年十一月二十四日)

第一條 電氣ノ發生ニ供スル目的ヲ以テ水ヲ使用セムトスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

一、起業ノ概要ニ關スル事項

イ、起業者ノ住所、職業及氏名又ハ名稱

ロ、起業ノ目的

電燈電力ノ供給事業ナルトキハ何縣何郡何村內用

電力ノ供給事業ナルトキハ何鐵道何軌道何鑛山何工場用

取水河川ノ狀態、取水方法ノ大要、使用水量決定ノ理由、水路斷面算定ノ方法、水車ノ種類、筒數及掘鑿土砂ノ數量及處理方法、切取、盛土、法面ノ保護及山地崩壞防止ノ方法並貯水池又ハ調整池ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ計畫ノ大要ヲ記載スルコト

三、取 河川ノ水量測定ニ關スル事項

イ、流域面積 方里ヲ單位トシ一方里ニ滿タサルモノハ其ノ小數ヲ以テ示スコト

ロ、流域ニ於ケル植林狀態(裸地、耕地、林野ノ面積歩合)

ハ、雨量觀測表(附近觀測所ノ調査ニシテ成ルヘク五年以上ニ互ルモノ)

ニ、取水口附近ニ於ケル流水水量並其ノ測定ノ方法、時期(水量測定ハ數種ノ方法ニ依リ湯水時ニ於テ數回之ヲ行フコト)

測定場所ノ斷面圖(縮尺ハ適宜トシ湯水、低水及最高水位ヲ記載スルコト)

ホ、發電所及取水口附近ニ於ケル最高最低及平水位

ヘ、取水河川ノ勾配及河床取水口ノ上流一千間ノ地點ヨリ放水口ノ下流一千間ノ地點ニ互ル取水河川本流ノ勾配及其ノ河床ノ狀態ヲ記載スルコト

ト、水量測定ニ關スル書類及圖面ニハ相當技術者名ヲ記載スルコト

四、起業ト治水其ノ他公益事業等トノ關係事項

イ、灌溉其ノ他既許可ノ水利事業ニ及ホス影響及之ニ關スル施設ノ大要

ロ、舟筏ノ通航、流木及漁業ニ及ホス影響並之ニ關スル施設ノ大要

ハ、名譽舊蹟等ニ及ホス影響及之ニ關スル施設ノ大要

ニ、取水口堰堤ノ爲洪水時ニ於ケル水面ノ隆起ニ起因スル影響ノ程度及之ニ關スル施設ノ大要

自家用ニ供スルトキハ何場所何用

ハ、供給區域又ハ鐵道若ハ軌道經過地縮尺二十萬分ノ一圖面

ニ、取水河川(他ノ公有水面ヲ含ム以下同シ)ノ名稱及取水口ノ位置

ホ、使用水量(一秒時ノ立方尺)

ヘ、有效落差(曲尺)

ト、馬力數(使用水量及有效落差ヨリ計算シタル理論馬力數)

チ、發電力(キロワット數)

リ、水ノ使用期間

二、水路工事ニ關スル事項

イ、水路一覽圖

縮尺五萬分ノ一トシ堰堤、取水口、隧道、開渠、發電所、放水口等ノ位置及取水箇所ニ於ケル流域境界線ヲ記載シ並附近ニ於テ灌溉其ノ他既許可水利事業アルトキハ其ノ位置ヲ記載スルコト

貯水池又ハ調整池ヲ設クルモノニ在リテハ以上ノ外其ノ位置ヲ記載スルコト

ロ、水路豫測圖

縮尺一萬分ノ一以上トシ地形ノ概略ヲ示シ地名並取水口、發電所、放水口ノ位置ヲ記載スルコト

ハ、水路豫測斷面圖

縮尺橫千分ノ一以上縱二百分ノ一以上トシ堰堤、取水口、隧道、開渠、發電所放水口其ノ他主要工作物ノ位置、取水口及發電所附近ニ於ケル最高水位、平水位最低水位ヲ記載シ高低ノ基準ハ成ルヘク陸地測量部ノ水準標ニ準據スルコト

ニ、堰堤及水路ノ定規圖

縮尺ハ適宜トシテ形狀、材質及構造ノ大要ヲ示スコト

ホ、計畫說明大要

ホ、貯水池設置ニ因ル流出水量増減ノ爲取水河川ノ下流ニ於ケル用惡水路舟筏ノ通航及流木ニ及ホス影響ノ程度並之ニ關スル施設ノ大要

ヘ、放水口ヲ他ノ河川ニ設クル場合ニ於テ關係河川ノ治水又水利上ニ及ホス影響ノ程度並之ニ關スル施設方法ノ大要

五、工事費概算書(別紙様式ニ依ル)

發電水力百馬力未滿ノモノニ在リテハ前項第三號第四號ノ書類及圖面ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ書類及圖面ハ發電水力百馬力以上ノモノニ在リテハ三通其ノ他ノモノニ付テハ二通提出スヘシ

第一項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ計畫ヲ變更セムトスルトキハ第一項各號中變更セムトスル事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第二條 前條第一項ノ許可ヲ申請セムトスル者ハ保證金ヲ提出スヘシ但公共團體ノ申請ニ係ル場合又ハ自家用電氣ニシテ其發電水力五十馬力未滿ノ場合ニ在リテハ此ノ限ニアラス

前項ノ保證金ハ出願者見積總工費額ノ二百分ノ一トシ現金又ハ其ノ金額ニ相當スル國債證券、地方債證券、興業債券、勸業債券、貯蓄債券ヲ以テ納付スヘシ

第一項ノ保證金ハ許可又ハ却下ノ際之ヲ還付スルモノトス

附 則

第三條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 本則施行前ニ水ノ使用許可ヲ受ケタルモノハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第五條 本則施行前ニ出願シ未タ許可ヲ受ケサル者ハ本則ノ規定ニ依リ書類及圖面ヲ整備シ提出スヘシ

第六條 明治四十三年四月縣令第十五號水力電氣ノ發生ニ供スル河水引用

出願手續ハ之ヲ廢止ス

工事費概算書 (様式)

項目	数量	単價	金額		摘要
			計	別	
創立費					
水路工事費					
用地費					
堰堤費					
取水口費					
開渠費					
隧道費					
餘水吐、土砂吐、其他水路附屬工事費					
水槽費					
鐵管費					
放水路費					
掘整土砂處理費					
水車費					
諸建物費					
補償費					

電氣事業開始期間ノ件

收第二七八一五號(大正六年十月二十五日)

警察署長 警察分署長

電氣事業者中指定ノ期間經過後ニ於テ事業開始期間伸長ノ許可ヲ申請スルモノ往々有之候處右ハ電氣事業法第五條ノ規定モ有之期間ノ經過ニ依リ電氣事業ノ許可ハ當然失效トナル義ニ付行違ヲ生セサル様事業者ニ示達セラレヘシ

電氣事業開始期間延長ノ件

收第三〇五四六號(大正七年十一月八日)

警察署長 警察分署長

電氣事業開始期間經過後ニ於ケル同期間延期申請ノ件ニ關シテハ客年十月二十五日附收第二七八一五號ヲ以テ指示及置候處其後尙期間經過後ニ於テ延期ノ申請ヲ爲スモノ往々有之右ニ對シテハ事情已ムヲ得スト認メタルモノニ限り便宜延期ヲ許可シタルモ爾今便宜ノ取扱ハ一切之ヲ爲サルコトニ決定相成タル旨選信省電氣局長ヨリ通牒有之從ツテ右ハ電氣事業法第五條ニヨリ當然失效ト相成候義ニ付行違ナキ様其ノ都内電氣事業者ニ對シ注意方示達セラレヘシ

〔長野署〕

官廳用電信電話規程

逓信省令第五十一號(明治三十三年九月一日)

第一條 明治三十三年九月勅令第三百五十六號ニ依リ官廳用ノ電信又ハ電話ハ左ニ掲クルモノニ限ル

- 一 構内ニ施設スルモノ
- 二 警察事務及刑事訴訟事務ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ
- 三 鐵道、軌道並私設電信規則第二條第二號乃至第四號ニ掲クル事業ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ
- 四 電報送受ノ目的ヲ以テ郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設スルモノ
- 五 一市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ施設スルモノ
- 第六條 前條ノ電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信規則第四條乃至第十條第十二條乃至第十九條第二十一條第二十二條及第二十四條ノ規定ヲ準用ス但シ前條第一號ノ電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信規則第四條乃至第十條第十二條第十三條及第十八條ノ規定ヲ準用セシ
- 第七條 前條第四號ノ電信又ハ電話ニ關シテハ前項ノ外私設電信規則第十一條第二十條及明治三十三年九月逓信省令第四十九號ノ規定ヲ準用ス

附則

第三條 電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ私設電信規則第十三條乃至第十九條第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス但シ鐵道用「タブレット」式閉塞機回線ニ設備スヘキ熱線輪ハ四百「ミリ」アムペア以下ニテ働作スルモノヲ使用スルコトヲ妨ケス

正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設スルモノニ關シテハ前項ノ外私設電信規則第四條乃至第七條第九條乃至第十二條及第二十條並明治三十三年九月逓信省令第四十九號ノ規定ヲ準用ス

電線路ニ依リ火災其ノ他ノ通報ヲ爲ス公衆用信號ヲ施設セムトスルモノ

四九一

電氣事業擴張供給區域ニ對スル事業開始期間ノ件

保秘收第三〇〇號(大正八年十一月十三日)

警察署長 警察分署長

電燈ノ未タ普及セサル地方ニ於テ近時其ノ需用ノ程度著ク昂上シ一般ニ迅速其供給ヲ希望セルノ狀況ナルニ付テハ擴張供給區域ニ對スル事業開始期間ハ大體左記ニ據リ指定シ其ノ期間内ニ於テ確實ニ事業ヲ遂行セシムルコトニ致度旨其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候ニ付テハ必ズ指定期間内ニ事業ヲ開始スル様當該事業者ヲ督促セラレヘク尙區域擴張申請ノ際土地ノ狀況又ハ其他ノ事由ニ依リ右期間内ニ開始スルコト能ハスト認メタルモノニ對シテハ其ノ事由並見込期間等併セテ申報セラレヘク從テ供給餘力ナクシテ急速ニ事業ヲ開始シ難キモノニ對シテハ右ノ趣旨ニヨリ相當調査ヲ遂ケ申報セラレヘシ

左記

一、發電所變電所等ノ工事ニ關係ナク單ニ配電線路ノミノ工事ナルトキノ事業開始許可ノ日ヨリ六箇月

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽機

ニ關シテハ第一項ノ外私設電信規則第四條乃至第七條第九條第十條第二項及第十二條ノ規定ヲ準用ス但シ私設電信規則第五條第一項第二號乃至第四號ノ事項ノ變更ニ關シテハ之カ承認ヲ受クルヲ要セス其ノ變更後七日以内ニ當該事項ヲ逓信大臣ニ報告スヘシ

第四條 此ノ規程施行前電報送受ノ爲郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設シタル電信又ハ電話ニ關シテハ期限ヲ定メテ契約シタルモノハ其ノ期限内ニ限リ明治三十三年九月逓信省令第四十九號規定ノ維持料金額ニ拘ハラス其ノ契約ニ定メタル料金額ヲ納付スルモノトス

第五條 電信條例ニ依リ施設ノ許可ヲ得タル電信又ハ電話ニ關シテハ此ノ規程施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ私設電信規則第五條第一號乃至第三號及第七條各號ニ掲クル事項ヲ記載セル書類ヲ逓信大臣ニ提出スヘシ

第六條 此ノ規程施行前ニ於テ既ニ施設シタル電信又ハ電話ノ工事中此ノ規程ニ適合セサルモノニ關シテハ私設電信規則第三十條第一項ノ規定ヲ準用ス

私設電信規則

逓信省令第四十八號(明治三十三年九月一日)

(沿革)明治三十四年一月逓信省令第四八號、三十五年九月同第四〇號、四三年三月同第三七號、四四年九月同第三三號、四五年四月同第二四號、大正二年六月同第三三號、同年九月同第七九號、四年二月同第一七號、六年一〇月同第三四號、八年二月同第四號、同年五月同第三二號、同年八月同第七二號、九年一月同第一一三號改正

私設電信規則 此ノ規則中私設電信ト稱スルハ電信法第二條ニ掲クル電信又ハ電

話ヲ謂フ 第二條 電信法第二條第二號ニ依ル私設電信ハ左ニ列記スル事業ノ専用ニ供スルモノニ限ル

一 地方鐵道法ニ依ル鐵道、軌道條例又ハ特別ノ法令ニ依リ一般運輸ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道及一個人又ハ一會社ニ於テ個人ノ専用ニ供スル爲敷設スル鐵道又ハ軌道ノ事業

二 運河、水利、水防、火防、水道、水難救護及氣象觀測ノ事業

三 高壓及特別高壓ノ電氣ヲ使用スル電氣事業

四 前各號ノ外特ニ私設電信ノ施設ヲ必要トスル事業

第三條 電信法第二條第五號ニ依ル私設電信中一營業ノ爲ニスルモノハ營業所相互間又ハ營業所ト之ヲ管理スル者ノ居宅間ニ施設スルモノニ限ル

第四條 私設電信ヲ施設セムトスル者ハ逓信大臣ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ但シ地方鐵道法ニ依ル鐵道事業ノ専用ニ供スル爲敷設スル鐵道線路ニ沿ヒ停車場、聯絡所又ハ信號所相互間ニ施設スルモノ及電氣工事規程第七十四條ニ依リ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ

一 施設ヲ必要トスル事由

二 電信又ハ電話ノ別及其ノ回線

三 機械施設ノ場所 道府縣郡市區及鐵路經過地名

四 落成期限

前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

第六條 第四條ノ許可ヲ得タル後前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスル

ニ届出ヘシ 第十二條 私設電信ヲ廢止シタルトキハ特ニ期間ノ指定ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ線路及機器ヲ撤去スヘシ其ノ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ之ヲ取消サレタルトキ亦同シ

第十三條 市街地ニ限リ道路ニ架設スル私設電信ノ線路ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルモノハ所轄逓信局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一 道路ノ兩側ニ跨カラスシテ其ノ一側ニ架設スヘシ

二 道路ノ一側ニ電信線、電話線其ノ他電氣信號線ノ架設シタルトキハ其ノ同側ニ架設スヘシ若其ノ一側ニ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ノ架設シタルトキハ他ノ一側ニ架設スヘシ

第十三條ノ二 私設電信ノ電線ハ特ニ逓信大臣ノ認可ヲ得タルモノヲ除クノ外電燈電力又ハ電氣鐵道用架空電線ノ電柱ニ添架スルコトヲ得ス但シ電氣工事規程第七十四條ニ依ルモノニシテ市街地以外ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 私設電信ノ電線、他ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ其ノ通報信號ハ障害ヲ與ヘサル様離隔スヘシ其ノ離隔二尺ニ滿タサルトキハ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十五條 私設電信ノ電線、電燈電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一 電燈電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉スルトキハ其ノ電線ノ下部ニ架設スヘシ但シ工地上已ムヲ得サル場合ニ於テハ低壓又ハ高壓電線ト交叉スル場合ニ限リ其ノ上部ニ架設スルコトヲ得

二 低壓又ハ高壓電線ト交叉若ハ接近スルトキハ其ノ相互ノ間隔二尺以

第十條 公衆通信ノ用ニ供スル私設電信ハ逓信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ廢止シ又ハ中止スルコトヲ得ス

第十一條 電信法第二條第四號ニ依ル私設電信ノ通報ヲ開始シ廢止シ又ハ中止セムトスルトキハ其ノ施設者ヨリ十五日前ニ逓信局長又ハ電信局

上ヲ離隔スヘシ

三 特別高壓電線ト交叉スルトキハ特別高壓電線ノ最大電壓ニ從ヒ左記ノ區別ニ依リ特別高壓電線ト私設電線ノ電線トヲ離隔スヘシ但シ特別高壓電線管理者ノ承諾ヲ得且特別高壓電線ト私設電線ノ電線トノ間ニ施設スル保護金屬線ヨリ二尺以上ヲ離隔スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(イ)特別高壓電線ノ最大電壓一萬「ヴォルト」以下ノ場合ハ其ノ間隔三尺以上

(ロ)特別高壓電線ノ最大電壓一萬「ヴォルト」ヲ超過スル場合ハ一萬「ヴォルト」又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ八寸以上ヲ加フ

四 特別高壓電線ト接近スルトキハ其ノ相互間ノ水平距離ハ特別高壓電線ノ電柱地表上ノ高さノ一倍以上タルヘシ但シ特別高壓電線管理

者ノ承諾ヲ得テ此ノ距離ヲ十尺マテニ短縮スルコトヲ得

第十六條 私設電線ノ電線ヲ電燈電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設シタルトキハ電信又ハ電話線ノ機械ニ接觸スル各端ニ於テ二百五十「ミリアムペア」以下ニテ動作スル熱線輪、三百「ヴォルト」ニテ放電スル避雷器及五「アムペア」以下ニテ溶解スル可熔遮斷器ヲ設備スルコトヲ要ス其ノ既ニ架設シタル後ニ於テ交叉若ハ接近ノ場合ヲ生シタルトキ亦同シ

第十七條 屋内ニ布設スル私設電線ノ電線ハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ト充分離隔シ且電氣的混觸ヲ豫防スヘシ

第十八條 私設電線ノ電柱ニハ施設者名及電柱ノ番號ヲ表記スヘシ

第十九條 私設電線ノ電線ヲ他ノ電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ又ハ六尺以内ナルトキハ八尺以内ノ距離ニ接近シテ架設スルトキハ工事者手前ニ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ヘ通知スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理シ若ハ撤去スルトキ亦同シ

第二十條 電信法第二條第四號ニ依リ連接郵便局又ハ電信局ニ施設スル私

スルモノニ關シテハ前項ノ外第四條乃至第七條第九條乃至第十二條及第二十條ノ規定ヲ準用ス

電線路ニ依リ火災其ノ他ノ通報ヲ爲ス公衆用信號ヲ施設セムトスルモノニ關シテハ第一項ノ外第四條乃至第七條第九條第十條第十二條第二十五條及第二十六條ノ規定ヲ準用ス但シ第五條第一項第二號乃至第四號ノ事項ノ變更ニ關シテハ第六條ニ依リ許可ヲ受クルヲ要セス其ノ變更後七日以内ニ當該事項ヲ選信大臣ニ届出ツヘシ

第二十九條 電信法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ電信法第二條第一號ニ該當スルモノヲ除クノ外第四條及第五條ノ規定ニ準シ此ノ規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ選信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ第四條但書ニ該當スルモノハ同一期間内ニ於テ第八條ノ規定ニ準シ届出ヘシ

前項ノ許可ヲ得タルモノハ第七條ノ規定ニ準シ届出ヘシ

第一項ノ期間内ニ於テ出願ヲ爲ササルモノ若ハ其ノ出願ヲ爲スモ許可ヲ得サルモノニ關シテハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第一項及第二項ノ届出ヲ爲ササルモノニ關シテハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

第三十條 前條ニ依リ許可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル私設電線ニシテ其ノ既設工事カ此ノ規則ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ之ヲ改造スヘシ但シ其ノ期間内ト雖第二十一條ニ依ル命令ノ效力ヲ妨ケス

電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノノ既設工事ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十二年三月選信省令第四號電信電話線私設條規其ノ他此ノ規則ニ概

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

設電信ノ引込及裝置工事並其ノ維持ハ選信省之ヲ執行ス

前項ノ私設電信施設者ハ選信省ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ設備ニ要スル物件ヲ供給シ其ノ工事費ヲ支拂ヒ且其ノ維持ニ要スル料金ヲ納付スヘシ但シ維持料ノ金額及其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第二十一條 選信大臣ハ私設電信ノ施設他ニ障害ヲ及ボシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改修又ハ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 選信大臣ハ隨時吏員ヲ派遣シ私設電信ノ裝置方法又ハ通信ノ狀況等ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第二十三條 私設電信施設者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ選信大臣ハ私設電信ノ使用ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十四條 此ノ規則ニ依リ選信大臣ニ提出スル書類ハ總テ其ノ私設電信施設地ノ所轄選信局ヲ經由スヘシ

第二十五條 第六條第八條第九條第十條第一項若ハ第十條第一項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條第八條第九條第二項及第三項若ハ第十條第二項ノ届出ヲ爲ササル者又ハ第十九條ノ通知ヲ爲ササル者又ハ正當ノ事由ナクシテ第二十二條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 電信法第二條第一號ノ私設電信ニ關シテハ第四條乃至第十三條第十八條第二十條及第二十四條ノ規定ヲ適用セス

附則

第二十八條 電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ第十三條乃至第十九條第二十一條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス但シ鐵道用「ダブルレット」式閉塞機回線ニ設備スヘキ熱線輪ハ四百「ミリアムペア」以下ニテ動作スルモノヲ使用スルコトヲ妨ケス

正午時ノ通報ヲ受タル爲電鈴線ヲ郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設セムト

觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

〔長野縣〕

●陸上汽罐取締規則

長野縣令第十號(明治三十四年二月二十二日)

第一條 汽罐ヲ設置セントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ具シ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一 住所氏名、會社ナルトキハ會社事務所ノ所在地及會社代表者氏名

二 落成期日

三 設置場所ノ位置(市町村字地番)及四隣竝ニ工場ノ略圖

四 煙突ノ構造(鐵板製又ハ煉化積高サ何十何呎直徑何呎何吋等)

五 汽罐使用ノ目的

六 汽罐調査書

一 汽罐ノ種類及個數「コルニツシ」「ランカツシャー」「直立罐、管成罐(等)

一 汽罐ノ寸法 罐胴ノ長(何呎何吋何分ノ何)直徑(何呎何吋何分ノ何) 罐筒ノ長(何呎何吋何分ノ何)直徑(何呎何吋何分ノ何)

罐形汽室ノ高(何呎何吋何分ノ何)直徑(何呎何吋何分ノ何)

火管ノ長(何呎何吋何分ノ何)直徑(何呎何吋何分ノ何)個數(何本)

一 罐板ノ種類及厚薄(竝鐵)厚(何分ノ何吋)箔筒(鋼鐵)厚(何分ノ何吋)鏡板(何々)厚(何分ノ何吋)管板(何々)厚(何分ノ何吋)

一 接合ノ種類 (罐胴縱、複列縱釘銜合頭接合、周圍、單列縱釘銜頭接合(等ノ類)

箔筒(縱、鍛合、周圍、累頭接合、突緣接合或ハ「アダムソン」式接合等ノ類)

四九五

- 一 鉸鎖ノ質、直徑、心距 質(鐵或ハ鋼鐵等)ノ直徑(何時何分ノ何)心距(何時何分ノ何)
 - 二 支柱ノ種類寸法 質(鐵或ハ鋼鐵等)ノ直徑(何時何分ノ何)「ステール」(何本或ハ何時何分ノ何)「ガゼットステール」(何本)其他何々等ノ類
 - 三 火床面積
 - 四 安全辨ノ種類、個數及寸法 橫杆式、發條式等直徑(何時何分ノ何)個數(何個)
 - 五 給水裝置 唧筒(何個)徑(何時何分ノ何)管ヲ以テ給水或ハ「インジエクトル」ヲ以テ給水等ノ類
 - 六 最大實用汽壓 每平方吋何封度
 - 七 水壓試驗度及其ノ年月日
 - 八 製造所又ハ製作者ノ住所氏名、製造年月日
 - 九 燃料ノ種類及消費高
- 前項第二號乃至第六號ノ事項ヲ變更シ又ハ増設大修繕ヲ爲サントスルトキハ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 前條ニ依リ許可ヲ得タル者ハ汽罐ノ新設増設其ノ他工事ニ關スル部分ニ付テハ竣工(汽罐ノ包裝ヲ爲サ、ル前)後ニ使用期限後引續キ使用セントスル者ハ滿期ノ三十日前ニ縣知事ニ届出検査ヲ受クヘシ
- 検査證ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス
- 検査證ハ汽罐室内見易キ所ニ掲出スヘシ
- 第三條 設置ノ許可ヲ得タル汽罐又ハ本則施行以前ニ設置シタル汽罐ヲ賣買譲渡又ハ賃借セントスルトキハ其ノ契約書ノ寫ヲ添ヘ雙方連署ヲ以テ縣知事ニ届出ヘシ
- 第四條 正當ノ事由ナク左ノ各號ノ一ニ觸ル、トキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 一 落成ノ期日ヲ經過スルモ尙落成セザルトキ

- 二 燒失若クハ倒塌ニ罹リ一ケ年以内ニ再築ヲ出願セザルトキ
 - 三 一ケ年以上繼續シテ使用停止シタルトキ
 - 第五條 検査證面ニ異動ヲ生シ又ハ検査證ヲ亡失毀損シタルトキハ五日以内ニ縣知事ニ届出書替又ハ再渡ヲ請フヘシ
 - 第六條 六ケ月以上汽罐使用ヲ停止セントスルトキハ停止期間ノ見込ヲ定メ縣知事ニ届出ヘシ
 - 第七條 汽罐專任取扱者ヲ定メントスルトキハ本人ノ屬籍、氏名、年齢ヲ記シ履歷書ヲ添ヘ縣知事ニ届出ヘシ其ノ解任シタルトキハ五日以内ニ届出ヘシ
 - 第八條 汽罐ノ異狀ヲ生シタルトキハ其ノ使用ヲ停止シ直ニ其ノ原因及狀況ヲ詳記シ縣知事ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ更ニ検査ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス
 - 第九條 公益上必要ト認ムルトキハ汽罐又ハ工場ノ改築、變更、修繕ヲ命シ又ハ汽罐ノ最大實用汽壓ヲ選減セシメ若ハ使用ヲ停止又ハ禁止スルトアルヘシ
 - 第十條 使用ヲ廢止シタルトキハ五日以内ニ検査證ヲ返納スヘシ
 - 第十一條 縣知事ハ當該吏員ヲシテ臨時汽罐ノ視察又ハ検査ヲ爲サシムルコトアルヘシ
 - 第十二條 検査ノ時ハ持主又ハ其ノ代理者及專任取扱者ハ立會フヘシ
 - 第十三條 検査ノ通知ヲ受ケタルトキハ汽罐ノ貯水ヲ排出シ入孔、泥孔、焚口及火橋ヲ取外シ體體ヲ冷却セシムルノ外監督員ノ指揮ニ依リ受檢ノ準備ヲ爲スヘシ
 - 検査ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ監督員ノ目前ニ於テ水壓試驗又ハ罐板孔穿試驗ヲ行ハシムルコトアルヘシ
 - 水壓試驗ヲ命セラレタルトキハ第一項準備ノ外汽罐ノ包裝ヲ取除キ罐體ヲ露出シ置クヘシ
- 第十四條 本則ニ關スル願届ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

- 第十五條 第一條、第二條第二項、第八條ニ違背シタル者又ハ最大實用汽壓ヲ超過シテ使用シタル者又ハ検査ヲ拒ミタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條、第五條、第六條、第七條、第十條ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 - 第十六條 前條ノ制裁ニ付テハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖モ專任取扱者其ノ責ニ任ス但シ專任取扱者ニ非スシテ最大實用汽壓ヲ超過シテ使用シタルトキハ汽罐專任取扱者其ノ責ニ任ス
 - 第十七條 會社ニシテ本則ニ違背シタルトキハ第十五條ノ罰金科料ヲ其ノ代表者ニ適用ス
- 附則
- 第十八條 本則ハ明治三十四年三月十日ヨリ之ヲ施行ス
- 明治十九年三月第三十五號布達汽罐取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 第十九條 本則施行以前ノ設置ニ係ル汽罐ハ第一條第一項ノ事項ヲ具シ本則施行後二ケ月以内ニ縣知事ニ届出ヘシ

- 第一條 規則第一條設置ノ願書ヲ受理シタルトキハ同條第一號乃至第六號ノ具備セルヤ否ヤヲ點檢シ設置附近ノ模様、人家、學校、鐵道、火藥庫ノ距離其ノ他故障危害等ノ有無ヲ詳細取調意見ヲ付シ進達スヘシ
- 第二條 左ノ場合ニ於テハ事業及理由ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ
 - 一 願書又ハ規則第二條、第七條、第八條ノ願書ヲ受理シタルトキ但シ規則第八條ノ場合ニ於テハ其ノ旨急報スヘシ
 - 二 許可ヲ取消又ハ使用禁止若ハ停止シ又ハ汽罐若ハ工場改築、變更、修繕ヲ命シ又ハ最大實用汽壓ヲ選減セシムルノ必要アリト認メタルトキ
- 一 検査ノ準備ヲ怠ル者アルトキ
- 第三條 検査ノ際ハ巡查部長以上ニ於テ立會フヘシ
- 第四條 検査證ハ第一號様式ニ據ルヘシ
- 警察部及警察官署ハ第二號様式ニ據リ臺帳ヲ調製シ必要ノ事項ヲ記載スヘシ
- 第五條 汽罐設置場ヘハ毎月一回以上警察部若ハ巡查ヲ臨檢セシメ左ノ事項ヲ視察セシムヘシ
 - 一 許可ヲ得シテ増設、變更又ハ大修繕ヲ爲ス者ナキヤ否
 - 二 專任取扱者ハ届出済ノ者ナルヤ否及其ノ業務ニ專任セシムルヤ否
 - 三 検査證面ノ事項ニ違背セサルヤ否
 - 四 安全辨壓力計其ノ他附屬品ヲ適當ニ使用スルヤ否
 - 五 煙突ノ掃除ハ行ハレ居ルヤ否
 - 六 設置内ハ清潔ナルヤ否
 - 七 前號ノ外規則ニ違背ノ行爲ナキヤ否
- 第六條 検査證ノ返納ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ警察部ニ回送スヘシ
- 第七條 指令書、命令書及検査證書ハ所轄警察官署ヲ經テ交付スヘシ

●陸上汽罐取締規則執行手續

長野縣訓令第六號(明治三十四年二月二十二日)

接合	汽筒	煙筒	火床面積
厚徑長	厚徑長	厚徑長	燃料面積
材料	材料	材料	水壓試驗度
管板	管板	管板	同年月日
管厚	管厚	管厚	突煙
管徑	管徑	管徑	
管種類	管種類	管種類	
管數	管數	管數	
管徑	管徑	管徑	
管種類	管種類	管種類	
管數	管數	管數	
管徑	管徑	管徑	
管種類	管種類	管種類	
管數	管數	管數	

汽罐検査證様式

長野縣訓令第一號(明治三十八年一月六日)

警察部 警察署 警察分署

明治三十四年二月訓令第六號陸上汽罐取締規則施行手續第七條ノ命令書様式左ノ通相定メ検査吏員ヲシテ其ノ乙號ヲ被命令者ニ丙號ヲ所轄警察官署ニ交付セシム

甲號

第 號	所轄警察官署	立會官	検査主任
汽罐専用者ノ住所氏名及命合書受領者印			
検査年月日	明治三十年 月 日	命令年月日	明治三十年 月 日
命合事項			

乙號

第 號	汽罐改修命令書
汽罐専用者住所氏名	
検査年月日	明年三十年 月 日
命令年月日	明治三十年 月 日
命合事項	右ハ此命令書交付ノ日ヨリ向三ヶ月以内ニ竣成スヘシ但シ理由ナクシテ竣成セサルトキハ其汽罐ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ
命合事項	右改修ヲ要ス竣成ノ上ハ此命令書ヲ添ヘ所轄警察官署ヘ由出ヘシ

丙號

第 號	署長	實地調査者印	
汽罐専用者住所氏名			
検査年月日	明治三十年 月 日	命令年月日	明治三十年 月 日
命合事項			
命合事項	右命令セシニ付改修竣成ノ上ハ實地調査ヲ遂ケ狀況ヲ左項ニ記シ命令書ト共ニ上申スヘシ		
調査狀況			
竣成年月日	明治三十年 月 日	上申年月日	明治三十年 月 日

陸上汽罐交換設置出願取扱方

警發第三一六號(明治三十七年十一月十一日)

警察署長 警察分署長

陸上汽罐ノ内既設ノモノニシテ罐體ニ異狀ヲ生シ使用ニ適セサルモノ又ハ事業上擴張ヲ要スル場合ニ據リ新造ノ汽罐ト交換シ従前ノ位置ニ於テ使用

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽罐

検査官印

検査官印

長野縣

汽罐工場取締ニ關スル件

警發第三〇二號(明治四十年九月四日)

警察署 警察分署

セントスルモノニ限リ陸上汽罐交換設置類トシテ差出サシメ且ツ其許可ヲ受ケタルトキハ既設汽罐ヲ直チニ廢罐セシムヘシ但シ願書ノ様式ハ陸上汽罐取締規則第一條ニ據リ願書中ハ舊汽罐ハ廢罐ノ旨ヲ記入シ尙ホ検査證書下附シアルモノハ同時ニ返納セシムヘシ

(左記)

- 一 汽罐検査ノ際ハ巡查部長以上ニ於テ立會フヘキ規程ナルニ往々缺略シタル向少カラス自今規程ノ通り立會フヘキコト
- 一 汽罐設置場ヘハ毎月一回以上臨檢シ規程ノ事項ヲ視察スヘキ管ナルニ之亦缺略スルモノ少カラス自今勵行スヘキコト
- 一 前項ノ視察ヲ爲スニ當リテハ執行手續第五條ノ事項ハ精密視察シ洩ラスナキハ勿論安全弁壓力計其他ノ附屬品ハ適當ニ使用セラレツ、アルヤヲモ監査スヘキ管ナルニ甚シキ差狂アルニ拘ハラス之ヲ不問ニ付セルモノアリ一層精査スヘキコト
- 一 工場附屬ノ寄宿舎ニ於ケル非常口ハ何時ニテモ開放シ得ヘキ装置ナルヤヲモ視察シ若シ不完備ノモノアラハ改修セシメ不慮ニ備ヘシムルコト
- 一 工場ニ於テ消火器及消防ノ設備アルヤ若シ不十分ノモノアラハ整備

- 七シムルコト
- 工場及寄宿舎炊場浴場等ハ清潔方法ヲ持續セシムルコト
- 工場ニ於テ傳染病ニ罹リタル者アリタルトキハ之ニ對スル應急ノ豫防消毒及隔離ノ方法ヲ設備セシムルコト
- 工女ニシテ夜間他出シ又ハ淫賣婦ニ等シキ行爲ナカラシムル爲工場主ニ對シテ防遏ノ方法ヲ示達スルコト

警察第五二三號(明治四十一年十二月二十三日)

警察署 同分署

工場視察方ノ義ニ付指示

製絲工女ノ待遇及其他ノ視察方ニ就テハ從來指示スル處アリシヲ以テ夫々注意シツ、アルコト、ハ思考スレトモ近來工女ノ待遇宜シキヲ得ス或ハ過激ナル勞働ヲ強ヒ若クハ苛酷ノ扱ヲ爲シ或ハ又外間ト文書ノ往復ヲ阻礙スル等ノ聞ヘアルノミナラス新聞紙既ニ如上ノ事實ヲ傳フルニ至レリ由來工場主ハ自家ノ利益ノミヲ目的トシ殆ト他ヲ顧ミサルカ爲可憐ナル工女ヲ虐使スルニ加ヒ終業ニ當リ賃金ヲ支拂フ爲サ多數ノ工女及其父兄ヲシテ活路ニ迷泣セシメタル事例尠カラサルヲ以テ之カ保護ニ島ムヘキ旨義ニ指示スル處アリシニ未タ其惡聲ヲ絶ツニ至ラサルヲ遺憾トス就テハ明治三十五年警察第三八二號及明治四十年警察第三〇二號指示ニ準據スルノ外左記事項ニ依リ一層視察ヲ嚴密ニシ保護ノ實ヲ全フスルニ力ムヘク其結果異狀アルヲ認メ又ハ荷モ其聞ヘアルヲ知リタルトキハ一面相當措置スルト共ニ狀況即時上申セラルヘシ

(左記)

- 一 工場主ノ工女ニ對スル待遇ノ實況
- 一 工場主ニ於テ工女ト外間トノ文通ヲ阻害スルカ如キ事實ノ有無
- 一 工女ト父兄其他知人トノ面會ヲ拒否セルカ如キ事實ノ有無
- 一 工女ト工場主トノ間ニ工賃其他ノ係争ナキヤ否キ其實況
- 一 工場主カ其意ニ應セサル工女ヲ毆打其他暴行ヲ加フルカ如キ事實ノ實況

九、資本金、工事費、及事業上ノ收支概算書

第二條 未成年者及禁治産者ノ爲ス願届書ニハ法定代理人ノ連署、準禁治産者、妻ノ爲ス願届書ニハ保佐人又ハ夫ノ連署ヲ要ス

第三條 瓦斯製造所、貯藏所ハ學校、病院、社寺、公園ヲ距ル二町以内ノ地ニ設置スルコトヲ得ス

第四條 第一條ニ依リ瓦斯事業ノ許可ヲ得タル者ハ六個月以内ニ左ノ事項ヲ具工事施行認可ヲ申請スヘシ之カ變更ヲ爲サルトキ亦同シ

前項ノ申請書ハ事業願同時ニ之ヲ提出スルコトヲ得

一、瓦斯製造所、貯藏所ノ構造仕様書、及其ノ平面圖(蒸溜器、凝縮器、瓦斯メーター、コールド、貯溜池、石炭又ハ「カーバイト」貯藏所等ノ位置ヲ示スヲ要ス)

二、蒸溜器ノ個數並ニ構造仕様書及其ノ平面圖(断面圖)

三、瓦斯槽ノ個數並構造仕様書

四、瓦斯槽ノ順序方法

五、煙突ノ構造仕様書及其ノ平面圖

六、避雷針ノ仕様書

七、瓦斯製造上生スル汚水、廢棄物ノ處分方法

八、瓦斯製造ニ使用スル機械ノ種類及員數並其ノ平面圖

九、埋設又ハ架設スヘキ瓦斯管ノ種類、口徑、接合、屋内取付ノ方法、瓦斯遮斷器設置ノ場所、埋設及架設ノ間數、地表ヨリ管ノ上部ニ至ル深サ、路端、溝渠、最近飲料水及各種ノ水道管其ノ他地中施設金屬管等トノ距離

十、瓦斯管ヲ河川等ニ架設セムトスルトキハ其ノ架設方法及平水面ニ對スル距離

十一、工事著手期日及落成期限

工事竣工シタルトキハ知事ニ届出テ使用認可ヲ受クヘシ

第五條 瓦斯管ハ左ノ方法ニ依リ總テ地中ニ埋設スヘシ但シ河川等ニ架設スル場合ハ成ヘク橋梁其ノ他既設ノ架設物ニ沿ヒ架設スヘシ

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽機

五〇三

- 有無
- 一 他ニ雇ハレ中ノ工女ヲ拐引スルカ如キ事實ノ有無
- 一 就業時間ハ工女ノ體力ニ相應セル範圍ナルヤ否ヤ
- 一 疾病ニ罹リタル工女ニ就業ヲ強ユルカ如キ行爲ノ有無
- 一 寄宿舎食堂及浴場等ハ常ニ清潔ニナリ居ルヤ否ヤ並日常ノ飲食物ノ良否
- 一 工場主ノ資産乏シクシテ決算期ニ工賃ノ支拂ヲ爲ス能ハサルカ如キモノニアラサルヤ否ヤ
- 一 其他參考トナルヘキ一切ノ事項

●瓦斯事業取締規則

長野縣令第十五號(明治四十五年三月五日)

瓦斯事業取締規則左ノ通定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 瓦斯供給事業ヲ爲サルトスル者ハ左ノ事項ヲ具知事ノ許可ヲ受クヘシ第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 一、族籍、住所、氏名、生年月日、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、創立年月日、定款並代表者ノ族籍、住所、氏名、生年月日
- 二、營業所ノ位置
- 三、事業ノ目的
- 四、瓦斯ノ種類
- 五、供給區域及線路ノ地名並其ノ平面圖
- 六、製造所貯藏所ノ位置
- 七、土地又ハ道路並河川用悪水路等公有水面ノ使用ニ關スル許可書若ハ承諾書ノ寫
- 八、製造所、貯藏所ノ四周二町以内ノ地形及建築物ノ現狀ヲ示シタル平面圖

一、瓦斯管埋設ノ深サハ地表ヨリ二尺以上タルコト

二、地下電線又ハ瓦斯管若ハ各種ノ水道管ト接近シテ埋設スルトキハ四尺以上又之ト交叉シテ埋設スルトキハ二尺以上離隔スルコト

三、飲料水ニ對シテハ六尺以上電柱、路端、樹木、建築物ニ對シテハ三尺以上離隔スルコト

四、直流單線式電氣鐵道ノ軌道ト九町以内ノ距離ニ接近スルトキハ軌道線ノ絕緣セサル部分ト六尺以上ヲ離隔スヘシ但シ六尺以上離隔シ能ハサルトキハ其ノ間不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中六尺以上ヲ通過スルニ非レハ兩者間ヲ流通スルコト能ハサルノ設備ヲ爲スコト

五、瓦斯管ノ交叉點ハ十字管ヲ用キ屈曲ノ個所ハ屈曲管ヲ用ウルコト

六、埋設瓦斯管ハ適當ノ勾配ヲ付シ貯溜汚水ノ排泄裝置ヲ爲スコト

工事上又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムラ得サルトキ若ハ特殊ノ施設ヲ爲ス場合ハ知事ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第六條 火藥又ハ石油ノ貯藏場、紡績、打綿工場其ノ他ノ爆發性、燃焼性、發火性、等ノ物質ヲ貯藏スル場所並劇場、寄席、常設遊覽場、十人以上ノ營業者アル工場及寄宿舎、病院、又ハ汽機、汽機(石油發動機其ノ他)電信、電話室内等ニ瓦斯ヲ供給セムトスルトキハ工事施行前左ノ書類ヲ添ヘ知事ニ届出ヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一、工事方法書

二、使用場所及瓦斯管布設平面圖

三、竣工期限

第七條 電氣ヲ使用スル建物其ノ他ニ對スル工事ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一、屋内ニ於テ電線、水管其ノ他ノ金屬體ト交叉又ハ接近シテ施設スル瓦斯管ハ五寸以上ヲ離隔シ其ノ點檢容易ナラサル場所ニ在リテハ二尺以上ヲ離隔スルコト

二、電氣機械器具ヲ容ルル爲特ニ設ケタル室又ハ函内ニ瓦斯工作物ヲ施設スル場合ハ成ヘク橋梁其ノ他既設ノ架設物ニ沿ヒ架設スヘシ

第二編 保安 第十三章 電氣、瓦斯、汽機

五〇三

設スヘカラサルコト但シ接続點ナキ瓦斯管ハ此ノ限ニ在ラス
 三、電氣機械器具ノ附近ニ瓦斯工作物ヲ施設スルトキハ空氣ノ流通十分ナル場所ニ在リテハ一尺以上其ノ他ノ場所ニ在リテハ二尺以上ヲ離隔スルコト
 四、屋内供給管ニハ引込口内外各一箇所ニ開閉器ヲ設クルコト
 工事已ムヲ得サル場合ハ知事ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八條 瓦斯引込管ヲ新設變更又ハ撤去セムトスルトキハ工事著手前左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ヘシ

- 一、新設、變更、撤去ノ場所
- 二、需用者ノ氏名
- 三、管ノ種類
- 四、工事著手及竣工期日

第九條 瓦斯管ノ要所ニハ容易ニ瓦斯ヲ遮斷シ得ヘキ適當ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十條 瓦斯管ヲ左記各號ノ物件ニ併行若ハ交叉シ又ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ敷設セムトスルトキ或ハ其ノ既設ノモノヲ修理又ハ撤去セムトスルトキハ場所並日時等工事著手前其ノ所有者若ハ管理者ニ通知シ立會ヲ求ムヘシ

- 一、地中電線又ハ瓦斯管
- 二、各種ノ水道管
- 三、飲料水
- 四、軌道

五、建設物ニ施設シアル電氣工作物

所有者若ハ管理者ニ於テ豫定ノ日時ニ立會ヲ爲ササルトキハ直ニ工事ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 瓦斯製造所及貯藏所ニハ避雷針ヲ設ケヘシ

第十九條 事業者ハ知事ノ認可ヲ受クルニ非レハ全部又ハ一部ノ事業ヲ休止スルコトヲ得ス

第二十條 事業者ハ正當ノ事由ナクシテ需用者ニ對シ瓦斯ノ供給ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ其ノ原因、日時及狀況ヲ遲滞ナク知事ニ届出ヘシ

- 一、瓦斯事業ニ起因シ災害其ノ他ノ事故ヲ生シタルトキ
- 二、天災其ノ他事故ノ爲瓦斯ノ供給ヲ停止シ又ハ之ヲ復舊シタルトキ

第二十二條 瓦斯管敷設ノ場所及其ノ附近ニ於テ出火其ノ他ノ災害アリタルトキハ直ニ技術者又ハ工夫ヲ現場ニ派遣シ危害豫防ノ施設ヲ爲サシメ其ノ狀況ヲ出張ノ警察官吏ニ申告シ其ノ許可ヲ得ルニアラサレハ退場スルコトヲ得ス

前項ノ派遣員ニハ晝間ハ標旗若ハ標章夜間ハ標燈ヲ携帯セシムヘシ其ノ標旗、標章及標燈ハ豫メ一定シ知事ニ届出ヘシ

第二十三條 出火其ノ他災害ノ場合ニ際シ迅速ニ危害豫防ノ施設ヲ爲サシムル爲必要ナリト認ムルトキハ知事ハ瓦斯供給區域内ノ要所ニ技術者又ハ工夫ノ敷設所ノ設置ヲ命スルコトアルヘシ

前項敷設所ニハ公衆ノ踏易キ所ニ標札(夜間ハ)ヲ掲ケ且昇降器其ノ他危害豫防上必要ノ器具ヲ備ヘ置クヘシ

第二十四條 前條ニ依リ敷設所ヲ設ケタルトキハ五日以内ニ其ノ位置及敷設所ニ勤務スル技術者又ハ工夫ノ氏名年齢ヲ知事ニ届出ヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

第二十五條 製造所、貯藏所又ハ線路ノ工作物ハ當該官吏ヲシテ隨時監査セシムルコトアルヘシ

第二十六條 知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ瓦斯漏洩試験ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ試験又ハ當該官吏カ瓦斯工作物ノ検査ニ要スル費用ハ事業者ノ負

第十二條 瓦斯管ノ埋設架設其ノ他工事ノ爲道路其ノ他ノ場所ヲ發掘若ハ毀損シタルトキハ竣工ノ後遲滞ナク原形ニ修補スヘシ

第十三條 事業者ハ工事著手前ニ學識、經驗アル主任技術者又ハ代務者ヲ選任シ履歷書ヲ添ヘ其ノ族籍、住所、氏名、生年月日ヲ知事ニ届出ヘシ之ヲ解任若ハ變更シタルトキ亦同シ

知事ハ主任技術者又ハ代務者ニシテ不適任ト認ムルトキハ期間ヲ指定シ之カ改任ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 瓦斯事業ニ關シ提出スル書類圖面中技術ニ關スルモノハ主任技術者又ハ其ノ代務者之ニ署名捺印スヘシ但シ主任技術者ノ選任前ニ在リテハ擔當技術者之ニ署名捺印スヘシ

第十五條 事業者ハ事業開始前營業規程ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

營業規程ニハ瓦斯供給料金及供給ニ要スル機械器具工作物ノ使用料其ノ他供給上ノ要件ヲ記スヘシ

第十六條 知事ハ正當ノ事由アリト認ムルトキハ工事施行認可申請期間及工事著手期間若ハ事業開始期間ノ延長ヲ認可スルコトアルヘシ

第十七條 事業ヲ讓渡シ又ハ合併セムトスルトキハ當事者連署ノ上知事ノ許可ヲ受クヘシ

相續ニ依リ事業ヲ繼承シタル者ハ五日以内ニ知事ニ届出ヘシ

第十八條 事業者ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ但シ第三號ノ場合ハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ又法人ニ在リテハ清算人ヨリ之ヲ爲スヘシ

- 一、第一條第一號第二號ニ異動ヲ生シタルトキ
- 二、法定代理人、保證人ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ住所、氏名ヲ變更シタルトキ
- 三、事業者死亡シ(法人ニ在リテハ解散)又ハ所在不明トナリタルトキ
- 四、瓦斯ノ供給ヲ開始シ又ハ廢止シタルトキ

長野縣

據トス
 第二十七條 瓦斯ノ製造量、供給量並需用者ノ増減副生物數量價格等ハ毎月十日迄ニ前月分ヲ知事ニ届出ヘシ

事業概況報告書ハ毎決算毎ニ調製シテ提出スヘシ

第二十八條 自家用ノ爲瓦斯ヲ製造若ハ天然瓦斯ヲ使用スル者ハ瓦斯ノ種類、使用ノ目的、使用ノ場所、設備方法等ヲ具シ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ使用ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第二十九條 本則又ハ本則ニ基ク命令ニ依リ知事ニ提出スヘキ願届ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第三十條 國又ハ供給區域ヲ管轄スル公共團體ニ於テ瓦斯事業ノ全部又ハ一部ヲ買収セムトスルトキハ事業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十一條 前條ニ依リ買収價格ハ當事者協議ノ上之ヲ決定スヘシ

前項ノ協議調ハサル場合ハ知事ニ於テ三名ノ評價委員ヲ命シ尙買収者及當業者ヲシテ各三名ノ評價委員ヲ選定セシメ其ノ委員ノ意見ヲ徵シ買収價格ヲ定ム

第三十二條 知事ハ公益若ハ危害豫防上必要アリト認メタルトキハ改修、撤去、又ハ使用ヲ停止ヲ命シ若ハ許可ヲ取消スルコトアルヘシ

事業者ニシテ第四條第一項ニ依リ工事施行認可ヲ申請セス若ハ工事施行認可ヲ得タル日ヨリ六箇月以内ニ工事ニ著手セス其ノ他本則及本則ニ基ク命令並事業許可ノ條件トシテ命令シタル事項ニ違背シ又ハ正當ノ事由ナクシテ一箇月以上事業休止シタルトキ亦前項ニ同シ

第三十三條 本則第一條、第五條、第六條、第七條、第八條、第九條、第十條、第十一條、第十二條、第十三條第一項、第十五條、第十七條、第十八條、第十九條、第二十條、第二十一條、第二十二條、第二十四條、第二十七條、第二十八條、第三十條ニ違背シタル者又ハ第二十五條ノ監査ヲ拒ミタル者及第十三條第二項、第二十三條、第二十六條第一項、第三十二條ノ命令ニ従ハサル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ料科

ニ處ス
第三十四條 本則ニ依リ適用スヘキ罰則ハ營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ之ヲ法定代理人ニ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス。事業者ハ法定代理人、法人ノ代表者、其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指示ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス。

附則

第三十五條 本則施行前ヨリ瓦斯ノ供給事業又ハ使用ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第一條及第四條若ハ第二十八條ノ手續ヲ爲スヘシ。
 前項ノ手續ヲ爲サ、ル者ハ爾後瓦斯事業ヲ爲スコトヲ得ス。

●瓦斯事業取締規則取扱手續

長野縣訓令第二十一號(明治四十五年三月五日)

警察署 警察分署

第一條 規則第一條ニ依ル瓦斯供給事業新設願書ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ進達スヘシ
 一、瓦斯製造所、貯藏所、設置場所ノ適否
 官公署、學校、病院、病舎、工場、社寺、公園等トノ距離並四隣最近人家其ノ他ノ建物トノ距離等ニ依リ其ノ場所ノ適否
 二、故障ノ有無
 瓦斯製造所、貯藏所、開閉所等ノ近傍及瓦斯管敷設線路沿道ノ人民若ハ公共團體等ニ於テ故障ヲ唱フル者ナキヤ否
 三、同一事業者及電氣事業者トノ關係
 既許可ノ同一事業者及電氣事業者アルトキハ其ノ事業ニ對シ及ホスヘキ影響
 四、出願中又ハ計畫中ニ係ル同一事業及電氣事業ニ對スル關係同一供給

十日迄ニ報告スヘシ(様式略ス)

●瓦斯事業取締方ノ件

收第三七〇九號(大正八年四月四日)

警察署長 警察分署長

過般松本瓦斯株式會社瓦斯製造所内ニ於テ火災發生シタル事件アリ其ノ狀況左記ノ通りニ有之候條將來取締上ノ參考ニ資セララルヘシ
 左記

- 一、火災發生ノ日時
 大正八年三月五日午前四時頃發火同六時頃鎮火ス
- 二、火災ノ場所
 松本市宇津松本瓦斯株式會社石炭瓦斯製造所内
- 三、火災ノ原因
 當直ノ火夫カ瓦斯「メートル」ノ指針進行遲緩セルヨリ提灯ヲ使用シテ機械各部ヲ點檢シタルニ「マイル」沈澱所ノ移送管及交換「バルブ」ニ故障アルヲ認メ之ヲ修理スヘク「エンジン」ノ運轉ノミヲ停止シ直チニ「コイル」ニ「沈澱所及瓦斯」メートルニ接近セル交換「バルブ」ヲ撤シタルニ「マイル」内ニ蓄積シアリタル瓦斯ハ一時ニ該「バルブ」ノ附近ニ逆流シ來リタルヲ以テ之ヲ阻止セムトセシモ此時已ニ火夫ノ携帯セル提灯ノ火カ瓦斯ニ燃ヘ移リ忽チ火災ヲ惹起スルニ至レルモノナリ
- 四、被害ノ狀況
 瓦斯約二萬七千「メートル」及製造所内床板約二坪ヲ燒燬シ消防組ノ努力ニヨリ鎮火スルヲ得タリ
- 五、將來、取締上注意ヲ要スヘキ事項
 (イ) 瓦斯ニ故障ヲ生シタル場合點檢、爲スニ、懷中電燈ヲ使用セシメ提

區域内ニ於テ同一事業及電氣事業ニ就キ他ノ出願者又ハ計畫中ノ者アルトキハ土地ノ狀況需要ノ程度等相互併立シ得ルヤ否並同一道路ニ瓦斯管ヲ施設スル場合ニ於テ道路使用ニ關シ支障ヲ生スルコトナキヤ否

- 五、起業ノ確否
 起業者ノ資力、職業、經歷、信用ノ程度及起業目途ノ適否
- 六、起業ノ組織
 株式會社組織ニ依ラサルトキハ其ノ事由
- 七、其ノ他參考トナルヘキ事項
 製造所、貯藏所ノ變更、改築又ハ供給區域ノ擴張若ハ變更ノ願書ヲ受ケタルトキハ前項ニ準シ調査ノ上進達スヘシ
- 第二條 規則第四條第三項ノ工事竣工届ヲ受ケタルトキハ其ノ實況ヲ調査シ進達スヘシ
- 規則第十六條ニ依リ工事施行認可申請期間及工事著手期間若ハ事業開始期間ノ延長願書ヲ受ケタルトキ亦同シ
- 第三條 規則第十七條及第十九條ノ願書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ進達スヘシ
- 第四條 規則第二十一條ノ届書ヲ受ケタルトキハ即時災害ノ原因、程度並其ノ實況ヲ調査シ進達スヘシ
- 第五條 規則第二十三條第一項ニ依リ技術者又ハ工夫ノ數宿所ヲ設置セシムヘキ必要アリト認メタルトキハ其ノ事實並場所ヲ調査シ報告スヘシ
- 第六條 警察官署ハ第一號様式ノ臺帳ヲ備ヘ規則第二十八條ニ依リ自家用瓦斯使用届ヲ受ケタルトキハ之ヲ登載スヘシ
- 第七條 規則第三十二條ノ處分ヲ要スヘキ事項アリト認メタルトキハ其ノ事實ヲ詳細シ報告スヘシ
- 警察上特ニ改善ヲ要スヘキ事項アリト認メタルトキ亦同シ
- 第八條 自家用瓦斯使用者ハ第二號様式ニ依リ前年分ヲ調査シ翌年一月二

(ロ) 灯ノ類ハ絶對ニ使用セシメサルコト

製造所内ノ故障ニ際シテハ先ツ配送機ヲ止メ且「タンク」ヨリ瓦斯ノ逆流セサル様「バルブ」ヲ閉鎖シタル後故障ノ排除ニ著手セシムルコト

第十四章 消防、災害

●消防組規則

勅令第十五號(明治二十七年二月十日)

- 第一條 府縣知事ハ職權又ハ市町村ノ申請ニ依リ火災ノ予防及消防ノ爲メ消防組ヲ設置スルコトヲ得
- 第二條 消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ市町村内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得
- 第三條 消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス
- 組頭及小頭ハ警察部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長之ヲ命免ス
- 消防手ハ警察署長之ヲ命免ス
- 第四條 組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ從事ス
- 小頭ハ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ルモノトス
- 第五條 府縣知事ハ市町村會ニ諮問シ消防組ヲ數部ニ分ツコトヲ得
- 第六條 消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察署長之ヲ指揮監督ス
- 消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但シ火災ニ際シ警察官ノ臨場スル迄町村長又ハ組頭若ハ小頭之カ指揮ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 消防組ハ其ノ區域外ノ火災ト雖警察署長ノ指揮ニ從ヒ其ノ消防ニ應接スヘシ
- 危急ノ場合ニ於テ警察署長前項ノ指揮ヲ爲スノ暇ナキトキハ他ノ警察官
- 警察署長ニ代テ其ノ指揮ヲ爲スコトヲ得
- 第八條 警察部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方全體ノ消防組ヲ指揮監督ス

第二編 保安 第十四章 消防、災害

消防組ハ火災警防ノ爲メニアラサレハ集合若クハ運動スルコトヲ得ス但警察部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合運動ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニアラス

第九條 消防組ノ服務規律及懲戒ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ
第十條 消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ解クコトヲ得

第十一條 消防組員ノ手當並ニ被服等ハ市町村會ニ諮問シ府縣知事之ヲ定ム
第十二條 消防組ニ必要ナル器具及建物ハ府縣知事市町村會ニ諮問シ之ヲ定ム

第十三條 消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村ノ負擔トス
第十四條、第十五條(刪除)

第十六條 此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細則ハ府縣知事之ヲ定ム
第十七條 府縣知事ハ地方ノ狀況ニ依リ此ノ規則ノ全部若ハ一部ヲ準用シ水災ノ警戒防禦ノ爲メ水防組ヲ設ケ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ兼ネシムルコトヲ得

第十八條 北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ
東京府郡部ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ警視總監之ヲ行ヒ警察部長ノ職務ハ警察署長之ヲ行フ

第十九條 此ノ規則中市ニ關スル規定ハ市町村組合並北海道及沖繩縣ノ區ニ、町村ニ關スル規定ハ町村組合ニ之ヲ準用ス
第二十條 第七條ヲ除クノ外此ノ規則ハ警視廳官制又ハ特設消防署規程ニ依リ設置スル消防署ノ管轄區域ニハ之ヲ適用セス

●消防組點檢規則

內務省訓令第十六號(明治三十三年五月二十三日)

第一條 消防組ノ設置區域、區域ノ變更及廢止ハ之ヲ告示ス
第二條 市町村ニ於テ消防組ヲ設置セントスルトキハ市町村長ハ市町村會決議ヲ經テ左ノ事項ヲ詳記シ縣知事ヘ申請スヘシ其組織又ハ區域ヲ變更セントスルトキ又同シ

一 設置スヘキ市町村名及其ノ區域
二 部ヲ分ツトキハ其部名及區域
三 人員總數但シ部ヲ設クルトキハ其部ノ人員
四 器具及建物ノ種類
五 諸手當並給與金及被服給與ノ有無

第三條 消防組及部ノ名稱ハ其ノ設置區域ノ地名ヲ附ス但シ其ノ地名ヲ附シ難キ事情アルトキハ他ノ名稱ヲ附スルコトアルヘシ
第四條 消防組ヲ組織スヘキ人員左ノ如シ

一 組 頭 一人
二 小 頭 消防手凡十五人ニ付一人
三 消防手 凡五十人以上

第五條 消防組ヲ數部ニ分割スルトキハ各部ニ部長一名ヲ置ク但シ部長ハ前條第二號ノ定員外ト爲スコトヲ得
第六條 組頭ノ代理ハ先補ノ部長トシ部長ノ代理ハ先任ノ小頭トス但シ部長差支アルカ又ハ之ヲ置カサルトキハ先任ノ小頭トシ小頭差支アルトキハ總掛トス

第七條 消防組ニハ左ノ掛ヲ置キ其人員ハ所轄警察官署長之ヲ定ム
一 總 掛
二 唧筒掛
三 給水掛
四 火先掛
五 信號掛

梯子、莖口、斧等ヲ使用シ專ラ火勢ノ防禦ニ從事スルモノトス

第二編 保安 第十四章 消防、災害

第一條 消防組ノ點檢ハ人員、服裝、姿勢、動作及機械器具其ノ他携帶品ノ操法、分解構成、保存ノ適否ヲ檢査スルモノトス

第二條 點檢ヲ行フトキハ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者ヲ點檢官トシ組頭又ハ小頭ヲ指揮者トス但シ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者在ラサルトキハ組頭ヲ點檢者トシ小頭ヲ指揮者トス

第三條 消防組員ノ集合整頓ノ方法ハ巡查點檢規則ヲ準用ス
第四條 指揮者タラサル小頭ハ前列右翼ニ若シ餘員アルトキハ同左翼ニ列シ尙ホ餘員アルトキハ後列ノ中央ニ若シ距離ニ於テ押伍ト爲ルヘシ

第五條 點檢ノ際列員ハ一定ノ服裝ヲ爲シ手袋アルトキハ之ヲ着用スヘシ
但シ頭巾ヲ携フルトキハ其ノ紐ヲ頭ニ掛ケ之ヲ背部ニ負フヘシ

第六條 點檢ハ消防組當番員出務ノ際、現場引上ノ際及演習ノ際之ヲ行フモノトス
當番員出務ノ際ニ於ケル點檢ニ付テハ機械ノ分解構成ニ關スル檢査、現場引上ノ際ニ在テハ動作及機械器具携帶品ノ操法、分解構成、保存ノ檢査ヲ省略スルモノトス但シ現場引上ノ際ニハ機械器具、被服其ノ他携帶品破損ノ有無ヲ特ニ嚴重檢査スヘシ

廳府縣(東京府ヲ除ク)

●消防組規則施行細則

長野縣令第三十號(明治三十六年七月三日)

第一章 消防組ノ組織

第一條 消防組ノ點檢ハ人員、服裝、姿勢、動作及機械器具其ノ他携帶品ノ操法、分解構成、保存ノ適否ヲ檢査スルモノトス

第二條 點檢ヲ行フトキハ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者ヲ點檢官トシ組頭又ハ小頭ヲ指揮者トス但シ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者在ラサルトキハ組頭ヲ點檢者トシ小頭ヲ指揮者トス

第三條 消防組員ノ集合整頓ノ方法ハ巡查點檢規則ヲ準用ス
第四條 指揮者タラサル小頭ハ前列右翼ニ若シ餘員アルトキハ同左翼ニ列シ尙ホ餘員アルトキハ後列ノ中央ニ若シ距離ニ於テ押伍ト爲ルヘシ

第五條 點檢ノ際列員ハ一定ノ服裝ヲ爲シ手袋アルトキハ之ヲ着用スヘシ
但シ頭巾ヲ携フルトキハ其ノ紐ヲ頭ニ掛ケ之ヲ背部ニ負フヘシ

第六條 點檢ハ消防組當番員出務ノ際、現場引上ノ際及演習ノ際之ヲ行フモノトス
當番員出務ノ際ニ於ケル點檢ニ付テハ機械ノ分解構成ニ關スル檢査、現場引上ノ際ニ在テハ動作及機械器具携帶品ノ操法、分解構成、保存ノ檢査ヲ省略スルモノトス但シ現場引上ノ際ニハ機械器具、被服其ノ他携帶品破損ノ有無ヲ特ニ嚴重檢査スヘシ

第七條 機械、器具ニシテ使用シタルモノハ洗滌ニ後修繕シタルモノハ竣工ノ後警察官ニ於テ點檢スヘシ其ノ在ラサルトキハ組頭又ハ小頭ニ於テ點檢スヘシ

第八條 唧筒其ノ他ノ機械ニシテ組立タルモノハ毎年行フヘキ演習ノ内其一回ニ限リ之ヲ分解シ内部ノ檢査ヲ行フモノトス

第九條 消防組員ノ選任及待遇
第十條 消防手ハ消防組設置區域内ノ住民ヨリ所轄警察官署長之ヲ命免ス

第十一條 消防組員ノ免職ハ警察部長之ヲ行ヒ部長以下ノ命免ハ所轄警察官署長之ヲ行フ部長ハ小頭ヲ以テ之ニ補ス
第十二條 左ニ掲クル者ハ消防手タルコトヲ得ス

一 公權剝奪若クハ停止中ノ者
二 禁治產者又ハ準禁治產者
三 罹災救助基金ヲ除ク外公費ヲ以テ救助中ノ者
四 懲戒處分ニ依リ消防手ノ職務ヲ免セラレ滿三年ヲ經過セサル者
五 年齡十八年未滿ノ者
六 身體脆弱ナル者
七 平素ノ舉動粗暴ナル者又ハ酒癖アル者
八 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ改悛ノ情ナキ者
九 停職ノ處分ヲ受クルコト三回又ハ免職ノ處分ヲ受クルコト二回ニ至リタル者

第十三條 總掛ニ補セラレタル消防手ハ小頭ニ次クノ待遇ヲ受ク
第十四條 器具建物
第十五條 消防組及部ニ於テ設備スヘキ器具建物ハ左ノ標準ニ依ル

一 唧筒 一臺以上
二 指 又 一本以上

第二編 保安 第十四章 消防、災害

- 三 梯子 二挺以上
- 四 蓑 口 若干
- 五 水桶玄蕃桶 若干
- 六 掛矢 槌 若干
- 七 鋸 若干
- 八 斧 若干
- 九 繩 一本
- 十 旗 (部ハ部旗ヲ用ユ) 一旗
- 十一 提灯 若干
- 十二 高張 (部ハ部ノ高張ヲ用ユ) 若干
- 十三 引繩 若干
- 十四 警鐘、喇叭、鈴、呼子笛ノ類 若干

消防器具置場

一 消防器具置場

二 詰所

三 警鐘機

第十三條 市又ハ人家稠密ノ町村ニシテ特別ノ器具ヲ設備セシムヘキ必要アル場合ニ於テハ前條ノ標準ニ依ラサルコトヲ得

第四章 服務

第十四條 消防組ニハ沿革誌、組員名簿、水利圖面及器具目録簿ヲ備ヘ置キ異動アルトキハ速ニ加除訂正スヘシ

器具ノ毀損其ノ他ノ異動ヲ生シタルトキハ即時所轄警察官署長及市町村長ニ届出ヘシ

第十五條 組員ハ消防組ニ屬スル器具建物等保存ノ責ニ任スヘシ

第十六條 消防組頭更任ノトキハ引繼目録ヲ作り所轄警察官署長及市町村長ニ届出ヘシ

第十七條 消防組ニ關シ所轄警察官署長ハ差出ス書類ハ總テ組頭、部長ヲ經

由シ縣廳ヘ差出ス書類ハ總テ所轄警察官署長ヲ經由スヘシ

第十八條 烈風其ノ他火災豫防ノ爲メ特ニ必要アル場合ニ於テ所轄警察官署長ハ消防組ニ命シ晝夜ノ別ナク警戒勤務ヲ爲サシムルコトヲ得

第十九條 所轄警察官署長ハ豫メ各消防組ノ變災應援ノ區域方法ヲ定メ之ヲ部内消防組ニ指示シ置クヘシ

第二十條 消防組ノ出初式ハ毎年一回之ヲ行ヒ其ノ期日、場所ハ所轄警察官署長之ヲ指定スヘシ

第二十一條 所轄警察官署長ハ毎年一回以上各消防組ヲシテ其ノ組毎ニ又ハ其ノ一部ヲシテ器具ノ使用紀律ノ訓練ヲ爲サシムヘシ

第二十二條 所轄警察官署長ハ毎年一回以上部内ノ消防組ヲ巡檢シ紀律及器具建物ヲ監査スルモノトス

第二十三條 警察部長ハ期ヲ定メ巡檢ヲ行フ

第二十四條 消防組ハ各組及部ヲ識別シ易カラシムル爲メ鐘、大旗及高張提灯ヲ用ユヘシ但シ消防手凡五十名以上ニシテ唧筒ヲ有スル部ニアラサレハ鐘ヲ用ユルコトヲ得ス

第二十五條 組及部ノ鐘ハ左ノ徽章ヲ付スヘシ

一 組ノ鐘ハ馬籠上部ニ幅三寸同一寸ノ子持黒線ヲ付スヘシ

一部ノ鐘ハ黒線ヲ付セス

第二十六條 馬籠ハ認許ヲ得タル場合ヲ除ク外金筋ヲ使用スルコトヲ得ス

馬籠ノ金筋ハ様式ニ依リ調製スヘシ紀律訓練ニ依ル金筋ハ上部ニ銀色櫻花ヲ付シ證明ヲ得ル毎ニ銀線一條ヲ加フルモノトス

第二十七條 消防組ノ被服、旗及提灯ハ様式ニ依リ調製スヘシ但シ被服中曠ノ前章ハ各組適宜之ヲ定メ警察部長ノ認許ヲ受クヘシ

消防組員ハ其組内ニ於テ甲號被服ト乙號被服トヲ混用スルコトヲ得ス

第七章 給與

第二十八條 市町村ニ於テ消防組員ニ諸手當ヲ給與スルトキハ左ノ區別ニ依ル

一 月手當又ハ年手當

二 出場手當

三 夜警手當

四 辨當料

五 祭祀料

六 遺族扶助料

七 傷災扶助料

八 療治料

九 傷獲手當

十 功勞賞與

第八章 規律

第二十九條 消防組ハ所轄警察官署長之ヲ指揮監督ス

第三十條 消防組員ハ其ノ上班ノ命令ニ服從スヘシ

第三十一條 消防組員ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 消防組ノ徽章アル鐘、旗、提灯、被服ヲ職務外ニ使用スルコト

二 所轄警察官署ノ許可ナクシテ猥リニ集合スルコト

三 所轄警察官署長ノ許可ナクシテ贈與ヲ受クルコト

四 器具被服等ヲ破損シ又ハ粗瀆ノ取扱ヲ爲スコト

消防組員ハ火災現場ニ於テ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 猥ニ家屋器具ヲ破壞シ又ハ竹木ヲ伐採スルコト

二 他組ト持場消口ヲ争フコト

三 飲酒スルコト

四 消札ヲ用ユルコト

第三十二條 消防組員出場シタルトキハ警察官ノ點檢ヲ受ケタル後ニアラサレハ退散スルコトヲ得ス

第九章 信號

第三十九條 消防組員ニシテ功勞證書又ハ賞與ヲ受ケ若ハ懲戒セラレタル者アルトキハ組員ハ其組内ニ周知スヘシ

第十章 信號

但シ警察官ノ臨場セサルトキハ町村長又ハ組頭、部長、小頭ニ於テ點檢シ其人員ヲ警察官署ヘ報告スヘシ

第三十三條 消防組ハ消防組規則及本則ニ規定シアルノ外必要ノ事項ニ付規約ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規約ハ所轄警察官署長ノ認許ヲ受クヘシ

第九章 賞罰

第三十四條 紀律訓練ニ秀テ若ハ災害ニ當リ披掛ノ功勞アリ又ハ災害ノ豫防ニツキ特ニ功勞アリト認ムルトキハ消防組又ハ水防組ニ對シ警察部長ヲシテ金馬籠ノ使用ヲ認許セシム

紀律訓練ノ秀逸ニ依リ金馬籠ヲ認許シタル後進歩發達ノ顯著ナルヲ認メタルトキハ警察部長ハ其ノ證明ヲ與フルコトヲ得

第三十五條 紀律ヲ亂シ訓練ヲ怠リ其ノ他不都合ノ廉アリト認ムルトキハ警察部長ハ命馬籠ノ使用ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第三十六條 警察部長ハ滿三年以上勤続シ紀律嚴肅勤務勤勳及消防ニ關スル技藝ニ熟達シ若ハ功勞顯著ナル者ニ對シテハ其ノ名譽ヲ表彰スル爲メ功勞證書ヲ授與スルコトヲ得

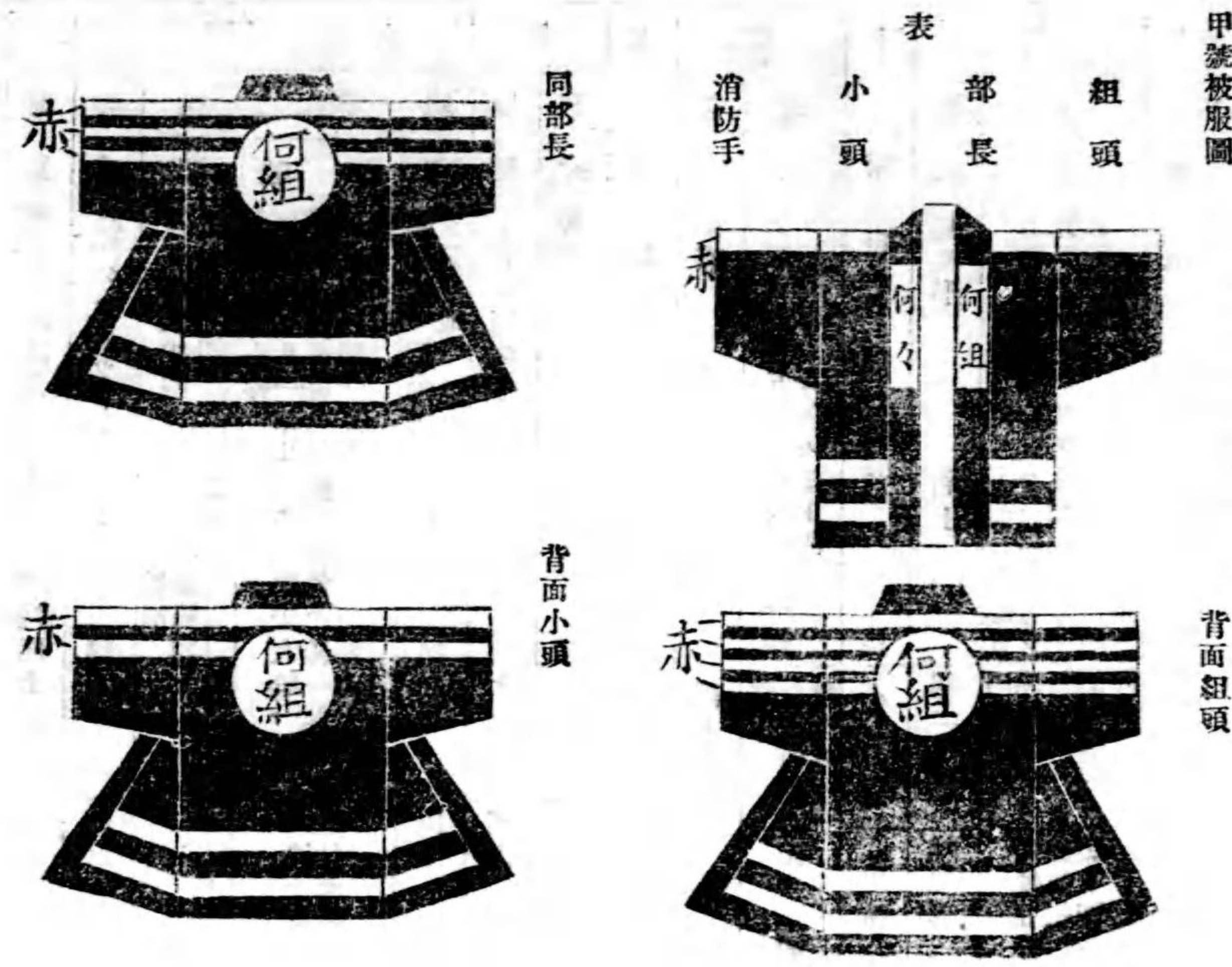
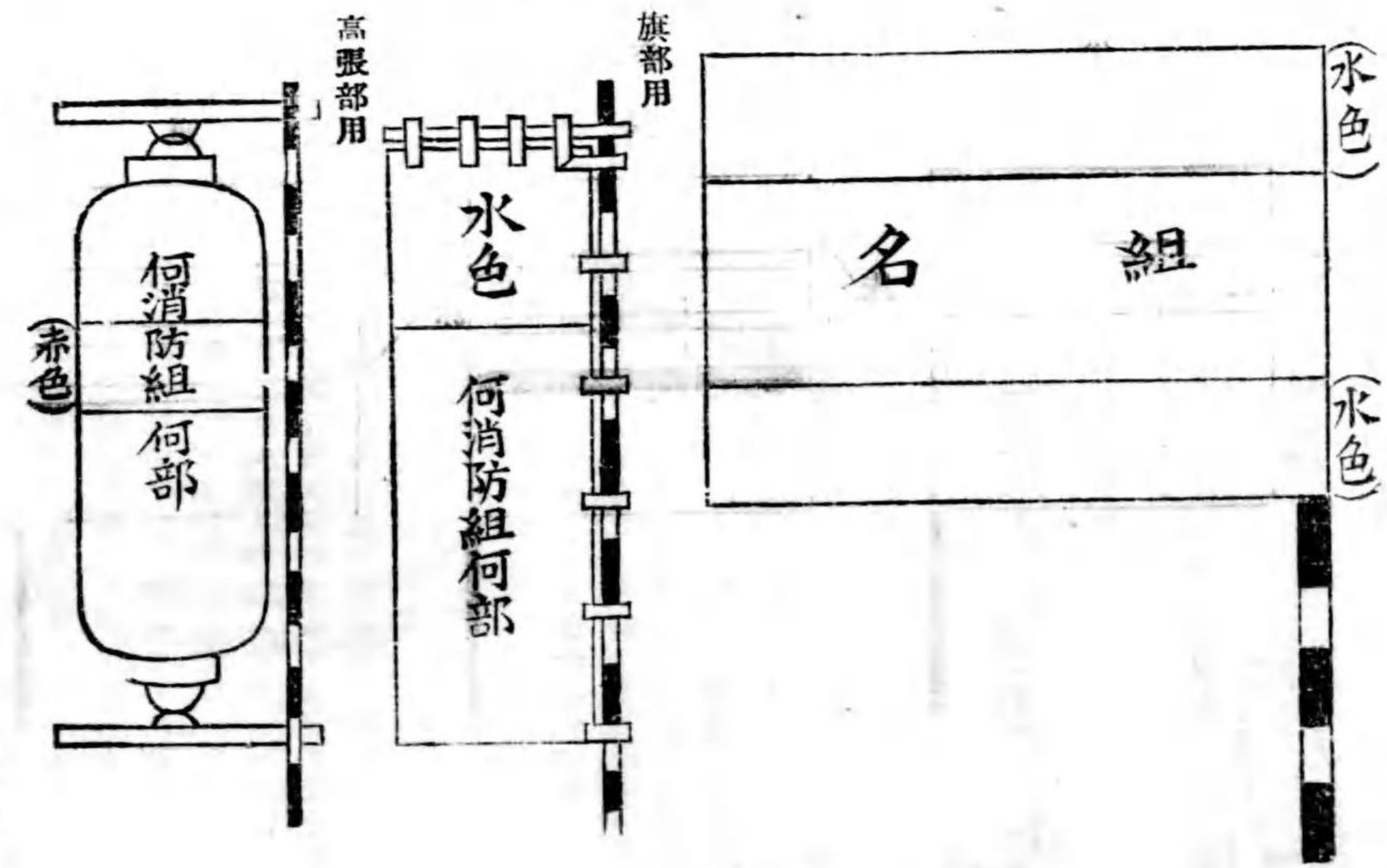
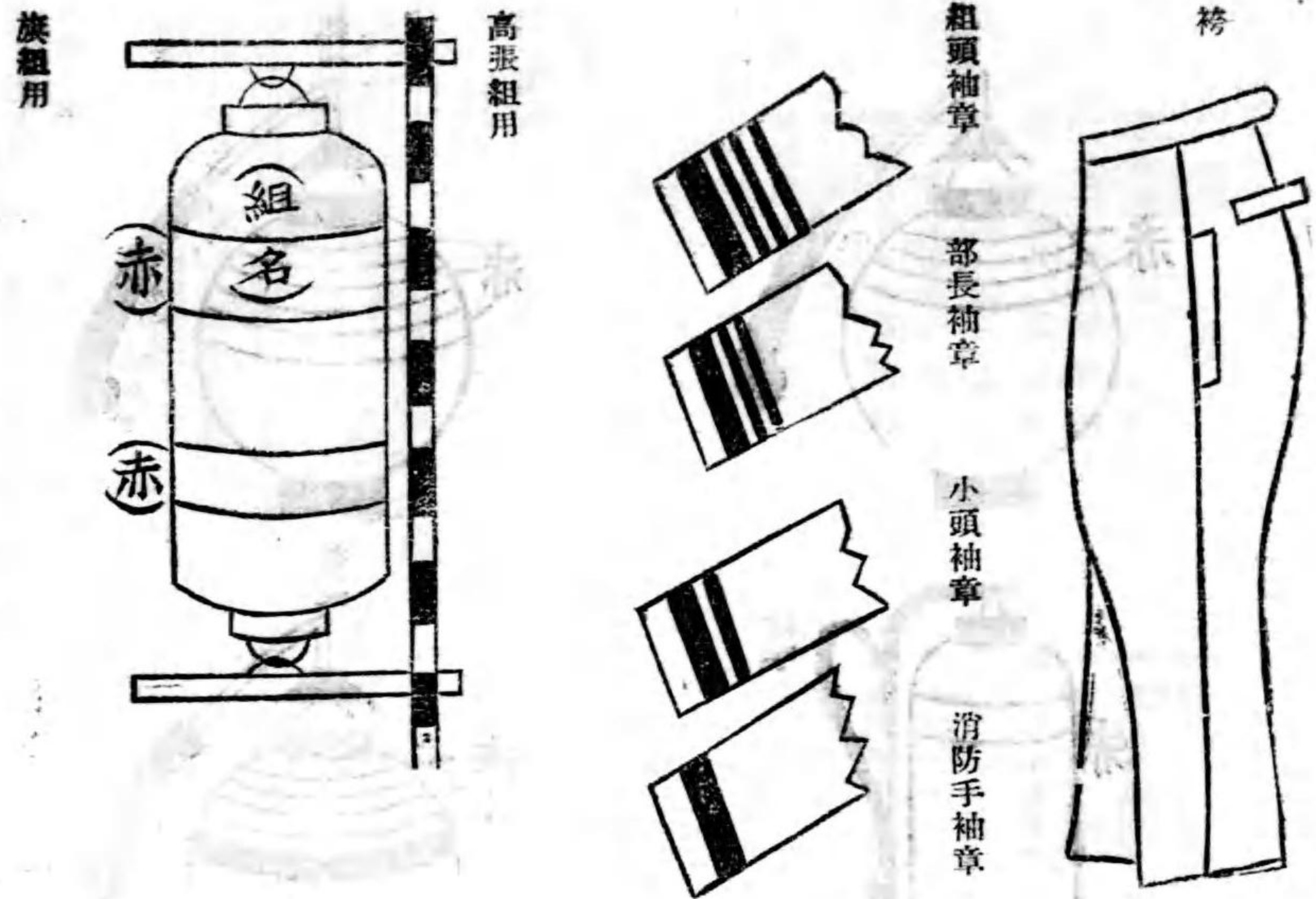
第三十七條 消防組員ノ懲戒ハ左ノ種別ニ依ル

一 免職

二 停職

三 誹責

功勞證書ヲ受タル者ニシテ前項第一號ノ懲戒又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ證書ヲ返納セシム





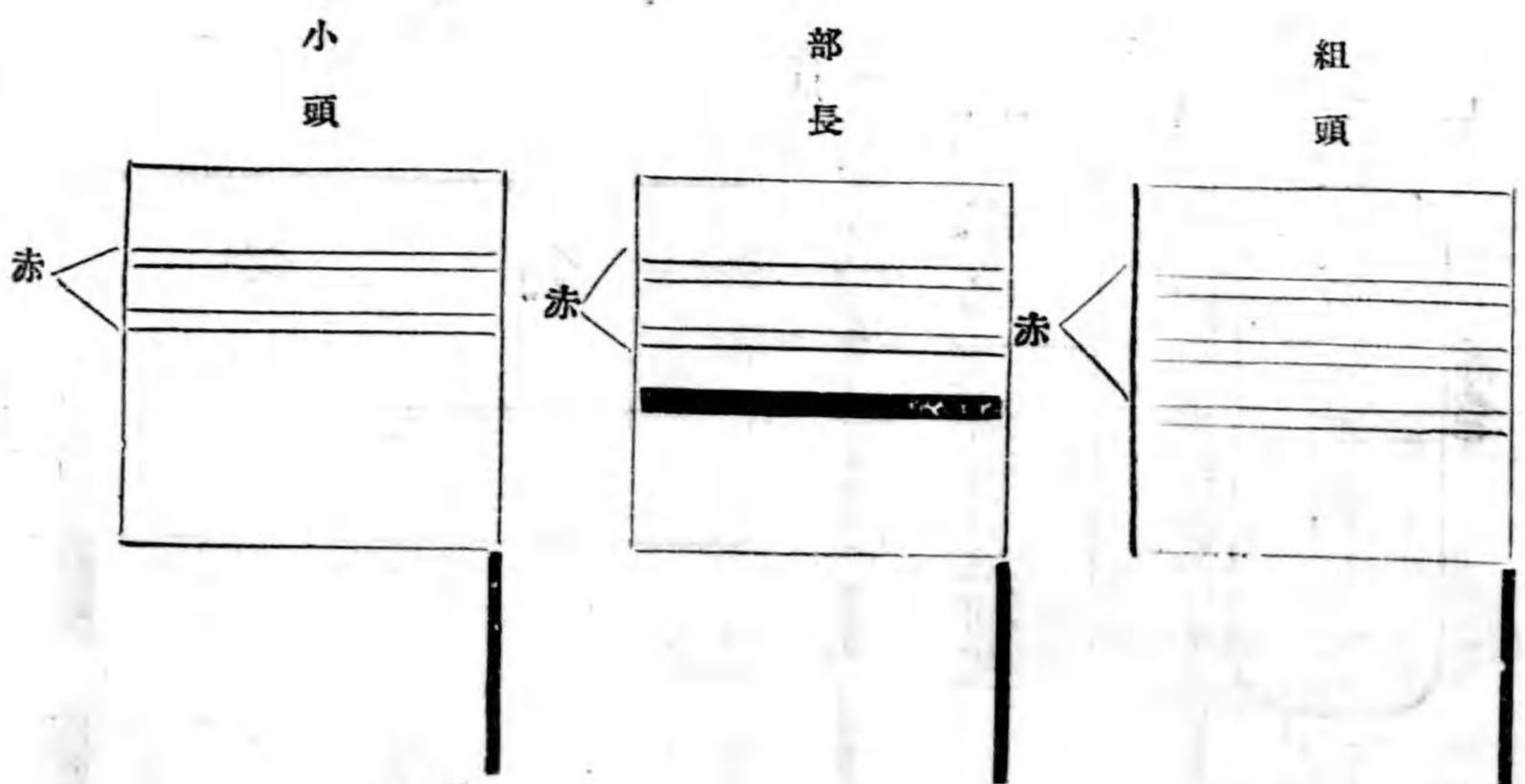
消防手

指揮旗圖

● 消防組規則施行細則取扱手續

長野縣訓令第六十二號(明治三十六年七月三日)

- 第一條 警察官署長ニ於テ消防組ノ設置又ハ變更ノ必要ヲ認メタルトキハ細則第二條ノ各項ヲ記載シ知事ヘ具申スヘシ
- 第二條 警察官署長ハ市町村長ヨリ細則第二條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ各項ヲ審査シ意見ヲ付シ進達スヘシ
- 第三條 前二條ノ場合ニ於テハ様式ノ調査表ヲ添付スヘシ
- 第四條 警察官署ニハ消防組員名簿及器具建物臺帳ヲ備ヘ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ
- 第五條 警察官吏火災現場ヘ出張シタルトキハ防火線ヲ定メ左ニ掲クル者ノ外溢リニ線内ニ入ラシムヘカラス
 - 一 線内ニ家屋ヲ有スルカ又ハ住居スルモノ
 - 二 同上ノ親屬知人ニシテ救護ヲ爲サントスルモノ
 - 三 線内ノ官公署ニ奉職スルモノ
 - 四 公務ヲ帶フルモノ又ハ官公吏ノ徽章アルモノ
 - 五 醫師産婆
 - 六 線内ノ社寺學校病院會社ニ勤務スルモノ
 - 七 左官又ハ蒸職等ニシテ火防ニ關シ線内住居ノ者ノ依託ヲ受ケ其職業ニ從事スルコトヲ證明スルモノ
- 第六條 組頭以下ノ命免辭令書及功勞證書ハ様式ニ依ルヘシ
- 第七條 警察官署長ニ於テ消防組ヲ巡檢シタルトキハ人員、紀律、器具、建物ノ整否並ニ器具使用ノ熟否等ヲ調査シ様式ニ依リ其ノ都度報告スヘシ
- 第八條 細則第十四條ニ依ル沿革誌及組員名簿ハ様式ニ依リ調製シ水利圖面ハ溜リ水井戸ノ位置其ノ他水利ニ關スル一切ヲ登記セシメ見易キ様式ニシ



〔長野縣〕

製セシムヘシ 附則

第九條 明治三十一年七月長野縣訓令第八十九號消防組規則施行細則取扱手續ハ之ヲ廢止ス

● 消防組設置並組織變更ノ場合取扱方ノ件

甲發第一六五號(大正九年六月二十三日)

- 一、都ヲ設ケサル場合組頭ヲ定員ニ加フルコトハ勿論ナルモ部ヲ設ケル場合ハ組頭ハ何レノ部ニモ屬セサルヲ以テ部ノ定員外トスルコト故ニ例ヘハ定員五十名宛三部ヲ以テ消防組ヲ組織スル場合ハ各部定員ノ外ニ組頭ヲ置クヲ以テ組ノ定員百五十一名トナルカ如シ
- 二、小頭定員ハ凡ソ十五名ニ對シ一名ノ割合ナルモ部長ニ補スヘキ小頭細則第五條ノ規定ニヨリ定員外ト爲スコトヲ得故ニ例ヘハ定員三十名ノ部ニ在リテハ小頭三名ヲ置キ内一名ヲ部長ニ補スカカシ
- 三、前項部長タル小頭ノ定員計算規定ヲ組頭ニ適用スル向キアリ此ハ誤リ

ニツキ取扱上注意スルコト

職務上ノ死亡負傷者報告方

警發第一〇二號保安課長通牒(明治三十七年四月六日)

各署分署長宛

消防組員ニシテ職務ニ原因シ死亡又ハ負傷シタル者アルトキハ其ノ者ノ職名氏名、災害ノ状況、死亡又ハ負傷スルニ至リシ理由所爲並ニ本人ノ行動等詳細御調査ノ上報告相成度依命及通牒候也

消防組員救済ニ關スル件

警發第八六號(大正八年三月二十五日)

警察署長 警察分署長

今回縣令第十一號ヲ以テ消防組規則施行細則第二十八條改正ト同時ニ訓令第十五號ヲ以テ消防組員ノ祭祀料遺族扶助料療治料傷病扶助料及傷病手当支給標準ヲ定メラレタル處尙本件ニ關シ過般市町村條例令設定方ニ付別紙甲號ノ通内務部長ヘ照會セシ處乙號ノ通各郡市長ヘ通牒ヲ發シタル趣回答有之候ニ就テハ此際各郡市町村當局者ト協議ノ上可成速ニ條例ヲ設定スル様配意セラレヘク若シ條例設定迄ノ間當該事實發生シタルトキハ市町村長ト協議シ訓令ノ標準ニ基キ相當給與ノ途ヲ講スル等遺漏ナキヲ期セラレヘ

追テ死亡ノ場合ハ祭祀料及遺族扶助料傷病又ハ疾病ノ場合ハ療治料トシテ實費ヲ支給スルノ外休業一日ニ付六拾錢以内ノ手当ヲ支給シ若シ傷病ノ爲終身不具トナリタル者ニ對シテハ自用ヲ辨スル能ハサルモノト然ラサルモノトヲ區別シ傷病扶助料ヲ支給スヘキモノニ付此旨心得ヘキコト

(甲號)

警發第三〇號(大正八年二月十九日)

内務部長 照會

警察部長

明治十五年太政官達第六十七號ハ公設消防組員カ其ノ職務上巡查同様ノ職ヲ爲シ死亡又ハ負傷シタル場合ニ適用アリヤ否ヤニ疑義ノ存スルアリ客年水内消防組員殉職事件發生ノ際本省ヘ照會シタルニ私設消防組員ニハ適用アルモ公設消防組員ニハ之ヲ適用シ能ハサル旨回答アリ思フニ公設消防組ノ費用ハ消防組規則第十三條ニ依リ其ノ市町村ノ負擔トストアルカ故ニ之ニ依リ相當給與ノ途ヲ開ケ居ルモノトナシタルモノナルヘシ勿論市町村ニシテ公設消防組員ノ職務上ノ死傷病ニ對スル遺族救済ノ方法立チ居ルニ於テハ何等遺漏アルモノトハ認メラレト雖現在此點ニ於テ市町村ノ大多數ハ何等規定スル處ナシ即其ノ結果私設消防組員又ハ其ノ他ノ人民ナラムニハ救済ヲ受クル能ハサルノ奇觀ヲ呈ス今ニシテ之カ救済ノ途ヲ講スルニアラサレハ其ノ及フ處單リ消防組ノ發展ヲ阻害スルニ止マラス延テ水火ノ防禦及消防上國家社會ニ及ボスノ影響固リ知ルヘカラサルモノアラシク此ノ際速ニ公設消防組ノ職務上ノ死傷病又ハ疾病ニ罹リタル場合ノ吊慰料扶助料療治料及救助料給與ニ關スル市町村條例令設定方ニ關シ御配意相煩度尙條例ハ一般人民ニ對スル均衡上前顯太政官達ノ標準ヲ最低限度トシテ設定スル様御取計相成度此段及御依頼候也

追テ本件御處理ノ結果一應ノ御回報相煩度由添候

地乙收第三七一號(大正八年二月二十六日)

各郡市長

内務部長

(乙號)

〔長野署〕

消防組員ノ吊祭扶助療治料等ノ給與ニ關スル件

公設消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村ノ負擔タルヘキハ消防組規則ノ規定スル所ナルモ往々費用ノ計上少額ニシテ實費ヲ支辨シ得ラレサル程度ノモノモ有之殊ニ組員ノ職務上ニ基因スル死亡負傷又ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テ吊祭料扶助料若ハ救助料等給與ノ規程ヲ缺如セル爲組員ノ活動上ニ影響シ延テ消防組ノ發達上ニモ關係ヲ來タスヘク被存候條此際該規程ヲ設定シ以テ遺憾ナキ様御措置相成度依命此段及通牒候也

追テ吊祭料扶助料等ノ額ハ明治十五年太政官達第六十七號ノ標準ヲ最低額トシテ規定候様御取計相成度申添候

消防組設置ニ關スル件

警發第二五六號(明治三十七年九月三日)

警察署 警察分署

消防ノ事業ハ年々河水汎濫シ多大ノ損害ヲ與ヘ民力ヲ阻害スルコト少ナカテサ本縣ニ在リテハ消防事業ト共ニ大ニ其組織ヲ發展セシムルノ必要アリ即チ明治三十三年以後獨立シテ消防組ヲ組織シ又ハ兼掌シタルモノ漸ク増加ノ傾アリト雖未ダ以テ豫期セル數ニ達セズ其既ニ組織シタルモノニ在リテモ適當ノ消防具及材料ヲ準備セシモノ甚ダ少ナク治ノト其實ニ伴ハサルノ憾ミアリ之ヲ以テ一朝水災等ニ際シテハ只名ノミニ過キスシテ事實防水ノ效ヲ收ムル能ハサルモノアルニ依リ此際未ダ組織ナキ町村ニ對シテハ速ニ組織セシメ其已ニ組織又ハ兼掌セル組ニシテ器具及材料ノ備ハラサル向ニ對シテハ町村ノ資力ニ應ジ且河川ノ狀勢ヲ考ヘ適當ノ器具及材料ヲ準備セシメ以テ消防組ノ發達ヲ企圖スルト共ニ水災豫防ノ趣旨ヲ貫徹スヘキ様御取計フヘシ

追テ本件ニ關シ内務部長ヨリモ各郡市長ヘ通牒シタル等ニ付此旨心得ヘシ(左記)

一 消防組(兼掌ヲ含ム以下同シ)ニ於テハ器具置場ヲ河川ノ附近ニ設ケ消防具及材料ヲ準備セシムヘシ但シ縣費支辨ノ河川沿岸ノ町村ニ於

第二編 保安 第十四章 消防、災害

五一九

テ其器具及材料ノ設備ニ關シ必要アルトキハ工事監督區主幹ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

二 消防組ニハ巡視掛二名乃至五名ヲ置キ消防手ヲ以テ之ニ補シ出水ノ模様アルトキハ河川ヲ巡視シ其狀況ニ因リ規定ノ信號ヲ以テ組員ノ出場ヲ促サシムヘシ

三 消防組員ノ被服ハ節約ノ趣旨ニ因リ當分ノ内制ヲ著用セシメサルモ妨ケナシ

消防組設置並設備ニ關スル件

警發第四五〇號(明治四十四年九月十五日)

警察署長 警察分署長

火災水害ノ防禦ハ主トシテ消防組ニ待タサルヘカラス然シテ消防組員ヲシテ完全ニ其職責ヲ盡サシムルニハ時々演習ヲ行ヒ秩然タル規律ノ下ニ服從シテ活動スルコトヲ練熟セシムルニアリト雖モ一面器具材料ノ設備ニ缺クル所アラシク遂ニ目的ヲ達スルヲ得サルハ論テ俟タズ殊ニ水防事務ニ付テハ現今器具材料ノ設備未ダ十分ナラサルノ憾一層大ナリトス就テハ屢々遭遇スル水害ノ實況ニ鑑ミ今回水害ヲ蒙リタル町村若クハ部落ヲ始メ其他必要ノ個所ニシテ未ダ消防組ノ設置ナキモノ若クハ設置シアルモ水防ヲ兼掌シ居ラサル分ニ對シテハ速ニ組織若クハ兼掌セシムルコトヲ督勵シ同時ニ火防防水ニ必要ナル器具及材料ノ設備ヲ一層完全ナラシムヘシ尙左ニ水防ニ必要ナリト認ムル器具及材料ヲ列記スルニヨリ之ヲ參考トシ進テ督勵ノ結果ヲ申報セラルヘシ

左記

若干

一 船 地方ニ依リテハ普通漁船位ノモノヲ適當トシ其ノ大ナルモノハ却テ使用上不便ヲ感シタル狀況アリタルヲ以テ適當ナルモノヲ撰擇スルコト

第二編 保安 第十四章 消防、災害

若シ止ヲ得スシテ備付ヲ爲サス必要ニ應シ他ヨリ借リ入ル、契約ヲ爲シアルモノハ其ノ契約ノ確實ナルヲ要ス
操舟ノ技術ハ常ニ部署ヲ定メ練習セシムルヲ要ス

- 二 鋸 若干
 - 三 斧 若干
 - 四 掛矢槌(小) 若干
 - 五 鋤 若干
 - 六 シヤブ 若干
 - 七 針 若干
 - 八 用材 若干
 - 九 杭 若干
 - 十 蛇籠 若干
 - 十一 空俵 若干
 - 十二 寢蓆 若干
 - 十三 繩 若干
 - 十四 松火 若干
- 聖牛用ニ充ツヘキモノ尙地方ニ依リ毎大被害地ヲ同フスル場所ノ如キ其附近山林ノ立木ヲ撰定シ置キ之ニ備フルモ一便法ナルヘシ
- 九 杭 若干
- 十 蛇籠 若干
- 十一 空俵 若干
- 十二 寢蓆 若干
- 十三 繩 若干
- 十四 松火 若干
- 經緯ニ又ハ古綿ニ石油ヲ濕シ之ニ充ツル準備ニテモ差支ナシ以上ノ内(二)(三)(四)ノ如キハ消防組ニ關スル規定ノ定ムル所ナレトモ水防ノ場合ニ於テハ一般ニ不充分ノ憾アルヲ以テ從來備付ノ外地方ノ狀況ニ依リ増加スルヲ要ス又八乃至十三ハ永ク保存ニ堪ヘサルモノモ可有ニ付季節ニ先チ豫メ準備ヲナシ不用ト認ムルニ至ラハ直ニ處分スル等毎年相當計畫ヲ立ヘシ
- 水防ニ付最モ便宜ト認ムヘキ位置ヲ撰定シ器具材料置場ヲ設備スルモ又肝要ナルヘシ

●消防組大巡檢ノ件

警發第一三一號(明治四十一年三月二十四日)

消防組ノ巡檢ハ規則ノ命スル處ニ從ヒテ之ヲ施行シ紀律ノ弛廢訓練ノ熟否等ヲ檢閲シ其ノ優秀ナル者ニ對シ金馬簾ノ使用ヲ認許シ或ハ證明書ヲ授與スル規定ナルニ近來消防組ニシテ大巡檢ヲ受ケンカ金馬簾使用ノ認可ハ必ス之ニ附隨スルモノ、如ク思惟シ甚シキハ警察官署長ニシテ尙同様に觀念ヲ持シ平素ノ訓練行届カス紀律嚴肅ナラサルハ拘ハラス大巡檢ノ結果ハ必ス金馬簾使用ノ認可ヲ受クヘキ者ノ如ク心得換言スレハ金馬簾使用ノ認可ヲ得ンカ爲ニ大巡檢ヲ受ケントスルノ計畫ヲ爲ス尙有之カ爲若シモ認許セサルアラシカ組内ノ紛擾ヲ來シ總辭職ヲ爲ス等ノ醜狀ヲ演出シ紀律ヲ紊ルノ行動ニ出ツルモノアリテ怪訝ニ堪ヘサルモノアリ之ヲ要スルニ消防組ニシテ眞ニ施賞ニ浴セント欲セハ之ニ對スル十分ノ訓練ヲ要スルヤ勿論ナルカ故ニ消防組員ニ對シ如上ノ不心得無之様熱誠訓練ニ勵メ徒ラニ施賞ヲ望ムナカラシムルノミナラス此際各組ニ對シ嚴重訓達セラレヘシ

●消火器備付其他ニ關スル件

長野縣訓令第百一號(明治三十八年九月二十九日)

警察署 警察分署
警察署 警察分署
警察署 警察分署

火災警防上必要ト認メ候條左記ノ場所へ消火器ヲ備付セシムヘシ
(左記)

- 一 諸工場 一 劇場 一 寄席
- 一 宿屋 一 料理屋 一 貸座敷
- 一 湯屋 一 其他警察官署ノ必要ト認メタル場所

警發第三一三號(明治三十八年九月二十九日)

警察署 同分署

第二編 保安 第十四章 消防、災害

五三〇

●功勞アル消防組へ施賞申請調査ノ件

警發第二一九號(明治四十年六月二十一日)

警察署 警察分署

功勞アル消防組へ施賞申請ヲ爲サントスルトキハ左記ノ事項ヲ調査シ上申スヘシ
(左記)

- 一 金馬簾ノ有無若シアルトキハ其ノ認許ノ事由並ニ數
- 二 火災ノ月日時(發火ヨリ鎮火マテ)
- 三 火災ノ原因及其ノ實況
- 四 燒失セシ建造物ノ種類及棟數
- 五 死傷者アリタルトキハ其ノ住所氏名年齢及死傷スルニ至リシ理由並ニ狀況
- 六 家屋ノ疎密及水利ノ便否
- 七 風位及其ノ強弱
- 八 拔群ノ功勞ト認メタル事實
- 九 施賞セントスル消防組ノ定員及出場人員
- 十 點檢者ノ官氏名及出場警察官ノ數
- 十一 他ノ出場消防組名及人員
- 十二 其他參考トナルヘキ事實
- 十三 水防ノ功勞ニ在リテハ前各項ニ準シ川名及出水ノ狀況、被害地物ノ種類並ニ其ノ數ヲ記シ且水防ノ用ニ供シタル物品ノ種類及水防ノ方法ヲ詳記スルヲ要ス
- 十四 第六項ハ圖面ヲ作り添附スヘシ但シ發火箇所ト類燒ノ箇所トハ符號ヲ以テ知り得ル様區別スルヲ要ス

以上

警察署 警察分署

今般訓令第一〇一號ヲ以テ火災警防上ノ必要ニ基キ消火器備付方訓令相成候ニ付テハ勸誘ノ上實用ニ適スヘキ完全ナル消火器ヲ備付ケシメ且消火器ノ數ハ家屋ノ構造及坪數ニ依リ一定スル能ハサルヲ以テ其構造ニ準シ各要ニ於テ備付ノ數ヲ査定スベク又訓令ニ列記セラレタル以外ニ警察官署カ必ニ於テ認可ヘキ場所ハ例ヘハ勸工場、銀行ノ如キ多數出入シ若ハ規模ノ大ナル建築物ノ類ヲ指稱セルト同時ニ工場及湯屋ニシテ家屋並營業等徵々タルカ爲備付ノ必要ナキモノアルニ依リ各地ノ狀況ニ照ラシ其必要ナキヤ否ヤヲ斟酌シテ應用ヲ過ラサル様努ムヘシ

但シ消火器ノ實用ニ適スルヤ否ヤニ付テハ追テ試驗ヲ行フヘキニ付目前ノ小利ニ走リ不完全ノ品ヲ備付シ結局不利益ヲ見ルナカラシムル様取計フヘシ

警察署 警察分署

●消火器備付ノ義ニ付指示

今般訓令第一〇一號ヲ以テ火災警防上ノ必要ニ基キ消火器備付方訓令相成候ニ付テハ勸誘ノ上實用ニ適スヘキ完全ナル消火器ヲ備付ケシメ且消火器ノ數ハ家屋ノ構造及坪數ニ依リ一定スル能ハサルヲ以テ其構造ニ準シ各要ニ於テ認可ヘキ場所ハ例ヘハ勸工場、銀行ノ如キ多數出入シ若ハ規模ノ大ナル建築物ノ類ヲ指稱セルト同時ニ工場及湯屋ニシテ家屋並營業等徵々タルカ爲備付ノ必要ナキモノアルニ依リ各地ノ狀況ニ照ラシ其必要ナキヤ否ヤヲ斟酌シテ應用ヲ過ラサル様努ムヘシ

但シ消火器ノ實用ニ適スルヤ否ヤニ付テハ追テ試驗ヲ行フヘキニ付目前ノ小利ニ走リ不完全ノ品ヲ備付シ結局不利益ヲ見ルナカラシムル様取計フヘシ

警發第一八四號(明治四十一年一月二十五日)

警察署 警察分署

●消火器備付ノ義ニ付指示

火災警防ノ必要上消火器備付督勵方ニ關シテハ曩ニ指示スル處アリシヲ以テ夫々備付ヲ爲サシメタルコト、思考スレトモ多數ノ工場中未ダ之カ設備完カラス或ハ備付ヲ爲スト雖モ建物ニ比シ消火器ノ數僅少ニ失シ或ハ又之カ備付ヲ爲サル尙往々之レアル爲小部分ニシテ消シ止メ得ヘキ場合モ遂ニ數フ可ラサル大火ヲシメタル事蹟ニ乏シカラス就テハ工場其他訓令ヲ以テ特ニ指定セラレタル個所ニ對シテハ之カ施設ヲ促カシ又既ニ備付ケタル尙ニ對シテハ年四回以上隨時試驗ヲ行ヒ裝藥ヲ完全ニシ有事ニ當リ其效ナキカ如キコト之ナキ様注意シ防火ノ實ヲ舉ゲシムヘシ

●屋上制限規則

長野縣令第二十三號(明治四十五年五月二十四日)

五二二

- 第一條 家屋其ノ他ノ建物ヲ新築、改築、増築セムトスルトキハ不燃質物ヲ以テ屋上ヲ覆葺スヘシ但神社ノ建造物ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 本則施行前ノ家屋其ノ他ノ建物ニシテ第一條ノ制限ニ適合セサルモノハ本則施行ノ日ヨリ十箇年以内ニ不燃質物ヲ以テ改葺スヘシ知事ハ防火上必要ト認ムルトキハ前項ノ期間ニ拘ラス改葺ヲ命スルコトアルヘシ
- 第三條 本則第一條ノ制限ニ依ラスシテ覆葺シタル者アルトキハ所轄警察官署ハ之カ改葺ヲ命スルコトアルヘシ
- 第四條 古例アル寺院、堂宇等ハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ第一條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
- 第五條 普請小屋ヲ設ケ又ハ水火其ノ他ノ災害ニ罹リタル爲假屋ヲ建設セムトスルトキハ二箇年以内ニ於テ其ノ使用期間ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ第一條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
- 第六條 本則ニ依リ屋上ヲ覆葺セムトスルトキハ著手前左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヘ届出ヘシ其ノ種類、期日ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 一、覆葺セムトスル建物並不燃質物ノ種類
- 二、著手及落成期日
- 前項ノ工事落成シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受ケヘシ
- 第七條 本則第一條、第二條第一項、第六條ニ違反シ若ハ第二條第二項ノ命ニ従ハサル者ハ三十日未満ノ拘留又ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス
- 第八條 前項前則ハ未成年者及禁治産者ニ在リテハ法定代理人ニ法人ニ在リテハ其ノ代表者又ハ管理人アル場合ハ其ノ管理人ニ之ヲ適用ス
- 附則
- 第九條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十條 本則施行ノ地域ハ別ニ之ヲ告示ス

●屋上制限規則取扱手續

長野縣訓令第四十四號(明治四十五年五月二十四日)

警察署 警察分署

- 第一條 規則第二條第二項ニ依リ期間ヲ短縮シ改葺セシムル必要アリト認ムルモノアリタルトキハ其ノ狀況並建物ノ所在若ハ地域、改葺期間等ヲ調査シ報告スヘシ
- 第二條 規則第四條ニ依リ社寺、堂宇等ニ對シ制限外ノ覆葺ヲ認可セムトスルトキハ社寺又ハ堂宇ノ名稱、格式、所在地及其ノ代表者、管理者若ハ所有者ノ住所、氏名覆葺スル材料並四周ノ狀況、古例ノ顛末及其ノ微塵等ヲ調査シ稟伺スヘシ
- 第三條 假屋或ハ普請小屋等ニ付テハ左ノ區別ニ依リ之ヲ認可スヘシ
- 一、家屋、倉庫、物置、納屋ノ類ハ二年内以内
- 二、普請小屋ノ類ハ其ノ工事終了期迄
- 第四條 規則第四條ニ依リ認可ヲ與ヘタルトキハ第一號、様式、規則、第五條ニ依リ認可ヲ與ヘタルトキ第二號様式ノ建物臺帳ニ登記スヘシ(様式略ス)

●屋上制限規則施行地域指定ノ件

長野縣告示第六十九號(明治四十五年五月二十四日)

屋上制限規則施行地域左ノ通指定ス

- 長野市
- 茂菅、西長野ノ一部(人家接續)狐池ノ一部(人家接續)箱清水ノ一部(人家接續)ヲ除ク
- 以上内郡三輪村ノ内字田所町、裏田町、流ヶ橋
- 同 郡芹田村ノ内字中ノ御所、岡田
- 松本市

- 三才、筑摩、中林、塔橋、長澤ノ一部(人家接續)四ツ谷ノ一部(人家接續)元町、中村、中原、澤村、蟻ヶ崎、新橋、宮淵、白坂ノ一部(人家接續)地) 清、小嶋、中條ノ一部(人家接續)以外) 放光寺、幅上ノ一部(人家接續)ヲ除ク
- 東筑摩郡松本村ノ内字豊田町

●水難救護法(抄録)

法律第九十五號(明治三十二年三月二十九日)

- 第一條 遭難船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ認知シタル市町村長之ヲ行フ
- 第二條 遭難船舶アルコトヲ発見シタル者ハ遅滞ナク最近地ノ市町村長又ハ警察官吏ニ報告スヘシ
- 警察官吏ニ於テ報告ニ接シタルトキハ市町村長ニ通知スヘシ
- 第六條 市町村長ハ救護ノ爲人ヲ招集シ船舶車馬其ノ他ノ物件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ招集セラレタル者ハ市町村長ノ指揮ニ從ヒ救護ニ從事スヘシ
- 第七條 市町村長ハ救護ニ際シ必要ナラスト認ムル者、妨害ヲ爲シタル者又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ退去セシムルコトヲ得
- 市町村長ハ救護ニ際シ暴行ヲ爲シタル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得
- 市町村長前項ノ處分ヲ爲スニ當リ助力ヲ命セラレタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得
- 第二十四條 漂流物又ハ沈没品ヲ拾得シタル者ハ遅滞ナク之ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者分明ナル場合ニ於テハ拾得ノ日ヨリ七日以内ニ限リ直ニ其ノ所有者ニ引渡スコトヲ得
- 前項但書ノ場合ニ於テハ拾得者ハ所有者ヨリ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額以内ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

●工場災害報告

長野縣令第三十五號(大正六年十一月三日)

- 工場法ノ適用ヲ受クル工場及其ノ附屬建設物ニ於テ災害其ノ他ノ事故ニ依リ死亡者、重傷者又ハ一時ニ五人以上ノ負傷者ヲ生シタル場合並工場又ハ附屬建設物其ノ他設備カ火災ニ罹リ又ハ甚シク損壞シタル場合ニハ工業主ハ遅滞ナク所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ
- 明治三十三年九月縣令第六十五號及明治三十八年九月縣令第三十三號ハ之ヲ廢止ス

●工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル傷病死者等ニ關スル取扱方

長野縣訓令第三十九號(大正六年十一月三日)

警察署 警察分署

- 明治三十三年九月訓令第三十二號左ノ通改正ス

工場法ノ適用ヲ受クル工場及其ノ附屬建築物ニ於テ災害其ノ他ノ事故ニ依リ死亡者、重傷者又ハ一時ニ五人以上ノ負傷者ヲ生シタル場合並工場又ハ附屬建築物其ノ他設備カ火災ニ罹リ又ハ甚シク損壞シタル場合ニハ左記事項ヲ調査シ事故發生ノ日ヨリ五日以内ニ警察部ニ報告スヘシ但シ事態重大ナル場合ニハ其ノ概況ヲ電話其ノ他ノ方法ニ依リ即報スヘシ

- 第一 死亡者、重傷者又ハ一時ニ五人以上ノ負傷者ヲ生シタル場合
二 事業ノ種類
三 災害其ノ他ノ事故ノ生シタル日時、場所、原因及狀況
四 死傷者ノ男女別、年齢、職名及雇人年月
五 致死又ハ負傷ノ原因及負傷ノ部位、症狀、經過等並救護ノ顛末

工場災害事故報告ニ關スル件

發第九六六號(大正六年十一月三日)

警察署 警察分署
本月訓令第三十九號ヲ以テ定メラレタル工場ノ災害事故報告ニ關シテハ左記ノ通心得ラルヘシ

一 重傷トハ頭、四肢、視器、聽器其ノ他ノ部分ノ負傷ニシテ從來ノ勞務ニ從事スルコト能ハサルモノ及其ノ見込ノモノ並三十日以上醫療ヲ受ケ休業シタルモノ及其ノ見込ノモノヲ謂フ

第十五章 海外渡航、代書

外國旅券規則

外務省令第一號(明治四十年三月十五日)

第一條 外國へ旅行スル者ニ下付スル旅券ハ外務大臣之ヲ發給シ外國ニ於テハ帝國大使、公使、領事官及貿易事務官ヲシテ之ヲ發給セシム

第二條 旅券ノ下付ヲ請フ者ハ書面ニ左ノ事項ヲ記載シ之ニ戸籍謄本又ハ其氏名、本籍地及身分ヲ證明スヘキ文書ヲ添附シ内國ニ於テハ本籍地又ハ所在地ノ地方上級行政廳(東京府下ニ在リテハ、關東州ニ於テハ關東都府府、外國ニ於テハ在外公館ニ出願スヘシ但シ關東州ニ於テハ關東都府、外國ニ於テハ帝國大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ認定ニ依リ戸籍謄本又ハ其ノ他ノ文書ヲ添附シ省略セシムルコトヲ得

- 一 氏名(片假名ヲテテ傍)
二 本籍地(本籍地ト所在地ト異ナルト)
三 身分(戸主、家族ノ別、家族ナルトキハ戸主)
四 年齢(満何年若ハ何)
五 職業
六 旅行地名
七 旅行ノ目的
旅券ノ下付ヲ請フ者長崎縣下對馬國ニ本籍地若ハ所在地ヲ有スルトキハ對馬島廳ニ出願スルコトヲ得
本條ノ願書ニハ最近ノ撮影ニ係ル本人ノ寫眞二葉(手札形、半身、無蓋紙)ヲ添附スヘシ但シ父又ハ母ノ旅券ニ併記スル五歳未満ノ子ニ付テハ此限ニ在ラス

第三條 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル旅券ノ下付ハ各朝鮮總督、臺灣總督及第二編 保安 第十五章 海外渡航、代書

二設備ニ付テハ例ヘハ煙突、高架槽、起重機、昇降機、原動機、汽鐘、蒸汽ヲ使用スル密閉シタル蒸釜、二重底蒸釜其ノ他之ニ準スヘキモノヲ指ス
三構造材料其ノ他主要ナル事項ニ付テハ建物ニ在リテハ平屋、二階三階等ノ區別、煉瓦造、石造、土藏造、木造、鐵筋コンクリート等、汽鐘ニ在リテハ其ノ種類、材料、鐘及火筒ノ直徑鐘ノ長其ノ他主要ナル部分ノ寸法、常用壓力、安全瓣ノ種類及箇數製作者製年月並最近ノ検査年月日等ヲ記載スヘシ
四火災避難施設ニ付テハ出入口、昇降口、非常口「階段ノ配置及構造、扉ノ開閉方、避難設備ノ種類及配置等、豫防施設ニ付テハ防火壁ノ構造、防火塗劑ノ可否、自動消火器、消火用自動唧筒其ノ他ノ消火器ノ種類、箇數等ヲ記載スヘシ
五死傷報告ニ付テハ別記様式ニ依リ災害事故一件毎ニ記載シ火災損壞報告ニ付テハ別ニ書類ヲ作成スヘシ
様式(用紙半紙折大)

Table with columns for 告報傷死, 工場名, 所在地, 工場主又ハ工場管理人, 事業種類, 事故發生ノ場所, 事故發生ノ日時, 死傷者ノ姓名, 年齢, 職名, 死傷ノ原因及ハ負傷部位及症狀, 狀況及原因

樺太廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第四條、第五條 (削除)

第六條 官命ニ依リ外國ニ旅行スル者ハ内國及關東州ニ於テハ其ノ所管官廳ヲ經由シテ外務省ニ、外國ニ於テハ在外公館ニ旅券ノ下付ヲ出願スルコトヲ得但シ第二條第一項第一號、第六號及第七號ノ事項ヲ開申スヘシ家族又ハ從者ヲ同行スルトキハ同行者ニ係ル第二條第一項第一號乃至第四號ノ事項ヲ併セテ開申スヘシ

官命ニ依リ外國ニ在ル者其ノ所在地ニ家族又ハ從者ヲ呼寄セムトスルトキハ其ノ旅券下付ノ出願ニ關シテ前項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第七條 移民保護法ノ規定ニ依リ移民取扱人ニ依リ移民又ハ保證人ヲ要スル移民ニシテ第二條ノ出願ヲ爲ストキハ移民取扱人又ハ保證人ノ連署ヲ要ス

第八條 第二條ノ規定ニ依リ内國及關東州ニ於テ旅券ノ下付ヲ受クル者ハ一枚ニ付キ金一圓ニ相當スル收入印紙ヲ旅券領收證ニ貼付スヘシ

第九條 旅券ノ下付ヲ受クル者ハ其ノ券面ニ署名スヘシ若シ署名スルコト能ハサルトキハ代署セシメ本人之ニ實印ヲ押捺スヘシ

第十條 旅券面ニ査證アルコトヲ必要トスル國ニ旅行スル者ハ其ノ定ムル所ニ依リ査證ヲ受クヘシ

第十一條 豫戒命令中ノ者

第十二條 旅行中ノ者

第十三條 旅行中ノ者

第十四條 旅行中ノ者

第十五條 旅行中ノ者

旅券ノ下付ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ其ノ遺族ヨリ之ヲ返納スヘシ

第十三條 商業漁業其ノ他職業ノ爲特定ノ地ニ數次往復スル者ハ歸國若ハ歸著毎ニ其ノ旅券ヲ返納スルコトヲ要セス但シ旅券領收ノ日ヨリ三箇年ヲ過キテ歸國若ハ歸著スルトキ又ハ歸國後何時ニテモ本人所在地ヲ管轄スル地方上級行政廳ヨリ命令アリタルトキハ之ヲ返納スヘシ

前項特定ノ地ハ外務大臣之ヲ告示ス

第十四條 旅行十年ニ及ヒ歸國セサル者ハ旅券ヲ領收シタルトキヨリ十年以内ニ帝國大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ査證ヲ受ケヘシ其ノ後十年ニ及フ毎ニ亦同シ

第十五條 旅券ノ下付ヲ受ケタル者第十條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ第二條第一項第一號乃至第三號、第六號及第七號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ旅券ヲ返納スヘシ

第十六條 旅券ヲ紛失シタルトキハ直ニ届出ツヘシ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

第十七條 本令ノ規定ニ依リ旅券ノ返納又ハ其ノ紛失若ハ發見ノ届出ヲ受ケヘキ官廳ハ内國ニ於テハ地方上級行政廳、警視廳、兩館支廳及對馬島廳、關東州ニ於テハ關東都督府、外國ニ於テハ在外公館トス

第十八條 本令ニ於テ在外公館ト稱スルハ帝國大使館、公使館、總領事館、領事館、總領事館分館、領事館分館及貿易事務館ヲ謂フ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ旅券ヲ沒收シ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ三月以下ノ懲役若ハ拘留ニ處ス

一 第二條第一項各號ノ事項ヲ詐稱シ又ハ第十條各號ノ一ニ該當スル者其ノ事實ヲ申告セス其ノ他詐欺ノ所爲ヲ以テ旅券ノ下付ヲ受ケタル者及之ヲ幫助シタル者

一 他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメ其ノ他不正ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者及之ヲ幫助シタル者

五 經歷及學歷 本人ノ目的ハ例ヘハ商業觀察又ハ英語研究トアルモ其實會テ商業ニ從事シタルコトナク或ハ僅力ニ商店ノ番頭又ハ雇人タリシニ過キスシテ獨立商業ヲ經營セシ經歷ナキニ濫リニ商業觀察又ハ研究ヲ名トシテ渡航セントシ又英語研究トアルモ僅々小學校ヲ卒業セシノミニシテ確實ナル中等以上ノ教育ヲ受ケタルニアラス單ニ一小私塾ノ證明又ハ一私人ニ就キ少期間英語ノ練習ヲ受ケタルノミヲ以テ直ニ語學研究ノ爲渡航セントスルハ確的ト認ムルヘカラス要スルニ本人ノ經歷及學歷ニ徵シ渡航ノ正當ナルヲ認メ得ヘキ證據アルニアラスンハ不確實ナル目的ト認定スルヲ妨ケサルニ依リ特ニ精査スヘキコト

六 費用ノ出途 本人自辨ナルトキハ其出途ノ確否若シ保證人ヨリ支出スルモノトセハ其保證人ノ資産及諸否等ヲ調査スルコト

七 渡航ノ眞否及戶籍 旅券ヲ受ケタル者ト眞ノ渡航者ト同一ナルヤ例ヘハ親戚朋友ノ名義ヲ以テ旅券ヲ受ケ他人ニ代ハリテ渡航スルニハアラサルカ又ハ他人ノ名義ヲ以テ旅券ヲ受ケ他ノ希望者ニ多額ノ私利ヲ貪ホリテ旅券ヲ渡渡スニハアラサル乎又願人ハ在來ノ本籍地ヨリ出願セシヤ將タ他府縣又ハ他町村ヨリ轉籍シ若ハ寄留セシニハアラサルヤ若シ轉籍又ハ寄留ノ上出願セシ者トセハ何故ニ轉籍若ハ寄留セシモノナルヤ其事由精査スヘキコト

八 健康證明書 健康證明書 左ノ様式ニ依リ作成セシムルコト

一 旅券ニ貼付シタル寫眞ヲ取換ヘマ旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメタル者

一 本令ニ依リ旅券ヲ返納スヘキ場合ニ之ヲ返納セスシテ使用シ又ハ事實ヲ偽リテ旅券紛失ノ旨ヲ届出テタル者

附則

第二十條 舊規則ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル者ニ對スル第十一條ノ期間ハ該旅券面ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年六月外務省令第二號外國旅券規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●外國旅券取扱内規ノ件

警發第三〇七號(明治四十年九月五日)

警察署 警察分署

外國旅券規則ニ依リ旅券ノ下付ヲ出願シタル者アリタルトキ及下付後ノ觀察方法左ノ通り相定メ候條此旨心得ヘシ

(左記)

一 渡航ノ願書ヲ受ケタルトキ調査事項

一 連署

願人戸主ナラサルトキハ戸主ヲシテ願書ニ連署セシメ戸主未成年者ナルトキハ其後見人或ハ最近親族ニ連署セシムルコト

二 姓名

願人ノ姓名ニハ片假名ヲ付スルコト

三 性行前科ノ有無及豫戒令ノ受否

本人ノ品性如何ハ國家ノ體面ニ關スヘキモノナルヲ以テ平素ノ行狀及前科ノ有無並ニ豫戒令ヲ受ケタル者ナルヤ否精査スルコト

四 渡航ノ目的

(様式)

健康證明書

住所族籍

姓 名

生年月日

一 體 格

一 身 體

一 體 重

一 胸 圍

一 中心視力

一 色 盲

一 聽 力

一 耳 疾

一 神 經 系

一 呼 吸 器

一 皮 膚

一 一 言 語

一 痘 瘡

一 一 循 環 器

一 既往現在ノ疾病又ハ畸形ノ有無

一 四肢運動障害ノ有無

一 右ノ通り相違無之證明候也

年 月 日

住 所

醫 師 某

印

旅券下付手續

一 旅券手数料

旅券下付ノ際ハ收入印紙(金壹圓)ヲ貼付シタル受領證ヲ徵シ消印スルコトナク警察部ヘ進達スルコト

一 旅券下付後ノ觀察

旅券ノ有效期間及出發ノ實否

旅券ノ效力ハ許可ノ日ヨリ六ヶ月間ナルヲ以テ其期間内ニ本人發足セシヤ將タ他人ヲシテ渡航セシメタルニアラサルヤヲ觀察スルコト

參考事項

- 一 學術研究ノ目的ヲ以テ外國ニ渡航セントスル者ハ左ノ標準ニ據ラシムヲ要ス
 - (イ) 英領加奈陀ハ中學校卒業程度以上ノ學力
 - (ロ) 北米合衆國ハ中學校生徒若シテ之ト同等以上ノ學力
 - (ハ) 年齡ハ四十年以下
- 二 商業ヲ目的トスル者ハ外國ニ於テ開業シ得ヘキ資本アルヲ要ス
- 三 徵兵該當者又ハ將來該當セントスル者ハ忌避ノ目的ナラサルヲ要ス
- 四 婦人ノ渡航者ニ對シテハ醜業ヲ目的トスルモノナラサルヲ内債スルヲ要ス
- 五 保證人ハ二名以上ニシテ其資産ハ動産不動産ヲ合ハセ五千圓以上所有スル者タルヲ要ス
- 六 以上各事項ノ外參考トナルヘキ總テノ事項ハ之ヲ網羅スルヲ要ス以上

●移民保護法

法律第七十號(明治二十九年四月八日)

第一章 移民

- 第一條 本法ニ於テ移民ト稱スルハ勞働ニ從事スルノ目的ヲ以テ清韓兩國以外ノ外國ニ渡航スル者及其ノ家族ニシテ之ト同行シ又ハ其ノ所在地ニ渡航スル者ヲ謂フ
- 前項勞働ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二條 移民ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外國ニ渡航スルコトヲ得ス
- 渡航ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ出發セサルトキハ效力ヲ失フモノトス

第十條 移民取扱人代理人ヲ定メ其ノ業務ヲ行ハシムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 移民取扱人ハ業務擔當社員若ハ取締役又ハ代理人ヲ在留セシメサル地ニ移民ヲ渡航セシムルコトヲ得ス

第十二條 移民取扱人ハ移民トシテ渡航スル者ニ非サレハ其ノ周旋又ハ募集ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 移民取扱人ハ勞働契約ニ因リ渡航スル移民ノ周旋又ハ募集ヲ爲スコトキハ移民ト書面契約ヲ爲シ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 移民取扱人ハ手數料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス但シ其ノ手數料ハ豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 一 移民取扱人移民ヲ募集スルトキハ出發セシムヘキ期日ヲ豫定シテ之ヲ示スヘシ移民取扱人正當ノ理由ナクシテ豫定ノ期日內ニ移民ヲ出發セシメサルトキハ其ノ出發延期ノ爲ニ生スル移民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第十六條 一 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ移民取扱人ニ同業組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

同業組合ハ法人トス

同業組合ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 保證金

第十六條 移民取扱人ハ行政廳ニ保證金ヲ納付シタル後ニ非サレハ其ノ營業ヲ開始スルコトヲ得ス

保證金額ハ一萬圓以上トシ行政廳之ヲ定ム

第十七條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ保證金額ヲ増減スルコトヲ得但シ前條ノ金額以下ニ下スコトヲ得ス

第十八條 行政廳ニ於テ移民取扱人移民ニ對シ契約ヲ履行セス又ハ第七條

第三條 行政廳ハ渡航スヘキ地ノ情況ニ因リ移民取扱人ニ依ラサル移民ヲシテ適當ト認ムル二人以上ノ保證人ヲ定メシムルコトヲ得

保證人ハ移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ之ヲ救助シ若ハ歸國セシムヘシ又行政廳ニ於テ移民ヲ救助シ若ハ歸國セシメタルトキハ其ノ費用ヲ辨償スヘシ

第四條 行政廳ハ移民保護ノ爲若ハ公安保持ノ爲又ハ外交上必要ト認ムルトキハ移民ノ渡航ヲ差止め又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

渡航差止めノ日數ハ第二條第二項ノ期間ニ算入セス

第二章 移民取扱人

第五條 本法ニ於テ移民取扱人ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ謂フ

移民取扱人ハ行政廳ノ許可ヲ得テ移民ト直接ノ關係ヲ有スル業務ヲ營ムコトヲ得

第六條 移民取扱人タラズト欲スル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

移民取扱人ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ效力ヲ失フモノトス

第七條 一 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商會社ニシテ帝國ニ於テ主たる營業所ヲ有スルモノニ非サレハ移民取扱人タルコトヲ得ス

前項ノ外移民取扱人ニ要スル資格ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 二 移民取扱人ハ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民ニ對シ渡航ノ日ヨリ滿十年間第三條第二項ニ規定シタル保證人ノ義務ヲ負フ

第八條 行政廳ハ移民取扱人ノ行為法律命令ニ違反シタルトキ若ハ公安ヲ害スルモノト認ムルトキ又ハ移民取扱人保證金ノ納付ヲ遲滞シタルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第九條 移民取扱人ハ營業ヲ停止セラレ又ハ休業シタルトキト雖既ニ渡航セシメタル移民ニ對シ契約ノ履行ヲ中止スルコトヲ得ス

ノニ規定シタル保證人ノ義務ヲ履行セスト認メタルトキハ保證金ヨリ其ノ費用ヲ支出シテ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシムルコトヲ得

第十九條 移民取扱人死亡、解散、營業許可ヲ取消又ハ其ノ理由ニ依リ營業ヲ廢止スルモ保證金ハ行政廳ニ於テ領置ノ必要アリト認ムル間ハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付セサルコトヲ得

第二十條 一 移民取扱人營業中及前條行政廳ニ於テ保證金領置ノ必要アリト認ムル間ハ移民又ハ其ノ相續人カ本法ニ從ヒタル契約ニ基キ權利ヲ執行スル場合ノ外何人ト雖保證金ニ對シテ債權取立ヲ爲スコトヲ得ス

第四章 移民運送船

第二十條 二 本法ニ於テ移民運送船ト稱スルハ命令ヲ以テ定ムル地方ニ渡航スル五十人以上ノ移民ヲ搭載スル船舶ヲ謂フ

第二十條 三 移民運送船ニ依ル移民ノ運送ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ行政廳ノ定ムル所ニ依リ保證金ヲ納付スヘシ

第二十條 四 行政廳ハ前條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行為ニシテ法令若クハ許可ノ條件ニ違反シタルトキ又ハ移民ノ利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十條 五 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスル者ハ其ノ運送費ニ關シ豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 六 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得

第二十條 七 行政廳ハ移民運送船ノ船長ヲシテ運送移民ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五章 雜則

第二十條 八 金錢貸付ヲ業トスル者ニシテ移民ニ對シ渡航費其ノ他渡航ノ準備ニ必要ナルハ錢ヲ貸與スルトキハ其ノ條件ニ付豫メ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條ノ九 移民出發港ニ於テ移民宿泊業ヲ營マムトスル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ移民宿泊所ノ設備、移民ノ給養並宿泊料其ノ他移民ノ負擔ト爲ルヘキ事項ニ付豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條ノ十 移民取扱人ニ非スシテ移民乗船ニ關スル周旋ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ移民乗船ニ關スル周旋ノ方法及移民ノ負擔ト爲ルヘキ事項ニ付豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條ノ十一 行政廳ハ前二條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行爲ニシテ法令ニ違反シタルトキ又ハ移民ノ利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第六節 罰則

第二十一條 渡航ノ許可ヲ受ケス又ハ渡航地ヲ許リテ許可ヲ受ケ又ハ渡航差止命令ニ違反シテ渡航シタル移民ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 法律命令ニ違反シタル移民ノ渡航ヲ周旋シ又ハ渡航差止中ニ移民ヲ渡航セシメタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ移民取扱人ノ行爲ヲ爲シタル者又ハ營業停止中ニ移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民取扱人及代理人ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ第五條第二項ノ營業ヲ爲シタル移民取扱人亦前項ニ同シ

第二十四條 移民取扱人行政廳ノ認可ヲ受ケサル代理人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシメタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ行爲ヲ爲シタル代理人亦同シ

第二十五條 第十一條、第十二條、第十三條、第十四條及第十六條第一項ニ違反シタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一章 移民

第一條 移民保護法第一條ノ勞働ハ農業、漁業（露領薩哈連州、沿海州及堪察加州沿岸ニ於テ行フ漁業ヲ除ク）鑛業、工業、土木、運搬、建築、炊事、洗濯、裁縫、理髮、給仕及看病等ニ關スル勞働トス

第二條 移民渡航ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ渡航地、渡航ノ目的及渡航年限ヲ詳記シ本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願スヘシ但シ寄留地ノ地方長官ニ出願スル場合ニ於テハ三箇月以上其ノ地ニ住居シタル事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ出願書ニハ移民取扱人ニ依ル者ニ在リテハ移民取扱人之ニ連署シ移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ要スル地ニ渡航スル者ニ在リテハ保證人之ニ連署スヘシ但シ契約移民ニ在リテハ出願ノ際移民保護法第十三條第一項ノ契約書寫ヲ添付スヘシ

第三條 移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ定メシムヘキ地ハ外務大臣之ヲ告示ス

第四條 移民保護法第三條ノ保證人ハ本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

第二章 移民取扱人

第五條 移民取扱人タラムトスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ但シ商會社ノ場合ニ於テ合名會社ニ在リテハ總社員、合資會社ニ在リテハ無限責任社員、株式會社ニ在リテハ發起人又ハ取締役、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ヨリ出願シ且定款ヲ添付スルコトヲ要ス

一 商號アルモノハ其ノ商號

二 營業所

三 營業資本金額

四 營業年限ヲ定ムルモノハ其ノ年限

五 移民ヲ渡航セシムヘキ地

第二編 保安 第十五章 海外渡航、代書

第二十六條ノ一 誘惑ノ手段ヲ以テ移民ヲ募集シ若ハ渡航ノ周旋ヲナシタル移民取扱人及代理人ハ一月以上一年以上ノ重禁錮ニ處ス

第二十六條ノ二 第二十條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ノ三 第二十條ノ五ニ違反シタル者ハ二百圓以上三千圓以下ノ罰金ニ處ス行政廳力移民運送船ノ發着港ヲ指定シタル場合ニ於テ其ノ指定ニ違反シタル者亦同シ

第二十六條ノ四 第二十條ノ七ニ依リ行政廳ノ命シタル報告ヲ爲ササル者ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ノ五 第二十條ノ八、第二十條ノ九及第二十條ノ十二ニ違反シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 本法ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲クル行爲ヲ爲シタル業務擔當社員又ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第七節 附則

第二十八條 本法施行以前ヨリ當該官廳ノ許可ヲ受ケ營業スル移民取扱人ハ本法施行ノ際別ニ許可ヲ受ケルヲ要セス本法ノ規程ニ依リ其營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ其ノ營業ヲ繼續セサルトキト雖其ノ既ニ納付シタル保證金ニ對シテハ仍本法ノ規程ヲ適用ス

第二十九條 本法ハ帝國ト締結シタル特別ノ條約ニ基キ渡航スル移民及其ノ取扱人ニ適用セス

第三十條 本法施行ノ爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 本法ハ明治二十九年六月一日ヨリ施行ス

第三十二條 本法ハ明治四十二年四月二十二號移民保護規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

外務省令第三號（明治四十年六月八日）

●移民保護法施行細則

六 移民募集ノ方法及其ノ渡航前後ニ於ケル周旋方法

七 出願者ノ履歷

八 出願者ノ財產但シ合名會社及合資會社ニ在リテハ各社員ノ出資額及財產、株式會社ニ在リテハ發起人又ハ取締役ノ株式引受又ハ所有額及財產並株式ノ總數及一株ノ金額、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ出資額、株式引受額及財產並株式總數及一株ノ金額

九 移民取扱人ノ相續人ニシテ其ノ營業ヲ繼續セムトスル者又ハ移民取扱人ノ營業ヲ讓受ケムトスル者ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第六條 移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受ケタル後左ノ場合ニ於テハ外務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 前條第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ

二 合名會社及合資會社ニ在リテ社員及其ノ出資額ヲ變更セムトスルトキ又ハ新ニ社員ヲ加入セシメムトスルトキ但シ新ニ社員ト爲リタル者ニ關シテハ其ノ履歷書及財產調書、出資額ヲ變更セムトスル者ニ關シテハ其ノ財產調書ヲ添付スルヲ要ス

三 株式會社ニ在リテ取締役ヲ選任セムトスルトキ並資本金、株式ノ總數及一株ノ金額ヲ變更セムトスルトキ

四 株式合資會社ニ在リテ無限責任社員及其ノ出資額又ハ株式引受額ヲ變更セムトスルトキ又ハ株式ノ總數及一株ノ金額ヲ變更セムトスルトキ

第七條 左ノ事項ハ移民取扱人ニ於テ一週間以内ニ外務大臣ニ届出ツヘシ

一 商號ノ新設、取得、變更又ハ廢止

二 開業ノ年月日

三 業務執行社員ノ選任及業務執行社員又ハ取締役ノ解任又ハ死亡

四 同一廳府縣内ニ於ケル主たる營業所ノ移轉

五 支店又ハ出張所ノ廢置移轉

六 前敷號ニ掲ケタルモノノ外法令ノ規定ニ依リ登記シタル事項
七 商會社ニ在リテハ前條第二號乃至第四號ニ掲ケタルモノノ外定款
ヲ變更シタルトキ

移民取扱人死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ届出ヲ爲スヘシ
主タル營業所ヲ置ク廳府縣以外ノ地ニ於ケル支店又ハ出張所ノ廢置移轉
ハ一週間以内ニ其ノ地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者及外務大臣ニ於テ不適當ト認ムル者ハ
移民取扱人又ハ代理人タルコトヲ得ス
一 禁治産者及準禁治産者
二 剥奪公權者及停止公權者
三 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確
定スルニ至ル迄ノ者
四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ
者

第九條 移民取扱人移民保護法第五條第二項ノ業務ヲ兼營セムトスルトキ
ハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ
一 兼營スヘキ業務ノ種類及其ノ業務ヲ經營セムトスル地方
二 兼營スヘキ業務ト移民トノ關係
三 兼營スヘキ業務ニ充當スヘキ資本金額
四 兼營スヘキ業務經營ノ方法

移民取扱人移民渡航地ニ於テ業務ヲ兼營セムトスル場合ニ於テハ前項ノ
出願書ニ該地方ノ狀況書ヲ添付スルヲ要ス
第十條 移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受ケタル後其ノ業務ヲ兼營ヲ廢止セ
ムトスルトキ又ハ前條第一項各號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ
ハ其ノ事情ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第十一條 移民保護法第十條ニ依リ移民取扱人ニ於テ代理人ヲ定ムトス
ルトキハ左ノ事項ヲ詳記シタル書類ヲ添付シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ
受クヘシ
一 内地代理人ト海外代理人ノ別
二 代理人ノ履歷
三 代理人ノ財産
外務大臣前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ附屬第一號書式ノ許可證ヲ移民取
扱人ニ下付ス但シ移民取扱人ハ該許可證ヲ代理人ニ交付スヘシ
代理人ノ解任又ハ死亡ハ移民取扱人ニ於テ解任ノ日又ハ死亡ノ通知ヲ受
ケタル日ヨリ一週間以内ニ外務大臣ニ届出ツヘシ

第十二條 外務大臣ハ代理人ノ行爲法令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害ス
ルモノト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
第十三條 移民取扱人又ハ代理人カ本店支店又ハ出張所ニ於テ使用スル事
務員ノ選任ハ所在地地方長官ノ定ムル所ニ依リ同長官ニ出願シテ認可ヲ
受クヘシ
地方長官ハ前項事務員ノ行爲法令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルモ
ノト認メタルトキハ之カ解任ヲ移民取扱人又ハ代理人ニ命スルコトアル
ヘシ

第十四條 代理人其ノ業務ヲ行フトキハ許可證ヲ、移民取扱人又ハ代理人
ノ使用スル事務員其ノ事務ヲ行フトキハ認可證ヲ携帯スヘシ
代理人死亡シタルトキ、解任セラレタルトキ又ハ其ノ許可ヲ取消サレタ
ルトキハ移民取扱人ハ遅滞ナク許可證ヲ外務大臣ニ返納スヘシ
移民取扱人又ハ代理人ノ使用スル事務員死亡シタルトキ又ハ解任セラレ
タルトキハ移民取扱人又ハ代理人ハ遅滞ナク其認可證ヲ當該地方長官ニ
返納スヘシ

第十五條 業務執行社員取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ渡航スルト
キ又ハ渡航地ヨリ歸國シタルトキハ移民取扱人ハ遅滞ナク其ノ旨ヲ外務
大臣ニ届出ツヘシ
業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ到着シタルトキハ

遅滞ナク其ノ旨ヲ所轄在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第十六條 移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ
歸國ノ爲出發セムトスルトキ又ハ一時其ノ地ヲ立去ラムトスルトキハ所
轄在外帝國官廳ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ
在外帝國官廳カ前項歸國ノ許可ヲ與フル場合ハ他ノ業務執行社員、取締
役又ハ代理人カ其ノ地ニ在留スルトキニ限ル

第十七條 外務大臣必要ト認ムルトキハ移民取扱人カ移民渡航地内ニ於テ
業務執行社員、取締役又ハ代理人ヲ在留セシムヘキ場所ヲ指定スルコト
アルヘシ

第十八條 移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ移民
名簿ヲ備ヘ移民ノ就業地、職業及雇主ノ氏名ヲ明記シ且契約移民ニ付テ
ハ賃金支拂簿ヲ備ヘ官廳ノ命アル時ハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第十九條 移民ニシテ渡航地外ニ轉住シタルトキハ其ノ渡航地ニ在留スル
業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ遅滞ナク其ノ氏名及轉住地ヲ在留地
及轉住地ノ在外帝國官廳ニ届出ツヘシ
前項ノ場合ニ於テ移民取扱人ハ遅滞ナク其ノ旨ヲ外務大臣ニ届出ツヘ
シ

第二十條 移民取扱人移民ヲ募集セムトスルトキハ移民募集地方別豫定表
ヲ添付シ豫メ之ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 移民取扱人又ハ代理人移民募集ノ目的ヲ以テ新聞紙ニ廣告文
ヲ掲載シ又ハ印刷物ヲ配付セムトスルトキハ豫メ外務大臣ニ出願シテ認
可ヲ受クヘシ

第二十二條 移民取扱人移民ノ募集ヲ爲スニ當リテハ自己所在ノ地又ハ業
務執行社員若ハ取締役ノ在留スル地方ヲ除クノ外代理人ヲシテ募集ノ期
間其ノ募集ノ地ニ在留セシムルコトヲ要ス

第二十三條 移民保護法第十三條ノ契約書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ
要ス

第二編 保安 第十五章 海外渡航、代書

受クヘシ

一 内地代理人ト海外代理人ノ別

二 代理人ノ履歷

三 代理人ノ財産

外務大臣前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ附屬第一號書式ノ許可證ヲ移民取
扱人ニ下付ス但シ移民取扱人ハ該許可證ヲ代理人ニ交付スヘシ
代理人ノ解任又ハ死亡ハ移民取扱人ニ於テ解任ノ日又ハ死亡ノ通知ヲ受
ケタル日ヨリ一週間以内ニ外務大臣ニ届出ツヘシ

第十二條 外務大臣ハ代理人ノ行爲法令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害ス
ルモノト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
第十三條 移民取扱人又ハ代理人カ本店支店又ハ出張所ニ於テ使用スル事
務員ノ選任ハ所在地地方長官ノ定ムル所ニ依リ同長官ニ出願シテ認可ヲ
受クヘシ
地方長官ハ前項事務員ノ行爲法令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルモ
ノト認メタルトキハ之カ解任ヲ移民取扱人又ハ代理人ニ命スルコトアル
ヘシ

第十四條 代理人其ノ業務ヲ行フトキハ許可證ヲ、移民取扱人又ハ代理人
ノ使用スル事務員其ノ事務ヲ行フトキハ認可證ヲ携帯スヘシ
代理人死亡シタルトキ、解任セラレタルトキ又ハ其ノ許可ヲ取消サレタ
ルトキハ移民取扱人ハ遅滞ナク許可證ヲ外務大臣ニ返納スヘシ
移民取扱人又ハ代理人ノ使用スル事務員死亡シタルトキ又ハ解任セラレ
タルトキハ移民取扱人又ハ代理人ハ遅滞ナク其認可證ヲ當該地方長官ニ
返納スヘシ

第十五條 業務執行社員取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ渡航スルト
キ又ハ渡航地ヨリ歸國シタルトキハ移民取扱人ハ遅滞ナク其ノ旨ヲ外務
大臣ニ届出ツヘシ
業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ到着シタルトキハ

遅滞ナク其ノ旨ヲ所轄在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第十六條 移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ
歸國ノ爲出發セムトスルトキ又ハ一時其ノ地ヲ立去ラムトスルトキハ所
轄在外帝國官廳ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ
在外帝國官廳カ前項歸國ノ許可ヲ與フル場合ハ他ノ業務執行社員、取締
役又ハ代理人カ其ノ地ニ在留スルトキニ限ル

第十七條 外務大臣必要ト認ムルトキハ移民取扱人カ移民渡航地内ニ於テ
業務執行社員、取締役又ハ代理人ヲ在留セシムヘキ場所ヲ指定スルコト
アルヘシ

第十八條 移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ移民
名簿ヲ備ヘ移民ノ就業地、職業及雇主ノ氏名ヲ明記シ且契約移民ニ付テ
ハ賃金支拂簿ヲ備ヘ官廳ノ命アル時ハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第十九條 移民ニシテ渡航地外ニ轉住シタルトキハ其ノ渡航地ニ在留スル
業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ遅滞ナク其ノ氏名及轉住地ヲ在留地
及轉住地ノ在外帝國官廳ニ届出ツヘシ
前項ノ場合ニ於テ移民取扱人ハ遅滞ナク其ノ旨ヲ外務大臣ニ届出ツヘ
シ

第二十條 移民取扱人移民ヲ募集セムトスルトキハ移民募集地方別豫定表
ヲ添付シ豫メ之ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 移民取扱人又ハ代理人移民募集ノ目的ヲ以テ新聞紙ニ廣告文
ヲ掲載シ又ハ印刷物ヲ配付セムトスルトキハ豫メ外務大臣ニ出願シテ認
可ヲ受クヘシ

第二十二條 移民取扱人移民ノ募集ヲ爲スニ當リテハ自己所在ノ地又ハ業
務執行社員若ハ取締役ノ在留スル地方ヲ除クノ外代理人ヲシテ募集ノ期
間其ノ募集ノ地ニ在留セシムルコトヲ要ス

第二十三條 移民保護法第十三條ノ契約書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ
要ス

一 契約期限
二 手数料
三 渡航及歸航費用ノ支辨方法
四 賃金及賃金ノ支拂方法
五 渡航地ニ於ケル周旋方法
六 移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於ケル援助又ハ歸國ノ方法
移民取扱人ハ前項契約書ノ全文ニ移民渡航地ノ狀況書ヲ添付シ移民本籍
地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 移民取扱人移民ニ關シテ別ニ他人ト契約ヲ爲シタルトキハ該
契約書ヲ添付シ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ届出テ且
其ノ移民ノ渡航地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニモ届出ツヘシ
移民取扱人前項ノ契約ニ基キ移民ヲ募集セムトスルトキハ前條ノ手續ヲ
爲スニ當リ該契約書ヲ添付スヘシ
主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官必要ト認ムルトキハ第一項契約書ノ原
本ノ提示ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 當該官廳ニ於テ移民保護法第十三條ニ掲ケタル契約書ヲ示ス
ヘキコトヲ命シタルトキハ移民取扱人及移民ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 移民保護法第十四條ニ依リ手数料ノ認可ヲ受ケムトスルトキ
ハ移民取扱人ハ移民ノ渡航地及手数料ノ額ヲ記載シ移民本籍地又ハ寄留
地ノ地方長官ニ出願スヘシ
第二十七條 移民取扱人移民保護法第十五條ノ一ニ依リ豫定シタル移民ノ
出發期日ヲ移民ニ通知スルニハ書面ヲ以テスルコトヲ要ス
移民取扱人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地
及移民出發港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十八條 移民出發港所在地ノ地方長官必要ト認ムルトキハ其ノ地ニ代
理人ヲ在留セシムヘキ旨ヲ移民取扱人ニ命スルコトアルヘシ

第二十九條 移民取扱人移民ヲ渡航セシムルトキハ移民ノ出發ト同時ニ

民ノ氏名ヲ其ノ渡航地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ但シ契約移
民ニ係ルトキハ移民保護法第十三條第一項ノ契約書寫ヲ添付スヘシ

第三十條 移民ノ身上ニ關スル異變其ノ他移民ニ關スル重要ナル事件ハ移
民取扱人直ニ之ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理
人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ所轄在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第三十一條 移民取扱人ハ附屬第二號書式ニ依リ毎月末日渡航者名簿ヲ調
製シ翌月五日迄ニ又附屬第三號及第四號書式ニ依リ毎年末日歸國者名簿
及死亡者名簿ヲ調製シ翌年三月三十一日迄ニ外務大臣ニ提出スヘシ

第三十二條 外務大臣必要ト認ムルトキハ別ニ定ムル移民取扱人同業組合
規程ニ準據シ該組合ヲ設立スヘキコトヲ移民取扱人ニ命令ス

第三十三條 本章中移民取扱人ヨリ外務大臣ニ届出又ハ届出ヲ爲スヘキ場
合及第三十一條ニ依リ名簿ヲ提出スヘキ場合ニ於テハ其ノ主タル營業所
ヲ置ク地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ提出書類ノ謄本一通ヲ添へ原本ト共ニ之ヲ地方長官
ニ差出スヘシ

第三章 保證金

第三十四條 移民保護法第十六條ニ掲ケタル保證金ハ之ヲ主タル營業所ヲ
置ク地ノ地方長官ニ納付スヘシ

第三十五條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ノ額及其ノ増減ハ外務大臣之
ヲ定ム

第三十六條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ハ國債證券ヲ以テ之ニ代用ス
ルコトヲ得

前項國債證券ノ價格ハ其ノ納付ヲ受クヘキ地方長官ノ定ムル所ニ依ル
本條證券ノ價格ニ異動アリタルトキハ地方長官ハ移民取扱人ヲシテ之ニ
依リ生シタル不足額ヲ追納セシムヘシ

第三十七條 主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ハ移民取扱人ノ保證金ノ増

額ヲ追納セシメ又ハ其ノ缺損ヲ填補セシムル場合ニ於テ一箇月以内ノ猶
豫ヲ與フルコトヲ得

第四章 移民運送船

第三十八條 移民保護法第二十條ノ二ニ依リ命令ヲ以テ定ムル地方ハ外
大臣ニテ告示ス

第三十九條 移民保護法第二十條ノ二ニ依リ移民ノ員數ヲ算定スル場合ニ
於テ五年以上十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ、二年以上五年未滿ノ者ハ四
人ヲ以テ一人ニ積算シ二年未滿ノ者ハ之ヲ算入セス

第四十條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ
詳記シ帝國運送業者ニ在リテハ其ノ本店所在地ノ地方長官ヲ經由シ外國
運送業者ニ在リテハ帝國國內ニ在ル其ノ代表者所在地ノ地方長官ヲ經由シ
外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ但シ船籍證書寫眞並移民運送船備船ナ
ルトキハ條約書寫眞ヲ添付スルコトヲ要ス

一 商號アルモノハ其ノ商號

二 本店所在地

三 移民運送船

四 船長ノ國籍、住所、氏名

五 移民乘船港、到着港並寄航港

六 移民乘船港ヨリ到着港ニ至ル迄ノ航海豫定日數

七 營業資本金額

八 運送スヘキ移民ノ豫定人員

同一運送業者カ同一航路ニ使用スル移民運送船ハ二隻以上ヲ同一ノ願書
ニ併記スルコトヲ得

外務大臣必要ト認ムルトキハ出願者ノ履歴書、商會社ニ在リテハ其ノ
定款ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第四十一條 第三十八條ニ依リ外務大臣ノ告示シタル地方ニ於ケル一定ノ
港へ一箇年二回以上航海ヲ爲ス移民運送船ニ關シテハ二回以上ノ運送ニ

付同時ニ前條ノ出願ヲ爲スコトヲ得但シ一箇年ヲ超ユル期間ニ互ルコト
ヲ得ス

第四十二條 外務大臣移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ許可シタルトキハ附
屬第五號書式ニ依リ移民運送許可證ヲ下付ス

第四十三條 第四十條ノ許可ヲ受ケタル運送業者ニシテ同條第一項第三號
及第五號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ同條ノ手續ニ準シ外務
大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

前項ノ運送業者第四十條第一項第一號、第二號、第四號、第七號及第八
號ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク同條ノ手續ニ準シ之ヲ外
務大臣ニ届出ツヘシ

第四十四條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サントスル者第四十二條ノ
許可證ヲ下付セラレタルトキハ該許可證ヲ移民運送船船長ニ交付スヘ
シ

移民運送船船長ハ官廳ノ命アルトキハ何時ニテモ前項ノ許可證ヲ提示ス
ヘシ

第四十五條 移民運送業者移民到着港ニ移民ノ運送ヲ了シタルトキハ遲滞
ナク第四十條ノ手續ニ依リ運送許可證ヲ外務大臣ニ返納スヘシ第四十一
條ノ出願ニ基キ下付セラレタル許可證ノ期間滿了シタルトキ亦同シ

第四十六條 移民保護法第二十條ノ三第二項ニ依リ納付スヘキ保證金ノ額
ハ外務大臣隨時ニ之ヲ定ム

前項ノ保證金ハ第四十二條ノ許可證ヲ下付セラレタルトキ出願者ヨリ即
時ニ之ヲ當該地方長官ニ納付スヘシ

本條ノ保證金ニ關シテハ第三十六條及第三十七條ノ規定ヲ準用ス

第四十七條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サントスル者ハ其ノ地ノ地
方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十三條 移民出發港ニ於テ移民宿泊業ヲ營マムトスル者ハ其ノ地ノ地
方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十四條 移民取扱人ニ非スシテ移民乘船ニ關スル周旋ヲ爲サントスル
者ハ移民乘船地ノ地方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十五條 前二條ノ許可及第五十一條ノ認可ノ出願手續ニ關スル規程並
前二條ノ許可ヲ受ケタル者及第五十一條ノ認可金貸付業者ノ取締ニ關スル規
程ハ地方長官ニテ定ム

第五十六條 第六條、第十條、第十三條第一項、第十四條、第十六條第一
項、第十八條、第二十一條、第二十二條、第二十四條第一項第二項、第

五三五

事件ノ名稱、年月日、書類ノ紙數、代書料及囑託者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

代書人ハ代書事件簿閉鎖後一年間之ヲ保存スヘシ代書人業務ノ許可ヲ取消サレ又ハ廢業シタルトキ亦同シ

代書人死亡シタルトキハ前項ノ規定ヲ家督相續人ニ準用ス

第十三條 警察官署ハ必要ト認ムルトキハ警察官吏ヲシテ代書人ノ事務所ニ臨檢シ又ハ代書事件簿ヲ檢閲セシムルコトヲ得

第十四條 代書人業務上ノ義務ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スト認メラルトキ又ハ六月以上所在不明ナルトキハ主タル事務所所在地所轄警察署ハ地方長官東京府ニ在リノ認可ヲ受ケ業務ノ停止ヲ命ジ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十五條 補助員業務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認メラルトキハ主タル事務所所在地所轄警察官署ハ使用ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十六條 第二條、第三條、第十四條及第十五條ノ規定ニ依ル警察官署ノ處分ハ其ノ所屬廳府縣ノ管内ニ效力ヲ有ス

第十七條 本令其ノ他ノ法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ代書ノ業ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一、第七條、第九條ノ規定ニ違反シタル者

二、代書事件簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ若ハ第十三條ノ規定ニ依ル警察官吏ノ臨檢又ハ檢閲ヲ拒ミタル者

三、第十四條ノ規定ニ依ル業務停止ノ處分ヲ受ケ其ノ期間中業務ヲ營ミタルモノ

四、第十五條ノ規定ニ依ル警察官署ノ處分ニ違反シテ補助員ヲ使用シタルモノ

第十九條 第三條乃至第六條、第八條、第十條乃至第十二條ノ規定ニ違反

シタル者ハ科料ニ處ス

第二十條 代書人ハ其ノ業務ニ關シ補助員ノ爲シタル行爲ニ付自己ノ指節ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十一條 本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本令施行ノ際現ニ許可ヲ受ケ代書ノ業トスル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

代書人規則施行ニ關スル件

甲保祕收第二〇〇號(大正九年十二月十一日) 警察署長 警察分署長

今般内務省令第四十號ヲ以テ代書人規則公布相成候處本規則ノ施行ニ關シテハ左記ニ準據シ取扱ハルヘシ

一、代書人規則第一條ノ書類中ニハ其ノ附屬圖面ノ如キ之ヲ包含スト雖モ單ニ設計圖、測量圖類ノ作製ノミノ依頼ニ應スルコトヲ業トスルモノハ之ニ包含スルモノニアラス又單ニ書翰ノミノ代書ノ業トスルモノニシテ稀ニ權利義務ニ關スル書翰ヲ代書スルコトアルヘキモ是等ハ強ヒテ本規則ヲ以テ臨ムノ趣旨ニアサルモノトス

二、同則第二條及第三條ニヨリ代書人及其ノ補助員ヲラムトスル者ニシテ左ノ事項ニ該當スルトキハ許可又ハ認可セサルモノトス

イ、未成年者

ロ、素行不良ニシテ公益ヲ害スルノ虞アル者

ハ、禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ賭博罪ニヨリ罰金ニ處セラレタル者

ニ、破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

ト、信書

一、端書一枚ニ付金三錢以内

二、書狀一通ニ付金五錢以内

チ、代書附隨行爲手数料

官公衙ノ諸公簿閱覽戶籍其ノ他諸公簿ノ謄本及抄本請求一件ニ付金十錢以内

六、同則第七條但書ニ於テ代書料以外ノ報酬ヲ認メタルハ代書囑託者ニ於テ代書人ノ出張ヲ求ムル等ノ場合ニ於テ車馬賃其ノ他ヲ要スルコトアルヘキニ依リ右報酬ヲ受ケムトスル者ニ對シテハ左ノ標準額ニ依リ豫メ承認ヲ與ヘ置クモ妨ケナキモノトス但シ宿泊料ハ他町村へ出張シタル場合ニ限ル

一、宿泊料一夜ニ付金二圓五十錢以内

二、日當一日金一圓五十錢以内半日又ハ半日ニ滿タサル場合ハ金七十錢以内

三、車馬賃及汽車賃實費

七、同則第九條第六號中法律事務所トハ辯護士事務所特許辨理事務所公認人執達吏事務所ノ類ヲ指示シタルモノトス

八、同則第十一條ニ記載セル事項ノ届出ハ總テ主タル事務所々所在地所轄警察官署ニ限定セルヲ以テ例ヘハ代書人ニ於テ他ノ警察官署ノ區域内ニ事務所ヲ増設シタル場合仍ホ之カ届出ハ主タル事務所々轄警察官署ニ爲スニ依リ本條ノ届出ヲ受理シタル警察官署ハ遲滞ナク關係所轄警察官署ニ通報スヘキモノトス

九、同則第十四條及第十五條ニ於テ代書人及其ノ補助員ニシテ本則ニ規定スル業務上ノ義務ニ違反シ又ハ公益(文書偽造、詐欺取財、強盜、窃盜、其ノ他ノ犯行)ヲ害スト認ムル者ニ對シ業務ノ停止、許可ノ取消又ハ使用ノ認可ヲ取消サムトスル場合ハ事情詳具スル等慎重ニ措置スルコトヲ要ス

行政訴訟、訴願書ノ類ニシテ特ニ草稿ニ要シタル場合一枚ヲ超過スルトキハ一枚ニ付金八錢以内

ハ、委任狀一枚ニ付金八錢以内

ニ、圖面ハ紙質ヲ問ハス其ノ難易ニ依リ一枚ニ付金七錢以上金五十錢以内トス但シ特ニ専門ノ技能ヲ要スルモノハ依頼者ト協定ノ上一枚ニ付金七圓迄ヲ受クルコトヲ得

ホ、契約書其ノ他前各號以外ノ書類一枚ニ付金十錢以内

ハ、草稿

行政訴訟、訴願書ノ類ニシテ特ニ草稿ニ要シタル場合一枚ヲ超過スルトキハ一枚ニ付金八錢以内

ハ、委任狀一枚ニ付金八錢以内

十、代書人ノ弊害ノ多クハ本規則第九條ニ規定スル條項ニ在ルヲ以テ現ニ代書ヲ業トスル者ニ對シテハ此ノ際及將來代書業ヲ許可スルモノニ對シ其ノ都度懇篤本條ノ趣旨ヲ說示シ了解セシメ代書人ノ義務ニ違反ナカラシムルコト。

十一、警察官署ハ代書人ヲ許可シタルトキハ甲種臺帳ニ補助員ヲ使用認可シタルトキハ同臺帳ノ備考欄ニ受持巡查ハ注意人名簿ニ登錄シ異動アル毎ニ加除訂正スルコト。

追テ明治三十九年五月長野縣令第十七號代書人取締規則ハ本規則施行ノ日ヨリ自然消滅ス同年五月警發第一五六號及大正八年九月甲發第二六五號指示ハ之ヲ廢止ス

●代書人取締方ノ件

甲發第二六五號(大正八年九月十二日)

警察署長 警察分署長

明治三十九年五月一日附警發第一五六號代書人取締規則取扱手續第二條ノ代書料標準額左記ノ通改正候條本月十五日以降本標準ニ基キ認可セラルヘシ

左記

代書人取締規則取扱手續

第二條 代書料ハ左ノ標準ニ依リ認可スヘシ但シ用紙ハ紙質ヲ問ハス一枚二十四行一行二十字詰以上トシ半枚又ハ半枚ニ滿タサルモノノ料金ハ一枚分ノ半額トス

一、行政訴訟及訴願書一枚ニ付金拾五錢以內

二、行政上各種ノ願届ニ關スルモノ

願書、届書其ノ他ノ書類ハ一枚ニ付金拾錢以內

三、委任狀一枚ニ付金八錢以內

受クルカ如キコトナキ様嚴重取締ヲ爲スヘク又司法代書人法實施後ニ於ケル普通ノ代書人(本縣令代書人取締規則ニ依リ取締ルヘキ代書人)ニ對スル取締ニ關シテハ特ニ左記事項ニ注意シ遺漏ナキヲ期セララルヘシ

左記

一、司法代書人ト普通ノ代書人トノ區別

司法代書人トハ他人ノ囑託ヲ受ケ直接裁判所又ハ檢事局ニ提出スヘキ書類ハ勿論法文(司法代書人法)ノ解釋上之ニ附隨的關係ヲ有スル書類等(例、戸籍又ハ土地臺帳謄抄本下附ノ如キハ普通代書人ノ範圍ニ屬スルモノ)之ヲ登記申請ノ爲メ要スル場合ハ司法代書人ノ附隨書類トナルカ如シノ外例令警察官署ニ提出スル告訴狀、告發狀、盜難届又ハ始末書ノ類ノ如キ其ノ性質上司法ニ屬スル書類ヲ作製スルヲ業トスル者ヲ謂ヒ其ノ他普通一般ノ書類作製スルヲ業トスル者ハ悉ク普通ノ代書人トシテ取締ララルヘク尙實際取締ニ當リ之カ區別等ニ關シ疑義ヲ生シタル場合ハ稟請指揮ヲ受クヘシ

二、從來ノ代書人ニシテ司法代書ヲ兼業スルモノハ代書事件簿(普通代)ヲ別冊ト爲サシムヘシ

三、普通ノ代書ト司法代書トヲ兼業スル者ノ中ニハ代書料ノ多寡ニ依リ其ノ性質上當然行政ニ屬スル事件ヲ故ラニ司法事件トシ或ハ又司法ニ屬スルモノヲ行政事件トシテ多額ノ料金ヲ食ルコトナキヲ保シ難キヲ以テ如斯不都合ノ行爲ナカラシムル様取締ルコト

四、司法代書人ハ地方裁判所長ノ監督ニ屬スルヲ以テ警察ハ專ラ普通ノ代書人ニ對シ取締ヲ爲スヘク若シ司法代書人ニシテ違法又ハ不正行爲アルヲ見分シタルトキハ其ノ事實ヲ當部ヘ申報スルコト

●司法代書人法

法律第四十八號(大正八年四月十日)

第一條 本法ニ於テ司法代書人ト稱スルハ他人ノ囑託ヲ受ケ裁判所及檢事

第二編 保安 第十五章 海外渡航、代書

四、圖面ハ紙質ヲ問ハス其ノ難易ニ依リ一枚ニ付金七錢以上金五十錢以內トス但特ニ専門ノ技能ヲ要スルモノハ依頼者ト協定ノ上一枚ニ付金七圓迄ヲ受クルコトヲ得

五、契約書其ノ他前各號以外ノ書類ハ一枚ニ付金拾錢以內

六、草稿

行政訴訟願書ノ類ニシテ特ニ草稿ニ要シタル場合一枚ヲ超過スルトキハ一枚ニ付金八錢以內

七、信書

(イ)端書一枚ニ付金參錢以內

(ロ)書狀一通ニ付金五錢以內

八、代書附隨行爲手数料

(イ)官公衙ノ諸公簿閱覽、戶籍其ノ他諸公簿ノ謄本及抄本請求一件ニ付金拾錢以內

(ロ)實地調査等ノ爲出張シタルトキハ左ノ範圍内ニ於テ旅費ヲ受クルコトヲ得但宿泊料ハ他町村ヘ出張宿泊シタル場合ニ限ル

日 當 一日金壹圓以內半日又ハ半日ニ滿タル場合ハ金五拾錢以內

宿 泊 料 一夜金壹圓五拾錢以內

車馬及汽車賃 實 費 以上

甲發第二六五號(二)大正八年九月十四日)

警察署長 警察分署長

代書人取締方ノ義ニ付指示

本月十二日附本號ヲ以テ代書人手數料標準額改正候處右ハ本月十五日ヨリ施行ノ司法代書人法ニ依リ司法代書人ノ書記料(別紙長野地方裁判所長訓九號)ト均衡ナラシメタルニアリ而シテ今回改正ノ標準額ハ現在ノ標準額ニ比スレハ著キ増額ナルヲ以テ名義ノ何タルヲ問ハス認可額以外ノ報酬ヲ

局ニ提出スヘキ書類ノ作製ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條 司法代書人ハ地方裁判所ノ所屬トス

第三條 司法代書人ハ地方裁判所長ノ監督ヲ受ク

地方裁判所長ハ區裁判所判事ヲシテ司法代書人ニ對スル監督事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第四條 司法代書人タルニハ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條 司法代書人ハ地方裁判所長ノ定ムル書記料ヲ受ク

第六條 司法代書人ハ事務所ヲ設ケ地方裁判所長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第七條 司法代書人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 司法代書人ハ當事者ノ一方ノ囑託ニ依リテ取扱ヒタル事件ニ付相手方ノ爲メ書類ノ作製ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 司法代書人ハ其ノ業務ノ範圍ヲ超エテ他人間ノ訴訟其ノ他ノ事件ニ關與スルコトヲ得ス

第十條 司法代書人ハ其ノ取扱ヒタル事件ヲ漏泄スルコトヲ得ス但シ裁判所又ハ檢事局ニ於テ訊問ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 司法代書人其ノ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ地方裁判所長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ左ニ掲グル處分ヲ爲スコトヲ得

一 業務ノ禁止又ハ停止

二 五百圓以下ノ過料

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ノ處分ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年六月勅令第二百八十七號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行)

司法代書人法施行細則

司法省令第九號(大正八年六月十一日)

- 第一條 司法代書人タルノ認可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ住所、族稱、氏名、年齢及履歴並事務所ノ位置ヲ具シ所屬地方裁判所長ニ願書ヲ差出スヘシ
第二條 司法代書人事務所ヲ移轉セムトスルトキハ新事務所ノ位置ヲ具シ所屬地方裁判所長ニ願出ツヘシ
第三條 司法代書人事務所ヲ設ケ又ハ之ヲ移轉シタルトキハ遲滞ナク之ヲ所屬地方裁判所長ニ届出ツヘシ
第四條 司法代書人ハ其ノ事務所ニ何地方裁判所長認可司法代書人某事務所ト記載シタル表札ヲ掲クヘシ
第五條 司法代書人ハ所屬地方裁判所長ノ定ムル様式ニ從ヒ業務上使用スヘキ印章ヲ作り其ノ印鑑ニ氏名ヲ自署シ之ヲ所屬地方裁判所長ニ差出スヘシ
第六條 司法代書人ハ事務所内賭場キ場所ニ書記料額ヲ揭示スヘシ
第七條 司法代書人ハ事件簿ヲ調製シ之ニ囑託ヲ受ケタル年月日、件名、囑託人ノ氏名住所、作製シタル書類ノ紙數及書記料ヲ記載スヘシ
第八條 司法代書人ハ其ノ作製シタル書類ノ末尾ニ署名、捺印スヘシ
第九條 司法代書人廢業シタルトキハ本人ヨリ、死亡シタルトキハ其ノ家族又ハ同居者ヨリ遲滞ナク其ノ旨ヲ所屬地方裁判所長ニ届出ツヘシ
第十條 地方裁判所長ハ司法代書人名簿ヲ備ヘ之ニ所屬司法代書人ノ住所、族稱、氏名、年齢及事務所ヲ記載スヘシ
第十一條 地方裁判所長司法代書人ノ書記料ヲ定メタルトキハ控訴院長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ報告スヘシ
第十二條 地方裁判所長司法代書人ノ監督ニ關スル規程ヲ設ケタルトキハ控訴院長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

- 第十三條 地方裁判所長ハ司法代書人ノ行狀及業務ノ取扱ニ關シ訓諭スルコトヲ得
第十四條 地方裁判所長ハ司法代書人ノ保存スル事件簿其ノ他ノ書類ヲ檢閲シ若ハ其ノ提出ヲ命ジ又ハ其ノ指定シタル官吏ヲシテ之ヲ檢閲セシムルコトヲ得
第十五條 司法代書人業務ノ禁止又ハ停止ノ處分ヲ受ケタルトキハ其ノ表札ヲ撤去スヘシ
附則
本令ハ大正八年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

司法代書人監督規程

- 長野地方裁判所長訓令(大正八年八月一日一カ二四六四二)
第一條 司法代書人ノ監督ハ法令ニ別段ノ規定アルモノ、外本規程ニ從フ
第二條 區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ自ら事件簿其他ノ書類ヲ檢閲シ若クハ其屬又ハ出張所書記ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
第三條 區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事事件簿其他ノ書類檢閲ヲ爲シ又ハ爲サシメタルトキハ其結果ヲ地方裁判所長ニ報告スヘシ
第四條 區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ司法代書人業務上禁止又ハ停止若クハ過料ニ處セラレヘキ行爲アリト思料シタルトキハ其自由ヲ具シ地方裁判所長ニ申報スヘシ
第五條 司法代書人ヨリ地方裁判所長ニ差出スヘキ書類ハ其事務所ヲ管轄スル區裁判所ヲ經由スヘシ
第六條 司法代書人認可願ハ附錄第一號書式ニ依ルヘシ
第七條 司法代書人ノ業務上使川スヘキ印章ハ附錄第二號雜形ニ依ルヘシ
②印鑑ハ附錄第三號書式ニ依リ地方裁判所長ニ届出ツヘシ

- 第八條 司法代書人ノ事務所移轉許可願ハ附錄第四號書式ニ依ルヘシ
第九條 司法代書人ノ事務所ノ設置、移轉届ハ附錄第五號書式ニ依ルヘシ
第十條 司法代書人ハ附錄第六號書式ノ事件簿ヲ調製シ使用前區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ノ契印ヲ受クヘシ
第十一條 事件簿ノ終了シタル翌年度ヨリ起算シ十年間之ヲ保存スヘシ
第十二條 司法代書人ハ法令ニ違背シタル事項ニ付書類作製ノ囑託ヲ受クヘカラス
第十三條 司法代書人事件ノ囑託ヲ拒絕シタルトキハ遲滞ナク其事由ヲ具シ地方裁判所長ニ届出ツヘシ
第十四條 司法代書人書類ヲ作製スルニハ楷行ノ字體ヲ用ヒ字畫明瞭ナルコトヲ要シ文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス
第十五條 司法代書人本人ニ面接シテ囑託ヲ受ケサルモノハ事件簿中備考欄ニ其旨ヲ記載スヘシ
第十六條 司法代書人ハ其作製シタル書面ヲ囑託人ニ讀聞カセ尙ホ囑託人ニ於テ其意味ヲ了解セサルトキハ口頭ヲ以テ懇切ニ説明シテ了得セシヘシ
第十七條 司法代書人ノ書記料ノ額ハ附錄第十號表ノ通り一定ス司法代書人ノ書記料ノ額ヲ増減スルコトヲ得又其事件ニ關シ書記料ノ外名稱ノ如何ニ拘ハラズ報酬ヲ受クルコトヲ得ス
第十八條 司法代書人書記料ヲ受領シタルトキハ囑託人ニ對シ附錄第七號様式ノ領收證ヲ差出スヘシ領收證ハ終了シタル翌年度ヨリ起算シ五年間之ヲ保存スヘシ
第十九條 司法代書人自己ノ過誤ニ依リ作製シタル書類ノ效力ナキ場合ハ書記料ヲ請求スルコトヲ得ス
第二十條 司法代書人止ムヲ得サル事情ニ依リ筆生ヲ使用セントスルトキハ本人自筆ノ履歴書及ヒ戸籍謄本ヲ添ヘ地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ

- 第二十條 既成書類ノ欄外ニ捺印アル場合ハ其ノ承諾アルニ非ラサレハ之ヲ利用シ其書面中ニ挿入、訂正、削除ヲ爲スコトノ囑託ニ應スヘカラス
前項ノ場合ニ於テ其承諾アリタルニ依リ挿入、訂正、削除ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ末尾若クハ欄外ニ附記シテ捺印スヘシ
第二十一條 地方裁判所、區裁判所及ヒ區裁判所出張所ノ控所ニ於テ代書ヲ爲サントスルモノハ地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ
第二十二條 司法代書人保存期限終了シタル帳簿ヲ廢毀セントスルトキハ地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ
第二十三條 地方裁判所長ハ司法代書人カ業務ノ内外ヲ問ハス品位ヲ失墜スヘキ行爲アリタルトキ又ハ傳染性ノ疾病ニ罹リタルモノト認メタルトキハ其認可ヲ取消スコトアルヘシ
第二十四條 司法代書人廢業届ハ附錄第八號書式ニ依ルヘシ
第二十五條 司法代書人ハ事務取扱ノ發達、統一及ヒ各自ノ品位向上ヲ企圖スル爲メ地方裁判所長ノ認可ヲ受ケ司法代書人會ヲ設ケタルコトヲ得
第二十六條 司法代書人會ノ決議事項ハ地方裁判所長ニ届出ツヘシ
附錄第九號
司法代書人法第五條ニ依ル書記料左ノ通之ヲ定ム
書類ノ枚數ノ計算方ハ法令ニ記載方ノ規定アルモノハ其記載方ニ依リ法令ニ規定ナキモノハ美濃紙ハ一枚二十四行一行二十字詰トシ半紙ハ一枚二十四行一行十六字詰トシ半枚又ハ半枚ニ滿タサルモノハ半額トス
一、民 事
(イ)訴訟事件書類 一枚 金拾錢
(ロ)非訟事件書類 一枚 金拾錢
(ハ)登記ニ關スル書類 一枚 金八錢
一、刑 事
(イ)告訴狀告發狀ノ類 一枚 金拾五錢